

主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書 3

— 干潟町道木内遺跡・椎木遺跡 —

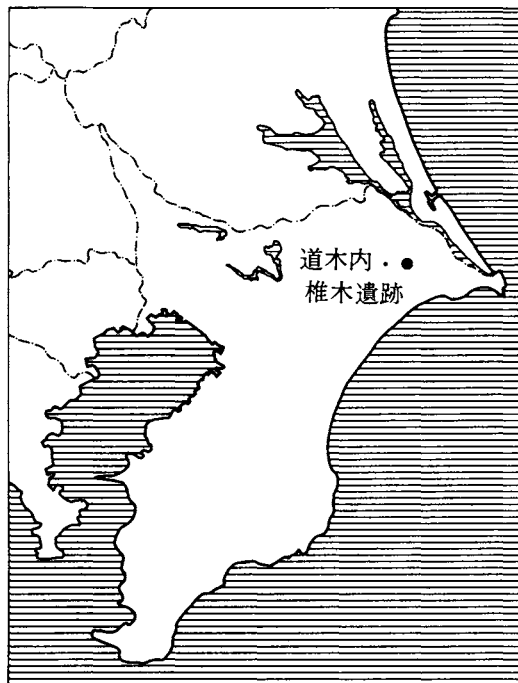
平成 9 年 3 月

千 葉 県 土 木 部

財団法人 千葉県文化財センター

主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書 3

ひかた どうきうち しいのき
— 干潟町道木内遺跡・椎木遺跡 —





道木内遺跡空中写真



中世台地整形区画

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第303集として、千葉県土木部の主要地方道多古笹本線建設事業に伴って実施した香取郡干潟町道木内遺跡、椎木遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では中世の台地整形区画とそれに伴う遺構群をほぼ完全な形で調査したほか、古墳時代後期から奈良・平安時代に至る集落と多数の遺物が検出されました。この報告書が学術資料として、また、埋蔵文化財の保護・普及の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成9年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村 好成

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部による主要地方道多古笹本線県単道路改良事業（幹線）に伴う埋蔵文化財調査の報告書であり、平成2年度に刊行された八日市場市小高遺跡調査報告書及び平成7年度に刊行された主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2（一干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡一）に次ぐシリーズ第3集目である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。
椎木遺跡（348-004） 千葉県香取郡干潟町清和甲字椎木ほか
道木内遺跡（348-005） 香取郡干潟町清和甲字道木内ほか
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部（八日市場土木事務所）との委託契約に基づき、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、主任技師安井健一が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の方々から御指導、御協力を得た（敬称略）。
千葉県教育委員会生涯学習部文化課、千葉県土木部道路建設課、千葉県八日市場土木事務所、干潟町教育委員会、麻生優、岡本東三、押野一貴、藤澤良祐
- 7 本書に使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 干潟町役場発行 1：5,000農村総合整備モデル事業平面図2
第3図 参謀本部陸軍部測量局作成 陸軍迅速図（1：20,000 明治17年）
第4図 国土地理院発行 1：50,000地形図「八日市場」（N I -54-19-6）
〃 〃 「潮来」（N I -54-19-1・5）
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。
- 9 本書に使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 挿図に使用したスクリーントーンの用例は、次のとおりである。

[遺 構]



ロームブロック



ロームブロック混入土



ローム粒混入土



攪乱



カマド袖



焼土



粘土

[遺 物]



土器黒色処理



石器敲打痕



石器擦痕

本文目次

| | | |
|-----|-----------------|-----|
| 第1章 | はじめに | 1 |
| 第1節 | 調査の概要 | 1 |
| 1 | 調査の経緯と経過 | 1 |
| 2 | 調査の方法 | 3 |
| 第2節 | 遺跡の立地と環境 | 5 |
| 1 | 遺跡の立地 | 5 |
| 2 | 歴史的環境 | 5 |
| 3 | 層序区分 | 8 |
| 第3節 | 椎木遺跡の調査 | 9 |
| 第2章 | 道木内遺跡の調査 | 11 |
| 第1節 | 旧石器時代 | 13 |
| 1 | 概観 | 13 |
| 2 | 各ブロックと出土遺物 | 13 |
| 3 | 上層遺構出土遺物、表面採集遺物 | 61 |
| 第2節 | 縄文・弥生時代 | 66 |
| 1 | 概観 | 67 |
| 2 | 縄文時代の遺構、遺物 | 67 |
| 3 | 弥生時代の遺構、遺物 | 72 |
| 第3節 | 古墳時代 | 76 |
| 1 | 概観 | 77 |
| 2 | 遺構と出土遺物 | 77 |
| 第4節 | 奈良・平安時代 | 94 |
| 1 | 概観 | 95 |
| 2 | 遺構と出土遺物 | 95 |
| 第5節 | 中世 | 132 |
| 1 | 概観 | 133 |
| 2 | 001台地整形区画と出土遺物 | 133 |
| 3 | その他の遺構と出土遺物 | 150 |
| 第3章 | まとめ | 166 |
| 第1節 | 旧石器時代 | 166 |
| 1 | 道木内遺跡出土の石器群について | 166 |
| 2 | 礫群について | 167 |
| 第2節 | 古墳時代、奈良・平安時代 | 168 |
| 1 | 時期区分 | 168 |

| | |
|-------------------|-----|
| 2 集落の変遷 | 169 |
| 第3節 中世 | 171 |
| 1 道木内遺跡出土中世遺物について | 171 |
| 2 中世遺構の性格と変遷 | 173 |
| 報告書抄録 | 巻末 |

挿図目次

| | | | |
|-----------------------------------------|-------|-------------------------------|----|
| 第1図 遺跡周辺地形図及び調査範囲 (S = 1/5, 000) | 2 | 第23図 第4ブロック出土石器実測図 | 29 |
| 第2図 道木内遺跡確認グリッド配置 (S = 1/1, 000) | 3 | 第24図 第4ブロック出土礫石材別重量分布図 | 30 |
| 第3図 遺跡周辺地形図 (明治17年参謀本部陸軍測量局作成 1/20,000) | 4 | 第25図 第5ブロック器種別遺物分布図 | 32 |
| 第4図 椎木遺跡・道木内遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/50,000) | 6 | 第26図 第5ブロック母岩別遺物分布図 | 33 |
| 第5図 土層柱状図 (S = 1/20) | 8 | 第27図 第5ブロック出土石器実測図(1) | 34 |
| 第6図 椎木遺跡全測図 (S = 1/500) | 10 | 第28図 第5ブロック出土石器実測図(2) | 35 |
| 第7図 椎木遺跡トレンチ実測図 | 10 | 第29図 第5ブロック出土石器実測図(3) | 36 |
| 第8図 道木内遺跡遺構配置図 (S = 1/500) | 11~12 | 第30図 第5ブロック出土石器実測図(4) | 37 |
| 第9図 旧石器時代ブロック配置図 (S = 1/500) | 14 | 第31図 第5ブロック出土石器実測図(5) | 38 |
| 第10図 第1ブロック器種別遺物分布図 | 15 | 第32図 第5ブロック出土礫石材別重量分布図 | 41 |
| 第11図 第1ブロック母岩別遺物分布図 | 16 | 第33図 第6ブロック遺物分布図 | 43 |
| 第12図 第1ブロック出土石器実測図(1) | 17 | 第34図 第6ブロック出土石器実測図 | 44 |
| 第13図 第1ブロック出土石器実測図(2) | 18 | 第35図 第6ブロック出土礫石材別重量分布図 | 48 |
| 第14図 背面構成の種類 | 19 | 第36図 第7ブロック器種別遺物分布図 | 49 |
| 第15図 第1ブロック出土礫石材別重量分布図 | 21 | 第37図 第7ブロック母岩別遺物分布図 | 50 |
| 第16図 第2ブロック遺物分布図 | 22 | 第38図 第7ブロック出土石器実測図(1) | 51 |
| 第17図 第2ブロック出土石器実測図 | 23 | 第39図 第7ブロック出土石器実測図(2) | 52 |
| 第18図 第2ブロック出土礫石材別重量分布図 | 24 | 第40図 第7ブロック出土礫石材別重量分布図 | 54 |
| 第19図 第3ブロック遺物分布図 | 25 | 第41図 第8ブロック遺物分布図 | 55 |
| 第20図 第3ブロック出土石器実測図 | 26 | 第42図 第8ブロック出土石器実測図 | 56 |
| 第21図 第3ブロック出土礫石材別重量分布図 | 27 | 第43図 第9ブロック出土石器実測図 | 58 |
| 第22図 第4ブロック遺物分布図 | 28 | 第44図 文化層全体出土礫石材別重量分布図 | 60 |
| | | 第45図 文化層全体出土礫石材別総重量割合 | 60 |
| | | 第46図 上層遺構出土石器実測図(1) | 62 |
| | | 第47図 上層遺構出土石器実測図(2) | 63 |
| | | 第48図 縄文・弥生時代遺構配置図 (S = 1/500) | 66 |
| | | 第49図 焼土土坑実測図 | 67 |

| | | | |
|------|---------------------------------|-------|----------------------------------------------|
| 第50図 | 陥穴実測図……………68 | 第77図 | 015竪穴住居跡出土遺物実測図……………104 |
| 第51図 | グリッド等出土縄文土器拓影図……………70 | 第78図 | 016竪穴住居跡、出土遺物実測図……………106 |
| 第52図 | グリッド等出土縄文時代石器実測図……………71 | 第79図 | 017竪穴住居跡、出土遺物実測図……………107 |
| 第53図 | 003竪穴住居跡、出土遺物実測図……………73 | 第80図 | 054竪穴住居跡、出土遺物実測図……………107 |
| 第54図 | グリッド等出土弥生土器、弥生時代石器実測図……………74 | 第81図 | 049竪穴住居跡、出土遺物実測図……………109 |
| 第55図 | 古墳時代遺構配置図 (S = 1/500) ……76 | 第82図 | 奈良・平安時代掘立柱建物、土坑実測図……………110 |
| 第56図 | 002竪穴住居跡、出土遺物実測図……………78 | 第83図 | グリッド等出土奈良・平安時代遺物……………111 |
| 第57図 | 007竪穴住居跡、出土遺物実測図……………79 | 第84図 | 中世遺構配置図 (S = 1/500) ……132 |
| 第58図 | 008竪穴住居跡、出土遺物実測図……………80 | 第85図 | 001台地整形区画実測図(1)……………135~136 |
| 第59図 | 009竪穴住居跡、出土遺物実測図……………81 | 第86図 | 001台地整形区画実測図(2)……………137 |
| 第60図 | 012竪穴住居跡実測図……………82 | 第87図 | 001-082土坑馬骨出土状況実測図……………146 |
| 第61図 | 012竪穴住居跡出土遺物実測図(1)……………82 | 第88図 | 018~024、027~032、043、044、046土坑実測図……………151~152 |
| 第62図 | 012竪穴住居跡出土遺物実測図(2)……………83 | 第89図 | 026土坑群実測図……………155 |
| 第63図 | 014竪穴住居跡、出土遺物実測図……………85 | 第90図 | 053段状成形、062土坑群実測図……………155 |
| 第64図 | 042竪穴住居跡実測図……………86 | 第91図 | 033~038土坑群実測図……………157 |
| 第65図 | 042竪穴住居跡出土遺物実測図……………87 | 第92図 | 055~057土坑実測図……………159 |
| 第66図 | 068竪穴住居跡実測図……………88 | 第93図 | 039土坑群実測図……………159 |
| 第67図 | グリッド等出土古墳時代遺物実測図……………88 | 第94図 | 045土坑群実測図……………161 |
| 第68図 | 奈良・平安時代遺構配置図 (S = 1/500)……………94 | 第95図 | 011、052溝状遺構実測図……………161 |
| 第69図 | 004竪穴住居跡実測図……………96 | 第96図 | 040、041溝状遺構実測図……………162 |
| 第70図 | 004竪穴住居跡出土遺物実測図……………97 | 第97図 | 中世遺構出土鉄製品実測図……………164 |
| 第71図 | 005竪穴住居跡、出土遺物実測図……………98 | 第98図 | 中世遺構出土石製品実測図……………164 |
| 第72図 | 006竪穴住居跡、出土遺物実測図……………99 | 第99図 | 出土銭貨拓影図……………165 |
| 第73図 | 010竪穴住居跡、出土遺物実測図……………101 | 第100図 | 中世陶器・土器実測図……………165 |
| 第74図 | 050竪穴住居跡実測図……………101 | 第101図 | 池尻遺跡035住居跡出土遺物と道木内遺跡049住居跡出土遺物……………170 |
| 第75図 | 013竪穴住居跡、出土遺物実測図……………102 | 第102図 | 土塁復元図……………173 |
| 第76図 | 015竪穴住居跡実測図……………103 | | |

表目次

| | | | |
|-----|----------------------|-----|----------------------|
| 第1表 | 第1ブロック出土石器属性表……………19 | 第5表 | 第2ブロック出土礫属性表……………23 |
| 第2表 | 第1ブロック出土礫属性表……………20 | 第6表 | 第2ブロック組成表……………23 |
| 第3表 | 第1ブロック組成表……………21 | 第7表 | 第3ブロック出土石器属性表……………26 |
| 第4表 | 第2ブロック出土石器属性表……………23 | 第8表 | 第3ブロック組成表……………26 |

| | | | | | |
|------|---------------------|----|------|--------------------------------|-----|
| 第9表 | 第3ブロック出土礫属性表 | 27 | 第44表 | 004出土土器観察表 | 113 |
| 第10表 | 第4ブロック出土石器属性表 | 30 | 第45表 | 005出土土器観察表 | 113 |
| 第11表 | 第4ブロック出土礫属性表 | 30 | 第46表 | 006出土土器観察表 | 114 |
| 第12表 | 第4ブロック組成表 | 31 | 第47表 | 010出土土器観察表 | 114 |
| 第13表 | 第5ブロック出土石器属性表 | 39 | 第48表 | 013出土土器観察表 | 114 |
| 第14表 | 第5ブロック出土礫属性表 | 40 | 第49表 | 015出土土器観察表(1) | 115 |
| 第15表 | 第5ブロック組成表 | 41 | 第50表 | 015出土土器観察表(2) | 116 |
| 第16表 | 第6ブロック出土石器属性表 | 45 | 第51表 | 016出土土器観察表 | 117 |
| 第17表 | 第6ブロック組成表 | 45 | 第52表 | 025出土土器観察表 | 117 |
| 第18表 | 第6ブロック出土礫属性表(1) | 46 | 第53表 | 049出土土器観察表 | 118 |
| 第19表 | 第6ブロック出土礫属性表(2) | 47 | 第54表 | 054出土土器観察表 | 118 |
| 第20表 | 第7ブロック出土石器属性表 | 53 | 第55表 | 奈良・平安時代遺構出土土器数量計測表 (1) | 119 |
| 第21表 | 第7ブロック出土礫属性表 | 53 | 第56表 | 奈良・平安時代遺構出土土器数量計測表 (2) | 120 |
| 第22表 | 第7ブロック組成表 | 54 | 第57表 | 奈良・平安時代遺構出土土器数量計測表 (3) | 121 |
| 第23表 | 第8ブロック出土石器属性表 | 57 | 第58表 | グリッド等出土奈良・平安時代土器観察表 | 122 |
| 第24表 | 第8ブロック出土礫属性表 | 57 | 第59表 | 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計 測表(1) | 123 |
| 第25表 | 第8ブロック組成表 | 57 | 第60表 | 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計 測表(2) | 124 |
| 第26表 | 第9ブロック出土石器属性表 | 58 | 第61表 | 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計 測表(3) | 125 |
| 第27表 | 第9ブロック出土礫属性表 | 58 | 第62表 | 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計 測表(4) | 126 |
| 第28表 | 第9ブロック組成表 | 58 | 第63表 | 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計 測表(5) | 127 |
| 第29表 | 文化層全体ブロック別石材組成表 | 59 | 第64表 | グリッド、表土出土奈良・平安時代土器数 量計測表(1) | 128 |
| 第30表 | 文化層全体ブロック別器種組成表 | 59 | 第65表 | グリッド、表土出土奈良・平安時代土器数 量計測表(2) | 129 |
| 第31表 | 文化層全体石材別器種組成表 | 59 | 第66表 | グリッド、表土出土奈良・平安時代土器数 量計測表(3) | 130 |
| 第32表 | 上層遺構出土・表面採集石器属性表(1) | 64 | 第67表 | グリッド、表土出土奈良・平安時代土器数 量計測表(4) | 131 |
| 第33表 | 上層遺構出土・表面採集石器属性表(2) | 65 | | | |
| 第34表 | 002出土土器観察表 | 89 | | | |
| 第35表 | 007出土土器観察表 | 89 | | | |
| 第36表 | 008出土土器観察表 | 89 | | | |
| 第37表 | 009出土土器観察表 | 89 | | | |
| 第38表 | 012出土土器観察表 | 90 | | | |
| 第39表 | 014出土土器観察表 | 90 | | | |
| 第40表 | 042出土土器観察表 | 91 | | | |
| 第41表 | グリッド等出土古墳時代土器観察表 | 91 | | | |
| 第42表 | 古墳時代遺構出土土器数量計測表(1) | 92 | | | |
| 第43表 | 古墳時代遺構出土土器数量計測表(2) | 93 | | | |

図版目次

巻頭図版 道木内遺跡空中写真、中世台地整形区画

- | | | | |
|------|------------------------------|------|---------------------------------------------|
| 図版1 | 椎木遺跡・道木内遺跡航空写真 | 図版18 | 012出土遺物 |
| 図版2 | 道木内遺跡空中写真 | 図版19 | 014、042竪穴住居跡、出土遺物 |
| 図版3 | 道木内遺跡空中写真 | 図版20 | 004、005、006、010、013、015、016竪穴住居跡 |
| 図版4 | 旧石器時代ブロック | 図版21 | 015、016、017、049、050、054竪穴住居跡、025掘立柱建物、051土坑 |
| 図版5 | 第1ブロック出土石器 | 図版22 | 004、005、006、013出土遺物 |
| 図版6 | 第2～第4ブロック出土石器、第5ブロック出土石器（1） | 図版23 | 015、016出土遺物 |
| 図版7 | 第5ブロック出土石器（2） | 図版24 | 017、049、054出土遺物 |
| 図版8 | 第5ブロック出土石器（3） | 図版25 | 001中世台地区画整形全景、近景 |
| 図版9 | 第6ブロック出土石器、第7ブロック出土石器（1） | 図版26 | 001中世台地整形区画（1） |
| 図版10 | 第7ブロック出土石器（2） | 図版27 | 001中世台地整形区画（2） |
| 図版11 | 第8、9ブロック出土石器、上層遺構出土石器（1） | 図版28 | 001中世台地整形区画（3） |
| 図版12 | 上層遺構出土石器（2） | 図版29 | 001中世台地整形区画（4） |
| 図版13 | 縄文時代遺構、グリッド等出土縄文土器、縄文時代石器（1） | 図版30 | 001中世台地整形区画（5） |
| 図版14 | 縄文時代石器（2）、003竪穴住居跡、出土遺物 | 図版31 | 018～024土坑 |
| 図版15 | グリッド等出土弥生土器、弥生時代石器 | 図版32 | 026～039土坑 |
| 図版16 | 002、007、008、009、012、068竪穴住居跡 | 図版33 | 043、044、046、055～058土坑、011、040、052溝状遺構 |
| 図版17 | 002、007、008、009、012出土遺物 | 図版34 | 中世遺構出土鉄製品、石製品、錢貨 |
| | | 図版35 | 中世陶器、土器 |
| | | 図版36 | 椎木遺跡調査状況 |

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

多古笹本線は香取郡多古町から八日市場市、干潟町を経て銚子市笹本に至る主要地方道である。県東地域において東西を結ぶ幹線道路として機能している。一方、干潟町においては千葉県企業庁によって干潟工業団地の整備が進められている。そのため、工業団地への交通路として建設された一般県道大栄栗源干潟線（東総有料道路）に接続する路線として、多古笹本線のバイパス道が整備されることとなった。建設工事に先立ち事業地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果、記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

これに基づき財団法人千葉県文化財センターでは、千葉県土木部と委託契約を締結し、道木内遺跡と椎木遺跡の調査を平成2年9月から平成3年3月まで実施した。整理作業は、平成6年4月から平成8年8月まで実施し、平成8年度に報告書の刊行作業を行った。なお、同一事業として同じ干潟町の池尻遺跡と茄子台遺跡の調査、整理を行っており、平成7年度にその成果を千葉県文化財センター調査報告第280集として報告している。今回の報告は、それに続くものである。

各年度の期間と業務内容、組織及び担当者名を下記に記す。

平成2年度

期 間 平成2年10月1日～平成3年3月27日

業務内容 道木内遺跡の調査対象面積は3,400㎡であったが、調査開始時点で一部未撤去の地上構造物が存在したため、当初の確認調査はその部分を除いた2,900㎡を対象として、290㎡を行った。確認調査の結果、調査区全面に遺構が存在することが確認されたため、全面本調査範囲となった。そのため、地上構造物を撤去した跡地500㎡は確認調査なしに本調査を行うこととした。下層の確認調査は地上構造物撤去後に実施し、3,400㎡を対象として136㎡の確認調査を行い、その結果に基づき330㎡の本調査を行った。

椎木遺跡は、調査対象面積400㎡に対し上層100㎡の本調査を実施した。

組 織 調査部長 堀部昭夫、部長補佐 阪田正一 佐久間豊、班長 藤崎芳樹

担当職員 主任技師 奥田正彦

平成6年度

期 間 平成6年4月1日～平成7年3月31日

業務内容 水洗・注記、図面整理の一部を行った。

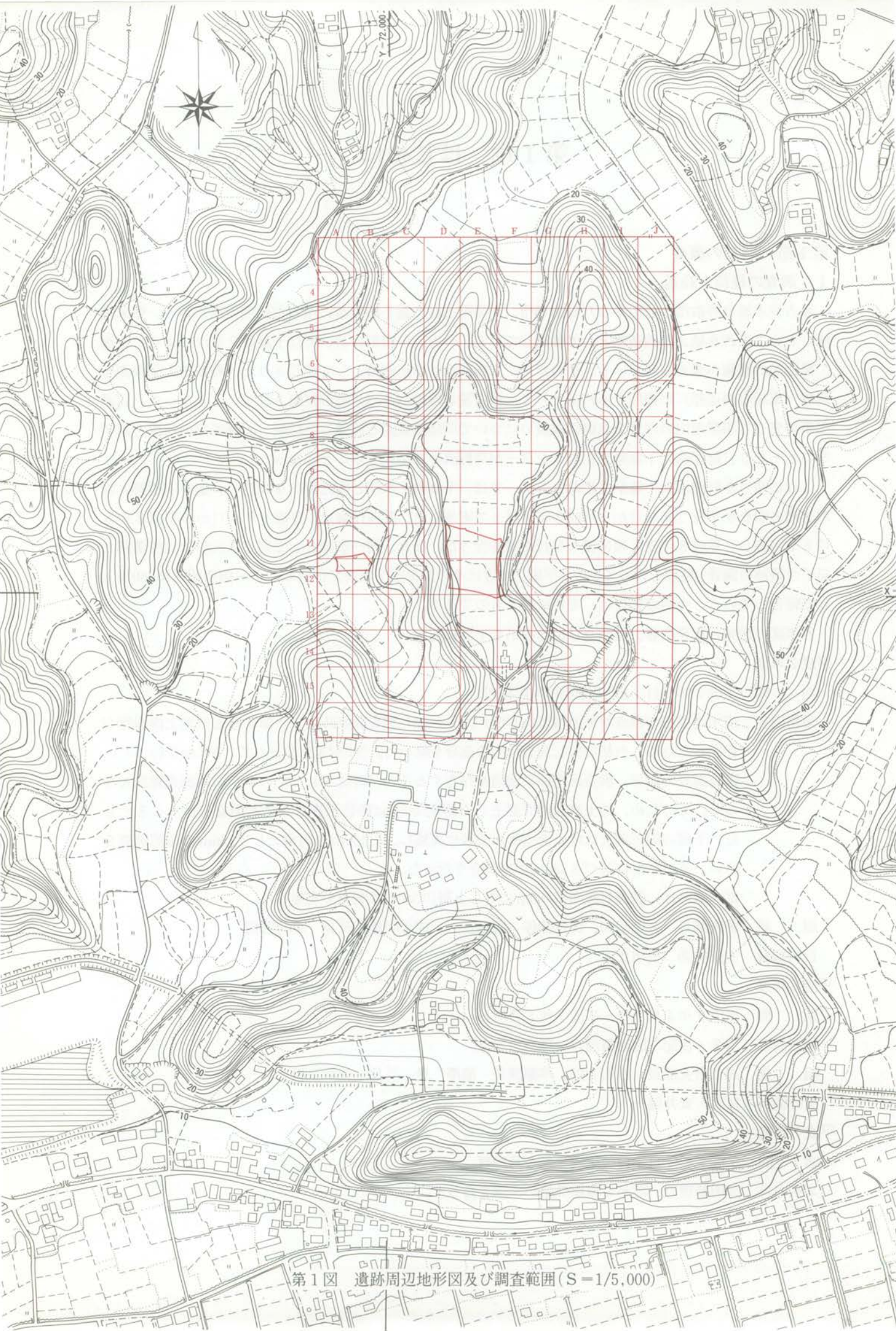
組 織 調査研究部長 西山太郎、事業課長 沼澤 豊、所長 矢戸三男

担当職員 技師 安井健一

平成7年度

期 間 平成7年4月1日～平成8年3月29日

業務内容 図面整理の一部から原稿執筆の一部を行った。



第1図 遺跡周辺地形図及び調査範囲 (S=1/5,000)

組 織 調査研究部長 西山太郎、事業課長 沼澤 豊、所長 石田廣美
担当職員 技師 安井健一

平成8年度

期 間 平成8年4月1日～平成9年3月31日

業務内容 原稿執筆を行い、報告書を刊行した。

組 織 調査部長 西山太郎、調査課長 古内 茂、所長 石田廣美

担当職員 主任技師 安井健一

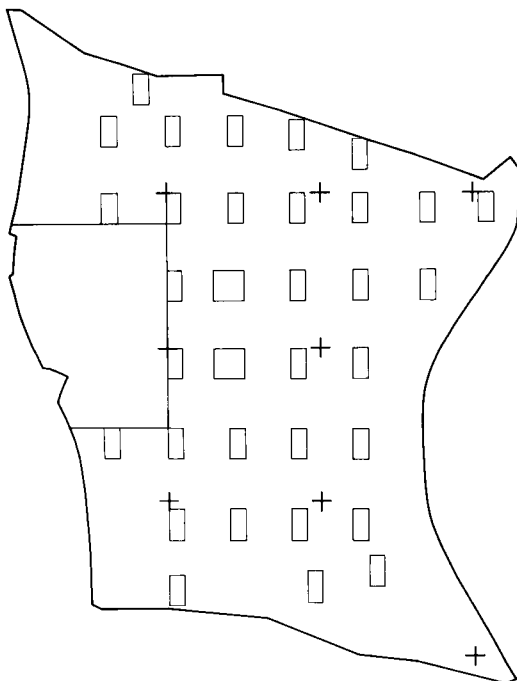
2 調査の方法

発掘区の設定は、国土地理院国家座標を基準とし、40m×40mの方眼の大グリッドを道木内・椎木両遺跡を覆うように東西10区画、南北16区画設定し、西から東に向かってA・B・C・・・、北から南に向かって1・2・3・・・とし、1A、2Bと呼称した。さらに、大グリッド内を4m方眼の小グリッドに分割し、西から東へ01・02・03・・・、北から南へ10・20・30・・・とした。したがって個々の小グリッドは11D-55、12E-05と表記される(第1図)。

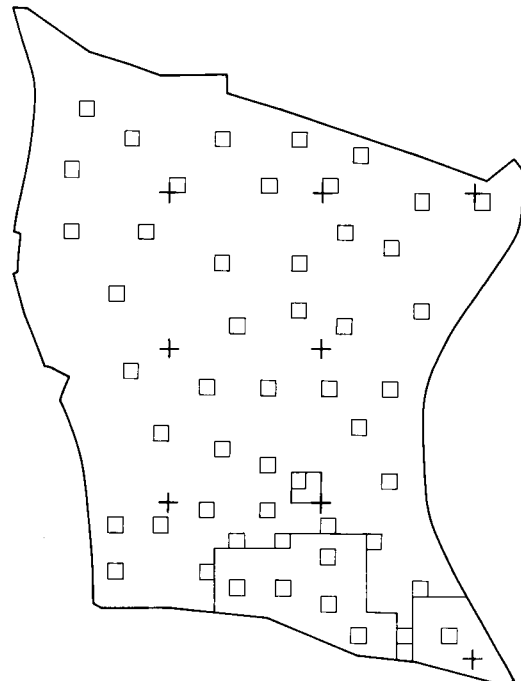
上層確認調査は、基本的には方眼グリッドに従った4m×2mの確認トレンチを調査対象面積の10%になるように設定し、本調査範囲を確定した。上層の本調査は重機による表土除去後、確認面を精査し遺構を調査した(第2図)。

下層確認調査は、同じく方眼グリッドに従って2m×2mの確認トレンチを調査対象面積の4%になるように設定し、本調査範囲を確定した。本調査は遺物を検出したトレンチを中心に重機と手作業による拡張を行った(第2図)。

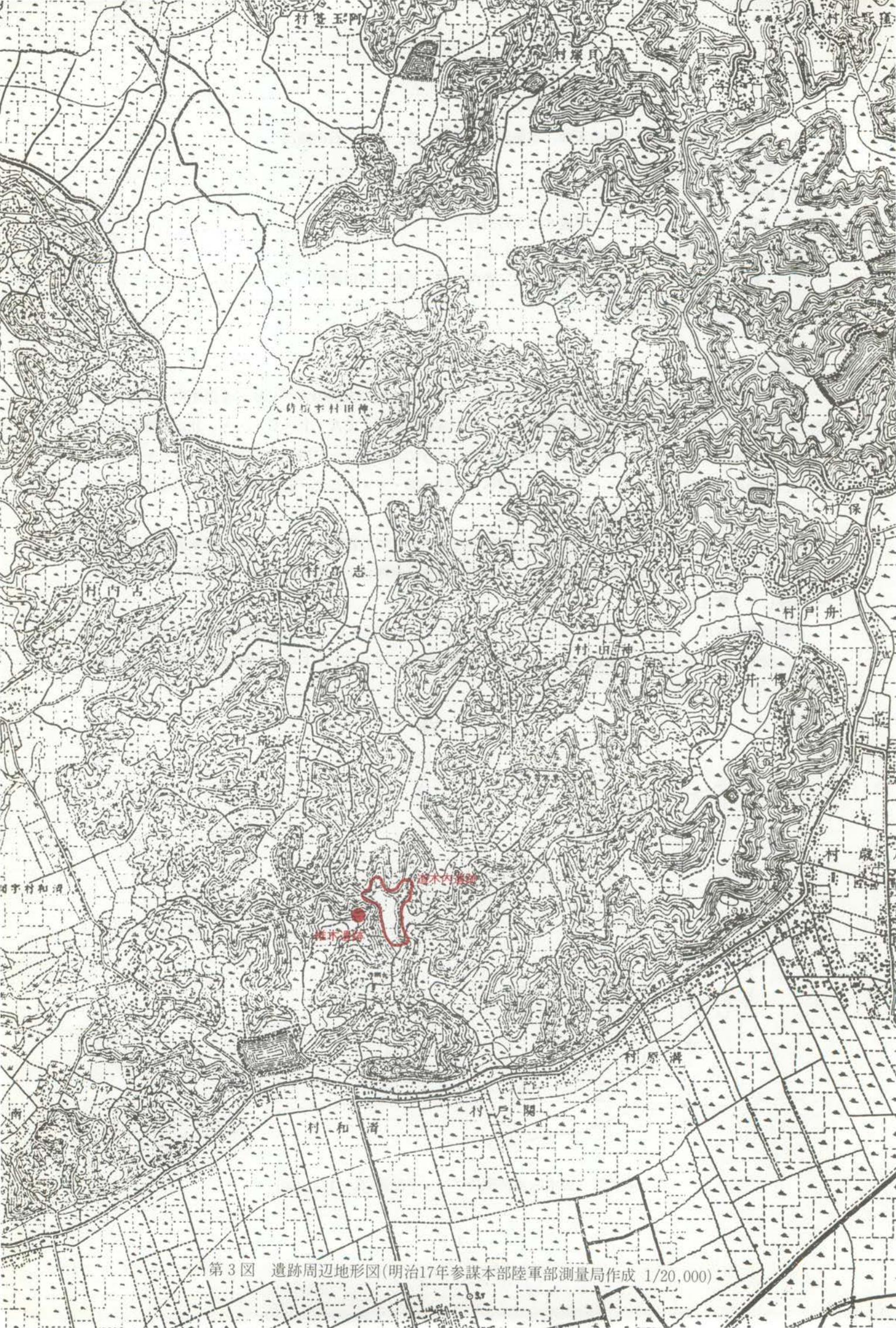
上層



下層



第2図 道木内遺跡確認グリッド配置(S=1/1,000)



第3図 遺跡周辺地形図(明治17年参謀本部陸軍部測量局作成 1/20,000)

遺構番号の付け方は、上層遺構は原則として3桁の通し番号を付け、下層は下部の文化層から順にブロック番号を付けている。ただし、道木内遺跡から検出された中世の台地整形区画については、整形区画自体に付けた001という遺構番号だけでは、内部から検出された大小のピットを区別できないため、さらに3桁の番号を付けて対処した。そのため、台地整形区画内のピットは001-〇〇〇と呼称される。

第2節 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地（第3図）

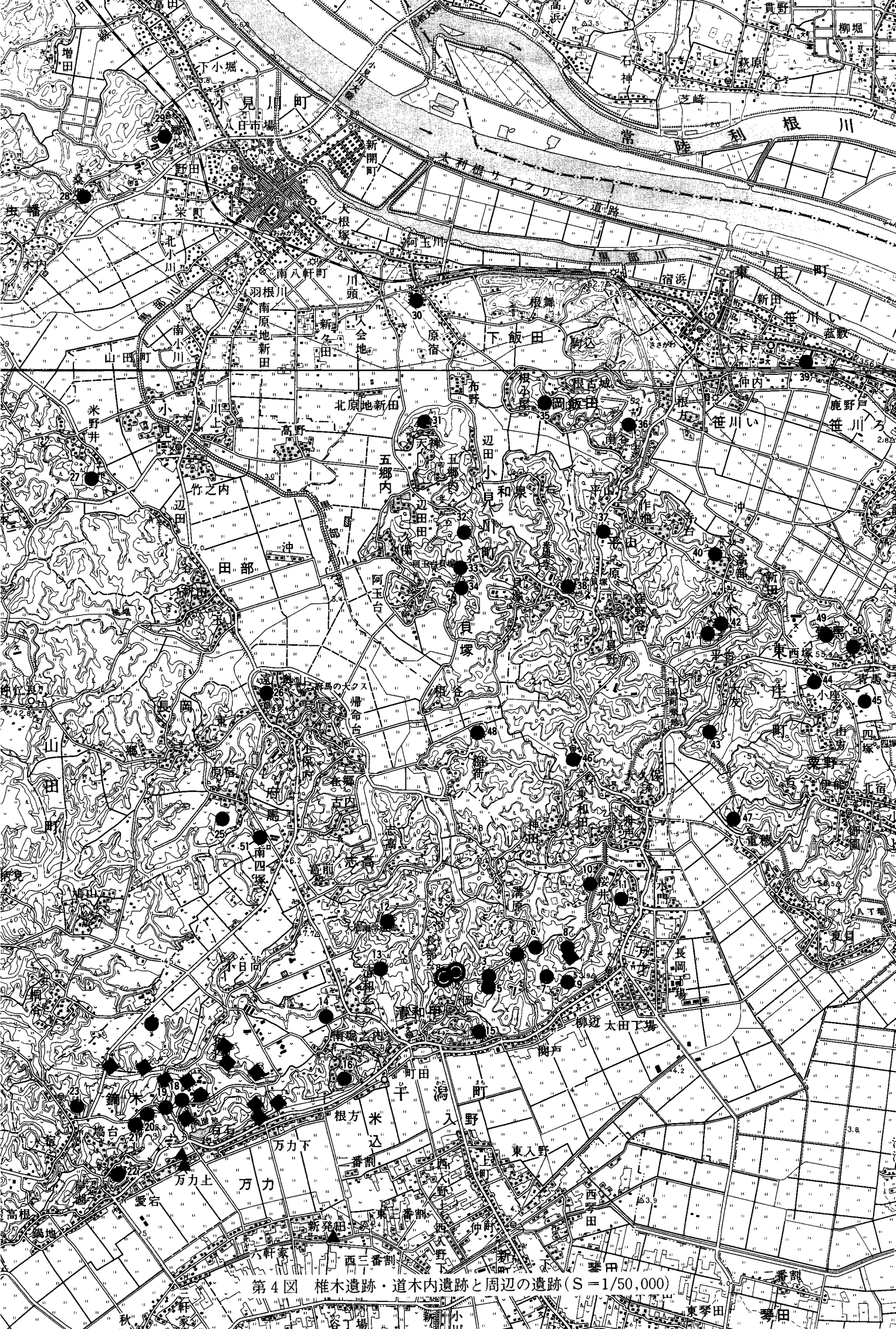
道木内遺跡は、香取郡干潟町道木内地先に所在する。千葉県北部に広がる北総台地は東側に向かうに従って標高が高くなり、同時に南北からの河川の開析によって極めて複雑な地形を呈している。干潟町は南側は旧椿海を干拓して形成された広大な水田地帯、北側は利根川水系の黒部川によって開析された複雑な台地からなる。椿海は房総半島の太平洋岸に発達した潟湖の中でも最大のもので、周囲40km、深さ1.5m～4.0mという広大なものであったが、江戸時代に干拓されて現在では台地周縁の沼沢地にその面影をとどめるに過ぎない。道木内遺跡が存在する台地は標高約50mを測り、東及び西側は椿海に注ぐ小支谷によって開析されており、比高差は約35m、北側は利根川に注ぐ黒部川水系の小河川によって開析された谷となっており、比高差は約30mである。開析が発達しているため台地はやせ尾根状を呈しており、最大幅も100m程度である。隣接する台地とは馬の背状の細尾根を通じてつながっており、その両脇はかなり比高差のある谷となっているため、中世には城郭や砦などが多数築造された。台地上はほとんどが畑であり、小さな村落が点在している。台地下の低地はほとんどが水田であり、幹線道路に沿って集落が密集しているのとはやや異なった景観である。道木内遺跡の存在する台地上もほとんど畑として利用されているが、遺跡南部は痩せ尾根上に位置する脇高神社があり、その南側の高屋敷遺跡は宅地となっている。地区によって土地利用のされ方が異なっていることがうかがえるが、これがいつ頃からのものかは定かではない。

2 歴史的環境（第4図）

道木内遺跡¹⁾は、旧石器時代から中・近世にいたる複合遺跡であるが、周辺では大規模な調査がほとんど行われなかったため、時代ごとの当地域の状況を知る手がかりに乏しい。ここでは調査歴がある遺跡を中心に、周辺の歴史的環境について触れてみたい。なお、干潟町の遺跡に関しては『干潟町史』（干潟町史編纂委員会 1975）を主に参考とした。

旧石器時代の調査は周辺でこれまであまり行われておらず、IV～V層を主体とする清和乙遺跡¹⁴⁾や、地図の外になるがIII層下部からナイフ型石器製作跡を検出した東庄町の今郡カチ内遺跡が知られる程度であるが、平成元年度～3年度に当センターで調査し、平成7年度に報告書を刊行した池尻遺跡³⁾ではIX層上部を主体としたブロックが、平成2・3年度に当センターで調査し、現在整理作業中である桜井平遺跡⁹⁾からは楔形石器を特徴とするブロックが検出されている。

縄文時代の遺跡は、条痕文期の貝塚として知られる小見川町城ノ台貝塚²³⁾、早期の大集落である桜井平遺跡、中期の代表的な貝塚で国指定史跡である小見川町阿玉台貝塚³³⁾、阿玉台式末から加曾利E式初頭にかけての集落である東庄町神代夏方遺跡⁴⁵⁾、後期の代表的な貝塚でやはり国指定史跡である小見川町良文貝塚³⁸⁾、地図の外になるが晩期の低地遺跡として有名な八日市場市多古田遺跡などがある。また、九十九里平野においてはこの時期から砂堤帯の形成が始まったと考えられ、それに伴って漁労活動が椿海にも展開し



第4図 椎木遺跡・道木内遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)

ていった状況が、低地泥炭層から出土する独木舟などによってうかがえる(第4図中▲印)。ただし、特に中期以降は大貝塚が発達する利根川流域に比べて、九十九里浜沿いは遺跡の規模ではやや見劣りがするのは否めない。砂堤帯の発達、樺海では縄文時代の人々がある程度定住的な居住を行う上で、不都合な環境を生み出したのかもしれない。

弥生時代は、中期は遺跡が少なく、楯台遺跡¹⁶⁾で磨製石斧が一括出土していることや、村山1号遺跡²⁴⁾で有角石器が出土していることが知られるほか、小見川町阿玉台北遺跡³²⁾で土器棺墓が検出されている程度である。しかし、後期になると一定の規模を持ち、なおかつ古墳時代へ継続していく集落遺跡が出現する。阿玉台北遺跡や桜井平遺跡、東庄町高部宮ノ前遺跡⁴⁰⁾、栗野台遺跡⁴⁷⁾、地図の外になるが県内では最古級の製鉄遺構を検出した海上町岩井安町遺跡などが代表例で、これらの集落は古墳時代前期も連続して営まれる。

古墳時代前期、中期は遺跡数こそ後期に比べて少ないものの、一定の規模を持つ集落や古墳群が散在し、継続的な人間活動の様相がうかがえる。古墳群としては桜井平遺跡、東庄町稻荷入1・2号墳⁴⁸⁾などがあり、集落としては清和乙遺跡、小見川町上原遺跡(東小学校遺跡)³⁰⁾などがある。

古墳時代中期から後期にかけて、これまで集落が形成されていた台地縁辺部に古墳群が形成されるとともに、畿内政権との結びつきをうかがわせるような巨大な古墳が出現する。三角縁神獣鏡を出土したことで名高い小見川町城山1号墳²⁹⁾や、樺海に面した唯一の100m級古墳である御前鬼塚古墳¹⁷⁾などが代表例である。古墳群としては先の城山1号墳を中心とする城山古墳群や阿玉台北遺跡、桜井平遺跡などが代表例である。後期後半の群集墳といわれる古墳群は、干潟町でも台地縁辺に多数存在しており、西部の籾木地区では先に述べた御前鬼塚古墳を中心として、滝台古墳(全長58m)¹⁹⁾、籾木大神境内古墳(同37m)²¹⁾、大塚古墳(同33m)¹⁸⁾、原町古墳(同31m)²³⁾、法王塚(同26m)²⁰⁾などの前方後円墳が密集している。いずれも未発掘か、発掘されていても断片的な情報しか残されておらず、詳細は不明である。東隣の池尻遺跡の存在する台地上にも、この時期のものとみられる池尻古墳⁹⁾が存在するが、茄子台遺跡で表土除去後に古墳が1基確認されたように、未発見の古墳がまだ多数存在するものとみられる。古墳群が形成された時期については、調査例が少ないためはっきりしたことは不明であるが、おそらく5世紀末から7世紀にわたるものとみられ、しかも大部分は7世紀になるものとみられる。この時期の古墳群として小見川町天神遺跡³¹⁾、東庄町青馬大明神遺跡⁴⁹⁾などがある。集落は古墳時代後期の後半には台地の奥も含めて大規模に展開するようになるほか、低地平野に形成された砂堤帯上にも集落跡が出現するようになる。清和乙遺跡、桜井釜山台遺跡⁸⁾、道木内遺跡、東庄町青馬西新塚遺跡(小座ふちき遺跡)⁴⁴⁾、四塚北古墳群(青馬前畑遺跡)⁴⁵⁾などがあり、清和乙遺跡では石製模造品の製作跡が検出されている。また、この時期には九十九里平野に沿った台地斜面部に多数の横穴墓が造られるようになる。この周辺では桜井横穴¹⁰⁾などが確認されているが、未発見のものがまだ多数存在するものと考えられる。

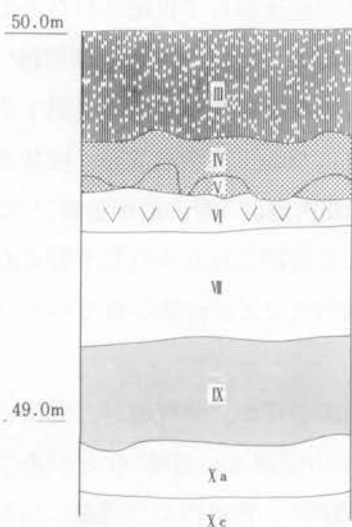
奈良・平安時代になると多数の集落が形成される。干潟町内では道木内遺跡のほか、池尻遺跡、清和乙遺跡、桜井釜山台遺跡、桜井平遺跡、平成2年度に調査され、現在整理作業中の諏方山遺跡⁶⁾などがあり、ほかには山田町宮前遺跡²⁷⁾、原宿II遺跡²⁵⁾、乞食堆遺跡⁵¹⁾、東庄町青馬広畑遺跡⁵⁰⁾、青馬西新塚遺跡、八木山遺跡⁴²⁾、前山遺跡⁴¹⁾、平山堂内遺跡³⁷⁾、鹿野戸貝塚³⁹⁾などがある。地図の外になるが八日市場市飯塚遺跡群は、この地域の代表的な集落遺跡である。また、この時期には鉄遺跡⁵¹⁾、東庄町青馬広畑遺跡⁵⁰⁾、青馬西新塚遺跡、八木山遺跡⁴²⁾、前山遺跡⁴¹⁾、平山堂内遺跡³⁷⁾、鹿野戸貝塚³⁹⁾などがある。地図の外になるが八日

市場市飯塚遺跡群は、この地域の代表的な集落遺跡である。また、この時期には鉄の生産が盛んになり、台地の斜面部には多数の製鉄遺構が確認されている（第4図中◆印）。中でも桜井釜山台遺跡においては、斜面部の精錬炉と台地上の鍛冶炉がセットになって検出されている。精錬炉についても横穴と同様、未発見のものが多数存在すると思われる。

平安時代末になると東総地方は桓武平氏の支配下に入る。東総開発の先駆者である平良文の居館があったといわれる場所は、良文館跡³⁴⁾といわれている。良文の孫である平忠常は、1027年から4年にわたって平忠常の乱といわれる大規模な騒擾を起こしたことで知られるが、大友城跡⁴³⁾はその平忠常の居城であったとされている。また、桜井城跡¹¹⁾は小見川町の森山城跡³⁵⁾や須賀山城跡³⁶⁾とともに、平忠常の6代子孫の東胤頼の居城の一つとされており、その子孫に当たる諸徳寺胤直の居城が道木内遺跡と地続きの台地上に存在する諸徳寺城跡¹⁵⁾とされている。ただし、いずれも史料的な裏付けに乏しい。鎌倉時代には千葉氏の一族である鐮木氏の支配下となるが、その本拠地が鐮木城跡²²⁾である。周辺にある跡城や館跡も、鐮木氏一族のものが存在するとみられる。小見川城跡²⁹⁾は粟飯原氏の居城として鎌倉時代初頭に築かれたとされるが、この粟飯原氏も千葉氏一門であり、東氏、小見氏、木内氏、海上氏と同盟関係を結んでいたとされる。また、北方にある府馬城跡²⁶⁾は戦国時代に府馬氏の居城とされ、里見氏に与して鐮木氏と敵対したといわれる。やはり道木内遺跡と地続きの台地上に存在する長部砦¹²⁾も、府馬氏の支配下にあったとされている。こうした千葉氏一門による在地支配も豊臣秀吉による天下統一によって終わりを告げ、北条方についた鐮木氏や粟飯原氏が滅びた後、鐮木城などは廃城になっている。城郭跡以外の中・近世遺跡は、神代夏方遺跡で屋敷跡とみられる掘立柱建物跡や地下式墳などを中心とした遺跡群が検出されているほか、桜井釜山台遺跡では中世のものとみられる地下式墳や、近世のものとみられる「神楽場」と呼ばれる円形の竪穴状遺構や、井戸状の大規模な土壌墓が検出されている。

3 層序区分

本遺跡の基本層序は、第5図のとおりである。また、各層の概要は、以下のとおりである。



(12E-74)

III層 暗黄褐色軟質ローム層；いわゆるソフトローム層に当たる。

IV～V層 黄褐色硬質ローム層；III層に比べて色が濃く、スコリアを多く含む。第1黒色帯に相当するV層がここに含まれる。できる限りIV層とV層との境に線を入れるよう努めたが、両者の区別は必ずしも明瞭ではない。

VI層 明黄褐色硬質ローム層；始良丹沢火山灰を含む層である。黄白色の火山ガラス質のブロックが部分的に肉眼で捉えられる。

VII層 暗黄褐色硬質ローム層；第2黒色帯の上部に当たる。黒色スコリアを多く含み、赤褐色、白色スコリアを少量含む。IX層に比べてややしまりがなく、色調が淡い。

IX層 赤褐色硬質ローム層；第2黒色帯の下半部に当たる。VII層に比べてしまりがあり、色調が濃い。

Xa層 黄褐色ローム層；IX層に比べてしまりが極端になくなる。

第5図 土層柱状図(S=1/20)

赤褐色スコリアや黒色スコリアがごく少量含まれる程度で、スコリアをほとんど含まない。

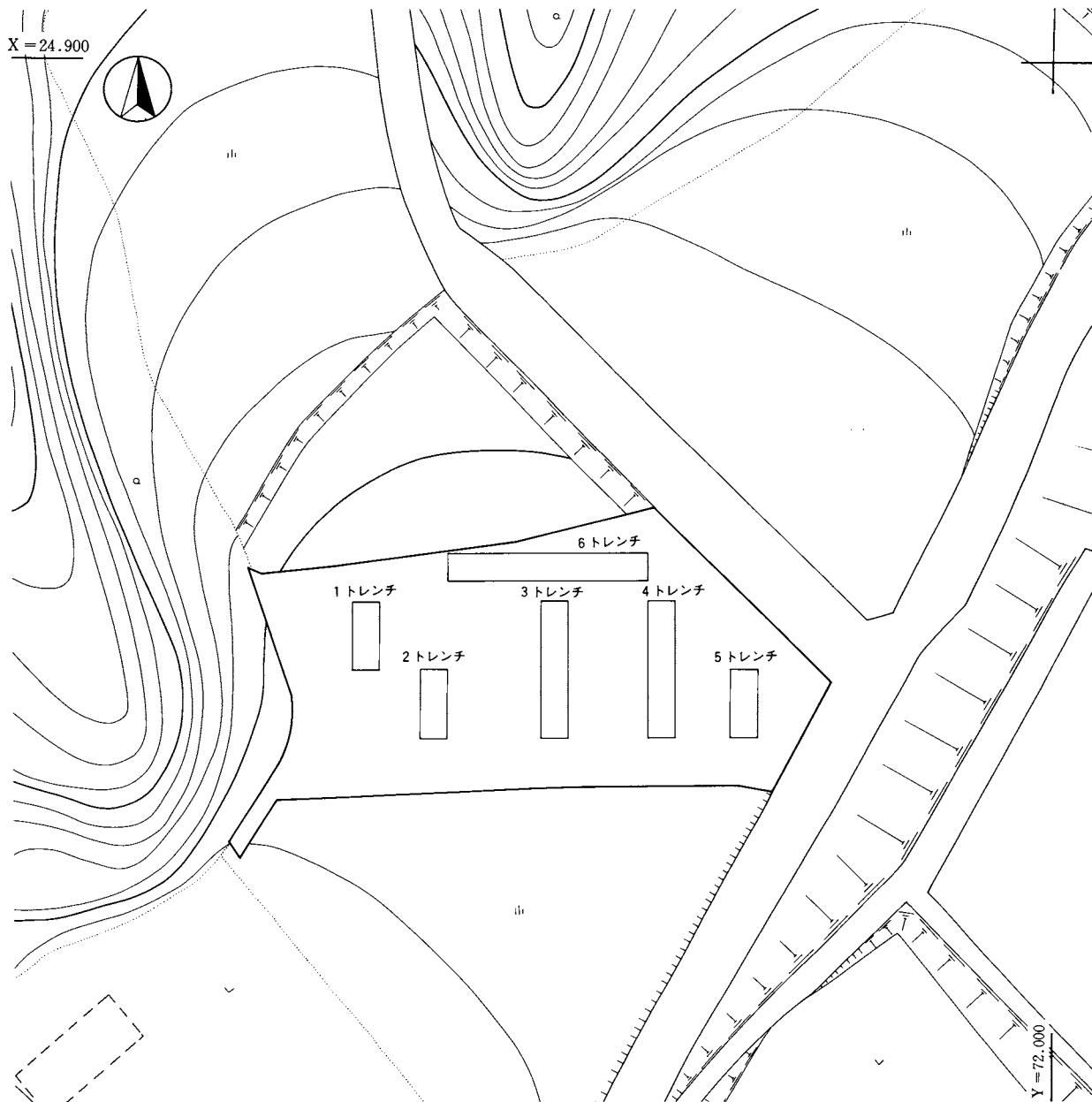
X c 層 暗褐色ローム層；立川ローム層の最下層である。X a 層に比べてややしまりがあり、色調も深い。赤褐色スコリアを少量含む。なお、近接する桜井平遺跡においてはX a 層とX c 層との間に黄褐色の硬質ロームブロックが検出されており、これをX b 層と捉えたが、道木内遺跡ではX b 層は検出されなかった。

なお、下層確認調査は武蔵野ローム層（X I 層）上面まで行ったが、今回の調査では武蔵野ローム上面まで土層断面図を実測していない。

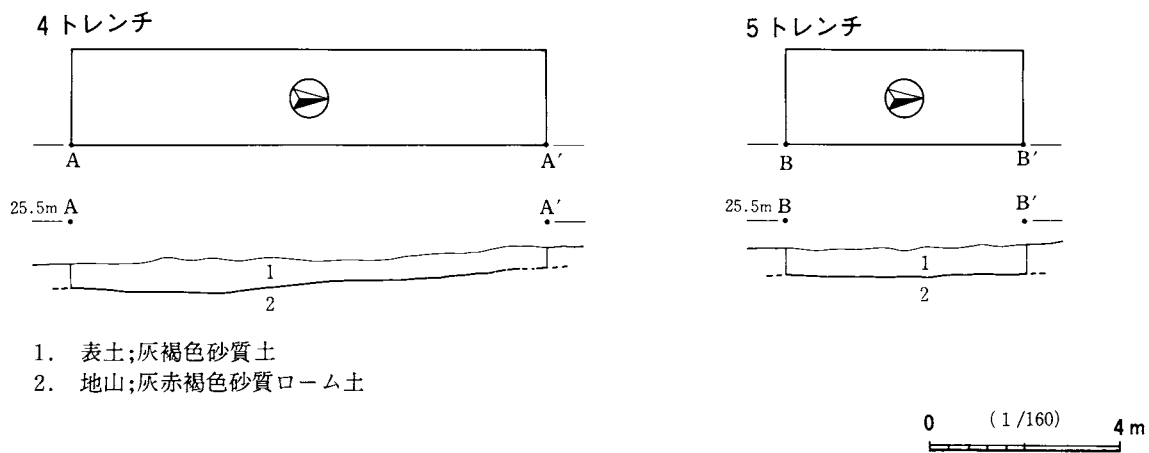
第3節 椎木遺跡の調査（第6図、第7図）

椎木遺跡は、道木内遺跡が存在する台地の西側の谷に下りたところの低段丘面上に位置する。千葉県埋蔵文化財分布地図には掲載されていないが、現地踏査の際土器片の散布が認められたため、遺跡として扱うこととした。ただし、低段丘上で遺跡範囲の確定ができなかったため、事業範囲内400㎡を対象とした本調査を行うこととした。

調査は遺構の分布と遺物の散布範囲を押さえるために、調査区内に2m幅のトレンチを6本（100㎡）設定して調査した。その結果、表土の灰褐色砂質土を除去するとすぐに地山の灰赤褐色砂質ローム層が露出した。遺構は全く検出されず、遺物包含層も存在しなかった。そのため、これ以上の拡張は不要と判断し、調査を終了した。図示できる遺物は全く出土しなかった。



第6図 椎木遺跡全測図(S=1/500)



第7図 椎木遺跡トレンチ実測図



第8図 道木内遺跡遺構配置図 (S-1/500)

第2章 道木内遺跡の調査

第1節 旧石器時代

1 概観（第9図）

旧石器時代の遺構は、IV～V層を中心とする文化層から全部で9ブロックが検出された。また、古墳時代後期の042住居跡と中世の040溝状遺構からは、合わせて100点近い旧石器時代の石器が出土しており、この付近にもブロックが存在していた可能性が強い。出土石器は上層遺構出土分も含めて全部で270点強であるが、いずれのブロックとも礫群を伴っており、それらを含めると全部で620点弱になる。礫群の分布はおおむね石器群の出土区域と重なるが、第1～第4ブロックではブロック間の礫同士の接合も観察される。

2 各ブロックと出土遺物

第1ブロック（第10～13、15図、図版4・5）

（出土状況）12E-63・71・72・73・82・83区に位置する。

石器が25点、礫が52点出土している。12E-73区を中心として直径8mほどの範囲に遺物がやや散漫に分布する。石器の石材は珪質頁岩を中心とする。ただし、これらの石器の中には文化層が異なる可能性を持つものが存在する。出土層位は一部がVI層やVII層から出土するものの、ほとんどがV層より上部から出土している。

（遺物）出土石器は総数25点で、そのうち剥片が半数以上を占める。石材種類は18種類である。ただし、珪質頁岩については完全に同一と決定できる決め手がなかったものは似たものでも別種類としたため、同じ母岩の表面近くの個体と中心近くの個体を別にしてしまった可能性もある。そのような可能性を考えても数量比で4割以上を占め、中心的な石材であると言える。

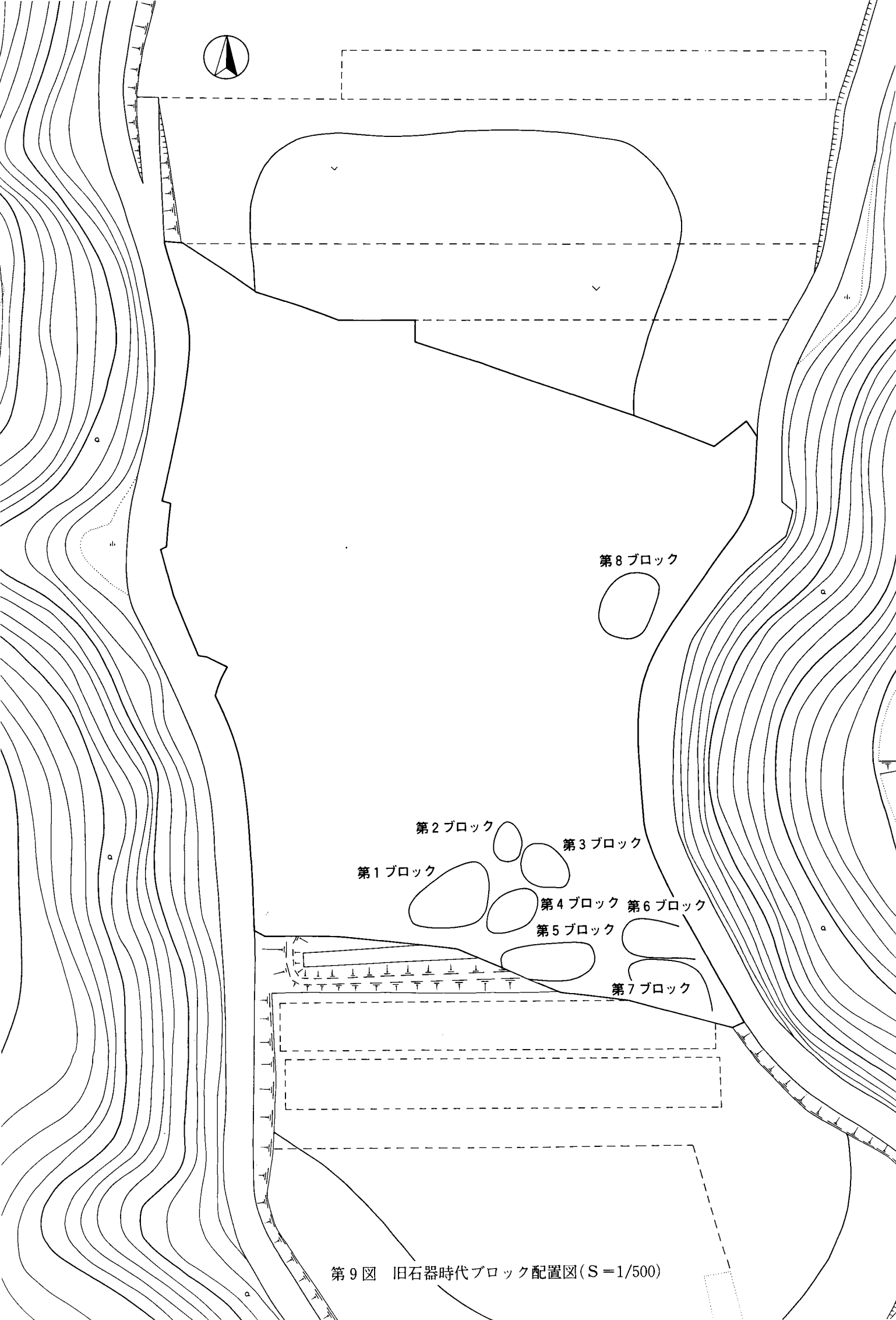
個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。黒曜石1は黒色の硬質な石材で、光沢をもつ。気泡がやや多く混入しており、透明度は若干低い。黒曜石2は黒色の硬質な石材で、光沢をもつ。純度がかなり高く、透明度は高い。黒色緻密質安山岩1は灰褐色のやや軟質な石材である。チャート4は淡茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。玉髓1は白色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。

①珪質頁岩3（1） 灰色を帯びた茶褐色を呈する硬質な石材である。1はナイフ形石器である。基部と左側縁先端部背面側に二次加工が施されるほか、使用痕も観察される。

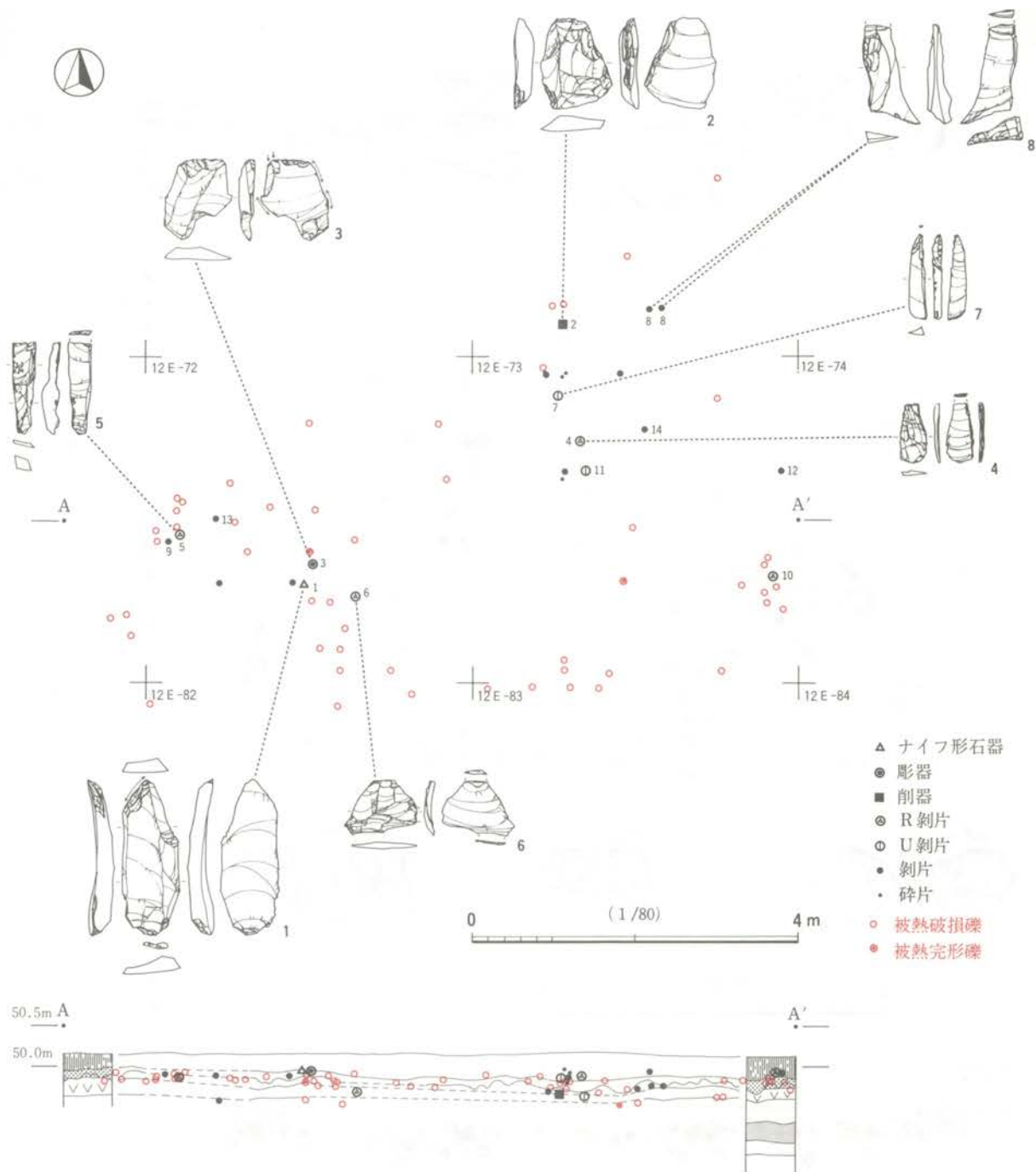
②頁岩1（2） 灰色を帯びた濃茶褐色を呈する硬質な石材である。2は削器である。右側縁に背面・腹面両側からの二次加工が施されるほか、左側縁には背面側から二次加工が施される。

③珪質頁岩4（3） 濃茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。3は彫器である。右側縁の上側から2回にわたって桶状剥離が施される。先端部に細かい加工痕が観察されるほか、側縁部に微細な使用痕が顕著に見られるため、彫器とみなした。右側縁下側からの剥離痕も観察されるが、これは桶状剥離を意図したものの失敗したものと考えられる。

④珪質頁岩7（4） 白色を帯びた灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。4は二次加工のある剥片である。



第9図 旧石器時代ブロック配置図(S=1/500)



第10図 第1ブロック器種別遺物分布図

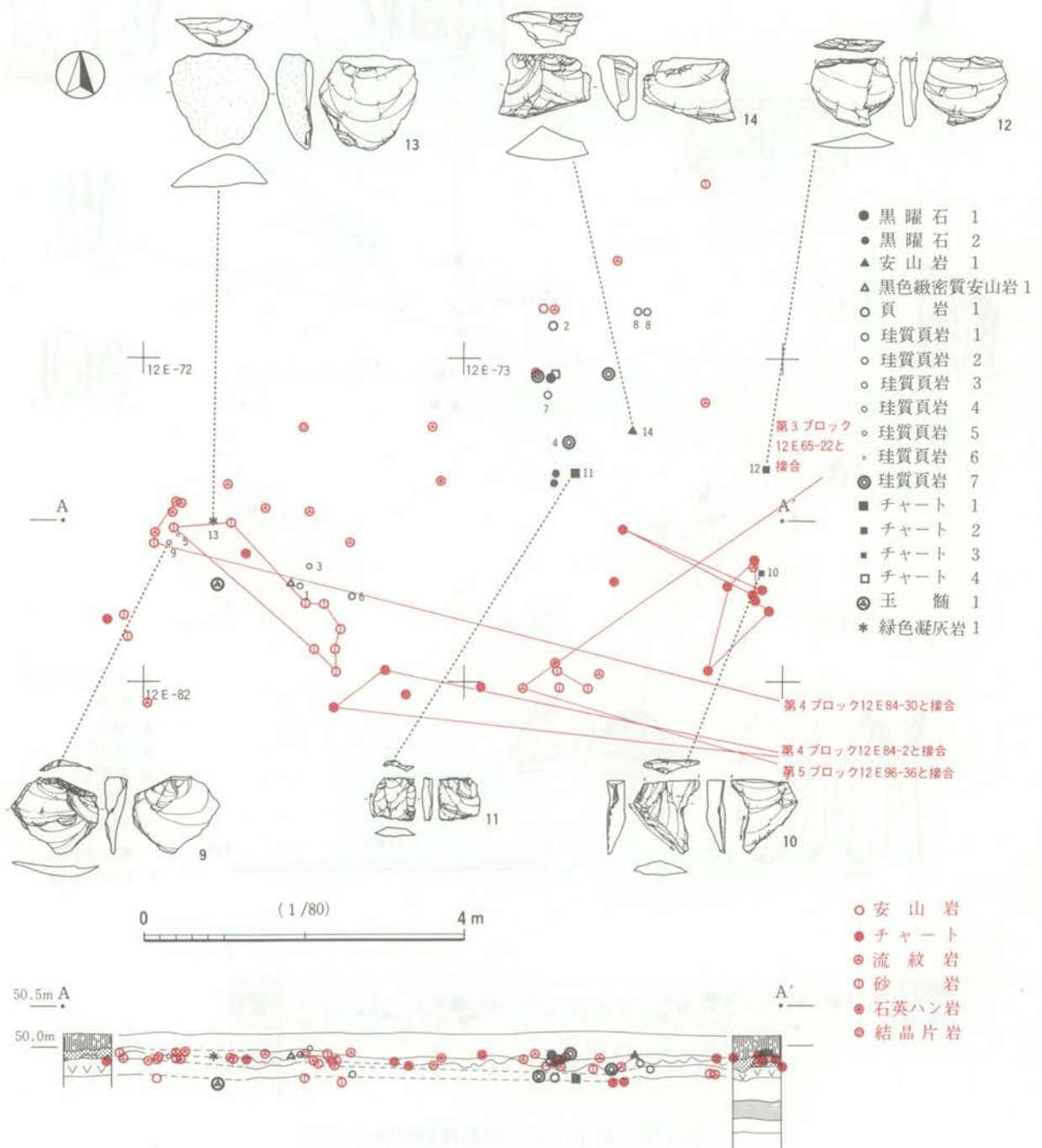
左側縁腹面側から上部折面にかけて細かい加工痕が観察される。

⑤珪質頁岩6 (5) 白色を帯びた茶褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。5は二次加工のある剥片である。右側縁背面側と左側縁先端部腹面側に細かい加工痕が観察される。

⑥珪質頁岩2 (6) 灰色を帯びた茶褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。6は二次加工のある剥片である。左側縁先端部背面側に細かい加工痕が観察される。

⑦珪質頁岩1 (7、8) 黒色の不純物が混入する灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。7は二次加工のある剥片である。右側縁側に加工痕が観察される。8は接合資料である。

⑧珪質頁岩5 (9) 濃茶褐色を呈する硬質な石材である。9は剥片である。先端部の欠損が目立つが、



第11図 第1ブロック母岩別遺物分布図

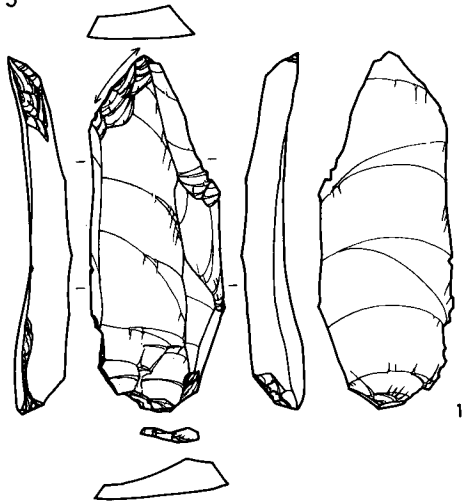
人為的なものかどうかは不明である。

⑨チャート3 (10) 緑色を帯びた灰褐色の硬質な石材である。10は二次加工のある剥片である。左側縁背面側に二次加工が観察されるほか、先端部に微細な剥離痕が多数観察される。

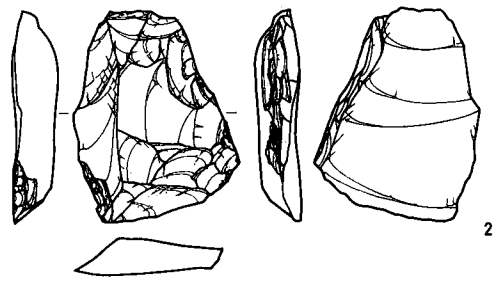
⑩チャート1 (11) 黒褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。11は微細な剥離痕のある剥片である。先端部が折断され、左側縁に微細剥離痕が観察される。

⑪チャート2 (12) 黄色みを帯びた青灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。12は剥片である。打面は折断されて存在しない。

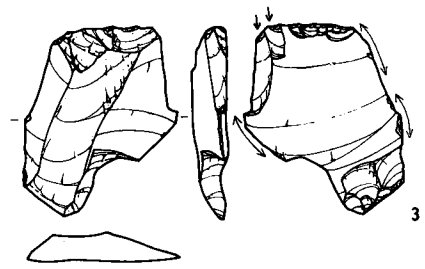
珪質頁岩 3



頁岩 1



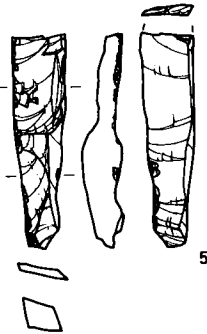
珪質頁岩 4



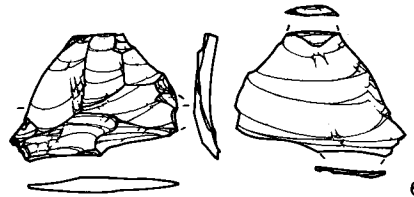
珪質頁岩 7



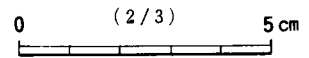
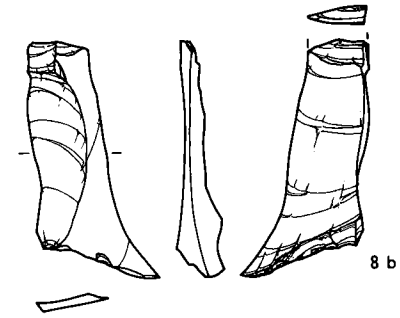
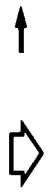
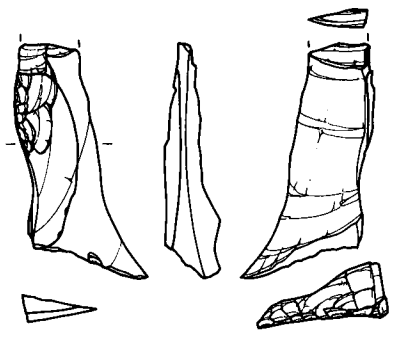
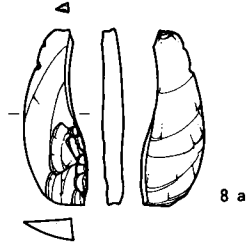
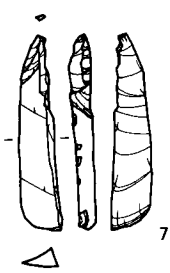
珪質頁岩 6



珪質頁岩 2



珪質頁岩 1



第12図 第1ブロック出土石器実測図(1)

珪質頁岩 5



チャート 3

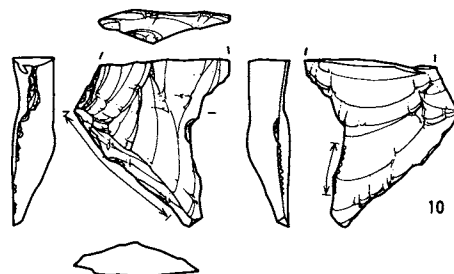


チャート 1

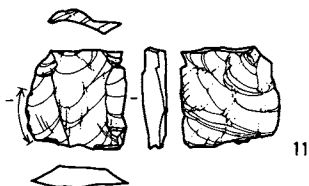
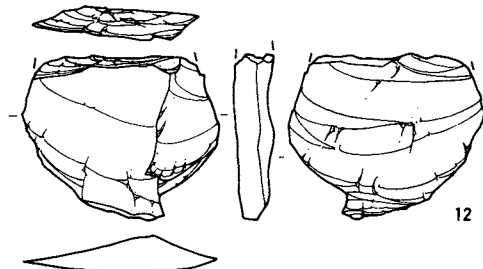
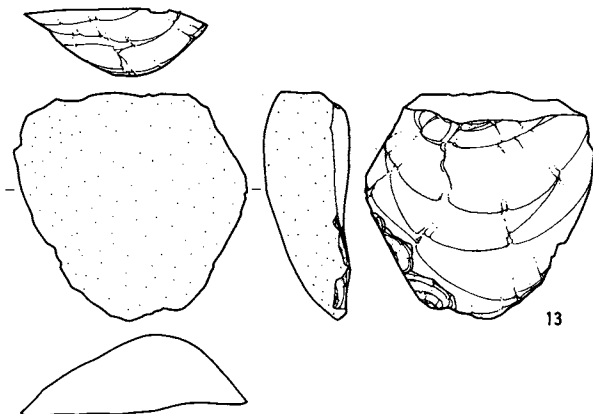


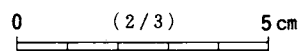
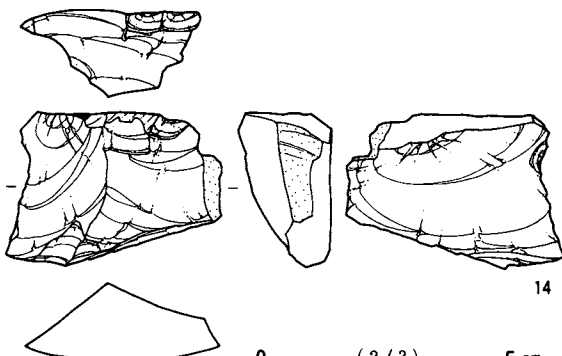
チャート 2



緑色凝灰岩 1



安山岩 1



第13図 第1ブロック出土石器実測図(2)

⑫緑色凝灰岩 (13) 青みを帯びた緑褐色の硬質な石材で、粒子がやや粗い。13は剥片である。

⑬安山岩 1 (14) 濃茶褐色を呈する硬質な石材である。14は剥片である。先端部が折断されている。

(礫 群) 50点余りの礫のほとんどが熱を受けている。分布の中心は12E-72区で、石器群より西側になる。チャート、流紋岩、砂岩の3種類の石材が大多数を占める。ほとんどが30g以下の小破片であるが、砂岩にはやや大型の個体も存在する。他のブロックとの接合が顕著で、中には3ブロックにまたがって接合する個体もある。

第1表 第1ブロック出土石器属性表

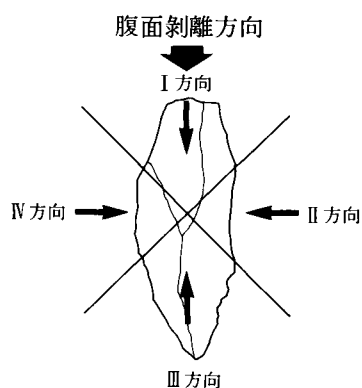
| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-63-0002 | 削器 | 42.6×32.7×9.3 | 12.8 | 2 | - | - | - | I、II | a | | | 頁岩1 |
| 2 | 0005 | 剥片 | 46.5×26.5×9.8 | 3.8 | 8b | - | - | - | I、III、IV | d | | H | 珩質頁岩1 |
| 3 | 0006 | 剥片 | 34.5×12.1×4.5 | 1.5 | 8a | 平 | × | × | II | c | 95 | | 珩質頁岩1 |
| 4 | 0009 | 剥片 | 14.0×11.9×2.9 | 0.6 | | - | - | - | I、IV | c | | H,B | 黒曜石1 |
| 5 | 12E-72-0012 | R剥片 | 24.4×33.3×3.0 | 2.1 | 6 | - | - | - | I、III | b | | H,B,R | 珩質頁岩2 |
| 6 | 0015 | 剥片 | 78.8×53.1×24.7 | 89.8 | | C | × | × | II、III、C | d | 115 | | 黒色緻密質安山岩1 |
| 7 | 0016 | ナイフ型石器 | 71.2×26.7×10.0 | 16.5 | 1 | 多 | × | ○ | I、II、III、IV | e | 130 | | 珩質頁岩3 |
| 8 | 0017 | 彫器 | 37.0×31.1×7.0 | 6.9 | 3 | - | - | - | I、III | b | | | 珩質頁岩4 |
| 9 | 0024 | 剥片 | 45.0×46.0×16.8 | 38.4 | 13 | 平 | × | × | C | a | 130 | | 緑色凝灰岩1 |
| 10 | 0026 | 剥片 | 16.2×23.8×9.9 | 4.6 | | 多 | × | × | I、IV | c | 95 | | 玉髓1 |
| 11 | 0029 | 剥片 | 35.6×40.8×5.7 | 7.1 | 9 | 多 | × | ○ | I | a | 118 | | 珩質頁岩5 |
| 12 | 0034 | R剥片 | 42.3×10.8×8.0 | 2.2 | 5 | - | - | - | I、III、IV | d | | H | 珩質頁岩6 |
| 13 | 0036 | 剥片 | 23.6×10.5×3.2 | 0.7 | | 線 | × | ○ | I、II、IV | d | | B | 黒曜石2 |
| 14 | 12E-73-0003 | 碎片 | 10.9×11.8×3.0 | 0.3 | | 線 | × | × | I | a | | L | 黒曜石1 |
| 15 | 0004 | U剥片 | 38.8×7.7×4.5 | 1.1 | 7 | 平 | × | × | I | a | 120 | | 珩質頁岩1 |
| 16 | 0005 | 剥片 | 16.8×18.0×3.2 | 0.9 | | 平 | × | ○ | I、III | b | 130 | R | 珩質頁岩7 |
| 17 | 0006 | R剥片 | 26.5×12.3×1.7 | 0.7 | 4 | - | - | - | IV | c | | H | 珩質頁岩7 |
| 18 | 0007 | 剥片 | 21.2×10.6×1.3 | 0.3 | | - | - | - | I | a | | H | 黒曜石2 |
| 19 | 0008 | U剥片 | 20.0×20.0×4.2 | 2.0 | 11 | 平 | × | × | I、IV | c | 110 | | チャート1 |
| 20 | 0009 | 剥片 | 30.8×43.0×18.9 | 23.5 | 14 | 平 | × | ○ | I | a | 120 | | 安山岩1 |
| 21 | 0011 | 剥片 | 32.8×39.0×7.9 | 9.5 | 12 | - | - | - | I | a | | H | チャート2 |
| 22 | 0014 | R剥片 | 33.9×30.8×9.0 | 5.9 | 10 | - | - | - | III、IV | d | | M | チャート3 |
| 23 | 0027 | 剥片 | 15.8×15.2×2.5 | 0.4 | | 平 | × | ○ | I、IV | c | 135 | | 珩質頁岩7 |
| 24 | 0028 | 碎片 | 15.8×12.0×1.3 | 0.3 | | - | - | - | I、II | c | | H | チャート4 |
| 25 | 0029 | 碎片 | 11.4×7.0×1.2 | 0.1 | | - | - | - | I | a | | H | 黒曜石2 |

〈石器属性表の見方〉

- ①打面種類 平……平坦剥離面、多……多剥離面、線……線状、点……点状、C……自然面
- ②打面調整・頭部調整 ○……行う頻度が高い、×……行わない
- ③背面構成とその類型は第14図参照
- ④折面部位 H……打面部、M……中間部、B……末端部、R……右側、L……左側

【背面構成の種類】

- a類：一方向 I
- b類：二方向 I + III、III
- c類：二方向 I + II、I + IV、II、IV
- d類：三方向 I + II + III、I + II + IV、I + III + IV
II + III、II + IV、III + IV
- e類：四方向 I + II + III + IV、II + III + IV



第14図 背面構成の種類

第2表 第1ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|---------------------------|
| 1 | 12E-63-0003 | 安山岩 | 破損 | ○ | 41.5×39.4×20.9 | 25.0 | |
| 2 | 0004 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 29.5×21.7×23.7 | 17.4 | |
| 3 | 0007 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 28.7×17.6×17.9 | 9.1 | |
| 4 | 0008 | 砂岩 | 破損 | ○ | 9.6×10.0× 8.1 | 0.8 | |
| 5 | 12E-71-0002 | チャート | 破損 | ○ | 29.6×21.1×17.1 | 12.0 | |
| 6 | 0003 | 砂岩 | 破損 | ○ | 28.8×26.4×14.5 | 11.4 | |
| 7 | 0004 | 砂岩 | 破損 | ○ | 22.4×17.0× 9.5 | 4.3 | |
| 8 | 12E-72-0002 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 22.6×21.8×27.0 | 13.3 | |
| 9 | 0003 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 36.2×30.9×12.6 | 15.7 | |
| 10 | 0006 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 31.8×26.8×21.0 | 16.5 | |
| 11 | 0007 | チャート | 破損 | ○ | 13.3× 8.1× 9.6 | 1.5 | ①12E82-3,④12E74-1,12E84-2 |
| 12 | 0008 | 砂岩 | 破損 | ○ | 52.7×37.1×31.0 | 52.9 | ①12E72-9~14,23,28 |
| 13 | 0009 | 砂岩 | 破損 | ○ | 35.1×28.1×30.7 | 28.4 | ①12E72-8,10~14,23,28 |
| 14 | 0010 | 砂岩 | 破損 | ○ | 34.3×26.5×21.6 | 26.4 | ①12E72-8,9,11~14,23,28 |
| 15 | 0011 | 砂岩 | 破損 | ○ | 32.5×22.3×26.6 | 16.0 | ①12E72-8~10,12~14,23,28 |
| 16 | 0013 | 砂岩 | 破損 | ○ | 23.8×33.1×18.9 | 17.7 | ①12E72-8~11,13,14,23,28 |
| 17 | 0014 | 砂岩 | 破損 | ○ | 42.7×36.8×19.4 | 31.9 | ①12E72-8~13,23,28 |
| 18 | | チャート | 破損 | ○ | 21.3×20.5×16.9 | 6.7 | |
| 19 | 0019 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 22.9×23.1×16.8 | 7.6 | |
| 20 | 0020 | 結晶片岩 | 破損 | ○ | 40.6×38.7×30.5 | 61.7 | |
| 21 | 0021 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 27.6×25.8×16.2 | 10.9 | |
| 22 | 0022 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 48.5×30.5×23.6 | 27.5 | |
| 23 | 0023 | 砂岩 | 破損 | ○ | 16.7×13.9× 4.5 | 1.0 | ①12E72-8~14,23,28 |
| 24 | 0025 | チャート | 破損 | ○ | 30.7×16.0×15.8 | 12.8 | |
| 25 | 0027 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 59.8×38.7×19.6 | 35.1 | |
| 26 | 0028 | 砂岩 | 破損 | ○ | 29.2×16.7× 8.3 | 4.5 | ①12E72-8~14,23,28 |
| 27 | 0030 | 砂岩 | 破損 | ○ | 58.1×38.3×23.4 | 40.8 | ④12E84-3 |
| 28 | 0031 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.4×28.2×18.1 | 22.7 | ①12E72-33 |
| 29 | 0032 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 37.6×34.1×16.8 | 12.6 | |
| 30 | 0033 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 46.1×37.1×17.9 | 28.2 | ①12E72-31 |
| 31 | 12E-73-0002 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 35.0×36.7×20.9 | 22.1 | |
| 32 | 0010 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 20.9×18.4×12.6 | 2.6 | |
| 33 | 0013 | チャート | 破損 | ○ | 15.7×14.4×12.5 | 2.2 | ①12E73-17~20 |
| 34 | 0015 | チャート | 破損 | ○ | 29.5×16.1×15.8 | 8.0 | ①12E73-16,21 |
| 35 | 0016 | チャート | 破損 | ○ | 23.4×24.7×14.5 | 10.3 | ①12E73-15,21 |
| 36 | 0017 | チャート | 破損 | ○ | 24.1×22.0×12.1 | 6.1 | ①12E73-13,18~20 |
| 37 | 0018 | チャート | 破損 | ○ | 26.4× 9.9×14.0 | 5.1 | ①12E73-13,17,19,20 |
| 38 | 0019 | チャート | 破損 | ○ | 12.1×10.7×11.5 | 1.3 | ①12E73-13,17,18,20 |
| 39 | 0020 | チャート | 破損 | ○ | 20.5×13.5×11.8 | 2.9 | ①12E73-13,17~19 |
| 40 | 0021 | チャート | 破損 | ○ | 13.9× 7.0× 6.8 | 0.6 | ①12E73-15,16 |
| 41 | 0022 | チャート | 完形 | | 23.2×18.7×13.9 | 7.7 | |
| 42 | 0024 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 29.4×31.0×26.3 | 26.4 | |
| 43 | 0025 | 砂岩 | 破損 | ○ | 84.0×44.3×34.8 | 164.9 | ①12E83-5 |
| 44 | 0026 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.4×34.2×26.6 | 28.7 | |
| 45 | 0030 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 50.9×23.3×15.5 | 23.2 | |
| 46 | 12E-82-0002 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 28.4×21.4×17.4 | 13.2 | |
| 47 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 28.0×28.4×20.5 | 13.0 | ①12E72-7,④12E74-1,12E84-2 |
| 48 | 0004 | チャート | 破損 | ○ | 17.3×12.1×12.1 | 2.2 | |
| 49 | 12E-83-0003 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 35.0×38.5×24.9 | 38.4 | ③12E65-22,⑤12E96-36 |
| 50 | 0004 | 砂岩 | 破損 | ○ | 42.3×58.9×29.4 | 91.0 | |
| 51 | 0005 | 砂岩 | 破損 | ○ | 46.2×42.8×29.2 | 56.8 | ①12E73-25 |

第2ブロック(第16~18図、図版4・6)

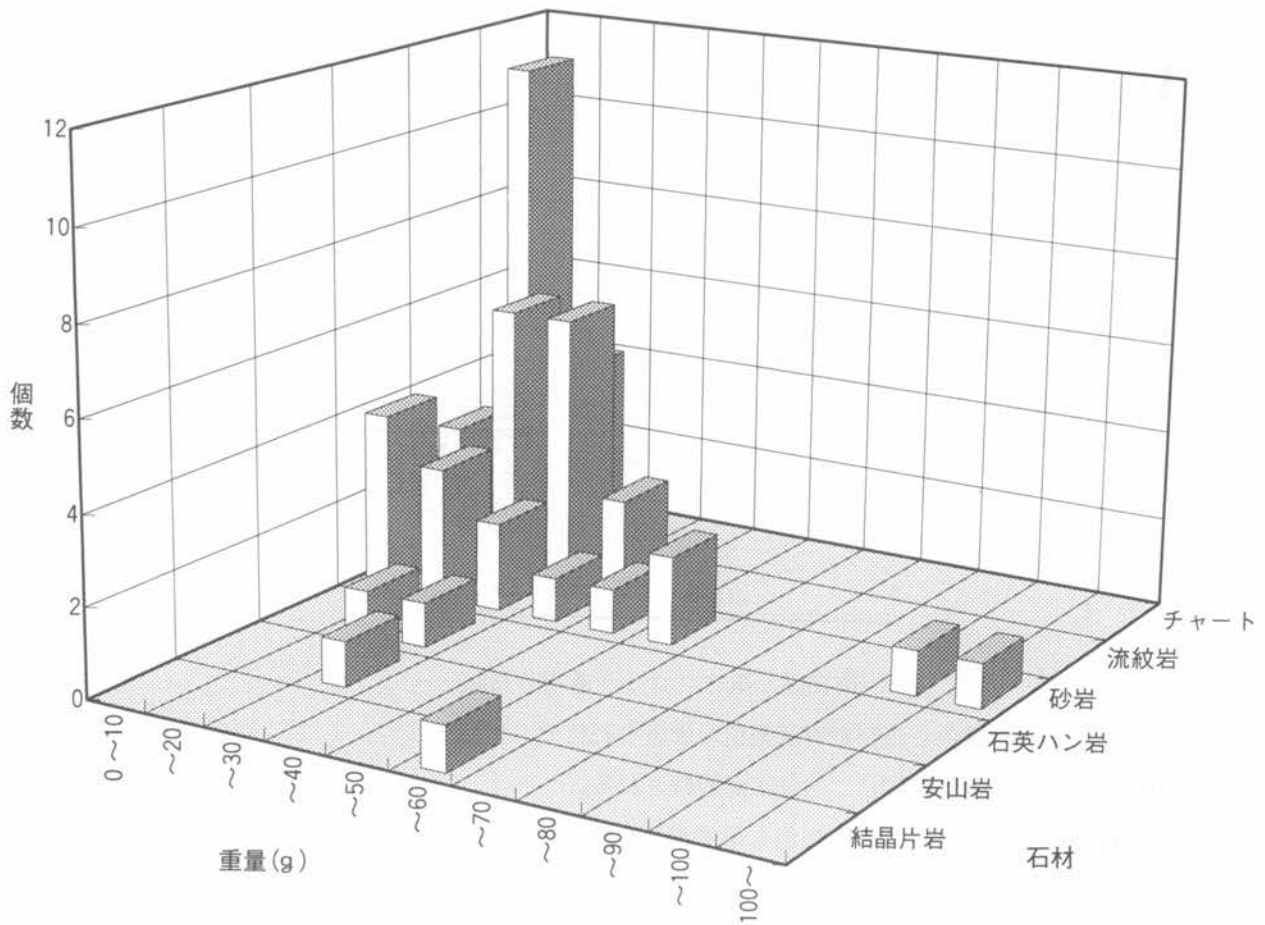
(出土状況) 12E-54・64区に位置する。

出土石器4点、出土礫19点の小規模なブロックである。第1ブロックのすぐ北東側から検出された。12E-54区を中心として直径4mほどの範囲に遺物が集中して出土する。出土層位はほとんどがVI層上部からIII層下部に集中する。

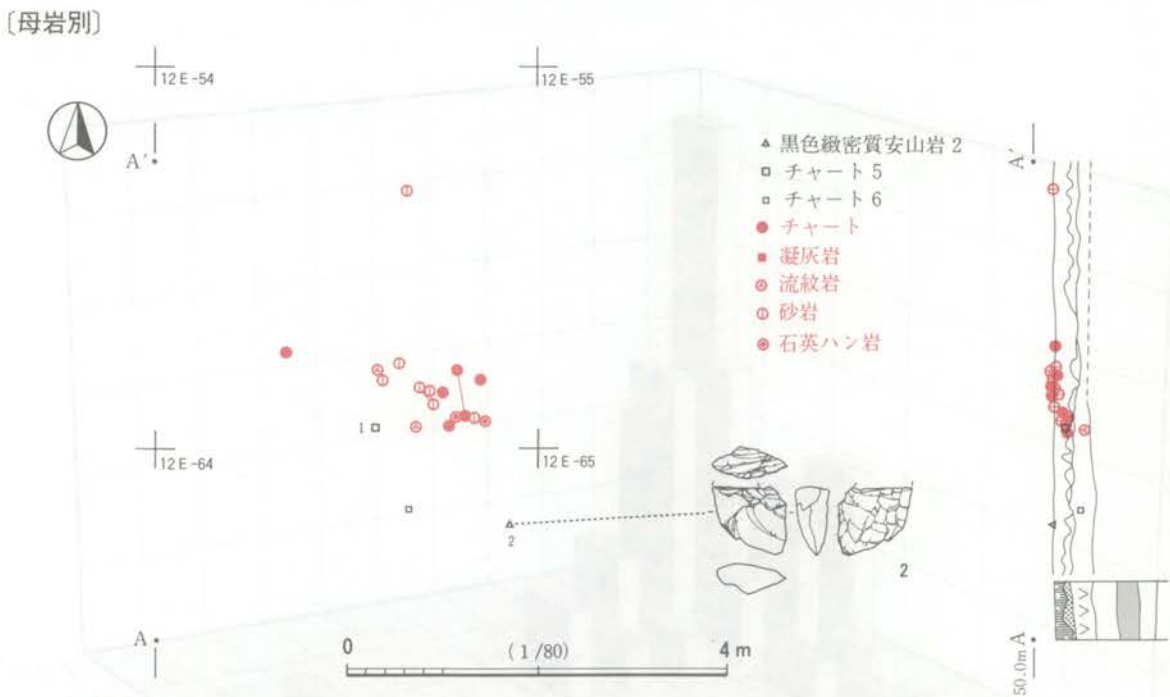
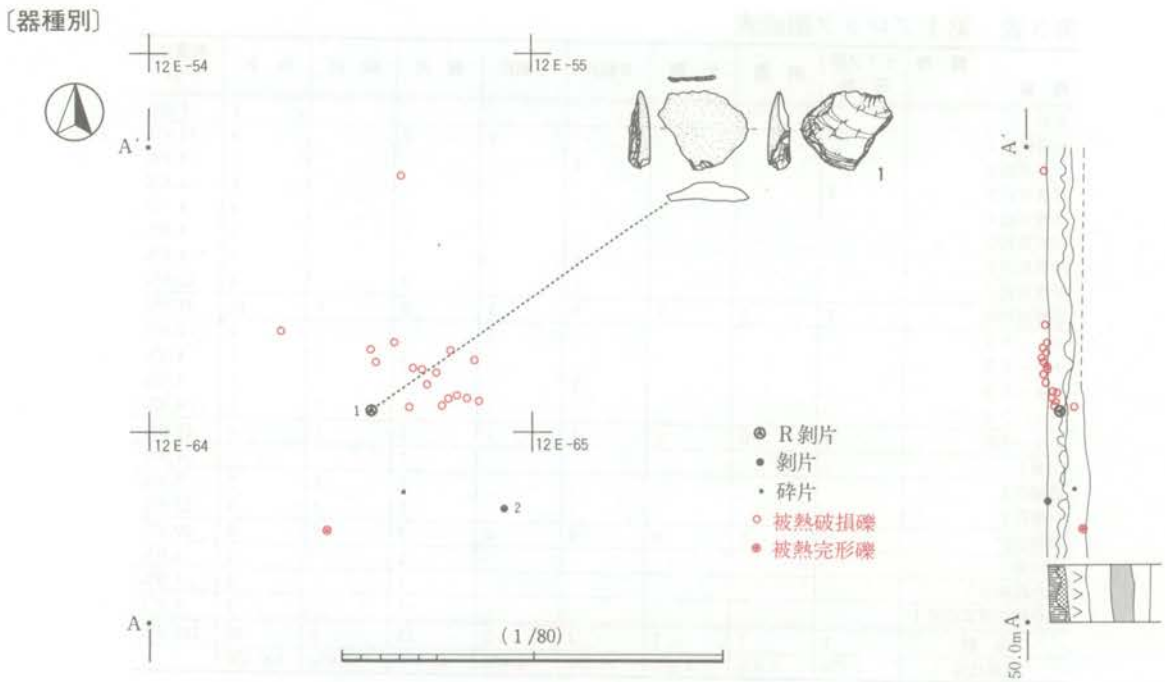
(遺物) 4点出土した石器の全てが違う母岩であった。そのうち3点がチャートである。個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。チャート6は赤みを帯びた濃茶褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。チャート24は淡茶褐色を呈する硬質な石材で、不純物の混

第3表 第1ブロック組成表

| 母岩 | 器種 | ナイフ形石器 | 削器 | 彫器 | R剥片 | U剥片 | 剥片 | 碎片 | 合計 | 数量比(%) |
|-----------|----|--------|------|------|-------|------|-------|-------|--------|--------|
| 頁岩1 | | | 1 | | | | | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩1 | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 12.0% |
| 珩質頁岩2 | | | | | 1 | | | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩3 | | 1 | | | | | | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩4 | | | | 1 | | | | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩5 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩6 | | | | | 1 | | | | 1 | 4.0% |
| 珩質頁岩7 | | | | | 1 | | 2 | | 3 | 12.0% |
| 珩質頁岩計 | | 1 | 0 | 1 | 3 | 1 | 5 | 0 | 11 | 44.0% |
| チャート1 | | | | | | 1 | | | 1 | 4.0% |
| チャート2 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| チャート3 | | | | | 1 | | | | 1 | 4.0% |
| チャート4 | | | | | | | | 1 | 1 | 4.0% |
| チャート計 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 16.0% |
| 玉髓1 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| 黒曜石1 | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 8.0% |
| 黒曜石2 | | | | | | | 2 | 1 | 3 | 12.0% |
| 黒曜石計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 5 | 20.0% |
| 安山岩1 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| 緑色凝灰岩1 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| 黒色緻密質安山岩1 | | | | | | | 1 | | 1 | 4.0% |
| 合計 | | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 13 | 3 | 25 | 100.0% |
| 組成比% | | 4.0% | 4.0% | 4.0% | 16.0% | 8.0% | 52.0% | 12.0% | 100.0% | |



第15図 第1ブロック出土礫石材別重量分布図



第16図 第2ブロック遺物分布図

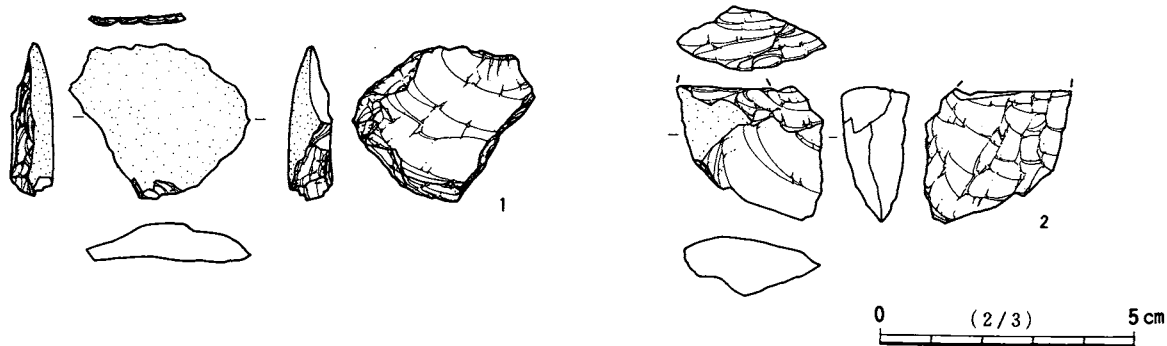
①チャート 5 (1) 緑色を帯びた青灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。1は二次加工のある剥片である。左側縁全面と右側縁先端側に二次加工が観察される。

②黑色緻密質安山岩 2 (2) 淡灰褐色を呈するやや軟質な石材である。2は剥片である。打面は折断されて存在しない。

(礫 群) 20点弱の礫の全てが熱を受けている。石器の分布域とほぼ重なる。砂岩とチャートが大多数を占める。全て40g以下の小破片で、半数が10gにも満たないものである。他のブロックとの接合は見られない。

チャート5

黒色緻密質安山岩 2



第17図 第2ブロック出土石器実測図

第4表 第2ブロック出土石器属性表

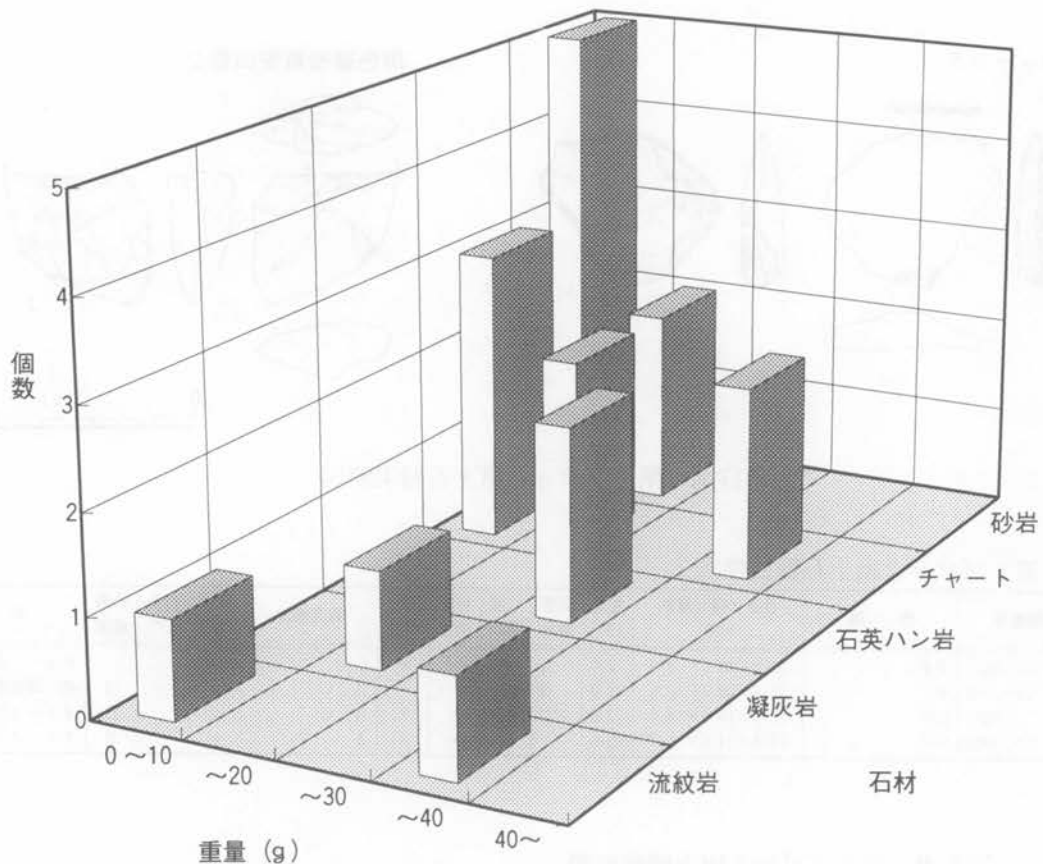
| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|-----|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-54-0018 | R剥片 | 31.0×35.7×9.0 | 9.0 | 1 | 多 | ○ | × | C | a | | | チャート5 |
| 2 | 12E-64-0002 | 剥片 | 26.7×30.3×12.8 | 7.9 | 2 | - | - | - | II、C | d | | H | 黒色緻密質安山岩2 |
| 3 | 0003 | 碎片 | 14.5×10.6×4.0 | 0.6 | | C | × | × | II、C | c | | B | チャート24 |
| 4 | 0004 | 碎片 | 10.1×14.6×1.7 | 0.3 | | 線 | × | × | I | a | | B | チャート6 |

第5表 第2ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-44-0002 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 29.2×24.6×21.7 | 11.7 | |
| 2 | 12E-54-0002 | 砂岩 | 破損 | ○ | 24.7×14.1×13.2 | 7.0 | |
| 3 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 33.9×28.8×25.4 | 15.0 | |
| 4 | 0004 | 砂岩 | 破損 | ○ | 35.0×29.5×17.5 | 15.4 | |
| 5 | 0005 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 40.7×24.1×19.2 | 21.1 | |
| 6 | 0006 | チャート | 破損 | ○ | 46.6×43.5×24.0 | 34.8 | ②12E54-9 |
| 7 | 0007 | 砂岩 | 破損 | ○ | 32.6×17.6×9.8 | 6.1 | ②12E54-11,12 |
| 8 | 0008 | チャート | 破損 | ○ | 28.8×30.8×17.0 | 16.9 | |
| 9 | 0009 | チャート | 破損 | ○ | 38.9×32.0×24.0 | 34.6 | ②12E54-6 |
| 10 | 0010 | チャート | 破損 | ○ | 24.8×11.7×18.3 | 8.2 | |
| 11 | 0011 | 砂岩 | 破損 | ○ | 37.4×26.7×14.3 | 11.9 | ②12E54-7,12 |
| 12 | 0012 | 砂岩 | 破損 | ○ | 30.7×27.4×11.0 | 7.9 | ②12E54-7,11 |
| 13 | 0013 | 砂岩 | 破損 | ○ | 35.9×22.4×13.8 | 9.8 | |
| 14 | 0014 | 砂岩 | 破損 | ○ | 24.0×16.5×15.9 | 5.5 | |
| 15 | 0015 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.3×38.9×33.2 | 38.4 | |
| 16 | 0016 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 19.8×17.0×11.1 | 4.5 | |
| 17 | 0017 | チャート | 破損 | ○ | 20.0×11.7×8.3 | 1.9 | |
| 18 | 12E-54-0019 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.9×39.4×21.4 | 27.5 | |
| 19 | 12E-64-0001 | チャート | 破損 | ○ | 43.1×18.7×6.9 | 8.1 | |

第6表 第2ブロック組成表

| 器 種 | R剥片 | 剥片 | 碎 片 | 合 計 | 数量比 (%) |
|-----------|-------|-------|-------|--------|------------|
| 母 岩 | | | | | |
| チャート5 | 1 | | | 1 | 25.0% |
| チャート6 | | | 1 | 1 | 25.0% |
| チャート24 | | | 1 | 1 | 25.0% |
| チャート計 | 1 | 0 | 2 | 3 | 75.0% |
| 黒色緻密質安山岩1 | | 1 | | 1 | 25.0% |
| 合 計 | 1 | 1 | 2 | 4 | 100.0% |
| 組成比% | 25.0% | 25.0% | 50.0% | 100.0% | |



第18図 第2ブロック出土礫石材別重量分布図

第3ブロック (第19~21図、図版4・6)

(出土状況) 12E-65区に位置する。

第2ブロックの東側に位置し、直径4mの小規模なブロックである。10点の石器と30点の礫が出土した。出土層位はIV~V層を中心としてIII層下部まで広がる。

(遺物) 全部で10点の石器が出土したが、石材種類は7種類になる。珪質頁岩と安山岩がそれぞれ3割ずつを占める。個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。珪質頁岩8は濃茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。

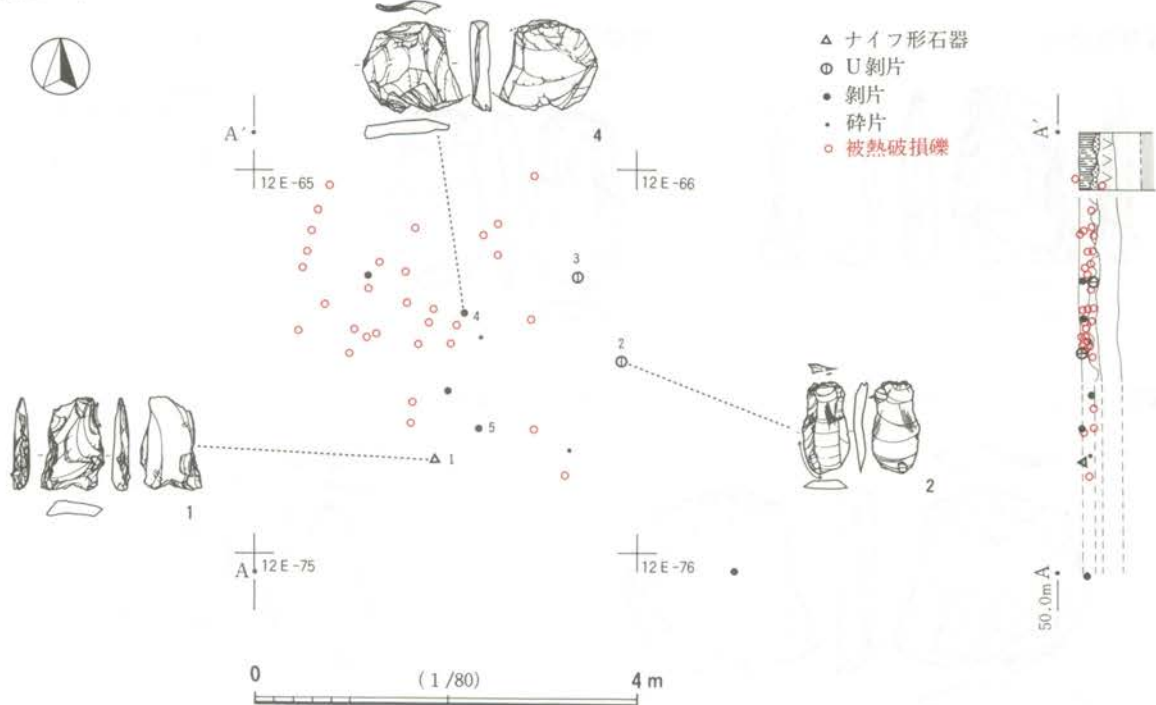
①珪質頁岩10(1) 乳褐色ないしは淡茶褐色を呈する硬質な石材である。1は二次加工のある剥片である。折断された横長剥片を素材としている。両側縁に二次加工が観察されるほか、右側縁先端部には微細剥離痕が観察される。ナイフ形石器の可能性も考えたが、明確な基部加工が施されないため二次加工のある剥片とした。

②黒曜石3(2) 黒色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。気泡がやや多く混入しており、透明度はやや低い。2は微細剥離痕のある剥片である。左側縁先端部から中間にかけて、連続的に観察される。

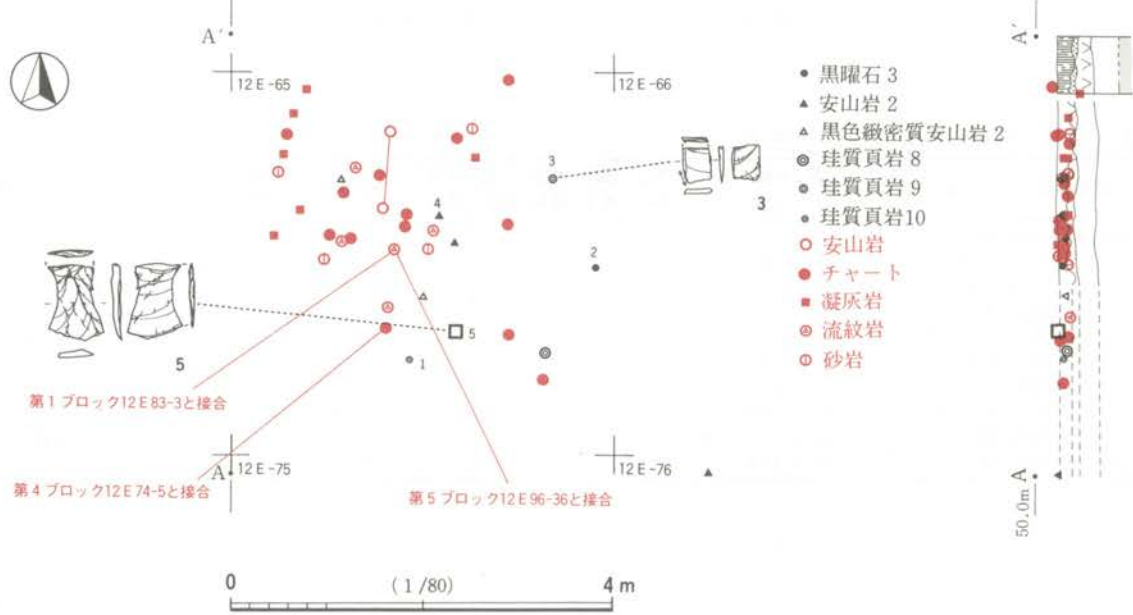
③珪質頁岩9(3) 緑色を帯びた淡茶褐色を呈する硬質な石材である。3は微細剥離痕のある剥片である。打面は折断されて存在しない。左側縁先端部に、微細な剥離痕が観察される。

④安山岩2(4) 濃茶褐色を呈する硬質な石材で、やや粒子が粗い。4は剥片である。右側縁側が折断されている。

[器種別]



[母岩別]

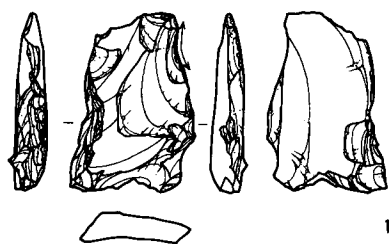


第19図 第3ブロック遺物分布図

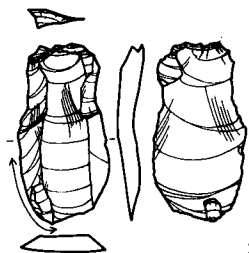
⑤チャート7 (5) 濃灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。5は剥片である。打面と左側縁が折断されている。

(礫 群) 30点の礫の全てが熱を受けている。石器の分布域とほぼ重なる。チャートが4割以上を占める。全て40g以下の小破片で、10g以下のものが8割を占める。接合はさほど多くないが、第1ブロック及び第5ブロックの資料と接合するものが存在する。

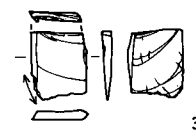
珪質頁岩10



黒曜石 3



珪質頁岩 9



安山岩 2

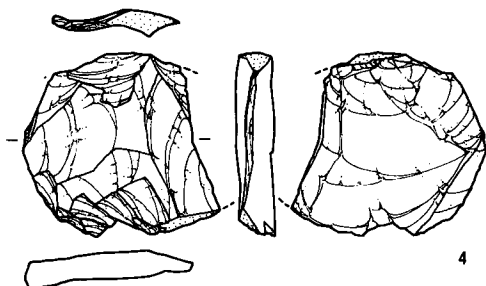
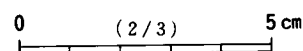
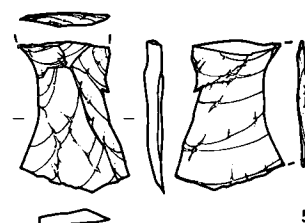


チャート7



第20図 第3ブロック出土石器実測図

第7表 第3ブロック出土石器属性表

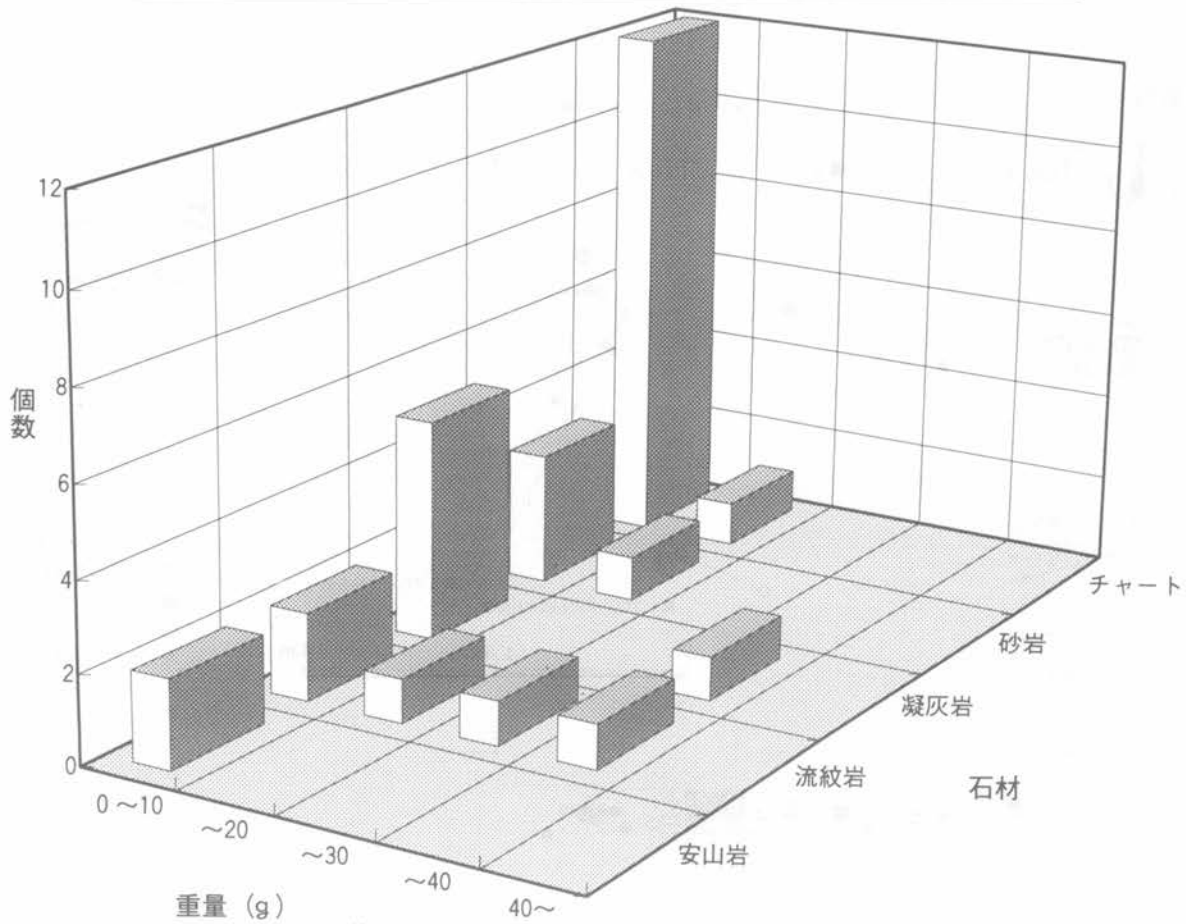
| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-65-0003 | 破片 | 5.8×7.6×1.3 | 0.1 | | - | - | - | I | a | | H | 珪質頁岩8 |
| 2 | 0004 | U剥片 | 35.6×18.2×3.9 | 2.6 | 2 | 平 | × | ○ | I、II | b | 100 | H | 黒曜石3 |
| 3 | 0005 | U剥片 | 13.6×11.5×1.8 | 1.4 | 3 | - | - | - | I | a | | H | 珪質頁岩9 |
| 4 | 0012 | 剥片 | 29.1×22.0×4.0 | 1.8 | 5 | - | - | - | I、II、IV | c | | H,L | チャート7 |
| 5 | 0013 | 剥片 | 28.4×27.4×26.5 | 20.2 | | 平 | × | × | I、C | a | | | 黒色緻密質安山岩2 |
| 6 | 0014 | 破片 | 9.5×16.7×1.8 | 0.4 | | - | - | - | I | a | | H | 安山岩2 |
| 7 | 0016 | 剥片 | 35.7×37.7×5.6 | 8.8 | 4 | 多 | ○ | × | I、II、III、IV | e | 60 | R | 安山岩2 |
| 8 | 0025 | ナイフ形石器 | 36.1×24.6×5.6 | 5.3 | 1 | - | - | - | I、II、IV | d | | M | 珪質頁岩10 |
| 9 | 0034 | 剥片 | 35.2×21.7×18.0 | 11 | | - | - | - | I | a | | H | 黒色緻密質安山岩2 |
| 10 | 12E-76-0002 | 剥片 | 16.6×12.8×4.2 | 0.8 | | - | - | - | III、IV、C | c | | H | 安山岩2 |

第8表 第3ブロック組成表

| 母 岩 | 器 種 | ナイフ形 石 器 | U剥片 | 剥 片 | 碎 片 | 合 計 | 数量比 (%) |
|-----------|-----|-------------|-------|-------|-------|--------|------------|
| 珪質頁岩 8 | | | | | 1 | 1 | 10.0% |
| 珪質頁岩 9 | | | 1 | | | 1 | 10.0% |
| 珪質頁岩10 | 1 | | | | | 1 | 10.0% |
| 珪質頁岩計 | | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 30.0% |
| チャート7 | | | | 1 | | 1 | 10.0% |
| 黒曜石 3 | | | 1 | | | 1 | 10.0% |
| 安山岩 2 | | | | 2 | 1 | 3 | 30.0% |
| 黒色緻密質安山岩2 | | | | 2 | | 2 | 20.0% |
| 合 計 | | 1 | 2 | 5 | 2 | 10 | 100.0% |
| 組成比% | | 10.0% | 20.0% | 50.0% | 20.0% | 100.0% | |

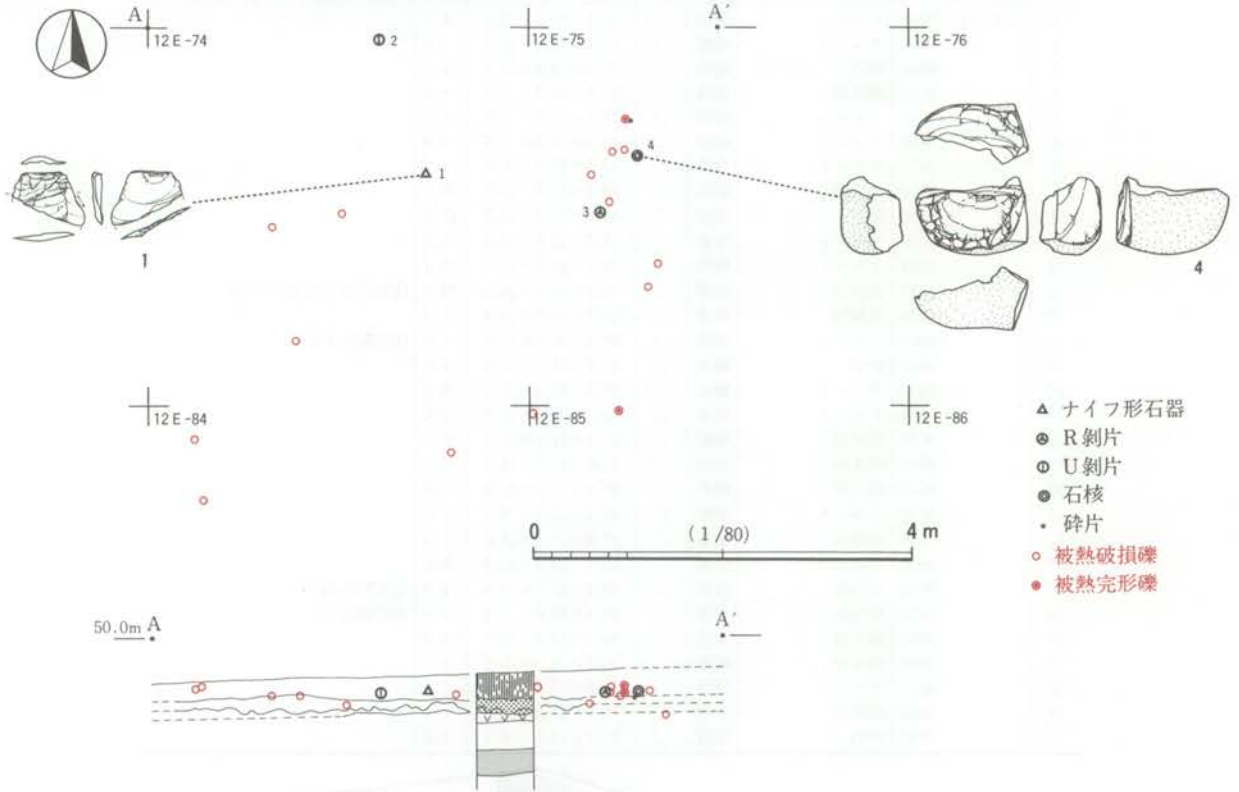
第9表 第3ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-65-0002 | チャート | 破損 | ○ | 18.6×15.2× 3.6 | 0.9 | |
| 2 | 0006 | チャート | 破損 | ○ | 14.1×12.3×10.7 | 1.4 | |
| 3 | 0007 | 砂岩 | 破損 | ○ | 21.0×19.8×13.9 | 6.4 | |
| 4 | 0008 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 22.0×10.1× 3.4 | 0.8 | |
| 5 | 0009 | チャート | 破損 | ○ | 11.5× 7.3× 7.5 | 0.7 | |
| 6 | 0010 | チャート | 破損 | ○ | 11.0× 9.3× 3.7 | 0.4 | |
| 7 | 0011 | チャート | 破損 | ○ | 13.5×10.1× 8.8 | 1.4 | |
| 8 | 0017 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 34.1×34.0×21.0 | 26.0 | |
| 9 | 0019 | 砂岩 | 破損 | ○ | 33.5×27.1×16.3 | 15.1 | |
| 10 | 0020 | チャート | 破損 | ○ | 11.5×13.9× 6.6 | 1.3 | |
| 11 | 0021 | チャート | 破損 | ○ | 33.1×24.3×16.7 | 13.4 | |
| 12 | 0022 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 40.0×40.0×30.5 | 39.0 | ①12E83-3,⑤12E96-36 |
| 13 | 0023 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 22.2×14.0×14.9 | 5.3 | |
| 14 | 0024 | チャート | 破損 | ○ | 22.8×20.5×17.8 | 7.2 | ④12E74-1,5 |
| 15 | 0027 | 砂岩 | 破損 | ○ | 12.7×11.7× 7.0 | 1.1 | |
| 16 | 0028 | チャート | 破損 | ○ | 16.2×15.5×13.3 | 4.4 | |
| 17 | 0029 | チャート | 破損 | ○ | 26.2×21.1×15.6 | 9.5 | |
| 18 | 0030 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 23.5×21.5×10.2 | 6.0 | |
| 19 | 0031 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 12.0×15.1×11.0 | 1.2 | |
| 20 | 0032 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 39.9×27.3×22.7 | 33.9 | |
| 21 | 0033 | チャート | 破損 | ○ | 26.3×13.7× 9.8 | 3.7 | |
| 22 | 0035 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 27.6×26.1×15.6 | 17.3 | |
| 23 | 0036 | チャート | 破損 | ○ | 32.7×19.4×15.0 | 9.6 | |
| 24 | 0037 | 安山岩 | 破損 | ○ | 36.2×22.0× 8.0 | 3.5 | ③12E65-38 |
| 25 | 0038 | 安山岩 | 破損 | ○ | 28.6×18.6× 7.4 | 3.9 | ③12E65-37 |
| 26 | 0039 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 34.2×23.2×15.0 | 9.8 | |
| 27 | 0040 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 12.3× 9.5× 6.1 | 0.7 | |
| 28 | 0041 | チャート | 破損 | ○ | 14.9×17.5×13.3 | 3.1 | |
| 29 | 0042 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 16.4×15.3×13.8 | 4.4 | |
| 30 | 0043 | 砂岩 | 破損 | ○ | 23.3×14.1× 9.4 | 3.0 | |



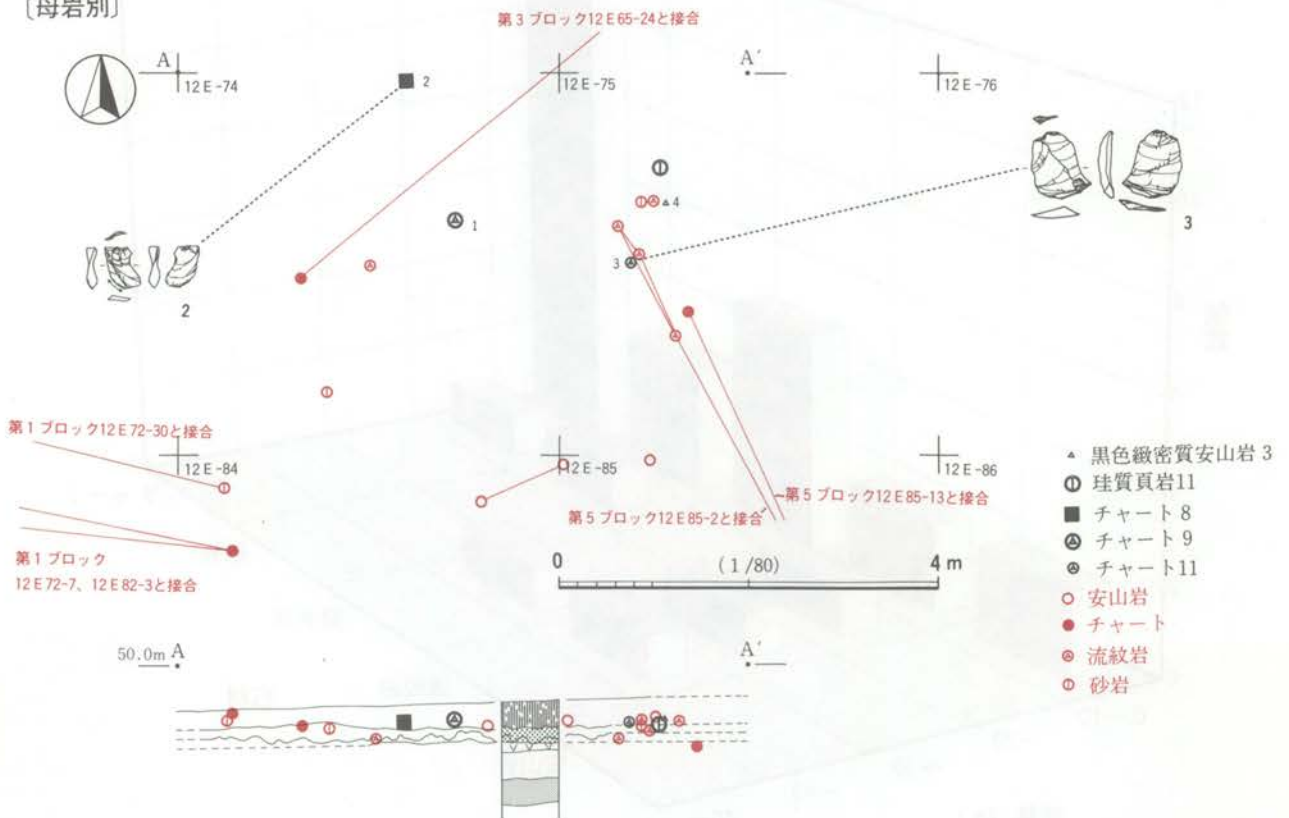
第21図 第3ブロック出土礫石材別重量分布図

[器種別]



- ▲ ナイフ形石器
- ⊙ R 剥片
- ⊙ U 剥片
- 石核
- ・ 碎片
- 被熱破損礫
- 被熱完形礫

[母岩別]



- ▲ 黒色緻密質安山岩 3
- ⊙ 珪質頁岩11
- チャート 8
- ⊙ チャート 9
- ⊙ チャート 11
- 安山岩
- チャート
- ⊙ 流紋岩
- ⊙ 砂岩

第22図 第4ブロック遺物分布図

第4ブロック (第22~24図、図版4・6)

(出土状況) 12E-74・75・84・85区に位置する。

第1ブロックの東側、第3ブロックの南側に位置する。出土石器5点、出土礫17点の小規模なブロックである。出土層位はIX層全体に広がる。

(遺物) 5点出土した石器の母岩が全て異なっているが、チャートが多数を占める。個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。珪質頁岩11は、濃灰褐色を呈する硬質な石材である。

①チャート9 (1) 黄土色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。1は微細剝離痕のある剝片である。先端側が折断されている。右側縁に微細な剝離痕が観察される。

②チャート8 (2) 灰色みを帯びた濃茶褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。2は微細剝離痕のある剝片である。左側縁先端部に微細剝離痕が観察される。

③チャート10 (3) 青灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。3は二次加工のある剝片である。折断された先端部の背面側に、二次加工が施される。

④黒色緻密質安山岩3 (4) 青色を帯びた灰褐色を呈する硬質な石材で、粒子がやや粗い。4は石核である。原石はあまり大きくはなく、打面転移を繰り返して横長剝片を数回剝離したものと考えられる。

(礫群) 20点弱の礫の全てが熱を受けている。分布は散漫ながら東西2ヶ所に集中域がみられ、石器を伴うのは東側のみである。チャートと流紋岩で6割以上を占める。全て40g以下の小破片であるが、重量

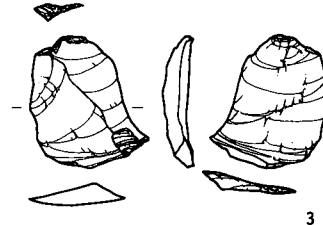
チャート9



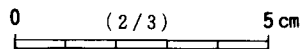
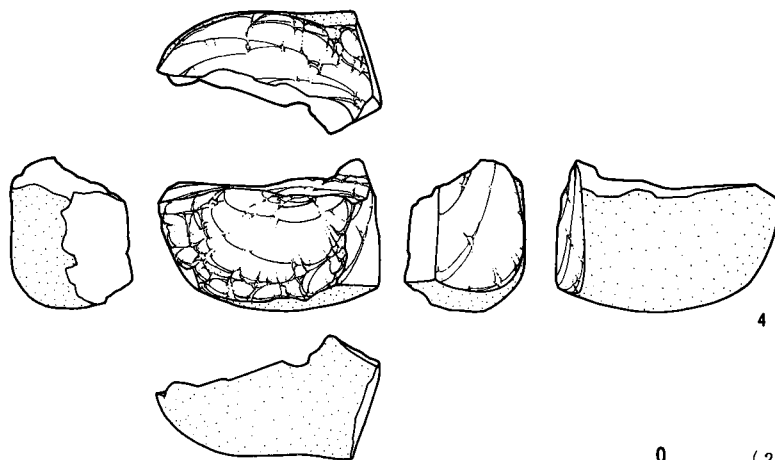
チャート8



チャート10



黒色緻密安山岩3



第23図 第4ブロック出土石器実測図

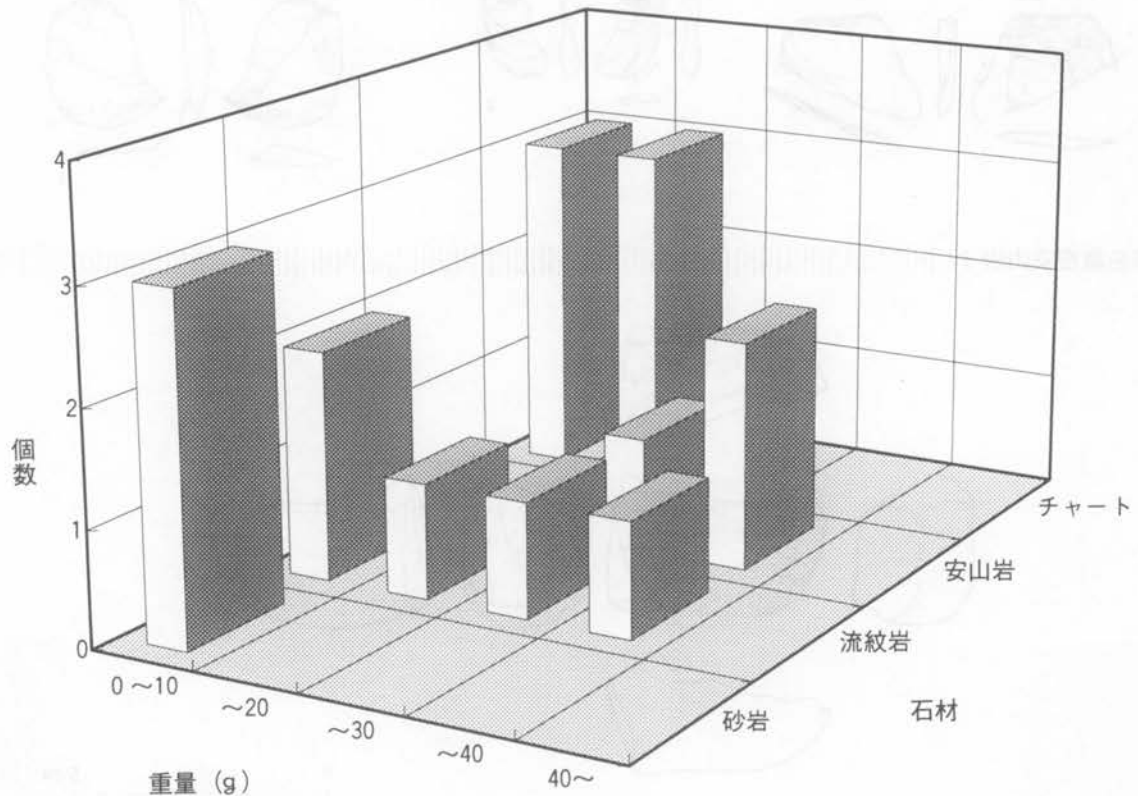
分布は平均化されている。

第10表 第4ブロック出土石器属性表

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-74-0002 | U剥片 | 15.7×13.9×1.7 | 0.4 | 2 | 平 | × | × | I、IV | c | | | チャート8 |
| 2 | 0003 | ナイフ形石器 | 30.5×17.0×3.5 | 3.5 | 1 | C | × | ○ | I | a | 117 | M | チャート9 |
| 3 | 12E-75-0002 | 砕片 | 12.3×8.8×4.0 | 0.7 | - | - | - | - | | | | | 珩質頁岩11 |
| 4 | 0003 | 石核 | 30.0×44.0×24.7 | 30.1 | 4 | | | | | | | | 黒色緻密質安山岩3 |
| 5 | 0008 | R剥片 | 26.8×20.2×4.3 | 2.3 | 3 | 多 | × | × | I、IV | c | | B | チャート10 |

第11表 第4ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|------|----------|----------|-----------------|-----------|---------------------------|
| 1 | 12E-74-0001 | チャート | 破損 | ○ | 22.2×19.5×8.8 | 4.6 | ①12E72-7,12E82-3,④12E84-2 |
| 2 | | チャート | 破損 | ○ | 25.4×20.5×14.2 | 7.1 | |
| 3 | | チャート | 破損 | ○ | 23.1×18.0×8.4 | 3.2 | ③12E65-24,④12E74-5 |
| 4 | 0004 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 38.0×32.8×15.2 | 19.6 | |
| 5 | 0005 | チャート | 破損 | ○ | 28.5×22.8×17.0 | 12.5 | ③12E65-24,④12E74-1 |
| 6 | 0006 | 砂岩 | 破損 | ○ | 19.9×17.1×7.2 | 1.7 | |
| 7 | 12E-75-0004 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.5×39.4×23.4 | 37.0 | |
| 8 | 0005 | 砂岩 | 破損 | ○ | 27.9×14.3×13.7 | 4.8 | |
| 9 | 0006 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 29.0×19.8×16.0 | 8.4 | ④12E75-7,11,⑤12E85-2 |
| 10 | 0007 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.6×28.5×22.0 | 24.5 | ④12E75-6,11,⑤12E85-2 |
| 11 | 0010 | チャート | 破損 | ○ | 32.9×27.4×18.1 | 11.9 | ⑤12E85-13 |
| 12 | 0011 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 22.4×19.1×16.9 | 7.1 | ④12E75-6,7,⑤12E85-2 |
| 13 | 12E-84-0002 | チャート | 破損 | ○ | 35.3×36.6×12.6 | 19.4 | ①12E72-7,12E82-3,④12E74-1 |
| 14 | 0003 | 砂岩 | 破損 | ○ | 25.2×22.7×9.5 | 4.4 | ①12E72-30 |
| 15 | 0004 | 安山岩 | 破損 | ○ | 40.9×39.8×21.3 | 31.0 | ④12E85-11 |
| 16 | 12E-85-0011 | 安山岩 | 破損 | ○ | 44.5×39.8×29.0 | 34.1 | ④12E84-4 |
| 17 | 0012 | 安山岩 | 完形 | | 42.7×22.2×19.5 | 23.9 | |



第24図 第4ブロック出土礫石材別重量分布図

第12表 第4ブロック組成表

| 母岩 | 器種 | ナイフ形石器 | R剥片 | U剥片 | 碎片 | 石核 | 合計 | 数量比(%) |
|-----------|----|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 珪質頁岩11 | | | | | 1 | | 1 | 20.0% |
| チャート8 | | | | 1 | | | 1 | 20.0% |
| チャート9 | | 1 | | | | | 1 | 20.0% |
| チャート10 | | | 1 | | | | 1 | 20.0% |
| チャート計 | | 1 | 1 | 1 | 0 | | 3 | 60.0% |
| 黒色緻密質安山岩3 | | | | | | 1 | 1 | 20.0% |
| 合計 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 100.0% |
| 組成比% | | 20.0% | 20.0% | 20.0% | 20.0% | 20.0% | 100.0% | |

第5ブロック（第25～32図、図版4・6～8）

（出土状況）12E-85・86・94・95・96区に位置する。

第4ブロックの南東側約5mに位置する。東西10m、南北5mの範囲から石器54点、礫59点が出土しており、石器の出土量では最大規模を誇る。ただし、石器群の集中地点が12E-94区側なのに対し、礫群の集中地点が12E-95区側と、それぞれの分布域に違いがみられる。出土層位はほとんどIII層である。

（遺物）54点の石器のうち剥片が5割以上を占めるが、石核が3点、二次加工のある剥片が9点出土しており、製品製作の痕跡をとどめている。母岩は21種類出土している。チャートや珪質頁岩については、第1ブロックと同様確証がもてないものについては別個体とみなしたため、同一母岩の中心と縁辺を別物にしている可能性がある。ただしそれでも珪質頁岩が数量比で52%、チャートが28%を占め、このブロックの中心的な石材と言える。

個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。黒曜石4は黒色を帯びる透明な石材である。不純物の混入はほとんどなく良質である。安山岩3は濃茶褐色を呈する硬質な石材である。珪質頁岩16は茶色みを帯びた緑褐色を呈する硬質な石材である。珪質頁岩18は茶色みを帯びた緑褐色の硬質な石材である。なお、珪質頁岩16～20は同一母岩の可能性はある。

①珪質頁岩15（1、2） 茶色を帯びた灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。1は尖頭器である。2は二次加工のある剥片である。上下両側から剥片剥離を施す、いわゆる楔形石器の範疇で捉えることも可能であるが、右側縁の剥離痕が加工痕と考えられるため、二次加工のある剥片とした。

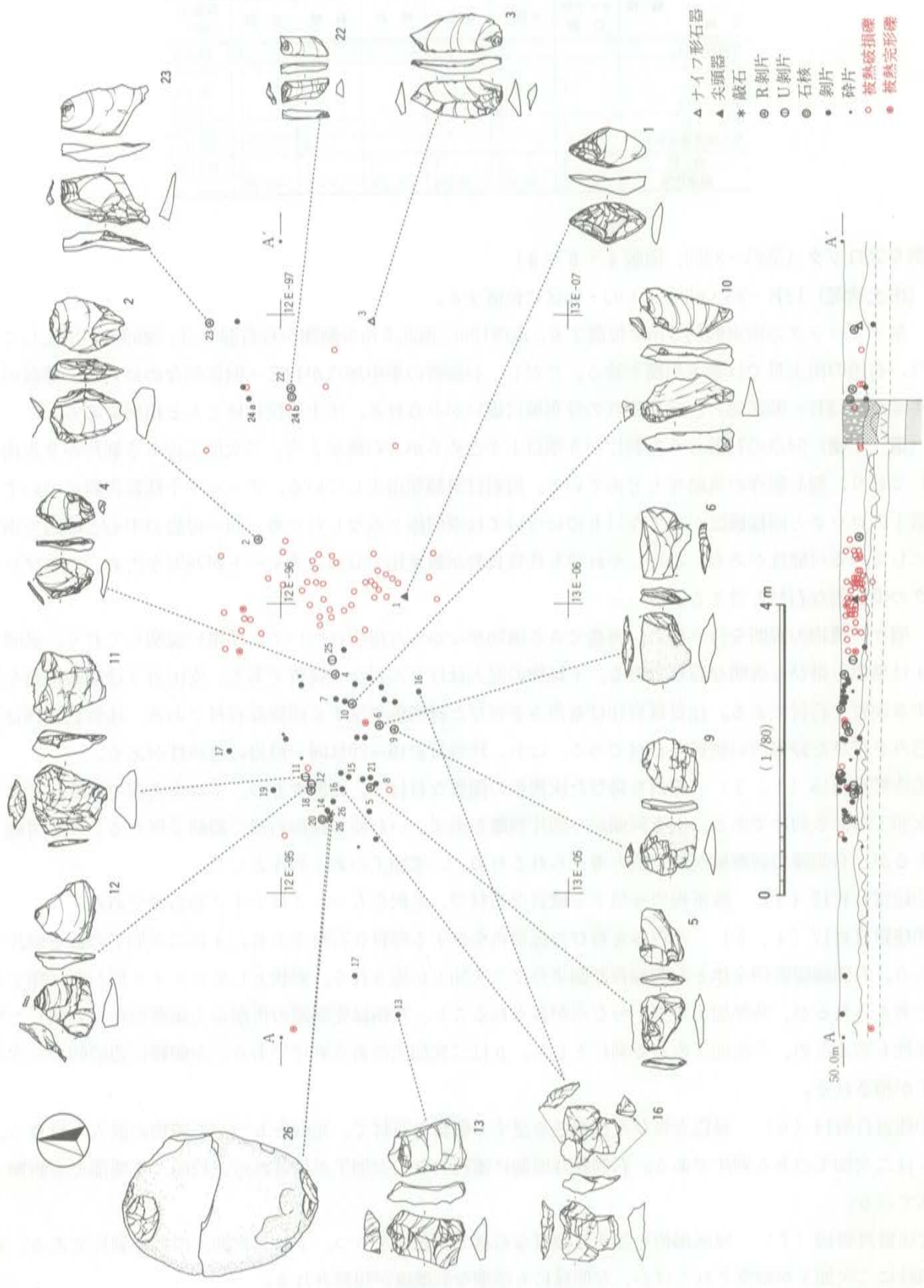
②珪質頁岩13（3） 淡茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。3はナイフ形石器である。

③珪質頁岩17（4、5） 茶色みを帯びた緑褐色を呈する硬質な石材である。4は二次加工のある剥片である。右側縁腹面側全体と左側縁背面側半分に二次加工が施される。形状としてはナイフ形石器に類すると考えられるが、基部加工に不十分な点がみられること、左側縁先端部の折断が尖頭器製作を意図した可能性もあるため、二次加工のある剥片とした。5は二次加工のある剥片である。左側縁に連続的な二次加工が施される。

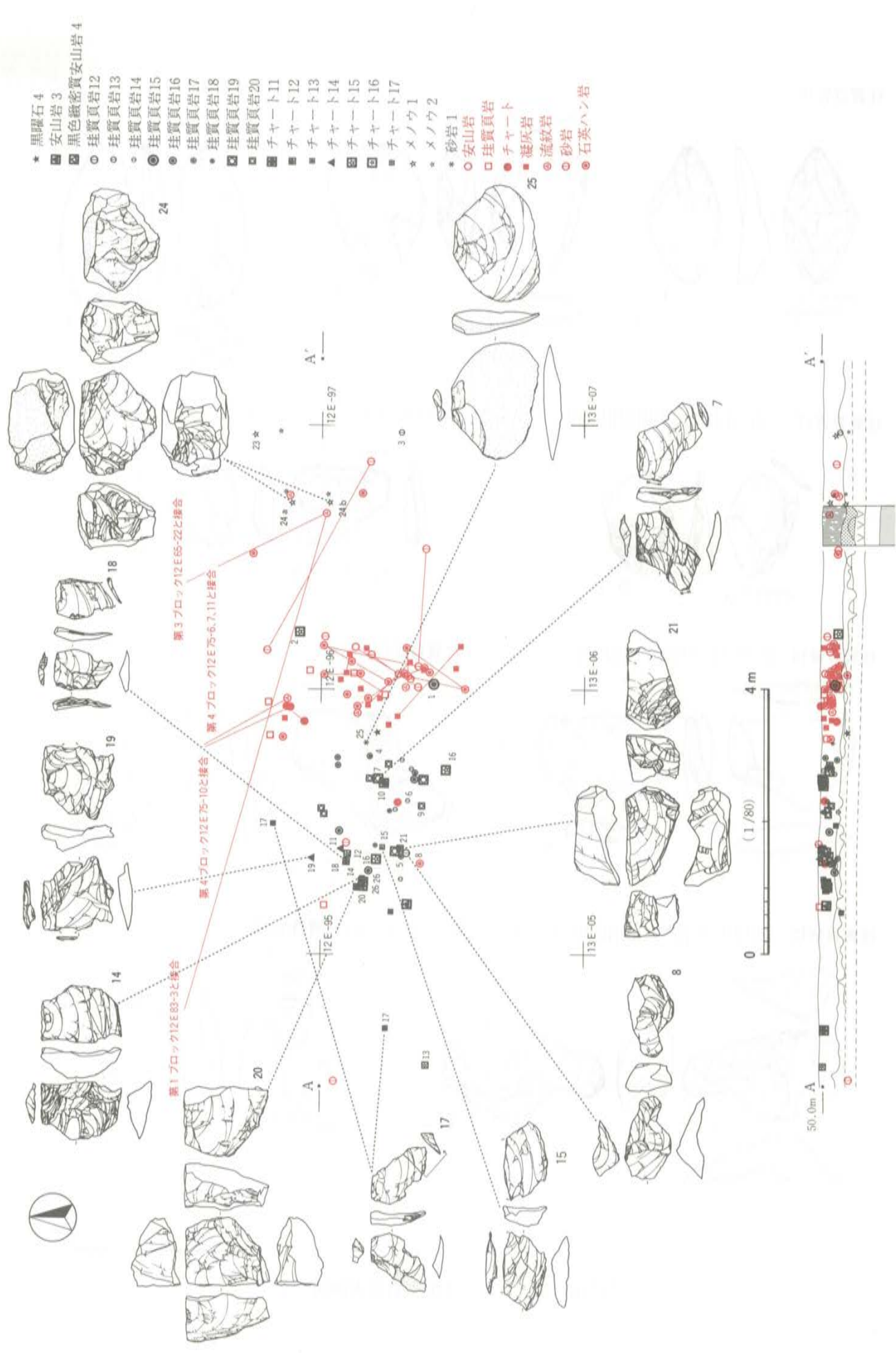
④珪質頁岩14（6） 緑色を帯びた茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつが不純物の混入も目立つ。6は二次加工のある剥片である。右側縁背面側に連続的な二次加工が施される。打面、先端部とも折断されている。

⑤珪質頁岩19（7） 緑灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。7は二次加工のある剥片である。右側縁に二次加工が観察されるほか、左側縁にも微細な剥離痕が観察される。

⑥珪質頁岩12（8） 淡灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。8は剥片である。原石に近い石核の



第25図 第5ブロック器種別遺物分布図



- ★ 黒曜石 4
- 安山岩 3
- 黒色緻密質安山岩 4
- 珪質頁岩 12
- 珪質頁岩 13
- 珪質頁岩 14
- 珪質頁岩 15
- 珪質頁岩 16
- 珪質頁岩 17
- 珪質頁岩 18
- 珪質頁岩 19
- 珪質頁岩 20
- チャート 11
- チャート 12
- チャート 13
- ▲ チャート 14
- チャート 15
- チャート 16
- チャート 17
- ★ メノウ 1
- ★ メノウ 2
- ★ 砂岩 1
- 安山岩
- 珪質頁岩
- チャート
- 凝灰岩
- 流紋岩
- 砂岩
- 石英ハンサン岩

第3ブロック12E65-22と接合

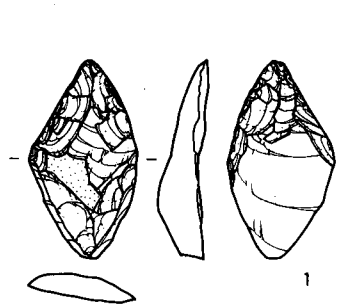
第4ブロック12E75-6,7,11と接合

第1ブロック12E83-3と接合

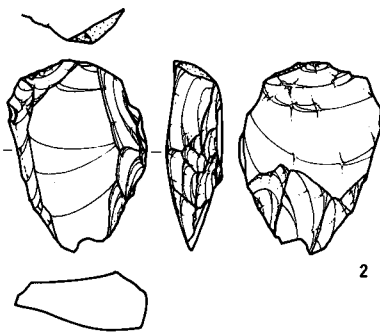
第4ブロック12E75-10と接合

第26図 第5ブロック母岩別遺物分布図

珪質頁岩15

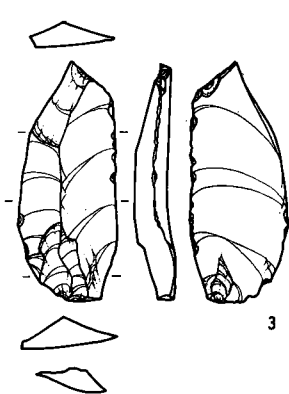


1



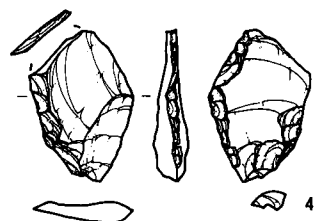
2

珪質頁岩13

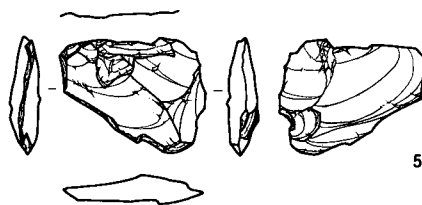


3

珪質頁岩17

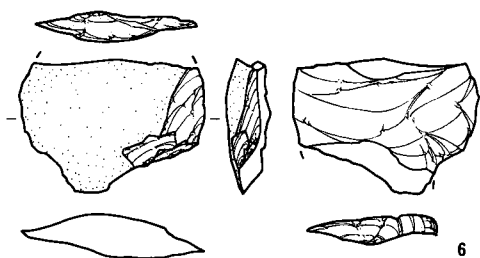


4



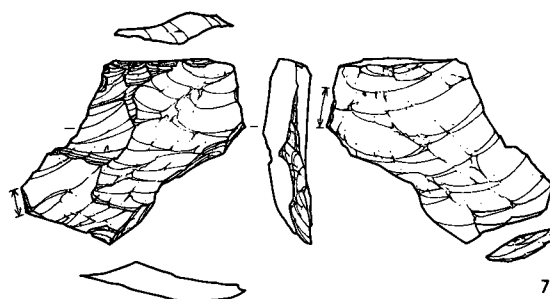
5

珪質頁岩14



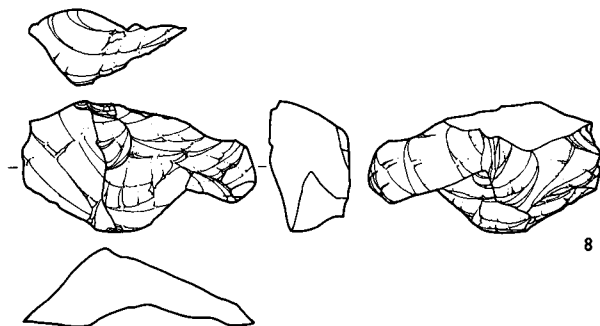
6

珪質頁岩19



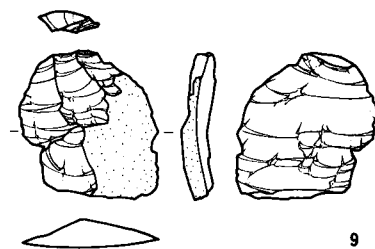
7

珪質頁岩12

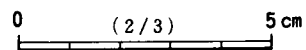


8

珪質頁岩20



9



第27図 第5ブロック出土石器実測図(1)

チャート11

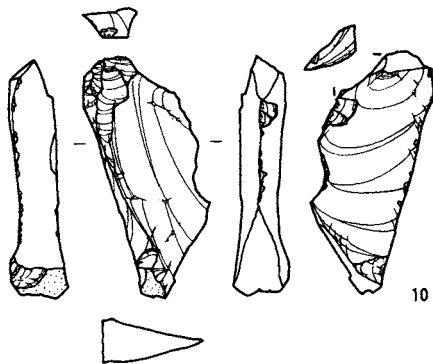


チャート14

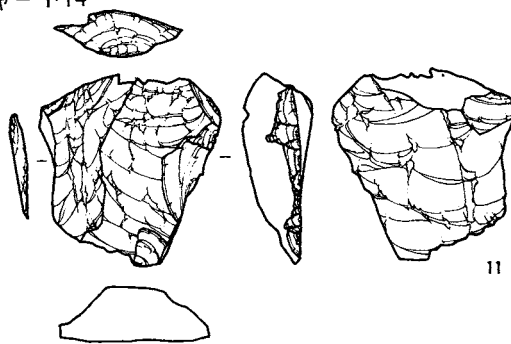


チャート16

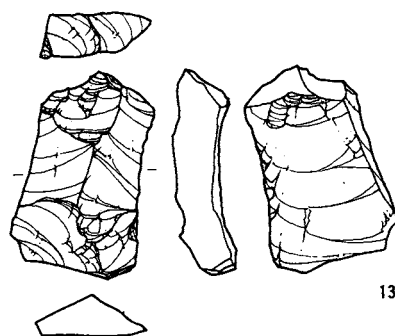
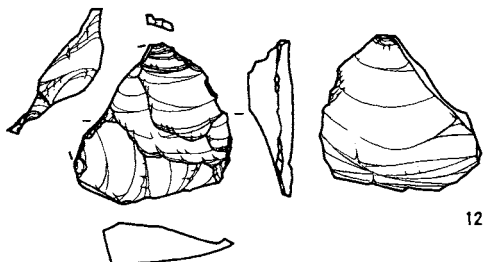


チャート17

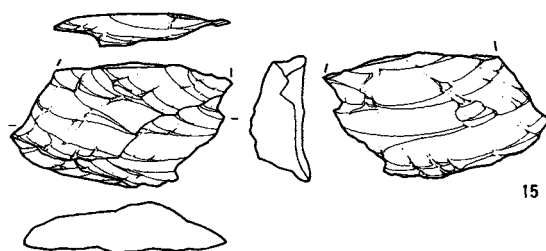
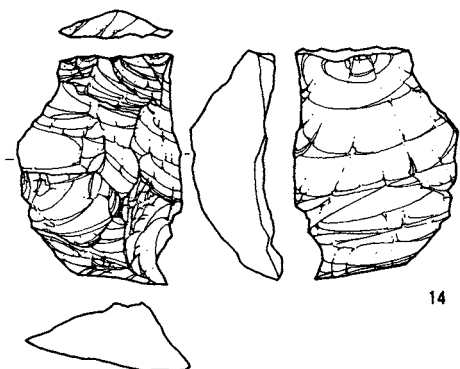


チャート15

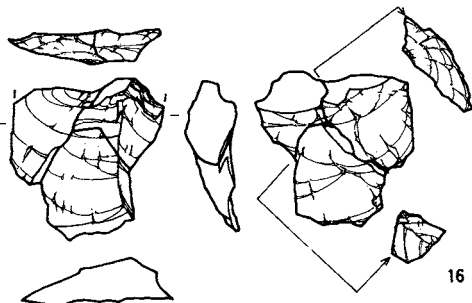
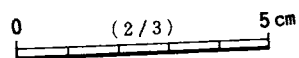
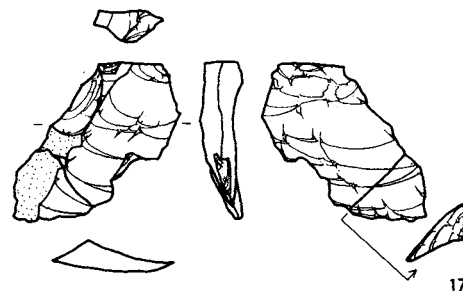
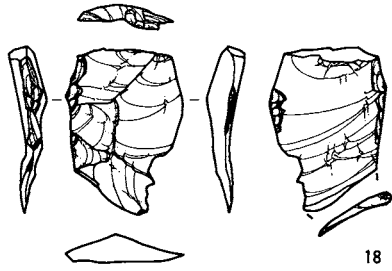


チャート13



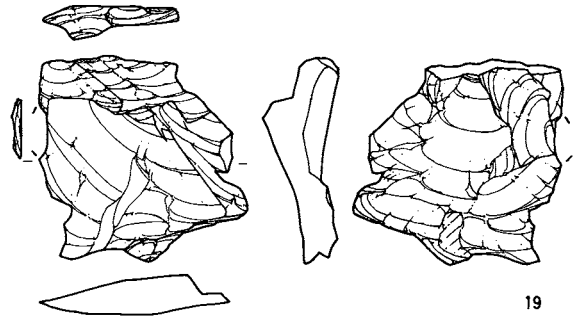
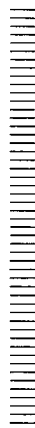
第28図 第5ブロック出土石器実測図(2)

チャート12

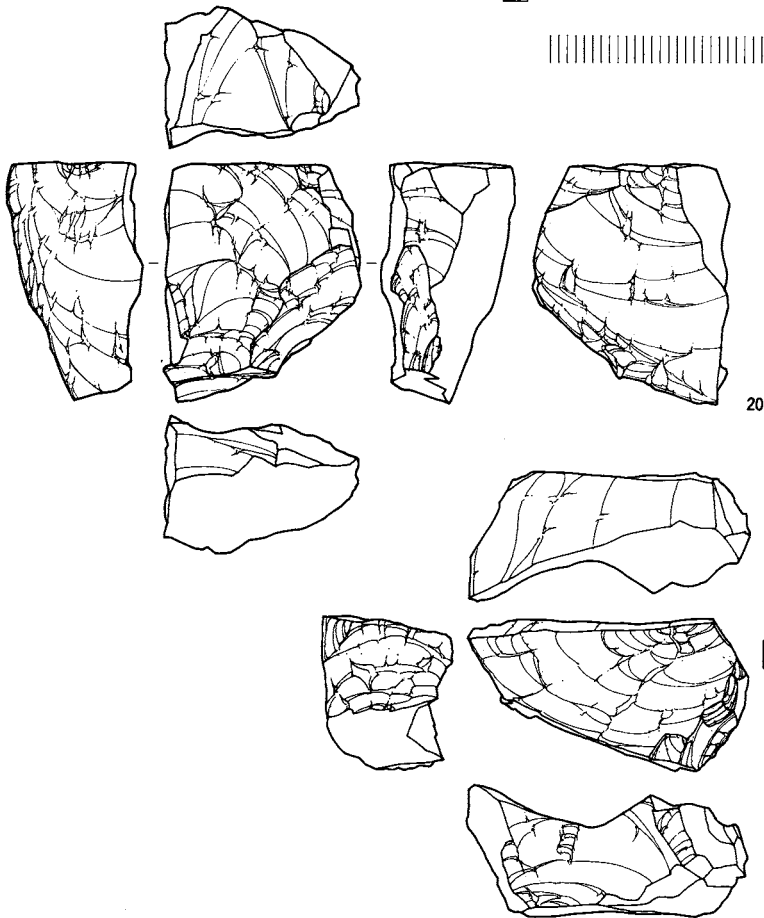


18

チャート14

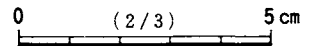


19



20

21



第29図 第5ブロック出土石器実測図(3)

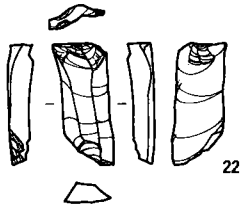
形状を整えるために剝離された剝片と考えられる。

⑦珪質頁岩20(9) 緑灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。透明なガラス質の貫入が目立つ。9は剝片である。頭部調整が目立つ。

⑧チャート11(10) 灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。黒色の不純物の混入が目立つ。10は二次加工のある剝片である。右側縁に二次加工が施されるほか、左側縁にも微細剝離痕が観察される。

⑨チャート14(11、19) 青灰褐色を呈するガラス質の結晶が基本となるものの、多種多様な不純物が混合している石材である。ただ、珪化は進んでおり極めて硬質で光沢をもつ。11は二次加工のある剝片であ

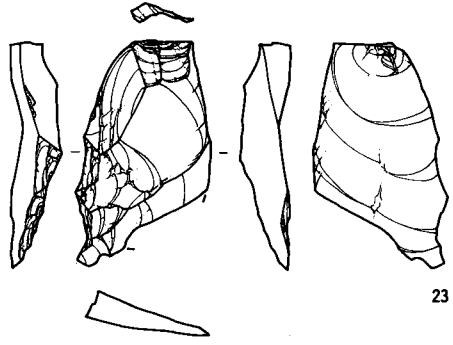
メノウ2



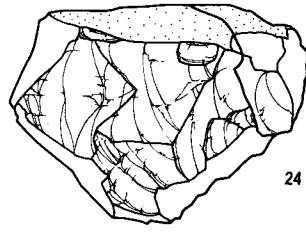
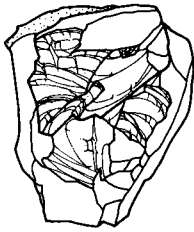
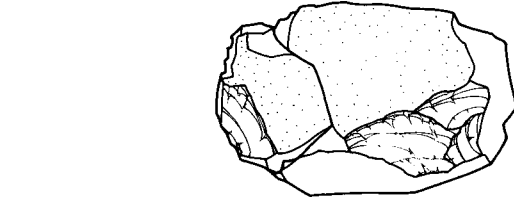
22



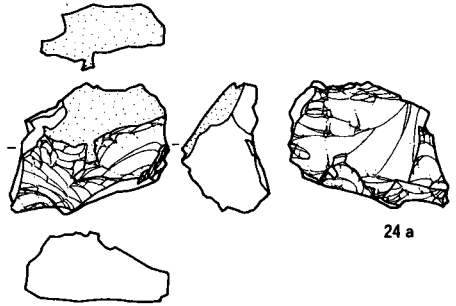
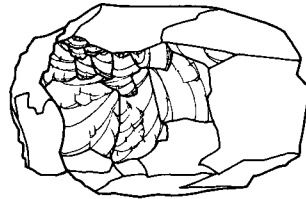
メノウ1



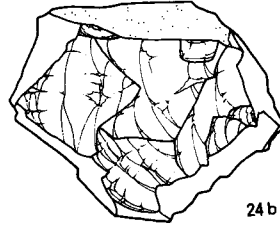
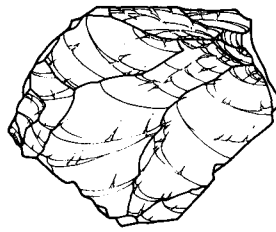
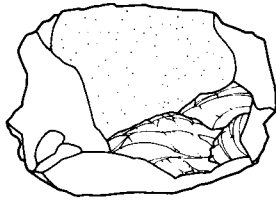
23



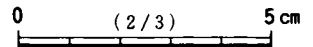
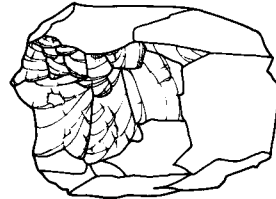
24



24 a

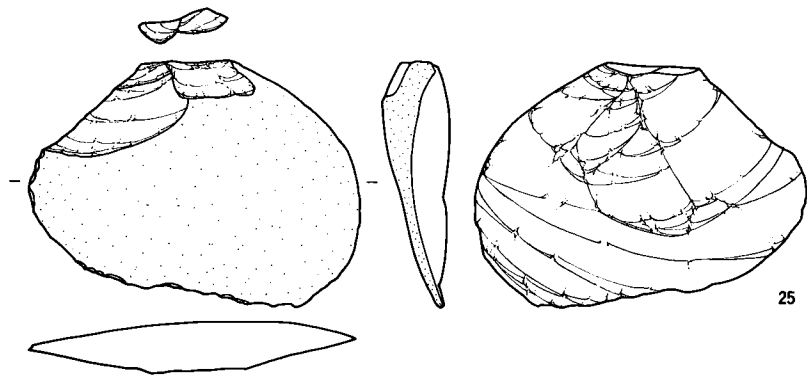


24 b

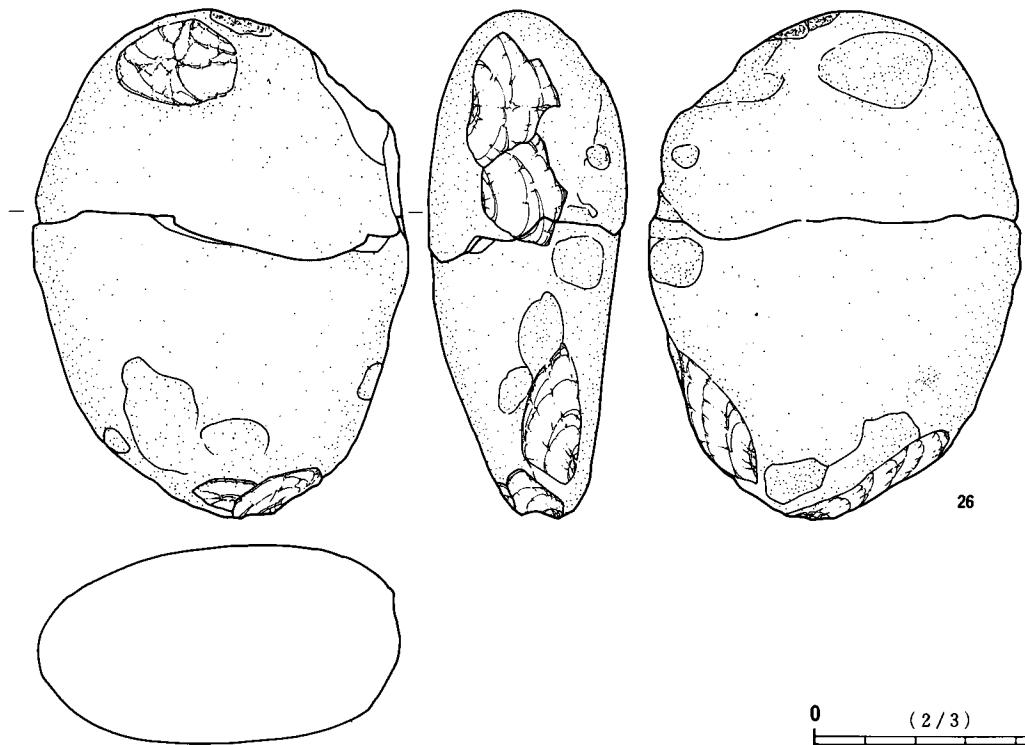


第30図 第5ブロック出土石器実測図(4)

砂岩 1



黒色緻密質安山岩 4



第31図 第5ブロック出土石器実測図(5)

る。右側縁に連続的な二次加工が観察される。

⑩チャート16 (12、13) 濃青褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。白色や茶褐色の不純物が多量に混入する。12は微細剝離痕のある剝片である。左側縁が大きく折断されている。右側縁に微細剝離痕が断続的に観察される。13は剝片である。

⑪チャート17 (14、15) 基本的には茶褐色を呈する硬質な石材であるが、不純物が極めて大量に混入しており、場所によって色調や状態が全く異なっている。14、15とも剝片である。

⑫チャート15 (16) チャート17とよく似ている。不純物の混入により石材の状況は一定でないため、同一母岩の別の部分である可能性がある。16は剝片の接合資料である。いずれも節理面から割れているため、

第13表 第5ブロック出土石器属性表

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-85-0009 | 剥片 | 29.2×28.3× 7.4 | 4.5 | 17 | 多 | × | ○ | I、IV、C | c | 125 | M | チャート13 |
| 2 | 0010 | 剥片 | 41.4×41.8×11.9 | 15.1 | | 多 | × | ○ | I | a | 100 | B | チャート14 |
| 3 | 12E-86-0002 | R剥片 | 44.9×26.8× 7.9 | 6.6 | 23 | 平 | × | ○ | I、II、IV | d | 105 | | メノウ1 |
| 4 | 0003 | 剥片 | 23.7×12.8× 4.6 | 1.2 | | 多 | ○ | ○ | I、II | c | 95 | B | メノウ2 |
| 5 | 0004 | 剥片 | 19.0×17.6× 9.9 | 2.5 | | 線 | × | × | III | b | 80 | | メノウ2 |
| 6 | 0006 | 剥片 | 26.0×31.5×14.8 | 12.0 | 24a | C | × | × | III | b | 75 | | メノウ1 |
| 7 | 0010 | R剥片 | 38.0×28.0×11.4 | 11.4 | 2 | 多 | ○ | × | I、IV | c | | | 珩質頁岩15 |
| 8 | | 剥片 | 32.4×14.8× 3.0 | 1.3 | | 線 | × | × | I、II | c | | B | 珩質頁岩17 |
| 9 | 12E-94-0003 | 剥片 | 41.0×29.3×10.0 | 11.1 | 13 | 多 | × | ○ | I、II、IV | d | 130 | | チャート16 |
| 10 | 0004 | 剥片 | 20.6×27.1× 6.6 | | | - | - | - | I、IV | c | | H | チャート11 |
| 11 | 12E-95-0003 | 剥片 | 29.6×32.9× 5.2 | 3.2 | | 平 | × | × | I、III、IV、C | d | 130 | | 安山岩3 |
| 12 | 0004 | 碎片 | 13.6×15.8× 4.5 | 0.6 | 17 | - | - | - | I、C | a | | M | チャート13 |
| 13 | 0007 | 石核 | 48.0×38.5×27.0 | 48.7 | 20 | | | | | | | | チャート12 |
| 14 | 0008 | 剥片 | 46.1×32.6×13.4 | 18.5 | 14 | 平 | × | ○ | I、IV | c | 110 | | チャート17 |
| 15 | 0009 | 剥片 | 18.1×16.5× 5.3 | 1.5 | | 多 | ○ | × | I | a | 105 | B | 珩質頁岩14 |
| 16 | 0011 | 剥片 | 25.8×46.0×14.5 | 12.8 | 8 | 平 | × | × | I | a | 120 | | 珩質頁岩12 |
| 17 | 0012 | 石核 | 30.0×56.1×20.1 | 43.3 | 21 | | | | | | | | チャート12 |
| 18 | 0013 | 剥片 | 30.1×22.9× 3.0 | 1.2 | | 線 | × | × | I、IV | c | | | 珩質頁岩19 |
| 19 | 0014 | 剥片 | 25.0×44.5×11.8 | 11.1 | 15 | - | - | - | I、IV | c | | M | チャート17 |
| 20 | 0015 | 剥片 | 14.7×35.6× 5.8 | 3.0 | | 平 | × | × | C | a | 140 | M | 珩質頁岩18 |
| 21 | 0016 | 剥片 | 19.2×18.1× 8.1 | 1.9 | 16 | - | - | - | I | a | 85 | R | チャート15 |
| 22 | 0017 | R剥片 | 33.5×23.0× 5.9 | 3.9 | 18 | 多 | ○ | × | I、II、IV | d | 120 | B | チャート12 |
| 23 | 0018 | U剥片 | 31.5×31.0× 9.2 | 6.4 | 12 | 平 | × | ○ | I、IV | c | | L | チャート16 |
| 24 | 0019 | U剥片 | 38.5×36.0×13.1 | 14.9 | 11 | - | - | - | I、II、IV | d | | H | チャート14 |
| 25 | 0021 | 碎片 | 8.7×22.2× 2.6 | 0.5 | | - | - | - | I | a | | M | 珩質頁岩16 |
| 26 | 0022 | 剥片 | 14.5×19.7× 3.0 | 0.8 | | 平 | × | ○ | I | a | 110 | B | 珩質頁岩20 |
| 27 | 0023 | 碎片 | 16.1× 8.2× 2.2 | 0.3 | | 線 | × | × | II、C | c | | B | 珩質頁岩20 |
| 28 | 0025 | 剥片 | 20.0×13.7× 5.3 | 1.4 | | 平 | × | × | I、II | c | 120 | | 珩質頁岩17 |
| 29 | 0026 | 碎片 | 7.1× 9.0× 0.9 | 0.1 | | - | - | - | II | c | | H | 珩質頁岩17 |
| 30 | 0027 | 剥片 | 22.1×23.1× 3.9 | 1.9 | | - | - | - | IV、C | c | | H | 珩質頁岩20 |
| 31 | 0028 | U剥片 | 37.0×45.0× 6.8 | 9.6 | 7 | 平 | × | ○ | I、IV | c | 110 | B | 珩質頁岩19 |
| 32 | 0029 | R剥片 | 48.3×24.5×10.3 | 8.8 | 10 | 平 | × | ○ | I、II、C | c | 140 | H | チャート11 |
| 33 | 0030 | 剥片 | 18.4×24.8× 5.1 | 1.7 | | 平 | × | ○ | I | a | 105 | B | 珩質頁岩18 |
| 34 | 0033 | R剥片 | 26.5×36.6× 8.1 | 4.6 | 6 | - | - | - | II、C | c | | H | 珩質頁岩14 |
| 35 | 0035 | R剥片 | 29.5×28.0× 5.6 | 1.4 | 9 | 多 | ○ | ○ | I、C | a | 130 | | 珩質頁岩20 |
| 36 | 0038 | 剥片 | 19.9×33.0×10.0 | 2.9 | 16 | - | - | - | I | a | 85 | M.L | チャート15 |
| 37 | 0039 | 剥片 | 20.4×25.4× 3.3 | 1.9 | | C | × | × | III | b | 80 | | 珩質頁岩19 |
| 38 | 0040 | 剥片 | 10.0×22.5× 2.1 | 0.5 | | 多 | ○ | ○ | I | a | | M | 珩質頁岩16 |
| 39 | 0041 | 剥片 | 19.1×15.0× 3.2 | 0.7 | | 多 | ○ | ○ | I、II、C | c | | | 珩質頁岩14 |
| 40 | 0042 | 剥片 | 17.8×20.9× 6.7 | 2.8 | | 平 | × | × | C | a | 115 | M | 珩質頁岩14 |
| 41 | 0043 | 剥片 | 12.5×18.2× 4.0 | 0.8 | | 線 | × | × | I、C | a | | B | 珩質頁岩20 |
| 42 | 0044 | R剥片 | 30.0×20.0× 6.7 | 3.1 | 4 | 平 | × | × | I、IV | c | 122 | R | 珩質頁岩17 |
| 43 | 0045 | U剥片 | 49.7×65.5×13.6 | 39.3 | 25 | 多 | × | ○ | I、C | a | 125 | | 硬砂岩1 |
| 44 | 0046 | 剥片 | 16.1×19.5× 1.8 | 0.4 | | - | - | - | I、III、IV | d | | M | 黒曜石4 |
| 45 | 0058 | 敲石 | 49.7×72.7×40.0 | 161.4 | 26 | | | | | | | M | 黒色緻密質安山岩4 |
| 46 | 0059 | 敲石 | 60.5×74.8×37.7 | 213.3 | 26 | | | | | | | M | 黒色緻密質安山岩4 |
| 47 | 0060 | 剥片 | 22.4×24.0× 5.2 | 2.4 | | 平 | × | × | II、III | d | | B | 珩質頁岩16 |
| 48 | 0061 | R剥片 | 23.2×29.0× 6.0 | 3.4 | 5 | 線 | × | ○ | I、II | c | | | 珩質頁岩17 |
| 49 | 0062 | 剥片 | 14.0×16.1× 4.6 | 0.6 | | - | - | - | I、C | a | | H | 珩質頁岩14 |
| 50 | 0064 | 碎片 | 11.1×12.6× 2.6 | 0.3 | | - | - | - | I、IV | c | | H | 珩質頁岩17 |
| 51 | 12E-96-0004 | 尖頭器 | 39.4×21.3× 7.9 | 5.9 | 1 | - | - | - | I、III、C | b | | | 珩質頁岩15 |
| 52 | 0034 | ナイフ型石器 | 48.0×20.0× 6.1 | 5.8 | 3 | 平 | × | ○ | I、II | c | 90 | | 珩質頁岩13 |
| 53 | 0035 | 石核 | 43.2×53.7×37.2 | 98.3 | 24b | | | | | | | | メノウ1 |
| 54 | 0037 | R剥片 | 24.8×11.8× 4.1 | 1.3 | 22 | 多 | ○ | × | I、III | b | 100 | | メノウ2 |

同時割れとみられる。

⑬チャート13 (17) 基本的には乳褐色を呈する硬質な石材であるが、やはり不純物が大量に混入しているほか、気泡も目立つ。17は剥片の接合資料である。

⑭チャート12 (18、20、21) 茶色みを帯びた青褐色を呈する硬質な石材である。18は二次加工のある剥片である。左側縁に連続的な二次加工が施される。20は石核である。はじめに正面で下側を打面とする剥片剥離が行われ、180° 打面転移した後失われた元の石核の形状を整えるために、この個体が剥離されたものとみられる。21は石核である。右側縁側を打面とする剥片剥離が数回行われた後、打面転移してやはり

第14表 第5ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-85-0002 | 流紋岩 | 破損 | | 36.8×26.4×21.4 | 25.6 | ④12E75-6,7,11 |
| 2 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 35.8×18.9×13.3 | 9.2 | ⑤12E85-14 |
| 3 | 0004 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 26.2×19.3×12.6 | 4.2 | |
| 4 | 0005 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 36.0×22.8×27.6 | 23.0 | |
| 5 | 0006 | 石英ハン岩 | 破損 | | 55.2×40.9×28.1 | 65.2 | |
| 6 | 0008 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 28.5×25.2×20.7 | 11.0 | |
| 7 | 0013 | チャート | 破損 | ○ | 19.9×21.3×19.9 | 11.6 | ④12E75-10 |
| 8 | 0014 | チャート | 破損 | ○ | 37.9×22.0×17.2 | 19.7 | ⑤12E85-3 |
| 9 | 12E-86-0005 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 16.0×12.8×7.4 | 1.3 | |
| 10 | 0007 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 33.4×36.4×15.5 | 19.7 | |
| 11 | 0008 | 砂岩 | 破損 | ○ | 36.9×31.0×18.5 | 19.4 | ⑤12E96-33 |
| 12 | 0009 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 21.0×26.0×22.0 | 12.3 | |
| 13 | 12E-94-0002 | 砂岩 | 破損 | | 67.0×48.6×9.2 | 47.1 | |
| 14 | 12E-95-0006 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 16.3×12.2×10.1 | 2.1 | |
| 15 | 0010 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 60.4×36.6×33.8 | 88.8 | |
| 16 | 0020 | 砂岩 | 破損 | ○ | 45.7×20.9×21.0 | 12.2 | |
| 17 | 0031 | チャート | 破損 | | 31.8×13.6×4.7 | 3.5 | |
| 18 | 0047 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 49.7×36.7×16.5 | 28.1 | |
| 19 | 0048 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 22.9×23.7×18.4 | 12.3 | ⑤12E96-2 |
| 20 | 0050 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 15.6×12.1×12.0 | 2.3 | ⑤12E96-18 |
| 21 | 0052 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 37.1×30.4×29.2 | 40.0 | |
| 22 | 0053 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 41.4×40.1×16.7 | 33.6 | |
| 23 | 0054 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 51.8×42.1×21.0 | 42.3 | ⑤12E96-8 |
| 24 | 0055 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 10.7×10.0×6.9 | 0.8 | |
| 25 | 0056 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 36.0×29.9×15.9 | 15.2 | ⑤12E96-28 |
| 26 | 0057 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 30.0×15.7×10.0 | 4.1 | |
| 27 | 12E-96-0002 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 13.4×14.6×10.2 | 1.9 | ⑤12E95-48 |
| 28 | 0003 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 33.0×21.3×15.2 | 11.9 | ⑤12E96-9,13 |
| 29 | 0005 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 31.1×25.3×11.1 | 7.5 | |
| 30 | 0006 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 32.5×29.5×21.0 | 24.0 | |
| 31 | | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 23.0×16.0×10.0 | 3.2 | ⑤12E96-15,26 |
| 32 | 0007 | 砂岩 | 破損 | ○ | 25.6×19.8×13.9 | 7.7 | ⑤12E96-31 |
| 33 | 0008 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 46.9×41.8×21.8 | 40.0 | ⑤12E95-54 |
| 34 | 0009 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 34.9×38.6×11.6 | 18.2 | ⑤12E96-3,13 |
| 35 | 0010 | 砂岩 | 破損 | ○ | 41.1×28.3×26.7 | 27.3 | ⑤12E96-24 |
| 36 | 0011 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 10.4×7.6×5.4 | 0.4 | |
| 37 | 0012 | 砂岩 | 破損 | ○ | 40.7×55.9×20.4 | 51.2 | |
| 38 | 0013 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 52.0×37.7×24.9 | 53.6 | ⑤12E96-3,9 |
| 39 | 0014 | 安山岩 | 破損 | ○ | 31.0×62.1×47.1 | 83.9 | ⑤12E96-22 |
| 40 | 0015 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.8×25.4×11.3 | 11.6 | ⑤12E96-6,26 |
| 41 | 0016 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 19.8×10.6×7.0 | 1.5 | |
| 42 | 0017 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 62.8×38.4×29.3 | 52.3 | ⑤12E96-27 |
| 43 | 0018 | 珪質頁岩 | 破損 | ○ | 20.4×17.5×10.3 | 2.8 | ⑤12E95-50 |
| 44 | 0019 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 39.0×32.6×22.5 | 33.3 | ⑤12E96-21 |
| 45 | 0020 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 42.8×26.7×20.8 | 20.5 | |
| 46 | 0021 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 41.0×19.3×19.8 | 12.1 | ⑤12E96-19 |
| 47 | 0022 | 安山岩 | 破損 | ○ | 32.1×56.4×35.0 | 71.2 | ⑤12E96-14 |
| 48 | 0023 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 31.6×30.0×22.7 | 18.0 | |
| 49 | 0024 | 砂岩 | 破損 | ○ | 32.9×31.5×25.3 | 25.0 | ⑤12E96-10 |
| 50 | 0025 | 砂岩 | 破損 | ○ | 29.5×22.1×21.4 | 15.1 | |
| 51 | 0026 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 27.4×21.2×12.8 | 7.2 | ⑤12E96-6,15 |
| 52 | 0027 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 45.7×35.4×25.7 | 37.1 | ⑤12E96-17 |
| 53 | 0028 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 39.8×37.0×18.7 | 22.3 | ⑤12E95-56 |
| 54 | 0029 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 56.7×35.9×28.4 | 53.1 | |
| 55 | 0030 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 36.1×27.9×17.7 | 17.8 | |
| 56 | 0031 | 砂岩 | 破損 | ○ | 41.9×37.2×22.1 | 24.3 | ⑤12E96-7 |
| 57 | 0032 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 19.8×14.0×7.9 | 2.5 | |
| 58 | 0033 | 砂岩 | 破損 | ○ | 18.9×14.9×13.1 | 4.3 | ⑤12E86-8 |
| 59 | 0036 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 36.2×32.7×19.2 | 24.0 | ①12E83-3,③12E65-22 |

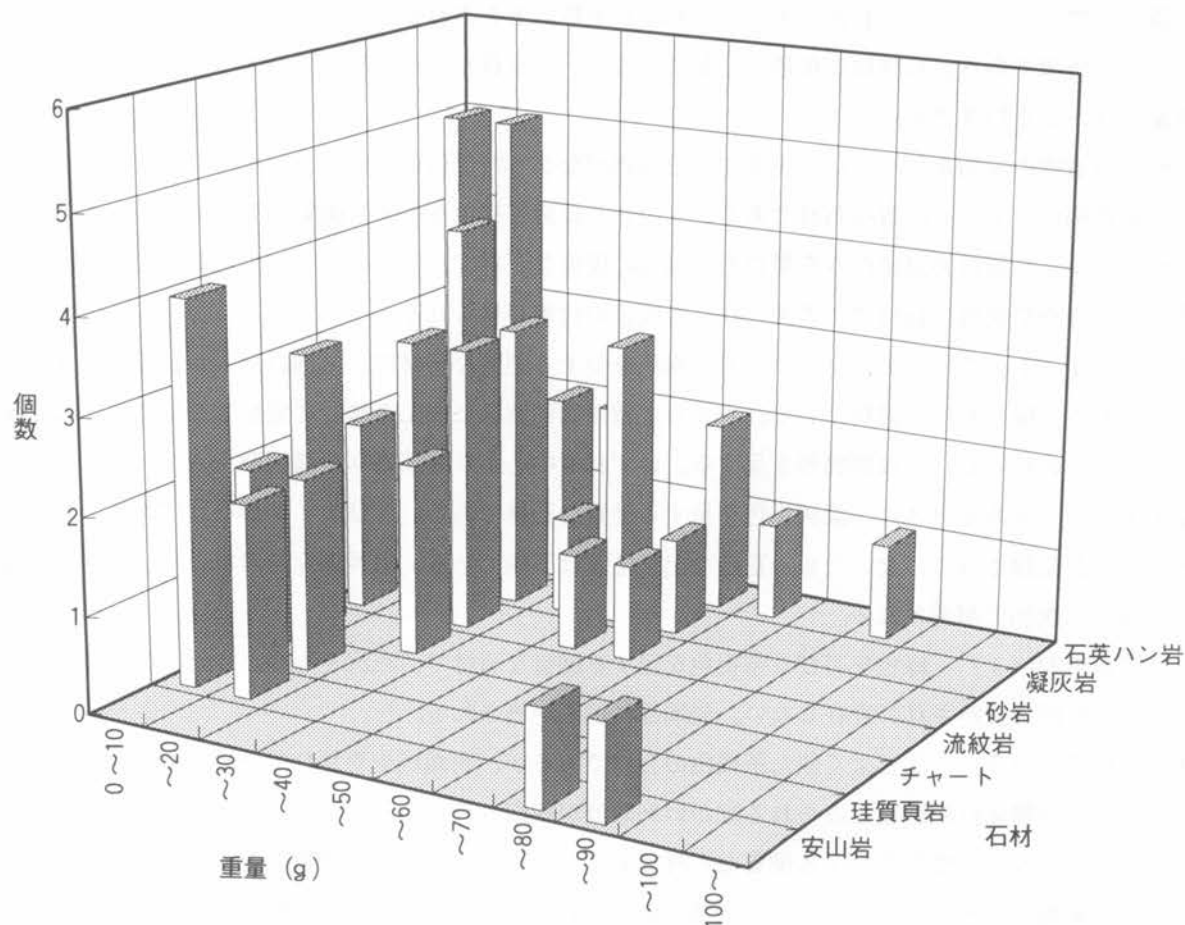
元の石核の形状を整える目的で、剝離されたものとみられる。

⑮メノウ2 (22) 淡橙色を呈する硬質な石材で、純度が高く透明度が高い。22は二次加工のある剝片である。先端部に腹面側からの二次加工が施される。

⑯メノウ1 (23, 24) 淡橙色を呈する硬質な石材で、縞状に不純物が混入する。23は二次加工のある剝

第15表 第5ブロック組成表

| 母岩 | 器種 | 尖頭器 | ナイフ形石器 | R剝片 | U剝片 | 剝片 | 砕片 | 石核 | 敲石 | 合計 | 数量比(%) |
|-----------|----|------|--------|-------|------|-------|------|------|------|--------|--------|
| 珩質頁岩12 | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | 1.9% |
| 珩質頁岩13 | | | | 1 | | 4 | | | | 5 | 9.3% |
| 珩質頁岩14 | | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 3.7% |
| 珩質頁岩15 | | | | | | 2 | 1 | | | 3 | 5.6% |
| 珩質頁岩16 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | 6 | 11.1% |
| 珩質頁岩17 | | | | | 1 | 2 | | | | 3 | 5.6% |
| 珩質頁岩18 | | | | 1 | | 3 | 1 | | | 5 | 9.3% |
| 珩質頁岩計 | | 1 | 1 | 5 | 1 | 16 | 4 | 0 | 0 | 28 | 51.9% |
| チャート11 | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | 3.7% |
| チャート12 | | | | 1 | | | | 2 | | 3 | 5.6% |
| チャート13 | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 3.7% |
| チャート14 | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 3.7% |
| チャート15 | | | | | | 2 | | | | 2 | 3.7% |
| チャート16 | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 3.7% |
| チャート17 | | | | | | 2 | | | | 2 | 3.7% |
| チャート計 | | 0 | 0 | 2 | 2 | 8 | 1 | 2 | 0 | 15 | 27.8% |
| 黒曜石4 | | | | | | 1 | | | | 1 | 1.9% |
| メノウ1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 3 | 5.6% |
| メノウ2 | | | | 1 | | 2 | | | | 3 | 5.6% |
| メノウ計 | | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 6 | 11.1% |
| 安山岩3 | | | | | | 1 | | | | 1 | 1.9% |
| 硬砂岩1 | | | | | 1 | | | | | 1 | 1.9% |
| 黒色緻密質安山岩4 | | | | | | | | | 2 | 2 | 3.7% |
| 合計 | | 1 | 1 | 9 | 4 | 29 | 5 | 3 | 2 | 54 | 100.0% |
| 組成比% | | 1.9% | 1.9% | 16.7% | 7.4% | 53.7% | 9.3% | 5.6% | 3.7% | 100.0% | |



第32図 第5ブロック出土礫石材別重量分布図

片である。左側縁から中心に向かっての二次加工が目立つ。24は剥片と接合する石核である。自然面の残る上側を打面として24aをはじめとする剥片が剥離された後、打面転移して右あるいは左側を打面とする剥片剥離が行われている。さらに打面転移をして正面側を打面とする剥片剥離を試みた形跡があるが、うまくいかなかったらしく調整痕状の小さな剥離が観察されるだけである。

⑩砂岩1 (25) 黄色みを帯びた灰褐色を呈する硬質な石材で、粒子が粗い。25は微細剥離痕のある剥片である。背面は自然面を多く残す。先端部に微細剥離痕が散在する。

⑪黒色緻密質安山岩4 (26) 濃灰褐色を呈する硬質な石材であるが、不純物が多量に混入するほか、熱を受けて表面は赤く変色している。26は敲石である。割れた状態で出土しており、ほかの被熱礫と似た状況であったが、上下両端に存在する割れ口が敲打による剥離痕であると考えたため、敲石とみなした。

(礫 群) 60点弱の礫は全て熱を受けている。石器が12E-95に集中しているのに対し、礫は12E-96に集中しており、若干ずれているのが観察される。石材は石英ハン岩が最も多いが、数量的には他のブロックに比べてかなり平均化している。最大88gの個体もあるが、大多数は30g以下の小破片である。

第6ブロック (第33～35図、図版4・9)

(出土状況) 12E-88・89区に位置する。

台地東側に位置する。東西約7m、南北約4mの範囲から石器17点、礫133点が出土しており、礫の量が飛び抜けて多いのが目を引く。出土層位はほとんどⅢ層である。

(遺物) 全部で17点の石器が出土し、剥片が半数以上を占めるが、尖頭器やナイフ形石器の出土量が多いのが特徴である。石材は12種類に分類できるが、珪質頁岩や安山岩が4点ずつ出土しているものの、数量比はかなり均等である。

個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。安山岩5は濃茶褐色を呈する硬質な石材である。安山岩6は濃茶褐色を呈する硬質な石材で、気泡が多く土の混入が目立つ。珪質頁岩21は白みを帯びた茶褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。黒色緻密質安山岩5は灰褐色を呈するやや軟質な石材で、表面にローム成分の付着が見られる。

①安山岩4 (1、2) 黒みを帯びた濃茶褐色を呈する硬質な石材で、気泡の混入が目立つ。1、2は尖頭器である。横長剥片を素材として、主として背面側両側縁に加工を施して成形している。1は下膨れ形状を呈するのに対し、2は紡錘形を呈する。いずれも中心より基部寄りに最大厚をもつ。

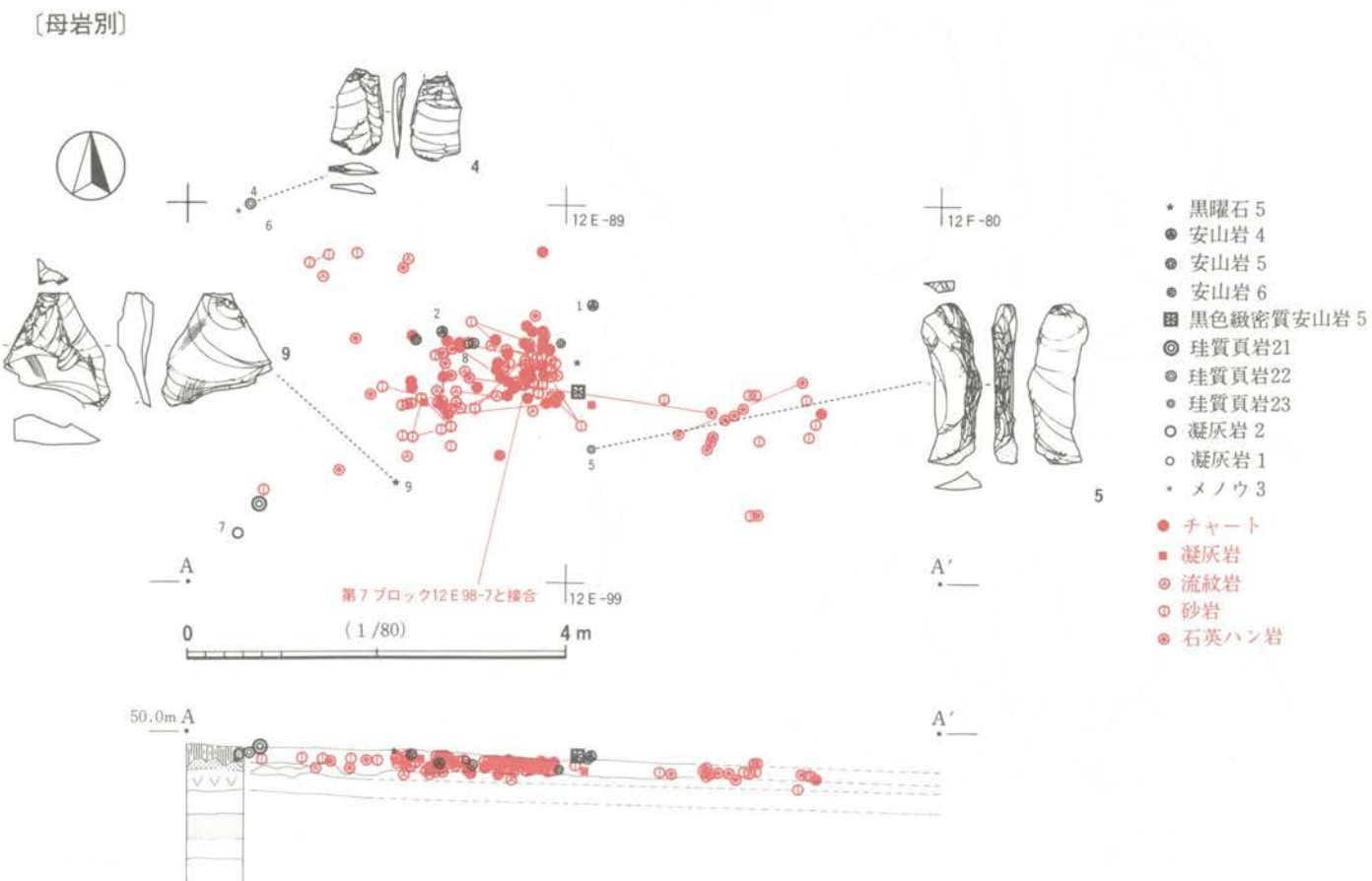
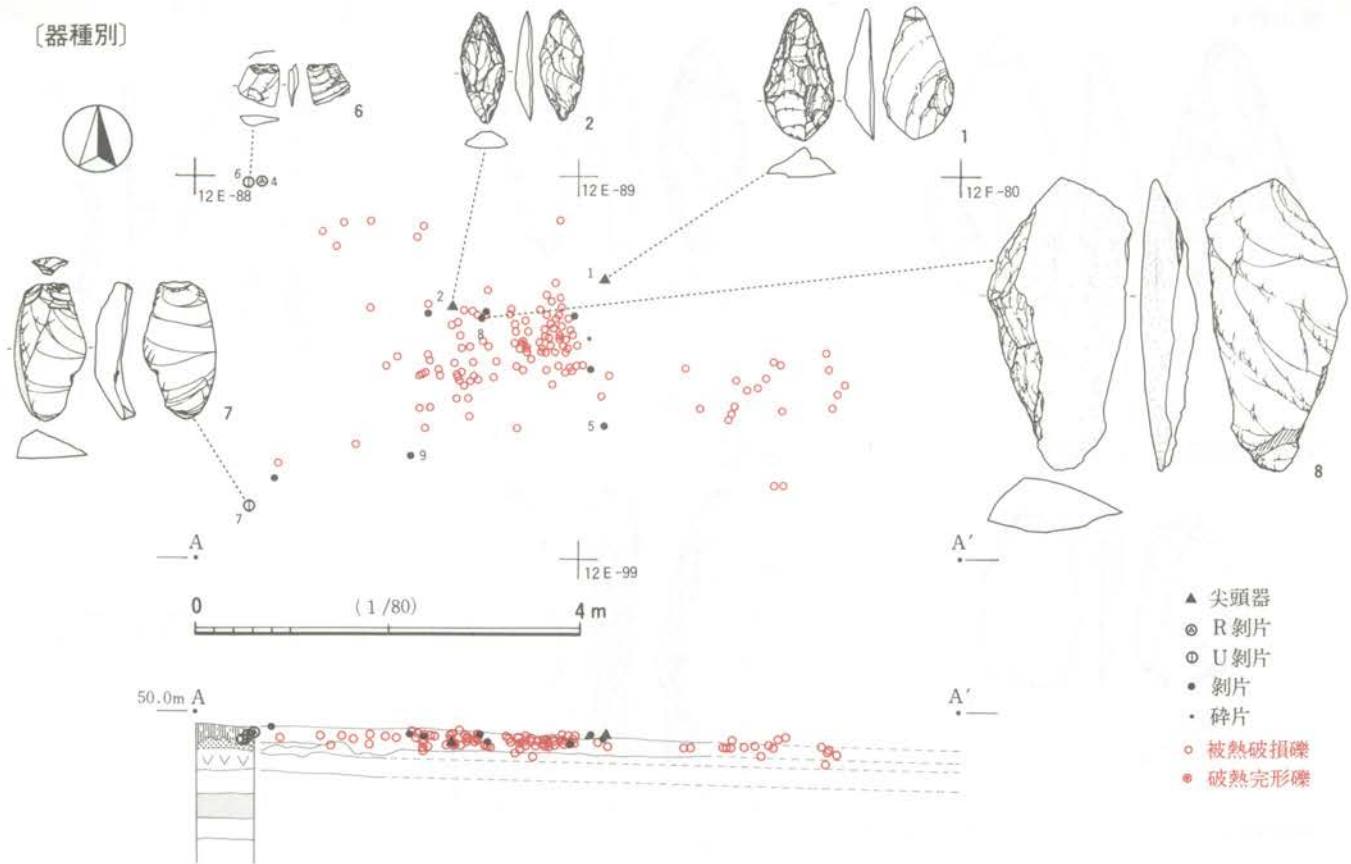
②ホルンフェルス4 (3) 濃灰褐色を呈する硬質な石材である。3はナイフ形石器である。残念ながら平面分布が記録されていないため、正確な出土位置は不明である。横長剥片を素材とし、左側縁基部側と先端側に二次加工が施される。

③珪質頁岩22 (4) 緑色を帯びた茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。4は二次加工のある剥片である。打面は折断されて存在しない。先端部に加工が施される。

④珪質頁岩23 (5) ③とよく似た茶褐色の石材であるが、表面がやや荒れていて光沢がない。5は剥片である。右側縁に打面調整とみられる細かい剥離痕が観察される。

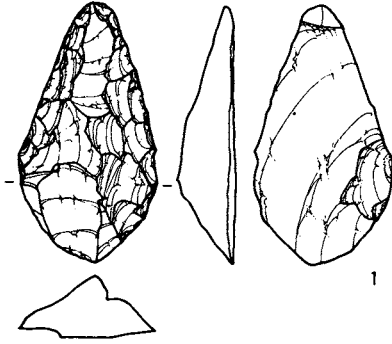
⑤メノウ3 (6) 橙色を呈する硬質な石材である。不透明であるが不純物の混入がほとんどみられない。6は微細剥離痕のある剥片である。先端部に微細な剥離痕が観察されるが、散漫なものである。

⑥凝灰岩1 (7) 黄色を帯びた灰褐色の石材で、粒子がやや粗い。7は微細剥離痕のある剥片である。



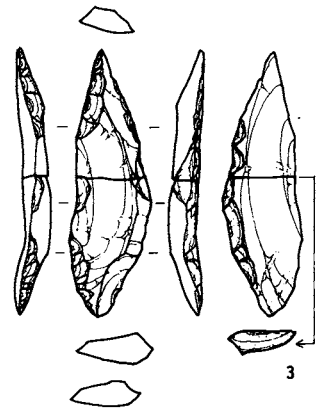
第33図 第6ブロック遺物分布図

安山岩 4



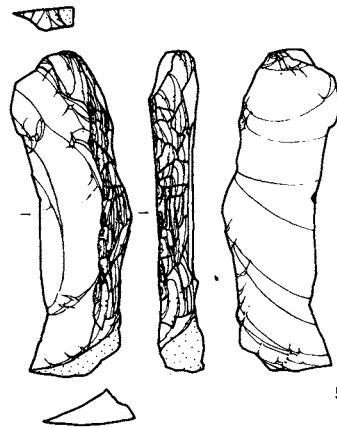
1

ホルンフェルス 4



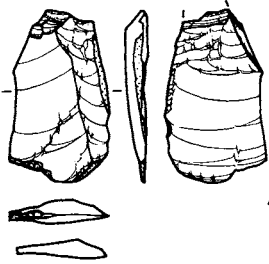
3

珪質頁岩 23



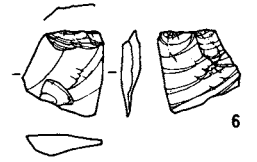
5

珪質頁岩 22



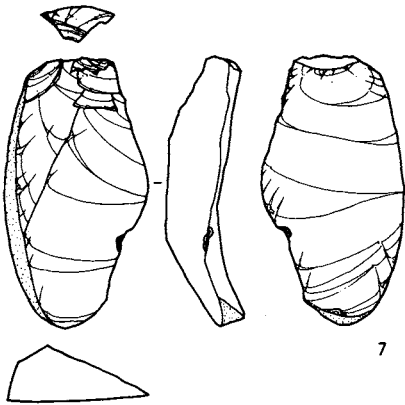
4

メノウ 3



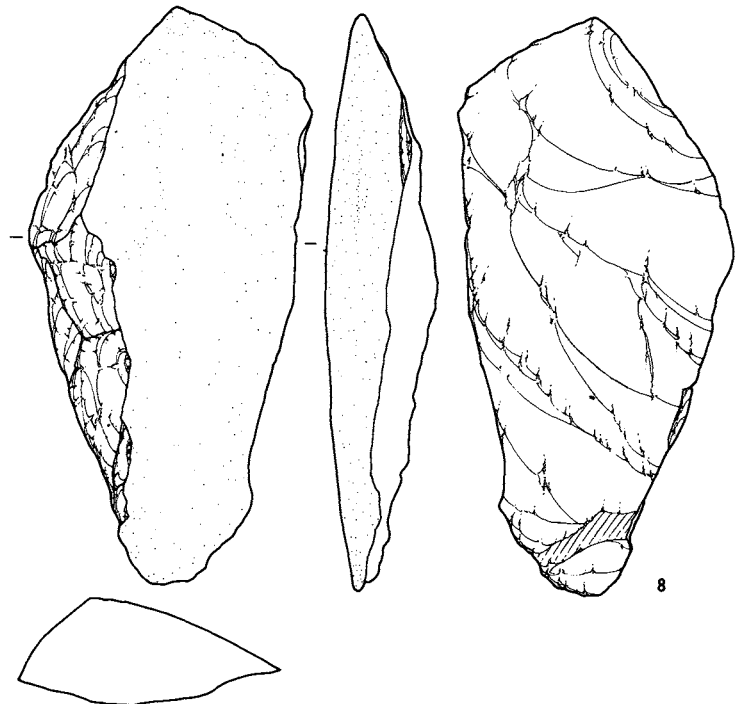
6

凝灰岩 1



7

凝灰岩 2

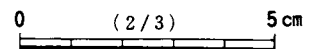


8

黒曜石 5



9



第34図 第6ブロック出土石器実測図

第16表 第6ブロック出土石器属性表

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-78-0003 | ナイフ形石器 | 27.6×15.4× 5.0 | 2.7 | 3 | - | - | - | I、II、III | d | | M | ホルンフェルス1 |
| 2 | 0004 | ナイフ形石器 | 26.5×13.3× 4.2 | 1.6 | 3 | - | - | - | I、II、III | d | | M | ホルンフェルス1 |
| 3 | 12E-88-0001 | 剥片 | 23.8×21.6× 8.6 | 4.8 | | 平 | × | × | I、II、III、IV | e | 125 | B | 黒色緻密質安山岩5 |
| 4 | 0028 | 尖頭器 | 43.5×17.0× 7.0 | 4.7 | 2 | - | - | - | I、II | c | | | 安山岩4 |
| 5 | 0029 | 剥片 | 24.3×23.9× 3.5 | 1.8 | | 線 | × | ○ | I、III | b | | | 安山岩5 |
| 6 | 0040 | 剥片 | 45.5×43.5×13.8 | 14.5 | 9 | 多 | ○ | ○ | I、III、IV | d | 120 | B | 黒曜石5 |
| 7 | 0042 | U剥片 | 53.6×28.4×11.7 | 17.2 | 7 | 多 | ○ | ○ | I、C | a | 110 | | 凝灰岩1 |
| 8 | 0043 | 剥片 | 10.3×16.7× 4.4 | 0.8 | | 多 | ○ | ○ | I | a | 90 | B | 珩質頁岩21 |
| 9 | 0055 | 剥片 | 114.0×55.8×23.0 | 107.6 | 8 | 線 | × | × | II、C | c | | | 凝灰岩2 |
| 10 | 0060 | 剥片 | 35.1×28.1×13.2 | 10.5 | | 線 | × | ○ | I、C | a | | | 安山岩6 |
| 11 | 0084 | 剥片 | 27.1×27.2× 4.7 | 1.8 | | 多 | × | ○ | I、IV | c | | | 珩質頁岩22 |
| 12 | 0115 | R剥片 | 34.0×20.0× 4.8 | 3.1 | 4 | - | - | - | I、C | a | | H | 珩質頁岩22 |
| 13 | 0118 | U剥片 | 16.3×16.2× 3.8 | 0.9 | 6 | 線 | × | ○ | I、IV | c | | | メノウ3 |
| 14 | 12E-89-0002 | 剥片 | 63.0×23.5×10.0 | 10.7 | 5 | 多 | × | × | IV、C | c | 110 | | 珩質頁岩23 |
| 15 | 0004 | 剥片 | 33.4×26.7× 9.0 | 6.7 | | 平 | × | × | II、III、IV | e | 95 | | 黒色緻密質安山岩5 |
| 16 | 0007 | 碎片 | 16.0× 8.1× 1.9 | 0.2 | | - | - | - | I | a | | H | 黒曜石5 |
| 17 | 0008 | 尖頭器 | 52.0×27.0×12.0 | 13.3 | 1 | - | - | - | I、III | b | | | 安山岩4 |

第17表 第6ブロック組成表

| 母 岩 | 器 種 | 尖頭器 | ナイフ形 石 器 | R剥片 | U剥片 | 剥 片 | 碎 片 | 合 計 | 数量比 (%) |
|-----------|-----|-------|-------------|------|-------|-------|------|--------|------------|
| 珩質頁岩21 | | | | | | 1 | | 1 | 5.9% |
| 珩質頁岩22 | | | | 1 | | 1 | | 2 | 11.8% |
| 珩質頁岩23 | | | | | | 1 | | 1 | 5.9% |
| 珩質頁岩計 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 4 | 23.5% |
| メノウ3 | | | | | 1 | | | 1 | 5.9% |
| 黒曜石5 | | | | | | 1 | 1 | 2 | 11.8% |
| 安山岩4 | | 2 | | | | | | 2 | 11.8% |
| 安山岩5 | | | | | | 1 | | 1 | 5.9% |
| 安山岩6 | | | | | | 1 | | 1 | 5.9% |
| 安山岩計 | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 23.5% |
| 凝灰岩1 | | | | | 1 | | | 1 | 5.9% |
| 凝灰岩2 | | | | | | 1 | | 1 | 5.9% |
| 凝灰岩計 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 11.8% |
| 黒色緻密質安山岩5 | | | | | | 2 | | 2 | 11.8% |
| ホルンフェルス1 | | | 2 | | | | | 2 | 11.8% |
| 合 計 | | 2 | 2 | 1 | 2 | 9 | 1 | 17 | 100.0% |
| 組成比% | | 11.8% | 11.8% | 5.9% | 11.8% | 52.9% | 5.9% | 100.0% | |

右側縁に微細な剝離痕が観察される。

⑦凝灰岩2 (8) 緑灰褐色を呈する硬質な石材で、不純物の混入が目立つ。8は剥片である。左側縁に打面調整とみられる多数の剝離が観察される。

⑧黒曜石5 (9) 黒色を呈するガラス質の石材で、光沢をもつ。ほとんど不純物が混入しない良質な石材である。9は剥片である。左側縁は自然面で、打面調整とみられる剝離痕が背面に観察される。

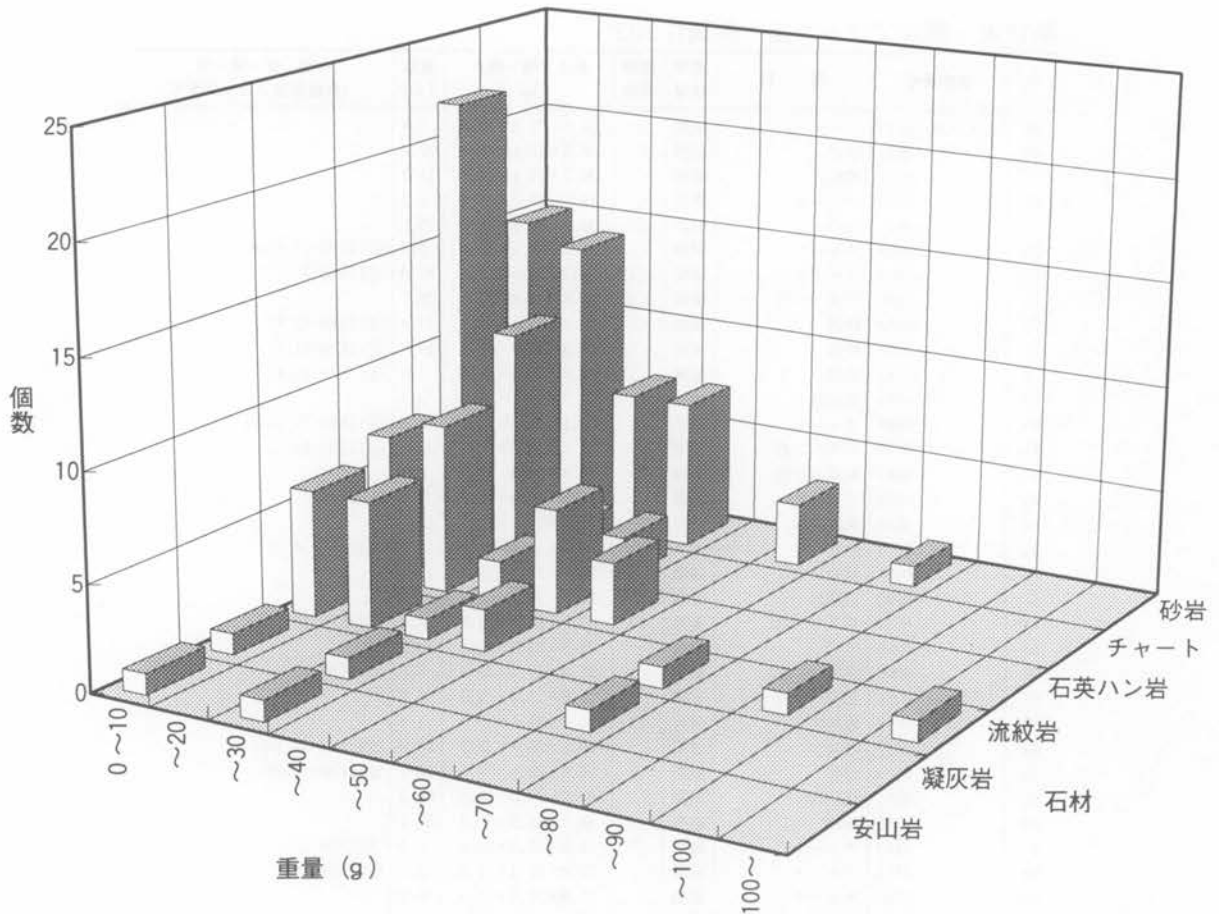
(礫 群)130点余りの礫のほとんどが熱を受けている。分布の中心は12E-88区で石器群とほぼ重なるが、東側の12E-89区にも小さいまとまりがみられる。砂岩とチャートが多数を占めるが、石英ハン岩や流紋岩もまとまった量の出土がみられる。40g以下の小破片が大多数であるものの、100g前後の大型破片も出土している。特に流紋岩はそれが目立つ。

第18表 第6ブロック出土礫属性表(1)

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-78-0002 | 安山岩 | 破損 | | 17.4×7.2×5.0 | 0.7 | |
| 2 | 12E-88-0002 | チャート | 破損 | ○ | 26.9×21.7×16.8 | 11.5 | |
| 3 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 8.8×10.7×8.0 | 0.9 | |
| 4 | 0004 | チャート | 破損 | ○ | 18.0×25.5×23.3 | 14.0 | ⑥12E88-88 |
| 5 | 0005 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 23.0×13.1×11.6 | 2.9 | |
| 6 | 0006 | チャート | 破損 | ○ | 17.9×17.3×11.4 | 4.2 | |
| 7 | 0007 | チャート | 破損 | ○ | 21.0×15.8×10.2 | 4.7 | |
| 8 | 0008 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 23.9×13.4×11.2 | 3.2 | ⑥12E88-67,69~71 |
| 9 | 0009 | 砂岩 | 破損 | ○ | 43.5×26.1×15.5 | 15.2 | ⑥12E88-114 |
| 10 | 0010 | チャート | 破損 | ○ | 30.9×37.1×21.4 | 22.1 | |
| 11 | 0011 | チャート | 破損 | ○ | 32.0×30.3×15.7 | 14.8 | |
| 12 | 0012 | 砂岩 | 破損 | ○ | 16.7×17.9×8.5 | 2.4 | |
| 13 | 0013 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 36.3×39.3×12.7 | 21.0 | |
| 14 | 0014 | チャート | 破損 | ○ | 16.7×21.1×15.6 | 5.1 | |
| 15 | 0015 | チャート | 破損 | ○ | 21.4×24.9×11.0 | 6.4 | ⑥12E88-104 |
| 16 | 0016 | チャート | 破損 | ○ | 17.2×22.0×19.6 | 7.9 | |
| 17 | 0016 | チャート | 破損 | ○ | 8.8×12.6×9.5 | 1.0 | |
| 18 | 0017 | チャート | 破損 | ○ | 29.3×20.0×15.1 | 8.9 | |
| 19 | 0018 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 36.7×30.7×11.0 | 12.0 | |
| 20 | 0019 | チャート | 破損 | ○ | 34.3×19.6×19.9 | 18.9 | |
| 21 | 0020 | チャート | 破損 | ○ | 43.4×19.5×15.8 | 13.5 | ⑥12E88-113 |
| 22 | 0020 | 砂岩 | 破損 | ○ | 17.6×17.8×9.4 | 2.3 | ⑥12E88-23,12E89-3 |
| 23 | 0021 | チャート | 破損 | ○ | 23.8×25.0×17.6 | 10.3 | ⑥12E88-61,78,85 |
| 24 | 0022 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 70.3×42.0×31.0 | 85.9 | |
| 25 | 0023 | 砂岩 | 破損 | ○ | 31.6×22.4×8.7 | 4.9 | ⑥12E88-20,12E89-3 |
| 26 | 0024 | 砂岩 | 破損 | ○ | 38.8×41.4×30.4 | 57.2 | |
| 27 | 0025 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 41.4×29.8×13.1 | 15.4 | |
| 28 | 0026 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 28.1×41.1×37.6 | 48.1 | ⑥12E88-96 |
| 29 | 0027 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 57.9×34.1×23.0 | 34.6 | ⑥12E88-94 |
| 30 | 0030 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 13.8×13.6×13.2 | 1.6 | |
| 31 | 0032 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 19.7×30.1×30.8 | 16.4 | |
| 32 | 0033 | 砂岩 | 破損 | ○ | 45.8×20.8×20.8 | 14.5 | |
| 33 | 0034 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 55.2×48.5×33.7 | 67.0 | |
| 34 | 0035 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 56.9×33.8×29.5 | 48.1 | |
| 35 | 0036 | 砂岩 | 破損 | ○ | 46.9×35.9×32.6 | 56.2 | ⑥12E88-38,90 |
| 36 | 0037 | 砂岩 | 破損 | ○ | 20.9×12.1×8.7 | 2.1 | |
| 37 | 0038 | 砂岩 | 破損 | ○ | 31.5×23.7×21.7 | 16.0 | ⑥12E88-36,90 |
| 38 | 0039 | 砂岩 | 破損 | ○ | 32.6×27.0×18.5 | 13.0 | |
| 39 | 0041 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.0×23.0×9.7 | 5.7 | |
| 40 | 0044 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 33.4×26.5×8.9 | 6.7 | |
| 41 | 0045 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 60.8×30.9×28.0 | 65.6 | |
| 42 | 0046 | 砂岩 | 破損 | ○ | 35.9×39.5×26.0 | 33.6 | ⑥12E88-47 |
| 43 | 0047 | 砂岩 | 破損 | ○ | 27.3×23.6×20.3 | 19.0 | ⑥12E88-46 |
| 44 | 0048 | 砂岩 | 破損 | ○ | 39.4×25.7×18.8 | 14.9 | |
| 45 | 0049 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 22.1×30.3×20.5 | 13.3 | |
| 46 | 0050 | チャート | 破損 | ○ | 17.0×20.8×9.8 | 2.9 | |
| 47 | 0050 | チャート | 破損 | ○ | 15.1×21.5×18.7 | 4.4 | |
| 48 | 0051 | 砂岩 | 破損 | ○ | 29.8×33.3×9.0 | 7.4 | ⑥12E88-68 |
| 49 | 0052 | チャート | 破損 | ○ | 27.4×29.0×17.7 | 12.1 | |
| 50 | 0053 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 29.2×19.2×13.7 | 11.9 | |
| 51 | 0054 | チャート | 破損 | ○ | 24.7×13.9×15.4 | 7.3 | |
| 52 | 0056 | チャート | 破損 | ○ | 18.4×30.4×19.7 | 9.5 | |
| 53 | 0057 | チャート | 破損 | ○ | 35.8×21.7×10.8 | 8.0 | |
| 54 | 0058 | チャート | 破損 | ○ | 27.0×24.3×15.6 | 11.9 | |
| 55 | 0059 | 砂岩 | 破損 | ○ | 40.7×33.8×21.8 | 37.8 | ⑥12E88-99,100 |
| 56 | 0061 | チャート | 破損 | ○ | 41.4×31.3×22.8 | 32.6 | ⑥12E88-21,78,85 |
| 57 | 0062 | 砂岩 | 破損 | ○ | 21.5×24.1×12.7 | 5.3 | |
| 58 | 0063 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 23.5×16.6×13.7 | 4.8 | |
| 59 | 0064 | チャート | 破損 | ○ | 39.2×28.2×13.0 | 12.1 | |
| 60 | 0065 | チャート | 破損 | ○ | 24.4×25.8×10.6 | 6.5 | |
| 61 | 0066 | 砂岩 | 破損 | ○ | 26.5×22.6×13.8 | 7.6 | |
| 62 | 0067 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 33.4×22.9×14.6 | 15.0 | ⑥12E88-8,69~71 |
| 63 | 0068 | 砂岩 | 破損 | ○ | 31.7×29.0×9.5 | 6.9 | ⑥12E88-51 |
| 64 | 0069 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 31.7×24.3×19.6 | 10.7 | ⑥12E88-8,67,70,71 |
| 65 | 0070 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 44.8×30.0×22.7 | 36.0 | ⑥12E88-8,67,69,71 |
| 66 | 0071 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.2×31.5×19.6 | 34.4 | ⑥12E88-8,67,69,70 |
| 67 | 0072 | チャート | 破損 | ○ | 15.0×14.4×13.7 | 2.8 | ⑥12E88-79 |

第19表 第6ブロック出土礫属性表(2)

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 68 | 12E-88-0073 | チャート | 破損 | ○ | 16.0×21.8×11.2 | 3.8 | |
| 69 | 0074 | 砂岩 | 破損 | ○ | 38.6×40.1×26.4 | 37.6 | |
| 70 | 0075 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 36.2×27.4×13.7 | 11.2 | |
| 71 | 0076 | チャート | 破損 | ○ | 19.7×17.0× 8.4 | 4.3 | |
| 72 | 0077 | 砂岩 | 破損 | ○ | 31.9×38.3×26.7 | 25.7 | |
| 73 | 0078 | チャート | 破損 | ○ | 23.8×25.9×20.4 | 9.9 | ⑥12E88-21,61,85 |
| 74 | 0079 | チャート | 破損 | ○ | 34.3×26.8×27.2 | 33.9 | ⑥12E88-72 |
| 75 | 0080 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 48.8×43.8×17.6 | 36.1 | |
| 76 | 0081 | 砂岩 | 破損 | ○ | 27.9×31.4×23.3 | 19.4 | ⑥12E88-82,83 |
| 77 | 0082 | 砂岩 | 破損 | ○ | 30.5×30.0×19.8 | 16.6 | ⑥12E88-81,83 |
| 78 | 0082 | 砂岩 | 破損 | ○ | 13.8×11.5× 6.5 | 1.0 | ⑥12E88-81,82 |
| 79 | 0083 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 17.3×13.4× 9.2 | 2.3 | |
| 80 | 0085 | チャート | 破損 | ○ | 33.1×21.3×14.7 | 13.6 | ⑥12E88-21,61,78 |
| 81 | 0086 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 45.8×36.6×22.1 | 36.6 | ⑥12E89-15 |
| 82 | 0087 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 14.4×14.0×12.2 | 2.2 | |
| 83 | 0088 | チャート | 破損 | ○ | 39.8×30.6×17.6 | 21.7 | ⑥12E88-4 |
| 84 | 0089 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 42.0×28.2×22.0 | 25.4 | |
| 85 | 0090 | 砂岩 | 破損 | ○ | 37.3×43.4×23.2 | 34.9 | ⑥12E88-36,38 |
| 86 | 0091 | 砂岩 | 破損 | ○ | 26.9×33.4×10.3 | 12.3 | |
| 87 | 0092 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 26.3×26.1×21.3 | 14.3 | |
| 88 | 0094 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.9×33.4×21.8 | 28.1 | ⑥12E88-27 |
| 89 | 0095 | 砂岩 | 破損 | ○ | 55.5×31.0×22.4 | 33.9 | |
| 90 | 0096 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 32.3×22.8×16.9 | 8.6 | ⑥12E88-26 |
| 91 | 0097 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 38.6×21.4× 7.3 | 4.9 | |
| 92 | 0098 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 25.2×21.1× 9.3 | 4.8 | |
| 93 | 0099 | 砂岩 | 破損 | ○ | 39.6×25.8×18.9 | 26.6 | ⑥12E88-59,100 |
| 94 | 0100 | 砂岩 | 破損 | ○ | 26.8×19.9×19.6 | 16.6 | ⑥12E88-59,99 |
| 95 | 0101 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 64.7×65.0×31.8 | 146.0 | |
| 96 | 0102 | 砂岩 | 破損 | ○ | 50.4×51.5×17.8 | 50.1 | |
| 97 | 0103 | チャート | 破損 | ○ | 29.0×29.2×15.6 | 16.0 | ⑦12E98-7 |
| 98 | 0104 | チャート | 破損 | ○ | 23.4×29.4×13.3 | 8.9 | ⑥12E88-15 |
| 99 | 0105 | チャート | 破損 | ○ | 32.8×20.4×11.5 | 6.3 | |
| 100 | 0106 | 砂岩 | 破損 | ○ | 26.3×14.0×10.3 | 3.4 | |
| 101 | 0107 | 砂岩 | 破損 | ○ | 17.9×14.8× 9.8 | 3.1 | |
| 102 | 0108 | 安山岩 | 破損 | ○ | 49.0×36.9×11.5 | 21.7 | |
| 103 | 0109 | 砂岩 | 破損 | ○ | 33.3×31.7×10.1 | 11.1 | |
| 104 | 0110 | 砂岩 | 破損 | ○ | 56.1×32.3×16.0 | 29.5 | |
| 105 | 0111 | 砂岩 | 破損 | ○ | 48.7×28.4× 8.7 | 13.2 | ⑥12E88-112 |
| 106 | 0112 | 砂岩 | 破損 | ○ | 24.3×12.9× 2.8 | 0.8 | ⑥12E88-111 |
| 107 | 0113 | チャート | 破損 | ○ | 25.0×13.6×13.1 | 5.2 | ⑥12E88-20 |
| 108 | 0114 | 砂岩 | 破損 | ○ | 47.9×33.6×14.8 | 25.1 | ⑥12E88-9 |
| 109 | 0116 | 砂岩 | 破損 | ○ | 40.4×20.7×13.6 | 12.4 | |
| 110 | 0117 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 32.3×20.2× 7.1 | 4.2 | |
| 111 | 12E-89-0003 | 砂岩 | 破損 | ○ | 44.0×40.0×17.0 | 20.5 | ⑥12E88-20,23 |
| 112 | 0005 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 35.2×37.3× 9.8 | 14.8 | |
| 113 | 0006 | 砂岩 | 破損 | ○ | 18.6×16.9× 9.1 | 2.9 | |
| 114 | 0006 | 砂岩 | 破損 | ○ | 42.6×35.5×19.8 | 22.2 | |
| 115 | 0009 | 砂岩 | 破損 | ○ | 27.6×22.4×11.0 | 7.2 | |
| 116 | 0010 | 砂岩 | 破損 | ○ | 51.4×36.6×34.8 | 77.9 | |
| 117 | 0011 | 砂岩 | 破損 | ○ | 17.4×11.3× 9.3 | 1.9 | |
| 118 | 0012 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 37.3×23.9×18.6 | 15.2 | ⑥12E88-13 |
| 119 | 0013 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 51.8×31.5×20.4 | 29.9 | ⑥12E88-12 |
| 120 | 0014 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 55.6×45.8×15.6 | 41.7 | |
| 121 | 0015 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 30.3×41.4×35.2 | 37.6 | ⑥12E88-86 |
| 122 | 0016 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 21.0×16.3× 9.0 | 3.0 | |
| 123 | 0017 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 27.6×25.5×23.3 | 17.0 | |
| 124 | 0018 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 24.0×29.1×18.3 | 13.4 | |
| 125 | 0021 | 砂岩 | 破損 | ○ | 41.9×33.8×24.2 | 28.5 | |
| 126 | 0022 | 砂岩 | 破損 | ○ | 43.3×33.0×26.2 | 37.0 | |
| 127 | 0023 | チャート | 破損 | ○ | 29.2×23.3×11.7 | 9.0 | |
| 128 | 0024 | 砂岩 | 破損 | ○ | 35.5×21.9×17.5 | 17.3 | |
| 129 | 0025 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 47.1×35.5×20.7 | 32.2 | ⑥12E88-28 |
| 130 | 0027 | 凝灰岩 | 破損 | ○ | 37.3×32.6× 6.3 | 9.3 | |
| 131 | 0028 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 32.5×30.0×17.5 | 15.3 | ⑥12E88-25 |
| 132 | 0029 | 砂岩 | 破損 | ○ | 49.8×33.5×29.2 | 38.0 | |



第35図 第6ブロック出土礫石材別重量分布図

第7ブロック (第36~40図、図版4・9・10)

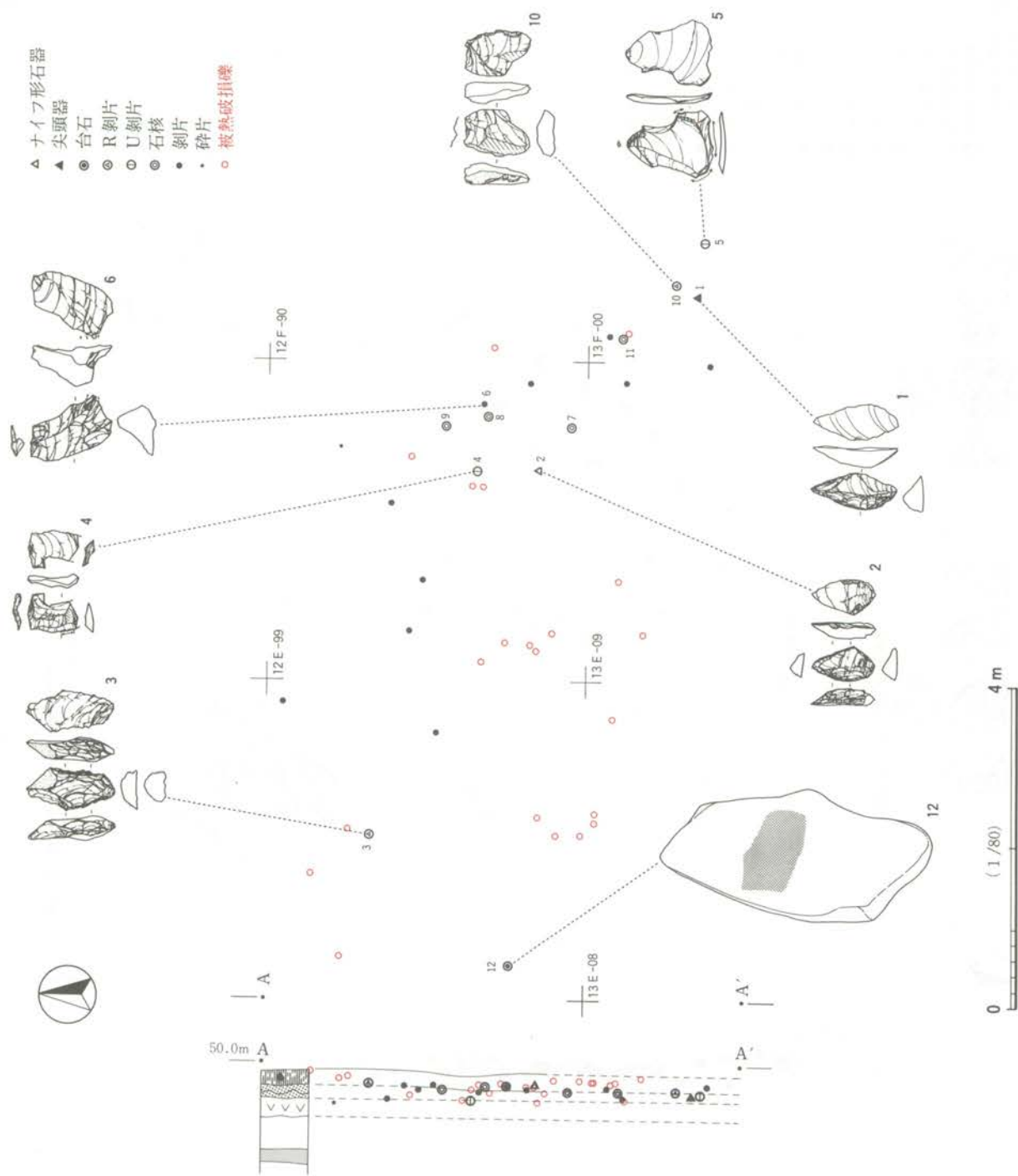
(出土状況) 12E-98・99、12F-90、13E-08・09、13F-00区に位置する。

調査区南東端に位置する。12E-99区を中心に直径約10mのかなり広い範囲に石器25点、礫28点が分布する。南側の調査区外にも遺物の広がりがあるのは確実であろう。出土層位はV層からIII層下部を中心とする。

(遺物) 全部で25点の石器が出土し、剥片が半数近くを占めるが、組成比としては他のブロックに比べやや低い。石材は13種類に分類される。そのうちチャート20が7点を占めるのが目を引く。石核も3点出土しており、この石材についてはこのブロックで石器製作の素材とされた可能性が強い。これを含めてチャートは数量比で65%を占め、このブロックの中心的な石材である。

個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。珪質頁岩24は淡茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。チャート19は濃茶褐色と白色とが斑状に混合したような色を呈する硬質な石材である。チャート21は乳褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。黒色緻密質安山岩7は濃灰褐色を呈するやや軟質な石材で、粒子がやや粗い。

- ①珪質頁岩25 (1) 茶色みを帯びた灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。1は尖頭器である。
- ②チャート22 (2) 青褐色と茶褐色とが斑状に混合したような色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。2はナイフ形石器である。左側縁の基部から先端部まで二次加工が施される。

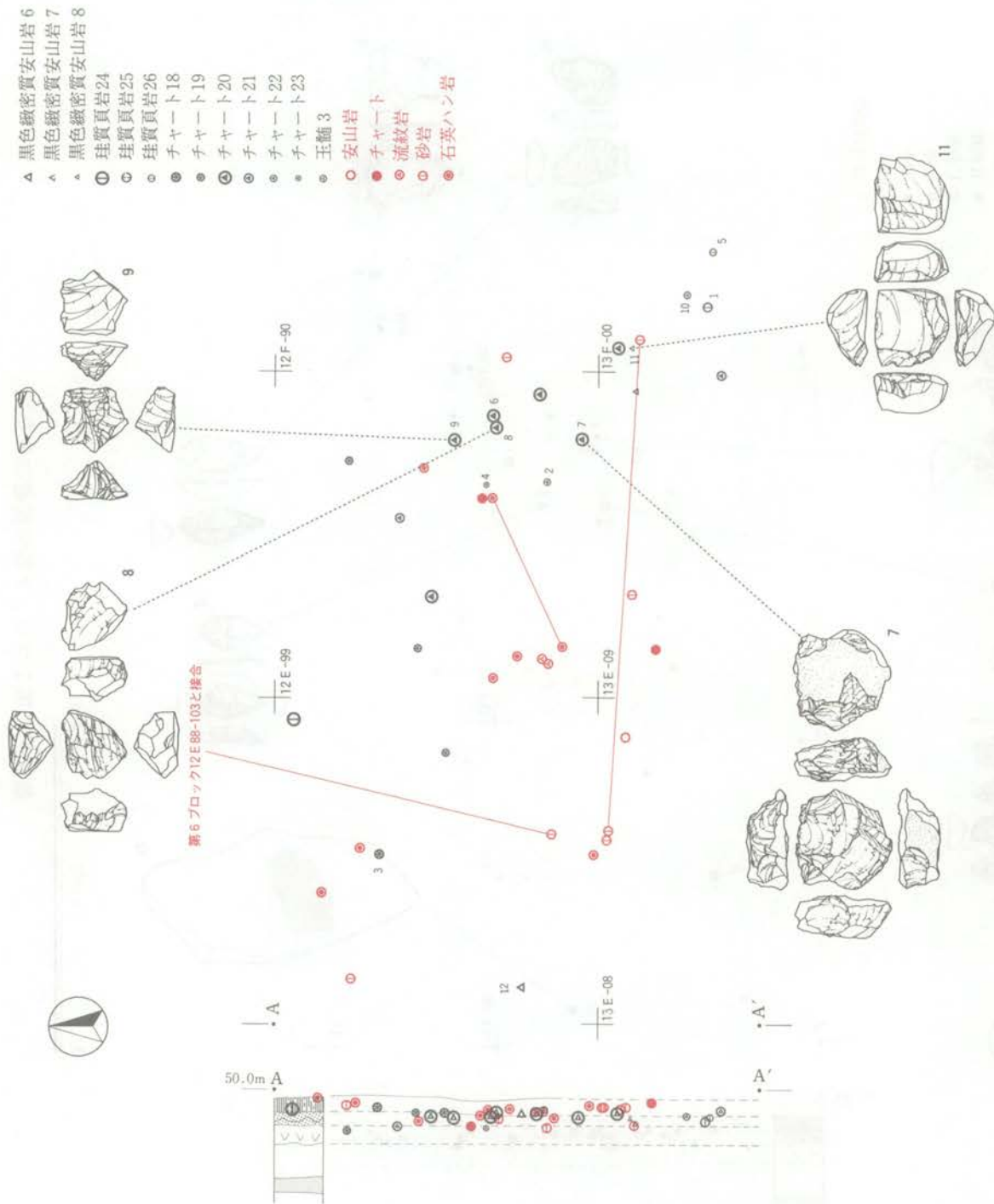


第36図 第7ブロック器種別遺物分布図

③チャート18 (3) 黒みを帯びた濃灰褐色の硬質な石材である。3は二次加工のある剥片である。左側縁全体と、右側縁の打面寄りに二次加工が施される。形態上はいわゆる角錐状石器に類似するが、背面に自然面が残るなど未成品的な要素が強い。

④チャート23 (4) 青灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。4は微細剥離痕のある剥片である。先端が折断されており、左側縁に微細剥離痕が観察される。

⑤珪質頁岩26 (5) 淡茶褐色を呈する硬質な石材である。5は微細剥離痕のある剥片である。先端部を中心として、左右両側縁にかけて断続的な微細剥離痕が観察される。

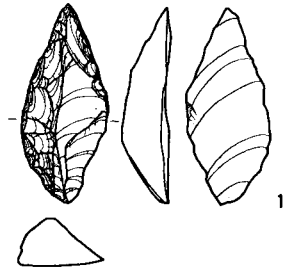


第37図 第7ブロック母岩別遺物分布図

⑥チャート20 (6~9) 濃茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。節理の発達が著しい。6は剥片である。断面三角形を呈する。7~9は石核である。いずれも節理割れが著しく、剥離面の把握を困難にしている。7は背面に自然面を残すもので、正面側を打面とする細かい剥離が数回行われた後、最後に上側を打面とする剥片剥離が行われる。8は上側を打面とする剥片剥離が全面に観察される。9は縦長剥片を素材として、背面側で剥片剥離を行っている。

⑦玉髓3 (10) 全体に淡灰褐色であるが、節理面は緑がかつた灰褐色を呈する硬質な石材である。10は二次加工のある剥片である。左側縁腹面側に連続的な二次加工が施される。

珪質頁岩25



珪質頁岩22

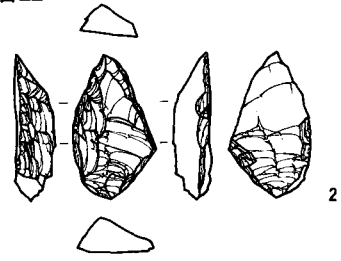


チャート18

チャート23

珪質頁岩26

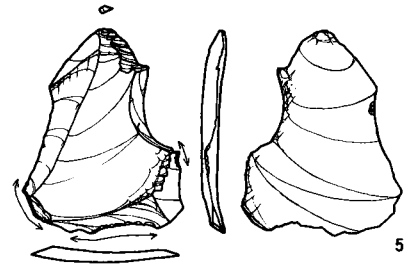
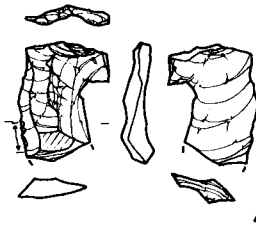
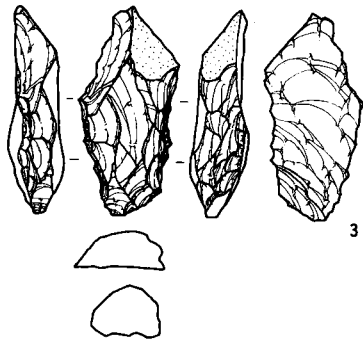
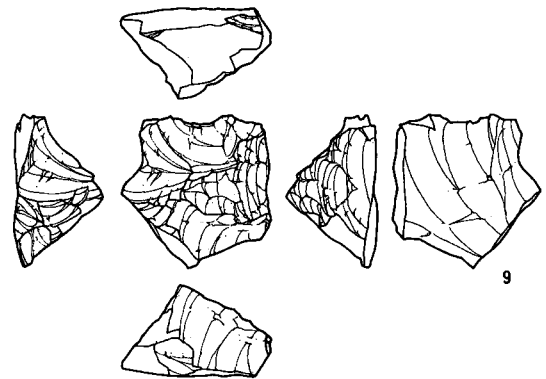
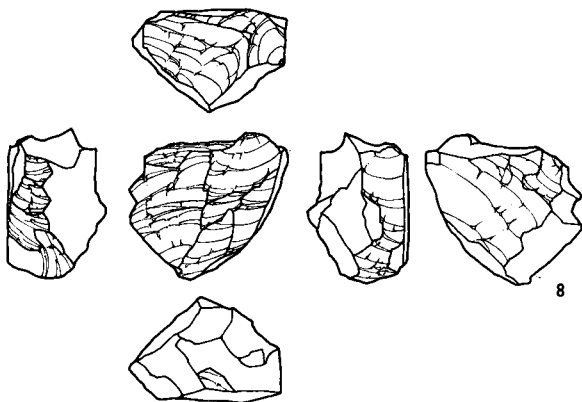
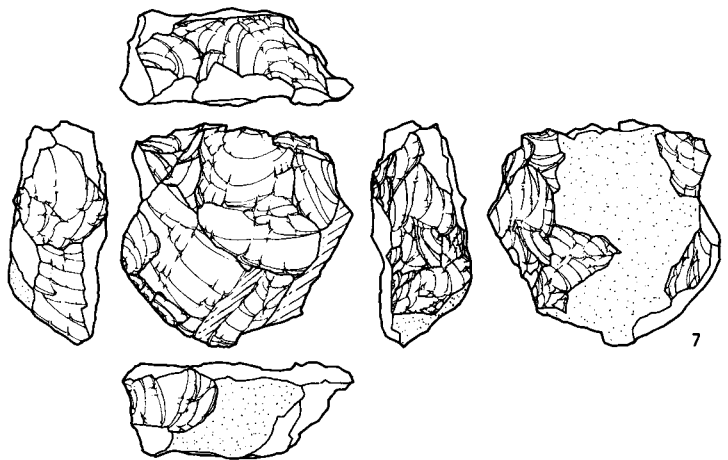
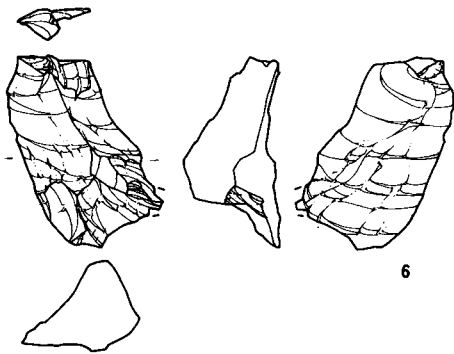


チャート20

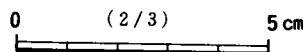
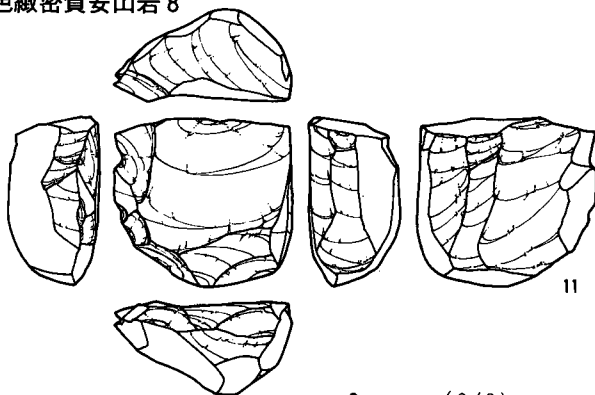
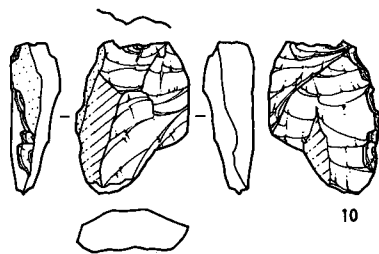


第38図 第7ブロック出土石器実測図(1)

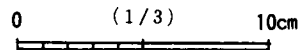
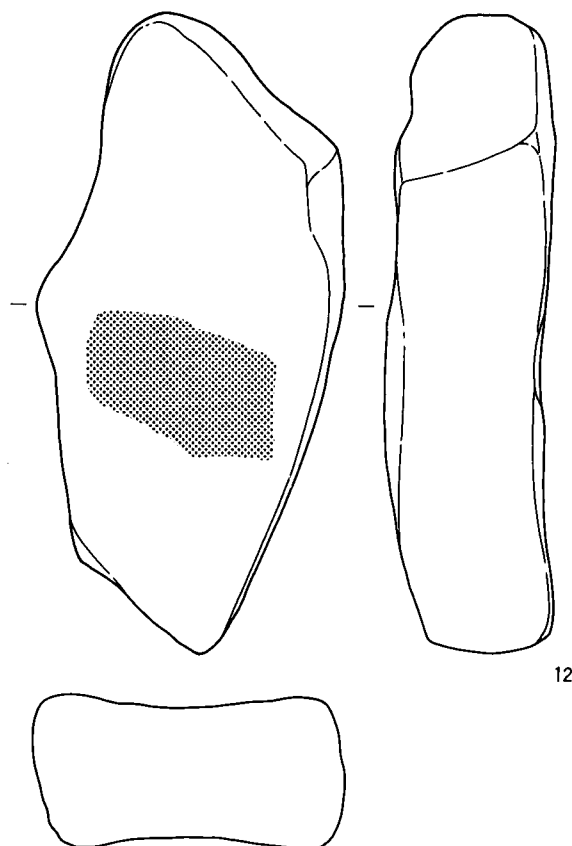
0 (2/3) 5 cm

玉髓 3

黒色緻密質安山岩 8



黒色緻密質安山岩 6



第39図 第7ブロック出土石器実測図(2)

⑧黒色緻密質安山岩 8 (11) 淡灰褐色を呈するやや軟質な石材である。11は石核である。上側を打面とする剥片剥離が数回行われた後、正面を作業面として周縁を打面とする細かい剥片剥離が行われる。

⑨黒色緻密質安山岩 6 (12) 灰褐色を呈するやや軟質な石材で、不純物の混入が目立つ。12は台石である。他の礫と同様熱を受けたらしく、表面は荒れて敲打を受けた痕跡があまり残っていない。表には煤状の黒色の物体が付着している。

(礫 群) 30点弱の礫のほとんどが熱を受けている。石器群と同じく散漫な出土をしているが、分布の中心は石器群よりやや西側である。石英ハン岩と砂岩で多数を占め、次いでチャートが出土している。50

gを超えるものはなく、ほとんどが20g以下の小破片である。

第20表 第7ブロック出土石器属性表

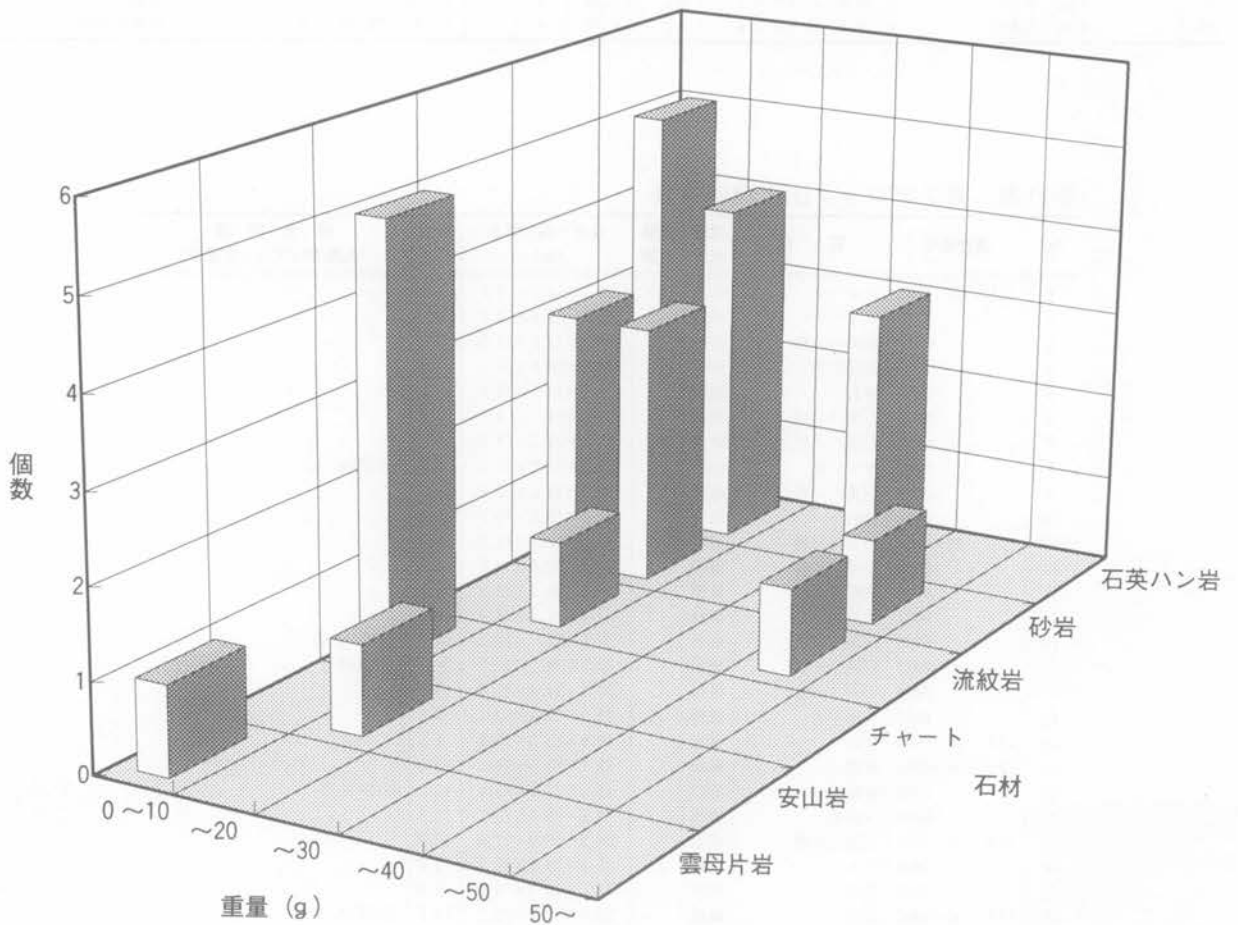
| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 12E-98-0006 | R剥片 | 41.0×18.9×10.1 | 7.2 | 3 | 線 | × | ○ | II、C | c | | | チャート18 |
| 2 | 0009 | 剥片 | 25.1×32.1×6.0 | 4.0 | | 多 | × | × | I、IV | c | | | チャート19 |
| 3 | 0014 | 台石 | 190.0×92.0×50.5 | 1,142.0 | 12 | | | | | | | | 黒色緻密質安山岩6 |
| 4 | 0015 | 剥片 | 17.6×9.9×4.0 | 0.6 | | - | - | - | I、III、C | b | | H | 珩質頁岩24 |
| 5 | 12E-99-0002 | 剥片 | 13.7×13.6×3.5 | 0.6 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 110 | B | チャート19 |
| 7 | 0010 | 剥片 | 23.5×12.7×2.8 | 0.9 | | 線 | × | × | I、II、IV | d | | B | チャート20 |
| 8 | 0011 | 剥片 | 24.9×14.4×3.1 | 1.1 | | 多 | × | ○ | I、II | c | 115 | | チャート21 |
| 9 | 0013 | ナイフ形石器 | 28.8×14.8×7.3 | 3.1 | 2 | 平 | × | ○ | I、IV | c | | | チャート22 |
| 10 | 0014 | 石核 | 44.1×44.6×18.3 | 42.5 | 7 | | | | | | | | チャート20 |
| 11 | 0015 | 剥片 | 23.5×14.3×4.6 | 1.2 | | - | - | - | I、II、IV | d | | H | チャート20 |
| 12 | 0016 | 石核 | 28.2×32.5×19.6 | 17.1 | 8 | | | | | | | | チャート20 |
| 13 | 0017 | 剥片 | 38.3×31.3×17.1 | 12.2 | 6 | 平 | × | × | I、II、IV | d | 110 | | チャート20 |
| 14 | 0018 | 石核 | 30.7×29.7×17.5 | 12.7 | 9 | | | | | | | | チャート20 |
| 15 | 0020 | 碎片 | 6.3×15.7×3.1 | 0.3 | | - | - | - | I | a | | H | チャート19 |
| 16 | 0021 | 有茎尖頭器 | 39.6×17.3×4.7 | 2.3 | | | | | | | | | チャート24 |
| 17 | 0023 | U剥片 | 23.5×18.1×4.7 | 1.9 | 4 | 多 | ○ | ○ | I、II、III、IV | e | 110 | B | チャート23 |
| 18 | 12F-90-0003 | 剥片 | 14.5×17.0×5.9 | 1.2 | | 平 | × | × | I、II | c | | | 玉髓2 |
| 19 | 13E-09-0004 | 剥片 | 12.7×13.0×4.0 | 0.5 | | 平 | × | ○ | I、IV | c | 110 | B,R | 黒色緻密質安山岩7 |
| 20 | 0005 | 剥片 | 21.0×17.5×5.0 | 1.7 | | 多 | × | ○ | I、IV、C | c | 105 | | チャート21 |
| 21 | 13F-00-0002 | 剥片 | 20.9×18.6×5.2 | 1.7 | | 多 | × | × | I、II | c | | | チャート20 |
| 22 | 0003 | 石核 | 33.9×36.9×18.6 | 30.5 | 11 | | | | | | | | 黒色緻密質安山岩8 |
| 23 | 0004 | 尖頭器 | 39.4×17.0×8.4 | 4.6 | 1 | - | - | - | I | a | | | 珩質頁岩25 |
| 24 | 0005 | R剥片 | 30.8×23.1×9.5 | 7.1 | 10 | 線 | × | ○ | I、III | b | | | 玉髓3 |
| 25 | 0006 | U剥片 | 40.3×31.9×3.4 | 3.6 | 5 | 平 | × | ○ | I、II、III、IV | e | | | 珩質頁岩26 |

第21表 第7ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|-------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-98-0001 | チャート | 破損 | ○ | 13.3×11.1×6.6 | 1.1 | |
| 2 | | チャート | 破損 | ○ | 13.4×9.8×7.3 | 0.9 | |
| 3 | | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 15.3×12.8×11.2 | 2.1 | |
| 4 | | 雲母片岩 | 破損 | ○ | 28.9×22.8×5.7 | 5.6 | |
| 5 | 0002 | 砂岩 | 破損 | ○ | 36.6×19.5×13.6 | 10.6 | |
| 6 | 0003 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 20.5×11.1×4.3 | 0.9 | |
| 7 | 0005 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 35.3×27.5×14.9 | 14.3 | |
| 8 | 0007 | チャート | 破損 | ○ | 28.1×23.2×15.1 | 7.6 | ⑥12E88-103 |
| 9 | 0008 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 38.5×38.2×22.9 | 35.6 | |
| 10 | 0016 | 砂岩 | 破損 | ○ | 21.9×19.2×10.7 | 5.0 | |
| 11 | 12E-99-0004 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 14.6×12.4×11.5 | 2.0 | |
| 12 | 0005 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 28.7×12.5×9.6 | 4.2 | |
| 13 | 0006 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 46.1×33.1×10.9 | 19.8 | |
| 14 | 0007 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 57.2×32.7×21.0 | 41.4 | |
| 15 | 0009 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 39.6×21.7×20.2 | 10.0 | ⑦12E99-12 |
| 16 | 0012 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 57.5×38.7×20.7 | 36.9 | ⑦12E99-9 |
| 17 | 0019 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 32.4×24.1×22.7 | 19.5 | |
| 18 | 0022 | チャート | 破損 | ○ | 26.3×21.4×12.1 | 6.5 | |
| 19 | 12F-90-0002 | 砂岩 | 破損 | ○ | 19.9×23.3×10.2 | 5.5 | |
| 20 | 13E-08-0002 | 砂岩 | 破損 | ○ | 28.2×23.5×16.4 | 10.5 | |
| 21 | 0003 | 砂岩 | 破損 | ○ | 41.0×35.9×25.9 | 41.5 | ⑦13F00-7 |
| 22 | 0004 | 安山岩 | 破損 | ○ | 24.5×29.7×20.7 | 12.6 | |
| 23 | 13E-09-0001 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 24.2×26.9×17.6 | 12.3 | |
| 24 | 0002 | チャート | 破損 | ○ | 21.5×19.7×11.3 | 3.6 | |
| 25 | 0003 | 砂岩 | 破損 | ○ | 12.7×10.3×6.4 | 1.2 | |
| 26 | 13F-00-0007 | 砂岩 | 破損 | ○ | 22.8×21.4×22.7 | 10.5 | ⑦13E08-3 |
| 27 | 0009 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 28.1×17.3×17.9 | 6.5 | |
| 28 | 0010 | 石英ハン岩 | 破損 | ○ | 40.7×34.5×28.0 | 33.8 | |

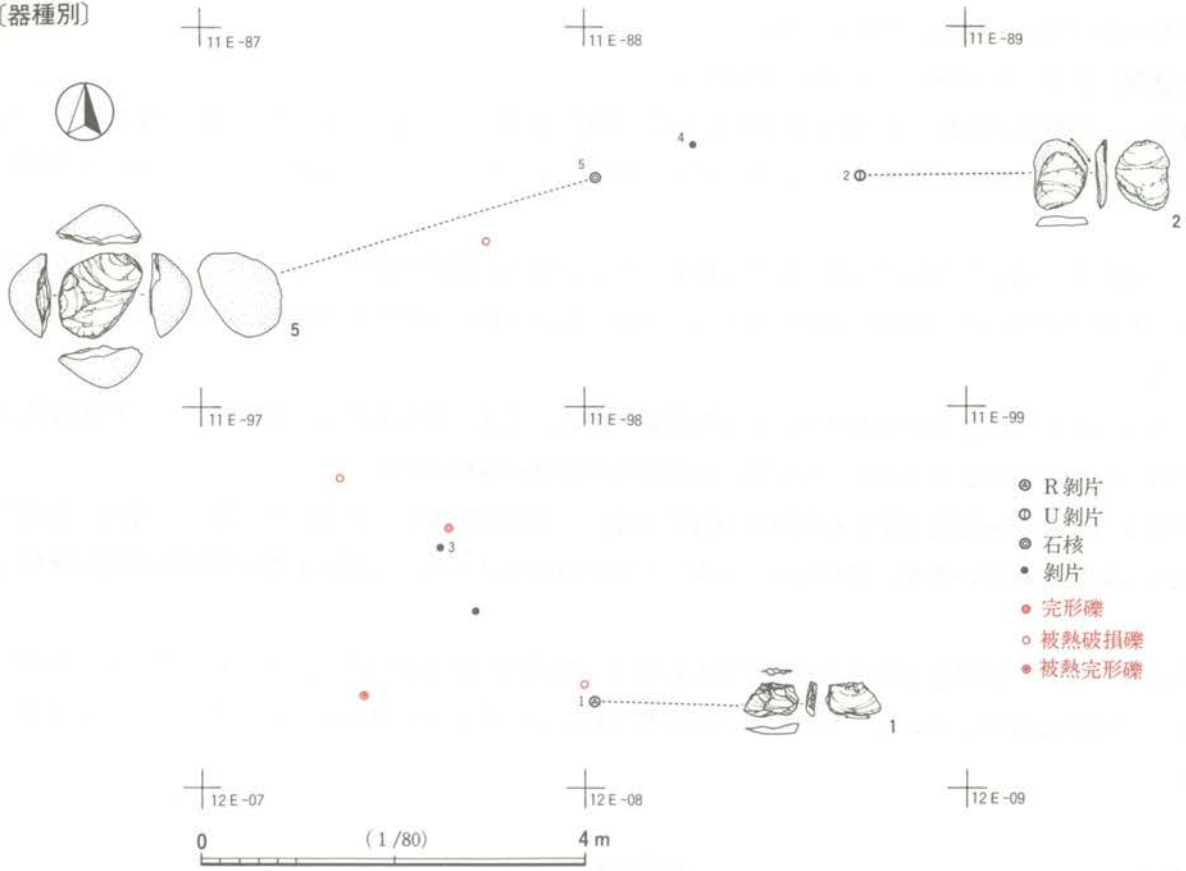
第22表 第7ブロック組成表

| 母岩 | 器種 | 尖頭器 | ナイフ形石器 | R剥片 | U剥片 | 剥片 | 砕片 | 石核 | 台石 | 合計 | 数量比(%) |
|-----------|----|------|--------|------|------|-------|------|-------|------|--------|--------|
| 珪質頁岩24 | | | | | | 1 | | | | 1 | 4.3% |
| 珪質頁岩25 | | 1 | | | | | | | | 1 | 4.3% |
| 珪質頁岩26 | | | | | 1 | | | | | 1 | 4.3% |
| 珪質頁岩計 | | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | | | 3 | 13.0% |
| チャート18 | | | | 1 | | | | | | 1 | 4.3% |
| チャート19 | | | | | | 2 | 1 | | | 3 | 13.0% |
| チャート20 | | | | | | 4 | | 3 | | 7 | 30.4% |
| チャート21 | | | | | | 2 | | | | 2 | 8.7% |
| チャート22 | | | 1 | | | | | | | 1 | 4.3% |
| チャート23 | | | | | 1 | | | | | 1 | 4.3% |
| チャート計 | | 0 | 1 | 1 | 1 | 8 | 1 | 3 | 0 | 15 | 65.2% |
| 玉髓2 | | | | | | 1 | | | | 1 | 4.3% |
| 玉髓3 | | | | 1 | | | | | | 1 | 4.3% |
| 玉髓計 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | | | 2 | 8.7% |
| 黒色緻密質安山岩1 | | | | | | | | | 1 | 1 | 4.3% |
| 黒色緻密質安山岩2 | | | | | | 1 | | | | 1 | 4.3% |
| 黒色緻密質安山岩3 | | | | | | | | 1 | | 1 | 4.3% |
| 黒色緻密質安山岩計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 | 13.0% |
| 合計 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 11 | 1 | 4 | 1 | 23 | 100.0% |
| 組成比% | | 4.3% | 4.3% | 8.7% | 8.7% | 47.8% | 4.3% | 17.4% | 4.3% | 100.0% | |

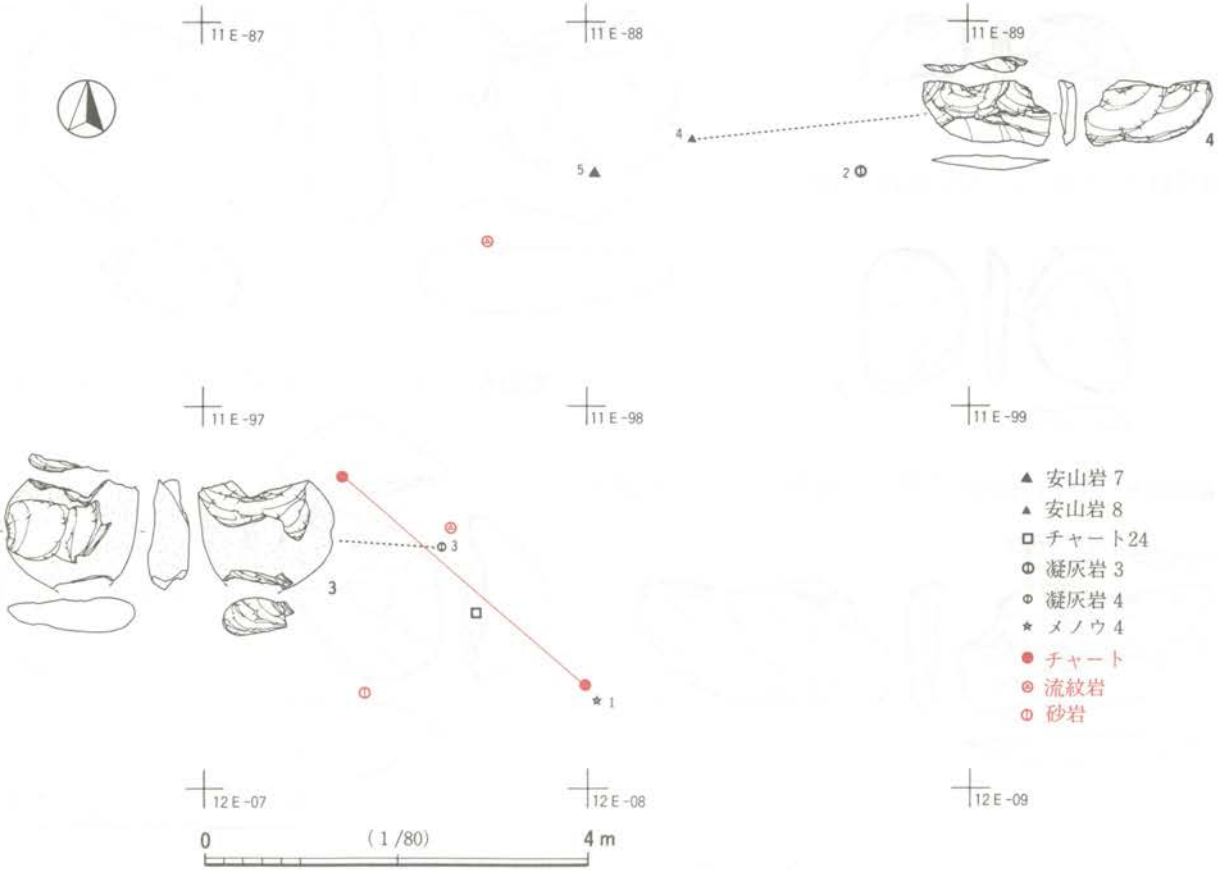


第40図 第7ブロック出土礫石材別重量分布図

[器種別]



[母岩別]



第41図 第8ブロック遺物分布図

第8ブロック (第41・42図、図版6・10)

(出土状況) 11E-87・88・97・98区に位置する。

直径約8mの範囲に石器6点、礫8点が分布する。全体に散漫な出土をしているが、11E-88と11E-97の2ヶ所に集中する傾向が認められる。近い場所でセクションがとられていないため、出土層位は不明である。

(遺物) 6点出土した石器の全てが違う母岩である。個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。チャート24は茶色を帯びた濃青褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。

①メノウ4 (1) 白色透明な石材で、かなり硬質である。1は二次加工のある剥片である。右側縁側に連続的な二次加工が施されるほか、先端部には微細な剥離痕が観察される。

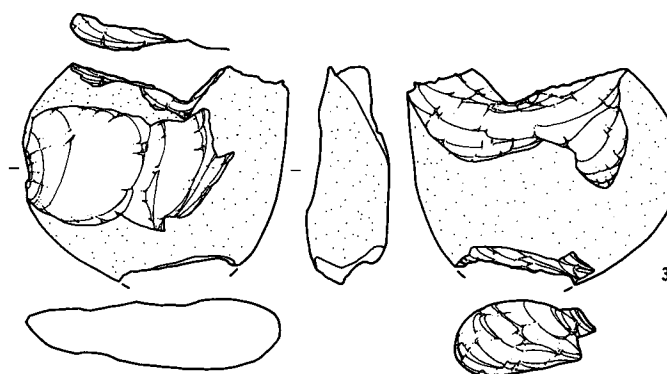
②凝灰岩3 (2) 灰褐色を呈する硬質な石材である。2は微細剥離痕のある剥片である。背面と腹面で逆方向から剥離されているが、切り合っていないため新旧関係は不明。右側縁上部に微細剥離痕が観察される。

③凝灰岩4 (3) 乳褐色を呈するやや軟質な石材で、不純物の混入が目立つ。3は剥片である。表面は熱によって赤色に変色している。剥離面が3面観察されるが、それぞれ無関係に剥離されたような印象を与える。

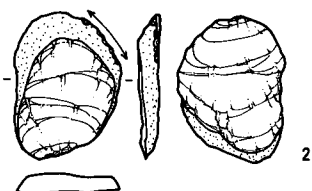
メノウ4



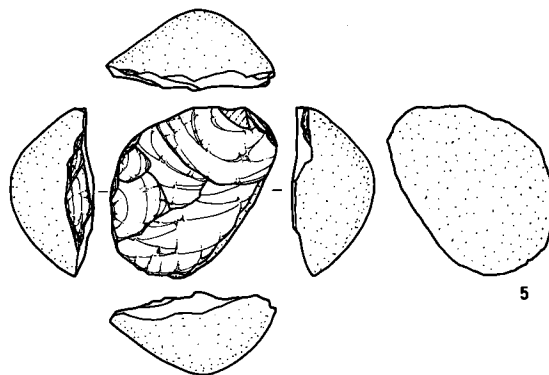
凝灰岩4



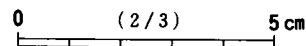
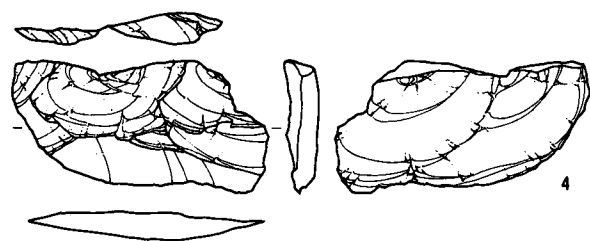
凝灰岩3



安山岩7



安山岩8



第42図 第8ブロック出土石器実測図

第23表 第8ブロック出土石器属性表

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|-----|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|--------|
| 1 | 11E-88-0002 | 石核 | 33.0×33.0×16.9 | 16.9 | 5 | | | | | | | | 安山岩7 |
| 2 | 0003 | 剝片 | 25.7×49.7×6.2 | 7.8 | 4 | 平 | × | ○ | I、IV | c | 125 | | 安山岩8 |
| 3 | 0004 | U剝片 | 27.9×21.0×4.0 | 2.7 | 2 | C | × | × | III、C | b | 40 | | 凝灰岩3 |
| 4 | 11E-97-0004 | 剝片 | 27.9×26.0×11.0 | 11.4 | | C | × | × | C | a | | L | チャート24 |
| 5 | 0005 | 剝片 | 42.0×52.3×16.0 | 35.3 | 3 | 平 | × | × | IV、C | b | 100 | B | 凝灰岩4 |
| 6 | 11E-98-0003 | R剝片 | 13.7×20.7×3.8 | 1.2 | 1 | 平 | × | ○ | I、III、IV | d | 120 | | メノウ4 |

第24表 第8ブロック礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 11E-87-0002 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 16.6×15.4×8.4 | 1.9 | ⑩11E97-7 |
| 2 | 11E-97-0001 | 砂岩 | 破損 | ○ | 16.9×12.2×6.2 | 1.6 | |
| 3 | 0001 | 流紋岩 | 破損 | ○ | 13.0×18.6×7.6 | 1.6 | |
| 4 | 0002 | 砂岩 | 破損 | ○ | 25.0×21.0×17.5 | 11.1 | |
| 5 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 32.5×43.4×28.3 | 46.4 | |
| 6 | 0003 | チャート | 破損 | ○ | 18.5×19.6×15.6 | 6.2 | |
| 7 | 0006 | 流紋岩 | 完形 | ○ | 54.8×39.0×16.3 | 50.1 | |
| 8 | 0007 | チャート | 破損 | ○ | 24.6×13.5×14.0 | 1.5 | ⑩11E97-3 |

第25表 第8ブロック組成表

| 母 岩 | 器 種 | | | | 合 計 | 数量比 (%) |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|------------|
| | R剝片 | U剝片 | 剝 片 | 石 核 | | |
| チャート24 | | | 1 | | 1 | 16.7% |
| メノウ4 | 1 | | | | 1 | 16.7% |
| 安山岩7 | | | | 1 | 1 | 16.7% |
| 安山岩8 | | | 1 | | 1 | 16.7% |
| 安山岩計 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 33.3% |
| 凝灰岩3 | | 1 | | | 1 | 16.7% |
| 凝灰岩4 | | | 1 | | 1 | 16.7% |
| 凝灰岩計 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 33.3% |
| 合 計 | 1 | 1 | 3 | 1 | 6 | 100.0% |
| 組成比% | 16.7% | 16.7% | 50.0% | 16.7% | 100.0% | |

④安山岩8 (4) 茶色を帯びた灰褐色を呈する硬質な石材である。4は剝片である。横長のもの頭部調整痕が顕著である。

⑤安山岩7 (5) 濃茶褐色を呈する硬質な石材である。5は石核である。作業面は1面のみで、左側と上側から剝片剝離を行っている。

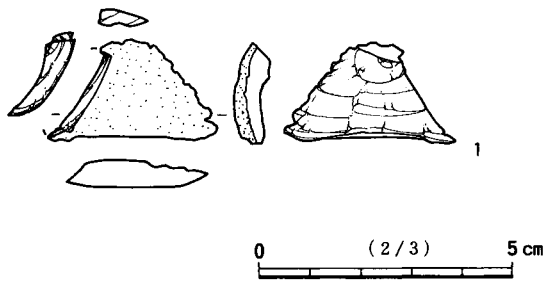
(礫 群) 8点出土した礫のほとんどが熱を受けているが、1点熱を受けていない完形礫が存在する。礫の出土は11E-97に集中する。石材はチャートと流紋岩と砂岩の3種類である。小破片がほとんどであるが、50g前後のものも2点出土している。なお、数が少ないため重量分布図は省略した。

第9ブロック (第43図、図版10)

(出土状況) 12E-25区に位置する。

場所的には第2ブロックの北およそ15mの地点に存在するはずであるが、平面分布図を紛失しているため、詳しい状況は一切不明である。石器、礫とも2点ずつ出土している。

(遺 物) 石器は2点出土したが、母岩は異なっている。個々の遺物の説明を行う前に、実測できる遺物がなかった母岩について、簡単に説明しておく。安山岩10は濃茶褐色を呈する硬質な石材である。



第43図 第9ブロック出土石器実測図

①安山岩9(1) 茶褐色を呈する硬質な石材で、やや気泡が多い。1は剥片である。左側縁が折断されている。
(礫群) 2点出土しているが、いずれも熱を受けていない。完形礫が出土しているが、これは石器製作の素材であった可能性がある。

第26表 第9ブロック出土石器属性表

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|-------------|----|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|------|----------|-----------|----------|-------|
| 1 | 12E-25-0002 | 剥片 | 21.1×33.1×5.7 | 3.1 | 1 | 平 | × | × | C | a | 130 | L | 安山岩9 |
| 2 | 0004 | 剥片 | 23.4×16.4×2.5 | 0.8 | | 多 | × | ○ | I、II | b | | B | 安山岩10 |

第27表 第9ブロック出土礫属性表

| No. | 遺物番号 | 石 材 | 遺存 状況 | 被熱 有無 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 接 合 関 係 (丸数字はブロック番号) |
|-----|-------------|------|----------|----------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 12E-25-0002 | 硬砂岩 | 破損 | | 66.6×53.1×40.4 | 93.1 | |
| 2 | 0003 | チャート | 完形 | | 65.2×43.1×29.0 | 102.4 | |

第28表 第9ブロック組成表

| 母 岩 | 器 種 | 剥 片 | 合 計 | 数量比 (%) |
|------|-----|--------|--------|------------|
| 安山岩7 | | 1 | 1 | 50.0% |
| 安山岩8 | | 1 | 1 | 50.0% |
| 安山岩計 | | 2 | 2 | 100.0% |
| 合 計 | | 2 | 2 | 100.0% |
| 組成比% | | 100.0% | 100.0% | |

表29～表31は、以上の各ブロックの石器全体の組成である。表29はブロック別石材組成表、表30はブロック別器種組成表、表31は石材別器種組成表である。また、出土礫の石材別重量分布図を第44図に、石材別総重量割合を第45図に提示した。

第29表 文化層全体ブロック別石材組成表

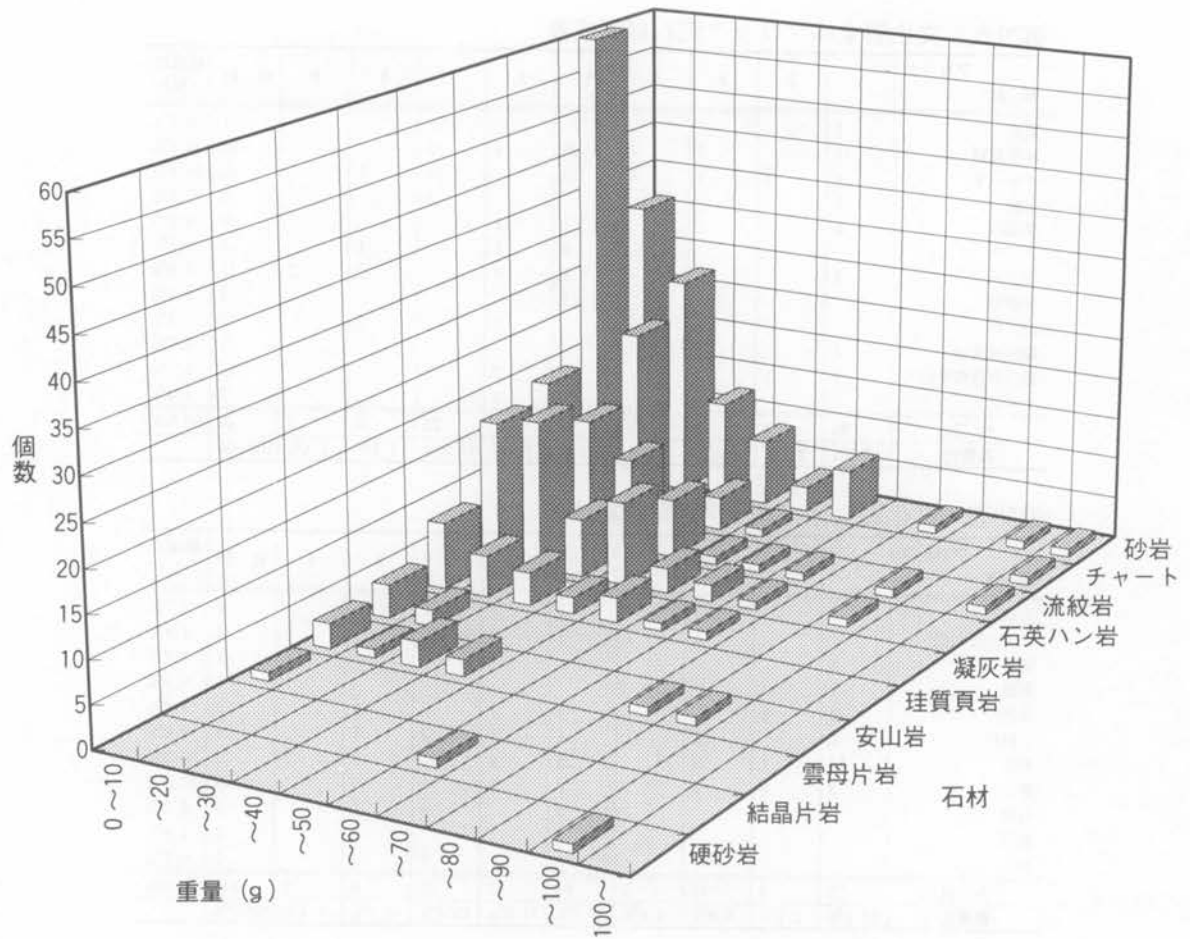
| 石 材 | ブロック | | | | | | | | | 合 計 | 組成比 (%) |
|----------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|--------|---------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | | |
| 頁岩 | 1 | | | | | | | | | 1 | 0.7% |
| 珪質頁岩 | 11 | | 3 | 1 | 28 | 4 | 3 | | | 50 | 34.2% |
| チャート | 4 | 3 | 1 | 3 | 15 | | 15 | 1 | | 42 | 28.8% |
| 玉髄 | 1 | | | | | | 2 | | | 3 | 2.1% |
| 黒曜石 | 5 | | 1 | | 1 | 2 | | | | 9 | 6.2% |
| メノウ | | | | | 6 | 1 | | 1 | | 8 | 5.5% |
| 安山岩 | 1 | | 3 | | 1 | 4 | | 2 | 2 | 13 | 8.9% |
| 硬砂岩 | | | | | 1 | | | | | 1 | 0.7% |
| 凝灰岩 | | | | | | 2 | | 2 | | 4 | 2.7% |
| 緑色凝灰岩 | 1 | | | | | | | | | 1 | 0.7% |
| 黒色緻密質安山岩 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | | | 12 | 8.2% |
| ホルンフェルス | | | | | | | 2 | | | 2 | 1.4% |
| 合 計 | 25 | 4 | 10 | 5 | 54 | 17 | 23 | 6 | 2 | 146 | 100.0% |
| 数量比 | 17.1% | 2.7% | 6.8% | 3.4% | 37.0% | 11.6% | 15.8% | 4.1% | 1.4% | 100.0% | |

第30表 文化層全体ブロック別器種組成表

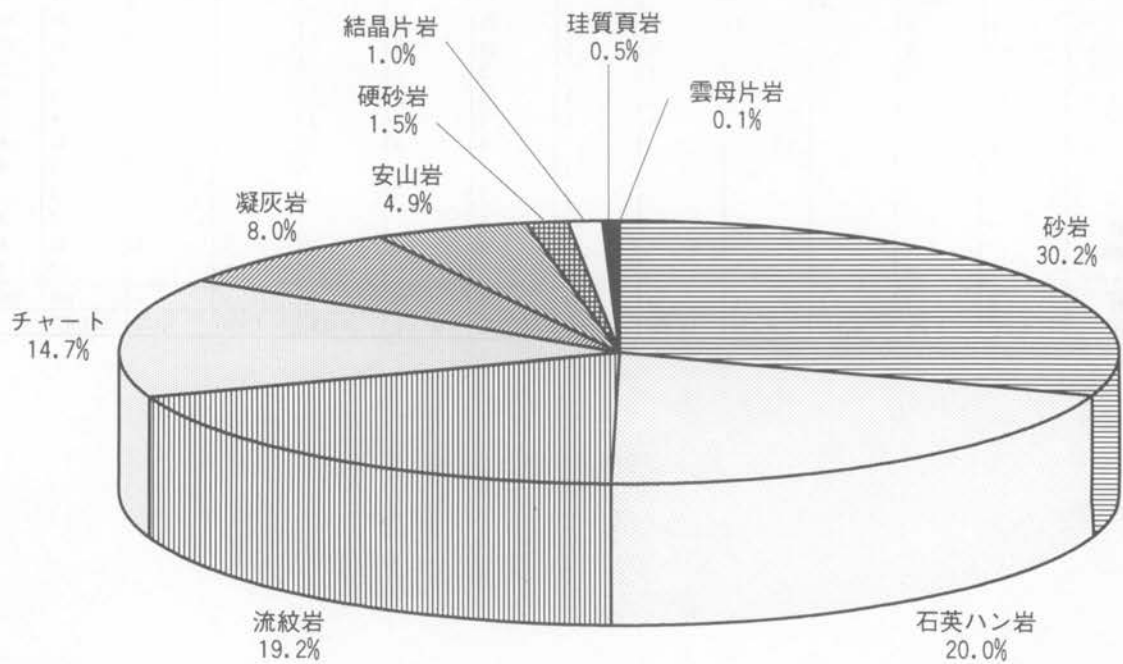
| 器 種 | ブロック | | | | | | | | | 合 計 | 組成比 (%) |
|--------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|--------|---------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | | |
| 尖頭器 | | | | | 1 | 2 | 1 | | | 4 | 2.7% |
| ナイフ形石器 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | | | 7 | 4.8% |
| 削器 | 1 | | | | | | | | | 1 | 0.7% |
| 彫器 | 1 | | | | | | | | | 1 | 0.7% |
| R剥片 | 4 | 1 | | 1 | 9 | 1 | 2 | 1 | | 19 | 13.0% |
| U剥片 | 2 | | 2 | 1 | 4 | 2 | 2 | 1 | | 14 | 9.6% |
| 剥片 | 13 | 1 | 5 | | 29 | 9 | 11 | 3 | 2 | 73 | 50.0% |
| 砕片 | 3 | 2 | 2 | 1 | 5 | 1 | 1 | | | 15 | 10.3% |
| 石核 | | | | 1 | 3 | | 4 | 1 | | 9 | 6.2% |
| 敲石 | | | | | 2 | | | | | 2 | 1.4% |
| 台石 | | | | | | | | 1 | | 1 | 0.7% |
| 合 計 | 25 | 4 | 10 | 5 | 54 | 17 | 23 | 6 | 2 | 146 | 100.0% |
| 数量比 | 17.1% | 2.7% | 6.8% | 3.4% | 37.0% | 11.6% | 15.8% | 4.1% | 1.4% | 100.0% | |

第31表 文化層全体石材別器種組成表

| 石 材 | 器 種 | | | | | | | | | | 合 計 | 数量比 (%) | |
|----------|------|--------|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|---------|--------|
| | 尖頭器 | ナイフ形石器 | 削器 | 彫器 | R剥片 | U剥片 | 剥片 | 砕片 | 石核 | 敲石 | | | 台石 |
| 頁岩 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0.7% |
| 珪質頁岩 | 2 | 3 | | 1 | 9 | 4 | 25 | 6 | | | | 50 | 34.2% |
| チャート | | 2 | | | 6 | 5 | 19 | 5 | 5 | | | 42 | 28.8% |
| 玉髄 | | | | | 1 | | 2 | | | | | 3 | 2.1% |
| 黒曜石 | | | | | | 1 | 5 | 3 | | | | 9 | 6.2% |
| メノウ | | | | | 3 | 1 | 3 | | 1 | | | 8 | 5.5% |
| 安山岩 | 2 | | | | | | 9 | 1 | 1 | | | 13 | 8.9% |
| 硬砂岩 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0.7% |
| 凝灰岩 | | | | | | | 2 | 2 | | | | 4 | 2.7% |
| 緑色凝灰岩 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 0.7% |
| 黒色緻密質安山岩 | | | | | | | 7 | | 2 | 2 | 1 | 12 | 8.2% |
| ホルンフェルス | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 1.4% |
| 合 計 | 4 | 7 | 1 | 1 | 19 | 14 | 73 | 15 | 9 | 2 | 1 | 146 | 100.0% |
| 組成比 | 2.7% | 4.8% | 0.7% | 0.7% | 13.0% | 9.6% | 50.0% | 10.3% | 6.2% | 1.4% | 0.7% | 100.0% | |



第44図 文化層全体出土礫石材別重量分布図

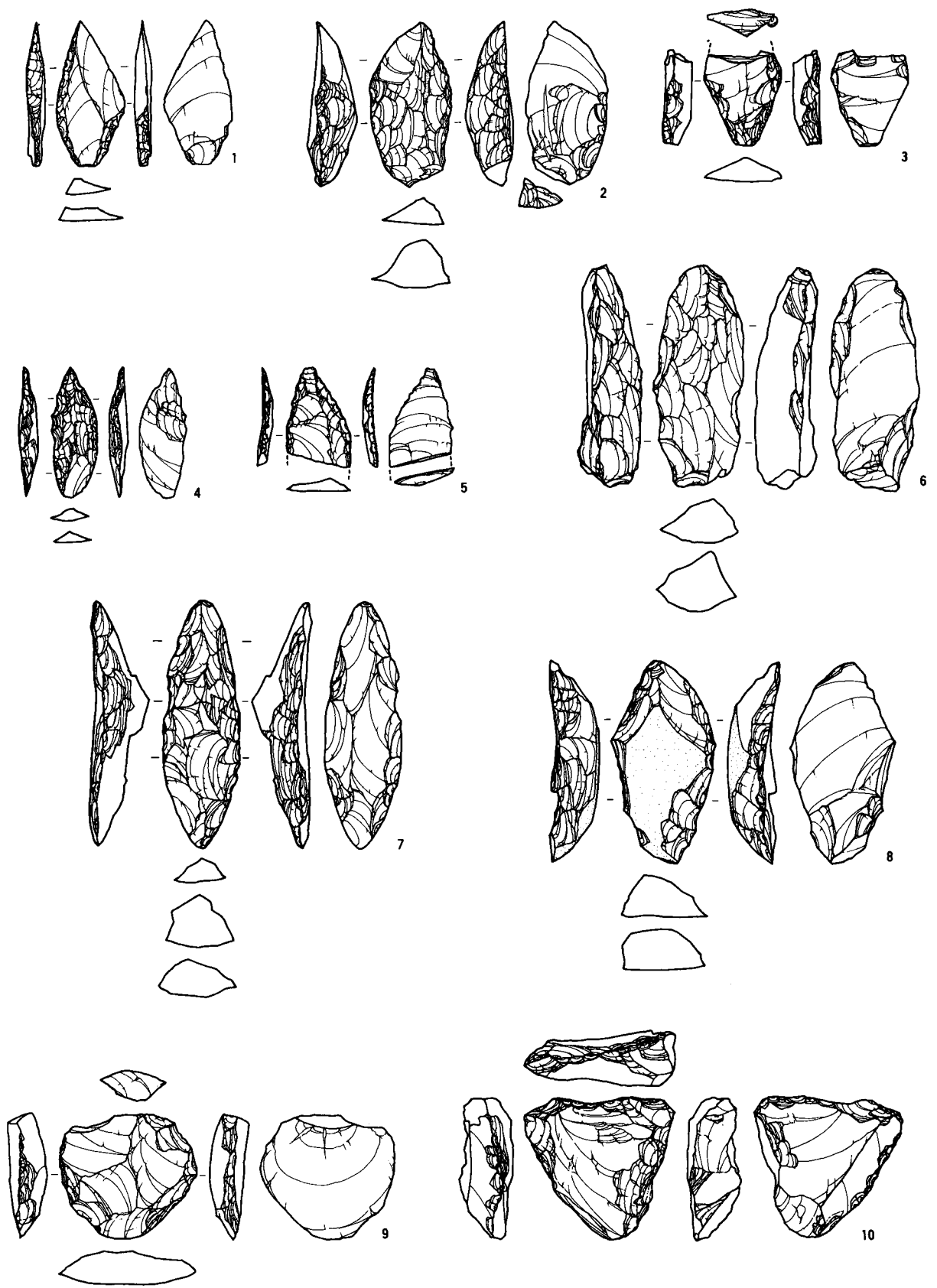


第45図 文化層全体出土礫石材別総重量割合

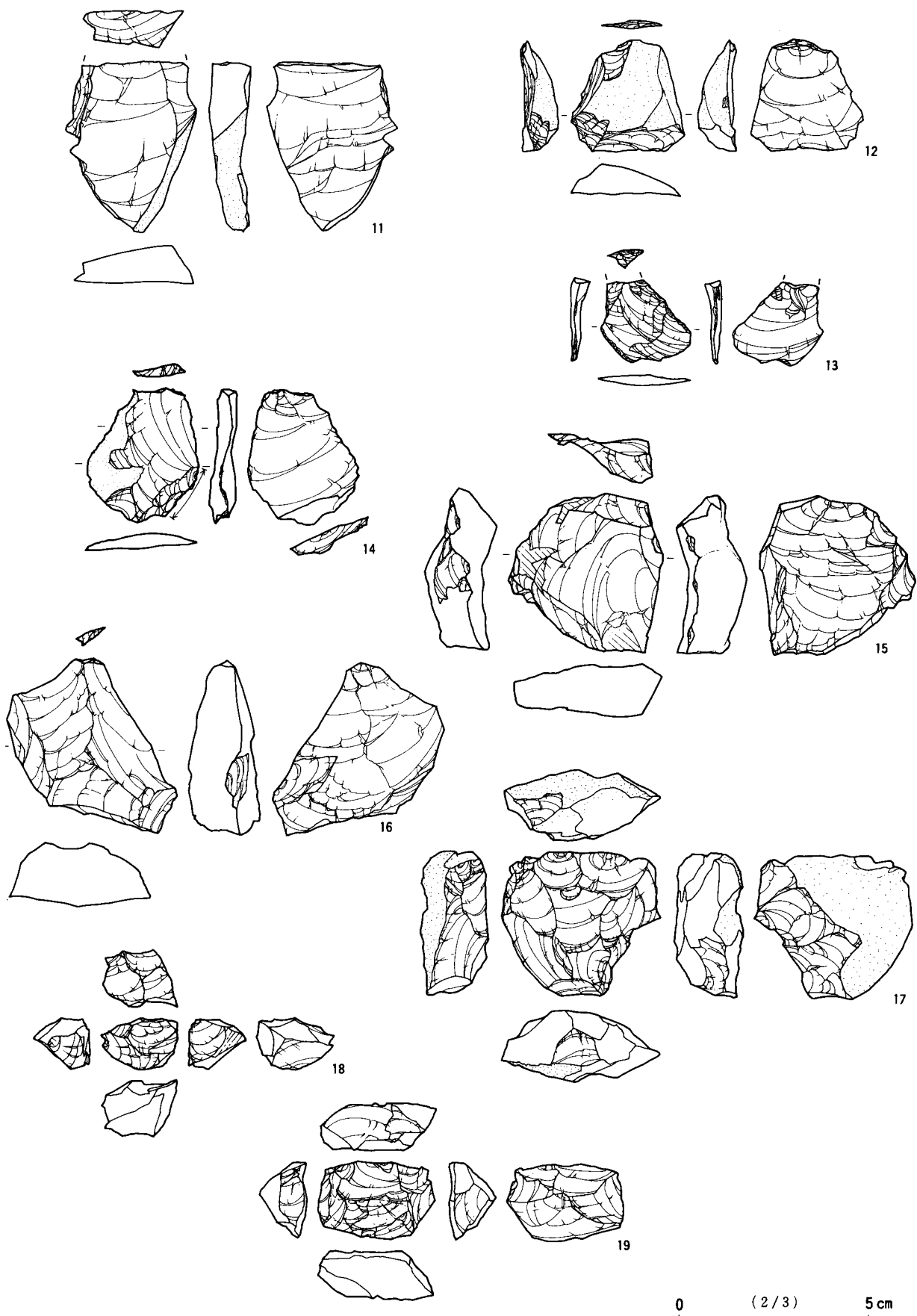
3 上層遺構出土遺物、表面採集遺物（第46・47図、図版10・11）

上層遺構及び表土からは礫を除いて全部で126点の石器が出土したが、そのうち97点が040溝状遺構及び042住居跡から出土している。被熱礫片なども出土していることから、この付近に規模の大きなブロックが存在した可能性は濃厚である。040溝状遺構の壁面はソフトロームと覆土の判別が難しかったという調査担当者のコメントもあり、ごく浅いところに存在したブロックを知らないうちに覆土一括にしてしまった可能性が強い。

1は珪質頁岩のナイフ形石器である。母岩は第1ブロック出土の珪質頁岩4に類似する。縦長剥片を素材として左側縁全面と右側縁基部寄りに二次加工を施す、いわゆる茂呂型ナイフ形石器である。2は珪質頁岩のナイフ形石器で、単独母岩である。白色を帯びた淡茶褐色を呈する硬質な石材で、不純物が若干混入する。打面、先端部とも残存し、左側縁の下半分は腹面背面両側から、右側縁は背面側から二次加工が施される。3は珪質頁岩のナイフ形石器で、先端部が欠損している。淡茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。縦長剥片を素材とし、両側縁背面側に連続した二次加工が施される。4はチャートの尖頭器である。母岩は第5ブロックのチャート15に類似する。縦長剥片を素材とし、両側縁背面側に連続して二次加工が施されるほか、一部腹面側にも剥離痕が観察される。5はチャートの尖頭器である。母岩は第5ブロックのチャート16に類似する。縦長剥片を素材とし、両側縁背面側に連続した二次加工が施される。6は石灰岩の尖頭器未成品で、単独母岩である。白色の硬質な石材である。縦長剥片を素材とし、両側縁背面側に二次加工を施す。右側縁基部側の加工が未了なため、未成品とした。7は安山岩の尖頭器未成品である。母岩は濃茶褐色を呈する硬質な石材である。他の安山岩より緻密でやや黒みを帯びている。両側縁とも背面側からの二次加工が顕著であるが、背面上に未成形な部分が残されているので未成品とした。8は安山岩のナイフ形石器である。濃茶褐色を呈する硬質な石材で、やや気泡が多くローム粒の混入が目立つ。両側縁背面側に二次加工が施されるほか、腹面基部寄りにも加工痕が観察される。9は安山岩の二次加工のある剥片である。母岩は濃茶褐色を呈する硬質な石材で、7と8の中間的な様相を呈する。打面と先端の一部を除いて全面に連続した二次加工が施される。10は玉髓の二次加工のある剥片で、単独母岩である。母岩は白色半透明の硬質な石材である。11は砂岩の二次加工のある剥片である。母岩は黒褐色を呈する硬質な石材で、気泡が目立つ。打面は折断されて存在しない。左側縁側に二次加工が施される。12はメノウの二次加工のある剥片で、単独母岩である。淡橙色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。左側縁部から先端部にかけて連続的な二次加工が施される。13はチャートの二次加工のある剥片である。母岩は青みを帯びた灰褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。打面部分には二次加工が施される。右側縁部と先端部に連続的な二次加工が施される。14はチャートの二次加工のある剥片である。右側縁先端寄りに連続した二次加工が施されるほか、微細な剥離痕も観察される。15はチャートの剥片である。母岩は第5ブロックの14に類似する。背面には右方向からの剥離痕が観察される。16はチャートの剥片である。母岩は薄い青みを帯びた淡灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。17はメノウの石核である。裏側の左方向から剥片剥離が行われた後、打面を転移して正面側で剥片剥離が行われている。18はチャートの石核である。母岩は濃茶褐色を呈する硬質な石材で、光沢をもつ。主要な作業面は正面のみと考えられる。19はチャートの石核である。茶色みを帯びた青灰褐色の硬質な石材で、光沢をもつ。裏面側で3方向からの剥片剥離が行われた後、正面側で主として上側から剥片剥離が行われている。



第46图 上层遺構出土石器実測図(1)



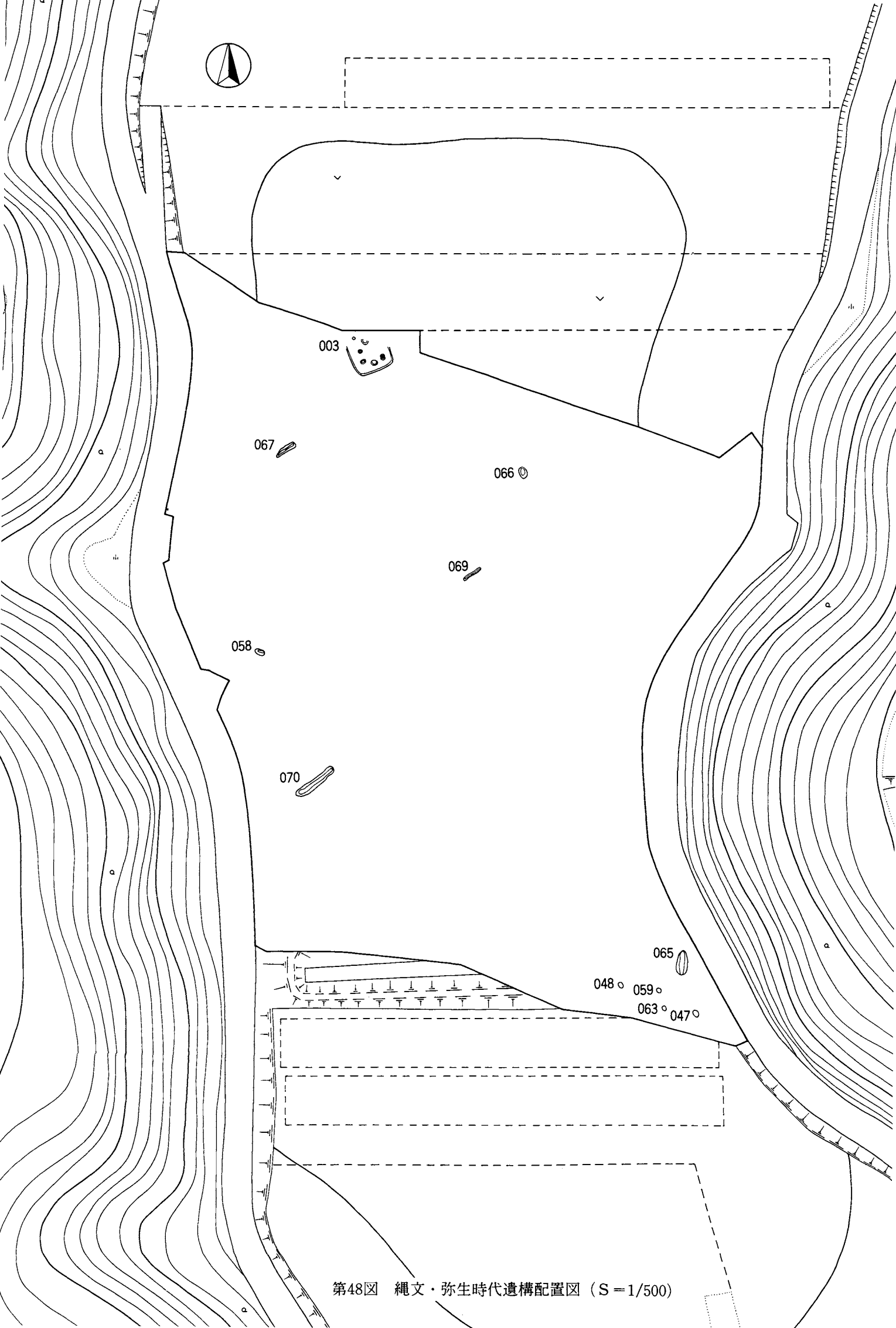
第47图 上層遺構出土石器実測図(2)

第32表 上層遺構出土・表面採集石器属性表(1)

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|--------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|-------------|----------|-----------|----------|--------|
| 1 | 042-0002 | 剝片 | 21.5×13.7× 2.7 | 0.7 | | - | - | - | IV | c | | H | 珪質頁岩 |
| 2 | 042-0002 | ナイフ形石器 | 42.6×21.1×12.8 | 9.9 | 2 | 多 | ○ | × | II、IV | d | 115 | | 珪質頁岩 |
| 3 | 040-0002 | 剝片 | 38.6×17.4× 4.9 | 3.8 | | 多 | × | × | I、II、III、IV | e | 100 | | 珪質頁岩 |
| 4 | 014-0005 | ナイフ形石器 | 37.6×17.5× 4.6 | 3.0 | 1 | 多 | ○ | × | I、IV | c | 95 | | 珪質頁岩 |
| 5 | 012-0001 | U剝片 | 26.8×18.0× 3.6 | 1.1 | | - | - | - | I、III、IV | d | | H | 珪質頁岩 |
| 6 | 042-0002 | U剝片 | 26.8×22.8× 5.5 | 2.2 | | 線 | × | ○ | I、II、III、IV | e | | | 珪質頁岩 |
| 7 | 042-0002 | 碎片 | 9.4×14.6× 1.0 | 0.2 | | 線 | × | × | I、II、IV | d | | | 珪質頁岩 |
| 8 | 042-0006 | R剝片 | 25.0×19.6× 6.2 | 3.2 | 8 | - | - | - | I | a | | H | 珪質頁岩 |
| 9 | 042-0031 | 剝片 | 19.0×13.0× 4.6 | 0.8 | | 線 | × | ○ | I、II、III | d | | | 珪質頁岩 |
| 10 | 042-0002 | U剝片 | 12.8×15.8× 2.0 | 0.4 | | 平 | × | ○ | I | a | | | 珪質頁岩 |
| 11 | 042-0002 | 剝片 | 17.0×14.4× 3.2 | 0.4 | | - | - | - | I、II、IV | d | | H | 珪質頁岩 |
| 12 | 042-0002 | 碎片 | 12.1×11.4× 4.0 | 0.4 | | 平 | × | × | I、IV | c | | | 珪質頁岩 |
| 13 | 042-0014 | 剝片 | 19.2×12.0× 2.8 | 0.7 | | - | - | - | I、IV | c | | H | 珪質頁岩 |
| 14 | 040-0002 | U剝片 | 15.3×25.7× 2.0 | 0.8 | | 多 | ○ | ○ | I | a | 115 | | チャート |
| 15 | 042-0002 | 碎片 | 15.3× 7.3× 4.6 | 0.4 | | 平 | × | × | I | a | | | チャート |
| 16 | 042-0005 | 碎片 | 8.9× 5.8× 2.9 | 0.1 | | - | - | - | I | a | | H | チャート |
| 17 | 042-0002 | 剝片 | 13.0×13.4× 4.4 | 0.7 | | - | - | - | I、III | b | | H | チャート |
| 18 | 001-109-0001 | 剝片 | 19.0×20.6× 2.5 | 0.8 | | 多 | ○ | ○ | I | a | 100 | | チャート |
| 19 | 042-0002 | 剝片 | 36.5×24.3×11.6 | 8.8 | | - | - | - | III、C | b | | H | チャート |
| 20 | 040-0002 | R剝片 | 26.3×11.8× 5.4 | 1.6 | | - | - | - | II、IV | d | | H | チャート |
| 21 | 040-0002 | R剝片 | 21.2×23.1× 4.0 | 1.7 | 14 | 多 | ○ | ○ | I | a | 100 | | チャート |
| 22 | 040-0002 | U剝片 | 21.7×22.4× 3.7 | 1.9 | | 多 | × | × | I、II | c | 105 | | チャート |
| 23 | 042-0022 | 碎片 | 12.2× 9.0× 1.8 | 0.2 | | 多 | ○ | × | I | a | 105 | | チャート |
| 24 | 042-0002 | U剝片 | 39.8×26.4× 4.5 | 4.0 | | 多 | × | × | I、III、C | b | 115 | | チャート |
| 25 | 003-0003 | 剝片 | 14.7×30.6× 7.0 | 2.4 | | 線 | × | ○ | I、II、IV | d | | | チャート |
| 26 | 042-0002 | 剝片 | 14.8×11.0× 2.8 | 0.5 | | 多 | ○ | × | I、II、IV | d | 110 | | チャート |
| 27 | 042-0002 | 碎片 | 14.7× 4.9× 3.6 | 0.2 | | 平 | × | × | I、II | c | | | チャート |
| 28 | 038-0002 | 剝片 | 20.6×23.8× 6.8 | 2.6 | | 平 | × | × | I、II、III | d | 120 | | チャート |
| 29 | 042-0002 | 碎片 | 22.5× 7.4× 3.5 | 0.5 | | - | - | - | I、II、III、IV | e | | H | チャート |
| 30 | 040-0002 | R剝片 | 39.0×41.0×14.8 | 29.1 | 16 | 多 | × | × | III | c | 80 | | チャート |
| 31 | 040-0002 | 尖頭器 | 32.8×11.4× 4.9 | 1.9 | 4 | - | - | - | | | | H | チャート |
| 32 | 040-0010 | 尖頭器 | 25.8×15.8× 2.7 | 1.3 | 5 | - | - | - | | | | H | チャート |
| 33 | 040-0002 | 剝片 | 17.2×18.7× 7.1 | 2.3 | | 平 | × | × | I、IV | c | 80 | | チャート |
| 34 | 040-0002 | 剝片 | 19.1×17.1× 5.0 | 1.6 | | 平 | × | ○ | I | a | 70 | | チャート |
| 35 | 040-0002 | 剝片 | 14.6×14.2× 4.6 | 1.0 | | - | - | - | I、II | c | | H | チャート |
| 36 | 040-0002 | 剝片 | 51.9×43.7×15.9 | 24.7 | | 平 | × | × | II、IV | d | 70 | | チャート |
| 37 | 042-0002 | 剝片 | 21.9×21.3× 7.7 | 2.6 | | 平 | × | × | I、III、IV | d | 100 | | チャート |
| 38 | 040-0002 | 剝片 | 25.0×17.0× 8.3 | 3.3 | | 多 | × | × | I、II | c | 95 | | チャート |
| 39 | 042-0002 | 剝片 | 14.0×17.7× 4.8 | 1.4 | | 線 | × | × | I | a | | | チャート |
| 40 | 042-0002 | 剝片 | 17.4×15.2× 3.4 | 0.8 | | 平 | × | ○ | I | a | 115 | | チャート |
| 41 | 042-0002 | 剝片 | 19.2×16.3× 4.2 | 0.9 | | 平 | × | × | I、II | c | 70 | | チャート |
| 42 | 042-0002 | 碎片 | 7.1×11.8× 4.5 | 0.3 | | 多 | × | × | I | a | 105 | | チャート |
| 43 | 042-0002 | R剝片 | 45.5×45.0×19.0 | 30.0 | 15 | 多 | × | × | I、II、IV | d | | | チャート |
| 44 | 042-0019 | 剝片 | 41.6×21.7×14.6 | 10.3 | | 多 | × | ○ | I、II、III | d | 130 | | チャート |
| 45 | 042-0002 | 石核 | 12.5×18.6×14.0 | 3.3 | 17 | | | | | | | | チャート |
| 46 | 013-0001 | U剝片 | 24.3×18.6× 5.8 | 2.8 | | 線 | × | × | I、C | a | | | チャート |
| 47 | 031-0001 | 碎片 | 15.1×10.9× 2.0 | 0.4 | | 線 | × | × | C | a | | | チャート |
| 48 | 014-0006 | 剝片 | 19.0×27.6× 7.9 | 4.4 | | 多 | × | × | I、III、C | b | 100 | | チャート |
| 49 | 049-0001 | R剝片 | 36.0×27.6× 5.8 | 5.2 | 13 | 多 | × | × | I、C | a | 115 | | チャート |
| 50 | 042-0002 | 剝片 | 27.2×14.1× 4.9 | 1.6 | | 多 | ○ | × | III、IV、C | d | 105 | | チャート |
| 51 | 040-0002 | 碎片 | 9.5×20.9× 4.2 | 0.7 | | 線 | × | × | III、C | b | | | チャート |
| 52 | 040-0002 | 剝片 | 19.5×26.7× 7.9 | 3.1 | | 多 | × | × | II、IV | d | 130 | | チャート |
| 53 | 040-0002 | 剝片 | 19.5×20.3× 4.5 | 1.8 | | 線 | × | ○ | I、IV | d | | | チャート |
| 54 | 042-0002 | 碎片 | 13.7×16.6×10.4 | 1.4 | | 平 | × | × | I | a | 85 | | チャート |
| 55 | 040-0002 | 碎片 | 14.5×20.2× 2.2 | 0.6 | | 多 | × | ○ | I、II | c | 110 | | チャート |
| 56 | 040-0002 | 碎片 | 17.7×15.5× 2.6 | 0.7 | | 線 | × | ○ | I、II | c | | | チャート |
| 57 | 042-0002 | U剝片 | 17.4×21.5× 5.5 | 2.3 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 80 | | チャート |
| 58 | 042-0002 | 剝片 | 19.2×21.5× 4.3 | 1.5 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 85 | | チャート |
| 59 | 040-0002 | 剝片 | 29.7×48.2× 9.9 | 14.2 | | - | - | - | II、IV | d | | H | チャート |
| 60 | 040-0002 | 剝片 | 45.3×22.8×20.8 | 11.9 | | 平 | × | × | I、IV | c | 95 | | チャート |
| 61 | 040-0002 | 剝片 | 19.5×19.5× 6.7 | 1.6 | | 平 | × | ○ | I | a | 130 | | チャート |
| 62 | 040-0001 | U剝片 | 43.9×40.8×11.7 | 20.0 | | 平 | × | × | I、II、IV | d | 80 | | チャート |
| 63 | 040-0002 | 剝片 | 33.2×28.0×14.0 | 12.2 | | 多 | ○ | × | I、II、IV | d | 120 | | チャート |
| 64 | 040-0002 | 剝片 | 36.2×24.6× 6.2 | 6.0 | | 多 | ○ | × | I | a | 110 | | チャート |
| 65 | 040-0002 | 剝片 | 37.8×30.1×13.3 | 8.1 | | 多 | × | × | II | c | 110 | | チャート |
| 66 | 040-0002 | 剝片 | 22.6×21.8× 6.1 | 2.8 | | 多 | ○ | × | I、IV | c | 100 | | チャート |

第33表 上層遺構出土・表面採集石器属性表(2)

| No. | 遺物番号 | 器種 | 長さ×幅×厚さ (mm) | 重量 (g) | 図版 番号 | 打面 種類 | 打面 調整 | 頭部 調整 | 背面構成 | 背面 類型 | 打角 (°) | 折面 部位 | 石 材 |
|-----|--------------|--------|-----------------|-----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|-----------|----------|------|
| 67 | 040-0002 | 剥片 | 20.2×14.0×3.0 | 0.7 | | — | — | — | I、II | c | | H | チャート |
| 68 | 042-0002 | 碎片 | 14.9×10.6×6.1 | 0.9 | | — | × | × | II | c | 110 | | チャート |
| 69 | 042-0024 | 剥片 | 21.7×23.7×3.8 | 2.2 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 115 | | チャート |
| 70 | 042-0002 | 剥片 | 23.0×36.6×6.7 | 5.5 | | 平 | × | × | I | a | 110 | | チャート |
| 71 | 040-0002 | R剥片 | 27.2×29.8×7.2 | 5.0 | | — | — | — | II | c | | H | チャート |
| 72 | 040-0001 | 剥片 | 18.3×39.0×9.0 | 7.0 | | 多 | × | × | I、III、IV | d | 135 | | チャート |
| 73 | 040-0006 | 剥片 | 12.9×13.1×3.0 | 0.6 | | 線 | × | × | I、II、III | d | | | チャート |
| 74 | 052-0003 | 剥片 | 16.2×23.0×4.4 | 1.5 | | 多 | × | × | IV | c | 95 | | チャート |
| 75 | 042-0002 | 剥片 | 52.1×25.7×12.8 | 13.4 | | C | × | × | I | a | 100 | | チャート |
| 76 | 040-0002 | 剥片 | 29.9×24.4×5.8 | 4.3 | | 平 | × | × | I、II、III | d | 105 | | チャート |
| 77 | 040-0002 | 碎片 | 16.2×12.0×6.3 | 0.9 | | 平 | × | × | I | a | 95 | | チャート |
| 78 | 012-0067 | R剥片 | 29.8×29.8×8.5 | 7.1 | 12 | 線 | × | × | I、III、C | b | | | メノウ |
| 79 | 040-0002 | 剥片 | 25.0×17.3×4.6 | 1.9 | | 多 | ○ | × | I、IV | c | 95 | | メノウ |
| 80 | 040-0002 | 剥片 | 16.7×19.6×2.4 | 0.7 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 95 | | メノウ |
| 81 | 001-045-0001 | 石核 | 37.8×41.2×17.5 | 25.3 | 18 | | | | | | | | メノウ |
| 82 | 表面採集 | R剥片 | 24.9×20.6×15.9 | 7.2 | | 線 | × | ○ | I、C | a | | | メノウ |
| 83 | 014-0001 | 石核 | 36.1×38.7×13.1 | 18.4 | 10 | | | | | | | | 玉髓 |
| 84 | 037-0002 | U剥片 | 17.8×22.7×15.3 | 5.6 | | 線 | × | ○ | I、II、C | c | | | 玉髓 |
| 85 | 062-0001 | 碎片 | 21.2×9.7×6.8 | 1.4 | | 線 | × | × | I、II | c | | | 玉髓 |
| 86 | 036-0002 | U剥片 | 27.1×14.7×6.5 | 1.9 | | — | — | — | I、II | c | | H | 黒曜石 |
| 87 | 065-0016 | 剥片 | 23.6×13.1×2.5 | 0.7 | | 多 | ○ | × | I、II、IV | d | 110 | | 黒曜石 |
| 88 | 042-0007 | 碎片 | 13.6×14.9×1.1 | 0.2 | | — | — | — | II、IV | d | | H | 黒曜石 |
| 89 | 040-0002 | 碎片 | 20.0×8.0×4.2 | 0.5 | | 点 | × | × | II、III | d | | | 黒曜石 |
| 90 | 042-0002 | 碎片 | 17.7×16.0×1.5 | 0.2 | | 平 | × | × | II、IV | d | | | 黒曜石 |
| 91 | 042-0002 | 碎片 | 9.6×14.2×1.6 | 0.2 | | 平 | × | ○ | I、II | c | 120 | | 黒曜石 |
| 92 | 065-0015 | 碎片 | 10.1×9.5×3.0 | 0.2 | | 線 | × | × | I、IV | c | | | 黒曜石 |
| 93 | 042-0023 | 碎片 | 10.4×9.5×1.8 | 0.2 | | 多 | × | ○ | I、II | c | 110 | | 黒曜石 |
| 94 | 042-0002 | 碎片 | 8.9×7.6×0.9 | 0.1 | | 点 | × | × | I | a | | | 黒曜石 |
| 95 | 042-0030 | 碎片 | 7.9×8.0×0.7 | 0.1 | | 点 | × | ○ | I、IV | c | | | 黒曜石 |
| 96 | 042-0028 | 尖頭器 | 62.8×20.0×13.3 | 13.7 | 7 | | | | | | | | 安山岩 |
| 97 | 042-0001 | ナイフ形石器 | 51.9×26.3×11.0 | 17.7 | 8 | 平 | × | × | C | a | 145 | | 安山岩 |
| 98 | 052-0003 | R剥片 | 31.7×34.3×8.9 | 11.0 | 9 | 平 | × | ○ | I、III | b | 115 | | 安山岩 |
| 99 | 001-109-0001 | 剥片 | 53.3×40.9×16.5 | 35.8 | | C | × | × | II、C | c | 85 | | 安山岩 |
| 100 | 015-0001 | 剥片 | 31.1×31.0×13.8 | 17.8 | | — | — | — | II、C | c | | H | 安山岩 |
| 101 | 040-0013 | 剥片 | 33.0×30.8×7.9 | 9.5 | | 平 | × | × | I、IV | c | 110 | | 安山岩 |
| 102 | 042-0002 | 剥片 | 25.5×19.7×8.9 | 3.8 | | — | — | — | I | a | | H | 安山岩 |
| 103 | 042-0002 | 剥片 | 16.0×19.6×2.6 | 1.0 | | 平 | × | × | II、III | d | 135 | | 安山岩 |
| 104 | 052-0003 | 剥片 | 13.7×25.5×3.7 | 1.2 | | 線 | × | × | I、II | c | | | 安山岩 |
| 105 | 042-0002 | 碎片 | 15.4×16.0×6.7 | 1.1 | | — | — | — | I、II | c | | H | 安山岩 |
| 106 | 040-0013 | 碎片 | 11.1×20.4×2.4 | 0.6 | | 平 | × | ○ | I | a | 115 | | 安山岩 |
| 107 | 表面採集 | 剥片 | 33.6×24.0×9.0 | 9.1 | | — | — | — | I、III、IV、C | d | | H | 安山岩 |
| 108 | 040-0001 | R剥片 | 45.7×33.9×9.7 | 17.4 | 11 | — | — | — | I、IV | c | | H | 安山岩 |
| 109 | 表面採集 | 剥片 | 22.2×24.4×3.9 | 2.4 | | 多 | ○ | × | I | a | 85 | | 安山岩 |
| 110 | 030-0001 | 尖頭器 | 56.0×22.9×16.0 | 21.6 | 6 | 平 | × | × | III、IV | d | 120 | | 石灰岩 |
| 111 | 001-0013 | 剥片 | 25.9×26.3×5.6 | 3.3 | | 多 | × | × | I | a | 120 | | 凝灰岩 |
| 112 | 038-0001 | 磨石 | 27.4×14.5×7.6 | 3.4 | | | | | | | | | 緑泥片岩 |
| 113 | 042-0002 | 剥片 | 35.0×25.2×8.3 | 8.2 | | 多 | ○ | ○ | I、IV | c | 120 | | チャート |
| 114 | 040-0002 | 剥片 | 20.0×29.3×8.3 | 5.9 | | 平 | × | × | I、IV | c | 80 | | チャート |
| 115 | 001-043-0001 | 剥片 | 32.2×21.5×12.2 | 7.4 | | 多 | × | × | II | c | 90 | | チャート |
| 116 | 042-0032 | 剥片 | 27.5×21.7×10.7 | 6.3 | | 平 | × | × | I | a | 100 | | チャート |
| 117 | 042-0002 | 剥片 | 33.8×12.7×5.8 | 2.2 | | — | — | — | I | a | | H | チャート |
| 118 | 042-0002 | 剥片 | 28.5×15.5×5.4 | 1.8 | | — | — | — | I、IV | c | | H | チャート |
| 119 | 040-0003 | 碎片 | 15.0×11.1×1.3 | 0.3 | | — | — | — | I、IV | c | | H | チャート |
| 120 | 042-0002 | 剥片 | 31.4×27.9×8.6 | 7.7 | | 平 | × | ○ | I | a | 110 | | チャート |
| 121 | 042-0002 | 石核 | 20.0×30.9×11.8 | 7.5 | 19 | | | | | | | | チャート |
| 122 | 042-0002 | 剥片 | 34.0×16.0×5.7 | 2.8 | | 多 | ○ | × | I | a | 115 | | チャート |
| 123 | 042-0002 | 剥片 | 20.1×23.5×10.8 | 3.9 | | 多 | × | × | I、IV | c | 110 | | チャート |
| 124 | 042-0029 | 剥片 | 19.4×18.9×9.4 | 2.6 | | 平 | × | × | I、IV | c | 80 | | チャート |
| 125 | 040-0002 | U剥片 | 15.7×13.6×2.1 | 0.6 | | 線 | × | × | I、II、IV | d | | | チャート |
| 126 | 040-0002 | 碎片 | 8.3×9.3×8.0 | 0.5 | | 多 | × | × | I | a | 20 | | チャート |



第48図 縄文・弥生時代遺構配置図 (S = 1/500)

第2節 縄文・弥生時代

1 概観

縄文時代の遺構は焼土土坑4基、陥穴6基が検出されている。焼土土坑は調査区南東側に集中して検出されているが、陥穴は調査区全体に散在し、はっきりとしたまとまりはみられない。遺物はいずれも表土出土あるいは後世の遺構から出土したもので、焼土土坑ないし陥穴から出土したものはない。また、耕作による攪乱も著しいため、包含層も残存していない。

弥生時代の遺構は、調査区北東部から後期の竪穴住居跡が1棟検出されている。また、表土中からも遺物がややまとまって出土しているほか、大型蛤刃石斧の未製品も出土しており、調査区域外に弥生時代の集落が存在する可能性が強い。

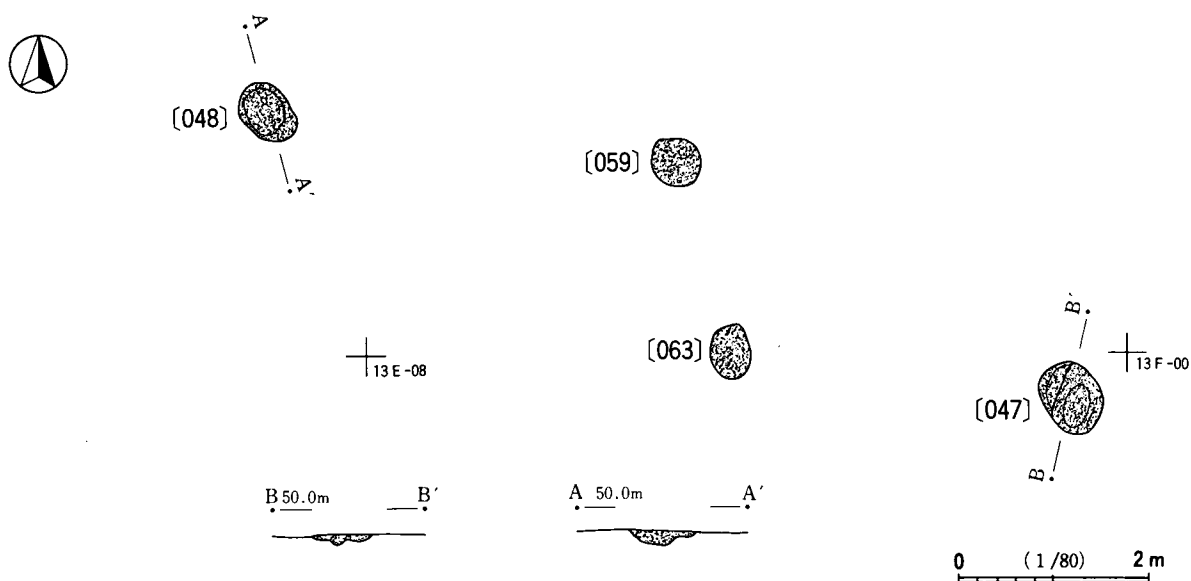
2 縄文時代の遺構、遺物

047、048、059、063焼土土坑（第49図、図版13）

いずれもよく似た状況を呈する焼土土坑である。047は12E-98区に、048は12E-97区に、059は13E-08区に、063は13E-09区にそれぞれ位置する。直径が40cm～60cm前後、深さが10cm～20cm前後と浅い。断面は浅い皿状を呈し、覆土はほとんど焼土である。出土遺物がないためはっきりとした時期決定はできないが、似たような形状の遺構は縄文時代早期に多く見られること、ローム層上面の削平が著しく判断が難しいものの、炉穴の下部である可能性も考えられることから、縄文時代のものとしみなした。遺物の出土はない。

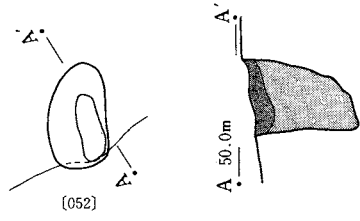
058陥穴（第50図）

12E-07区に位置するもので、052溝状遺構に切られている。長軸を北西-南東に向けており、長軸1.12m、短軸0.7m、確認面からの深さ0.96mの楕円形である。確認面上から底部に向かってなだらかに壁が下

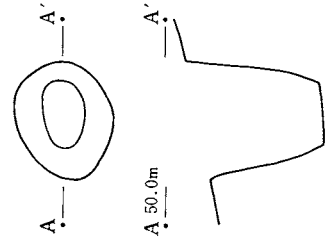


第49図 焼土土坑実測図

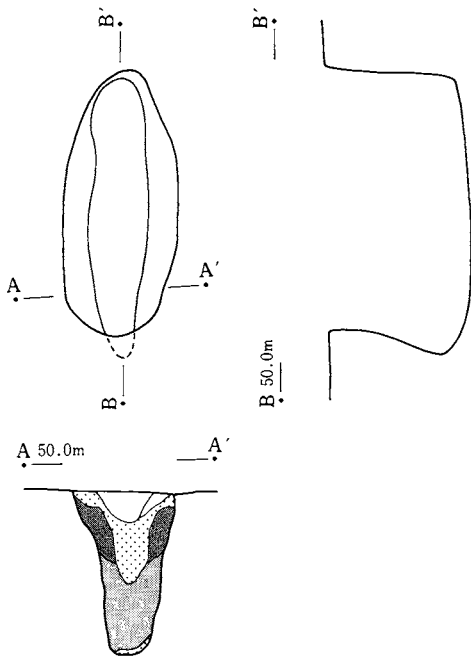
[058]



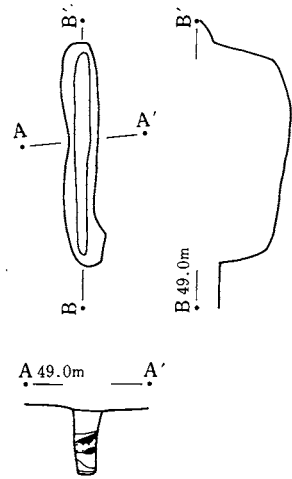
[066]



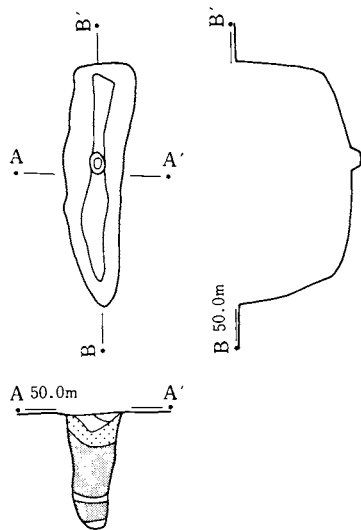
[065]



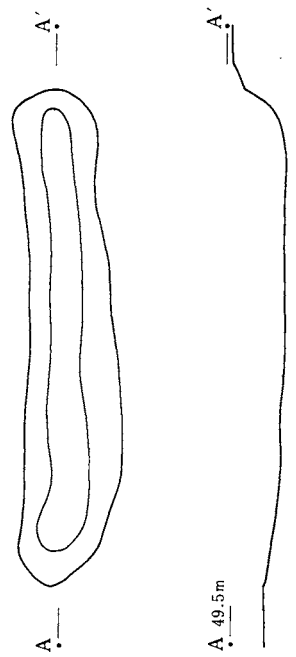
[069]



[067]



[070]



0 (1/80) 2m

第50图 陷穴实测图

りる形状をなしており、底部も平らではない。遺物の出土はない。

065陥穴（第50図、図版13）

12E-89・99区に位置する。長軸を南北に向けており、長軸2.80m、短軸1.20m、確認面からの深さ1.54mの長楕円形である。底面は長軸方向に袋状に広がっている。遺物の出土はない。

066陥穴（第50図）

11E-54・55区に位置するもので、038中世土坑に切られている。長軸を南北に向けており、長軸1.28m、短軸1.00m、確認面からの深さ1.43mの正円に近い楕円形である。底面は隅丸長方形で、長軸1.12m、短軸0.84mである。土層セクションの実測は行わなかったが、覆土はソフトローム状の土で、最上部から最下部まで目立った違いはみられないことが観察された。遺物の出土はない。

067陥穴（第50図）

11D-48区に位置する。長軸を北東-南西に向けている。014住居跡に切られている。長軸は1.92m、短軸は0.84m、014床面からの深さは1.20mの長楕円形である。底面は中央部に向かってすり鉢状に傾斜しており、中央部に直径20cm、深さ13cmほどの小さいピットが検出されている。遺物の出土はない。

069陥穴（第50図、図版13）

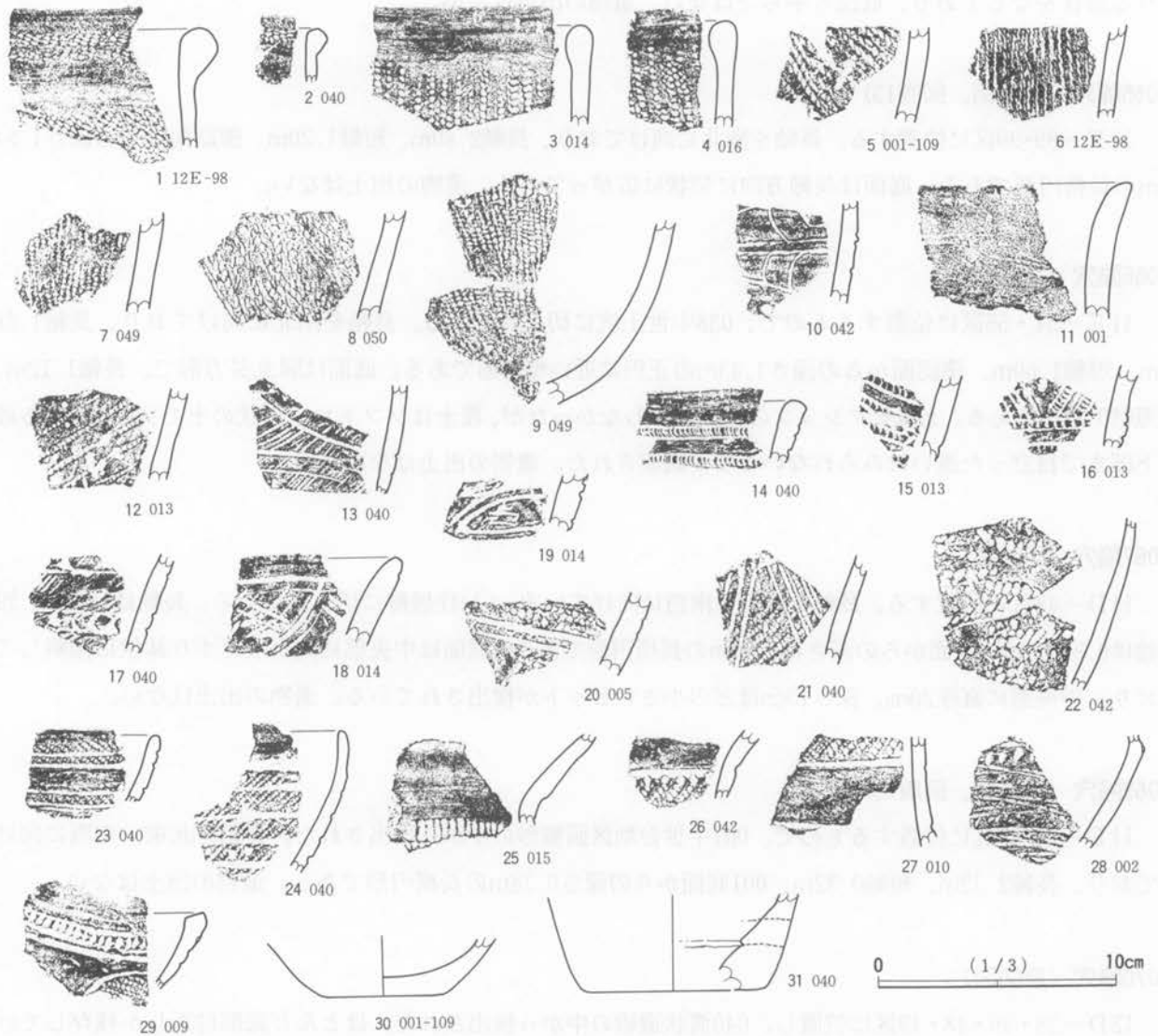
11E-73・83区に位置するもので、001中世台地区画整形の中から検出された。長軸を北東-南西に向けており、長軸2.32m、短軸0.32m、001底面からの深さ0.78mの長楕円形である。遺物の出土はない。

070陥穴（第50図）

12D-38・39・48・49区に位置し、040溝状遺構の中から検出された。ほとんど底部付近しか残存していないが、長軸2.56m、短軸0.44m、040底面からの深さ0.17mの長楕円形である。長軸を北東-南西に向けている。040は確認面からの深さが約0.5mなので、この陥穴の実際の深さは0.8mほどと思われる。遺物の出土はない。

グリッド等出土土器（第51図、図版13）

1、2は口唇部が大きく外反する撚糸文土器である。口唇部に斜行縄文が施文され、胴部には縄文が施される。口唇直下は横ナデが顕著である。井草Ⅰ式である。3、4は口唇部がほぼ直立し、若干内側に肥厚するもので、口唇直下が無文となり、胴部には縦方向のまばらな撚糸文が施される。口唇上から内面にかけてミガキが施される。稻荷台式である。5～9は撚糸文土器の胴部破片である。いずれも縦ないしは斜め方向に撚糸文が密に施文されるもので、夏島式に相当すると考えられる。8の内面には煤が多量に付着している。9は底部付近で、外面は熱による剥落が目立つ。10は田戸上層式の破片である。11は胎土に少量の繊維が混入する無文土器である。条痕文の時期に相当すると考えられる。12、13は撚糸文を地文とするもので、13には沈線が施される。胎土には繊維が混入する。前期黒浜式である。14～19は竹管文を主体とするもの。14～17は連続爪形文を主体とするもので、14は口縁に沿って2条施される。15、16は幾何

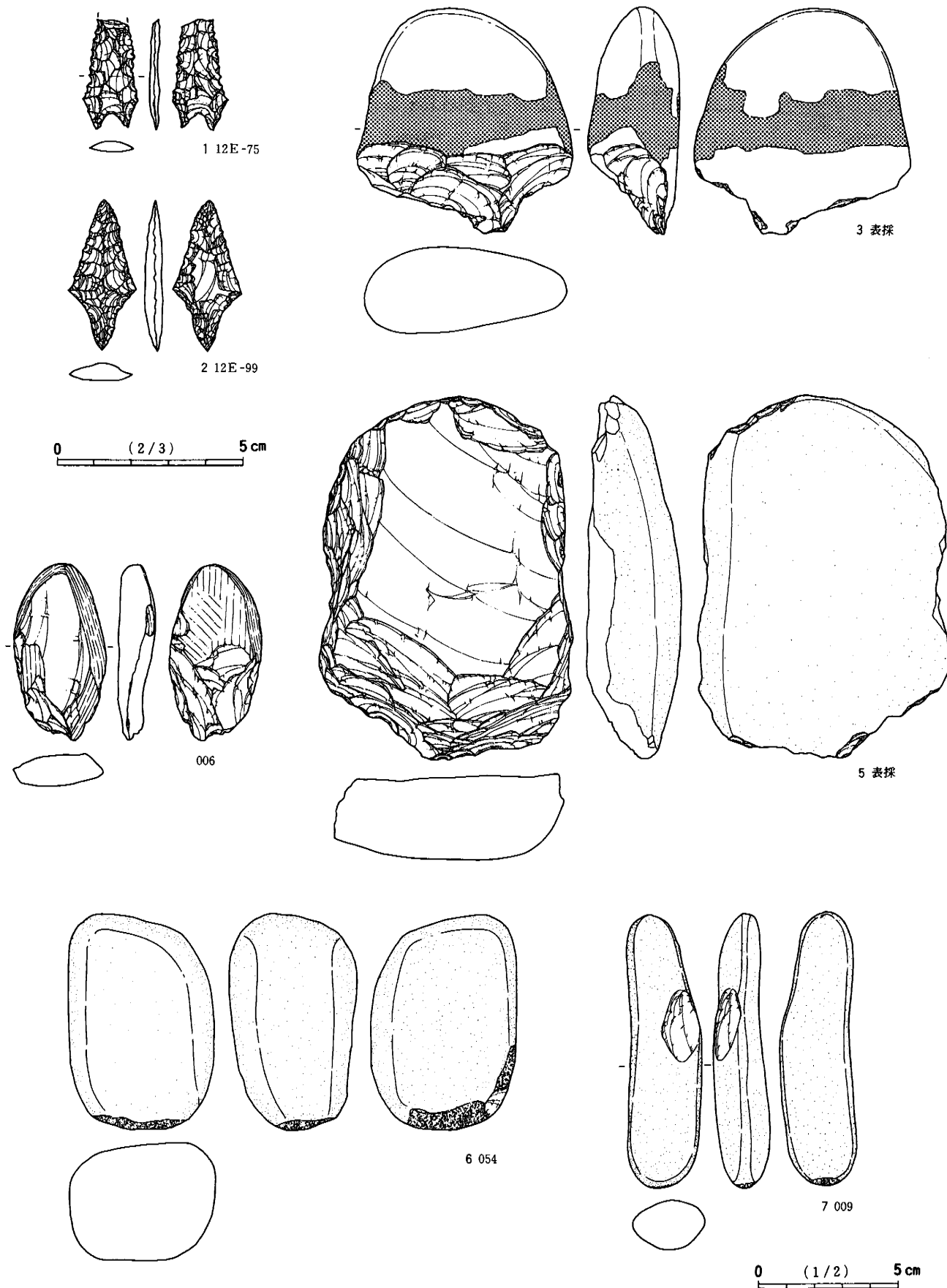


第51図 グリッド等出土縄文土器拓影図

学的に施文されるものである。17は撚糸文を地文として、半截竹管による平行沈線とまばらな連続爪形文とを組み合わせるもの。18、19は半截竹管による沈線のみが施されるもの。これらは前期浮島I式である。20～22は縄文を地文とするもので、20、21は縦方向の沈線と縄文とが組み合わせられる。これらは後期堀之内式期に属する。23、24は口縁部破片で、縄文地文と沈線を組み合わせ、磨消縄文の技法が観察される。25、26は深鉢のくびれ部の破片で連続刺突が観察される。27は胴部破片で、やはり磨消縄文が観察される。28は粗製深鉢の胴部で、連続刺突の下部に縄文と条線が観察される。これらは後期加曾利B式である。29は口縁部破片で、キザミを持つ平行沈線と、弧状の磨消縄文が観察される。加曾利B3式もしくは曾谷式である。30、31は無文の深鉢底部である。

グリッド等出土石器 (第52図、図版13、14)

1、2は石鏃である。1は両側に三角形の脚を持つもので、安山岩製である。長さ32.0mm、幅15.0mm、厚さ3.0mm、重さ11.1gである。2は中茎を持つものである。長さ40.0mm、幅17.5mm、厚さ5.0mm、重さ23.1gである。チャート製である。3は装着痕がある打製石斧である。長さ82.0mm、幅78.0mm、厚さ33.0mm、重



第52図 グリッド等出土縄文時代石器実測図

さ234.6gである。刃部の剝離は片側に集中している。砂岩製である。4は磨製石斧の未製品である。長さ63.5mm、幅33.5mm、厚さ12.5mm、重さ35.6gである。図の左右から大きく剝離を加えて大まかな整形をし、下側から細かい剝離を加えて刃部を整えている。周縁部に研磨を加えているが、整形は途中で終わっている。緑泥片岩製である。5は大型の打製石斧である。長さ130.0mm、幅91.0mm、厚さ34.0mm、重さ515.6gである。裏側に自然面を残す大型の扁平な剝片を利用して、刃部を片側に作り出している。チャート製である。5は敲石である。長さ77.0mm、幅47.0mm、厚さ45.5mm、重さ293.8gである。先端部に著しい敲打痕が観察される。石英ハン岩製である。6は敲石である。長さ98.5mm、幅27.0mm、厚さ20.0mm、重さ63.6gである。先端に敲打痕が観察されるが、それほど強いものではない。チャート製である。

3 弥生時代の遺構、遺物

003竪穴住居跡（第53図、図版14）

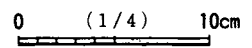
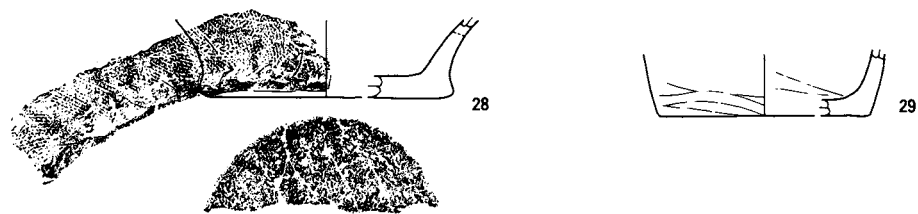
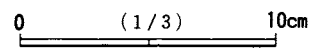
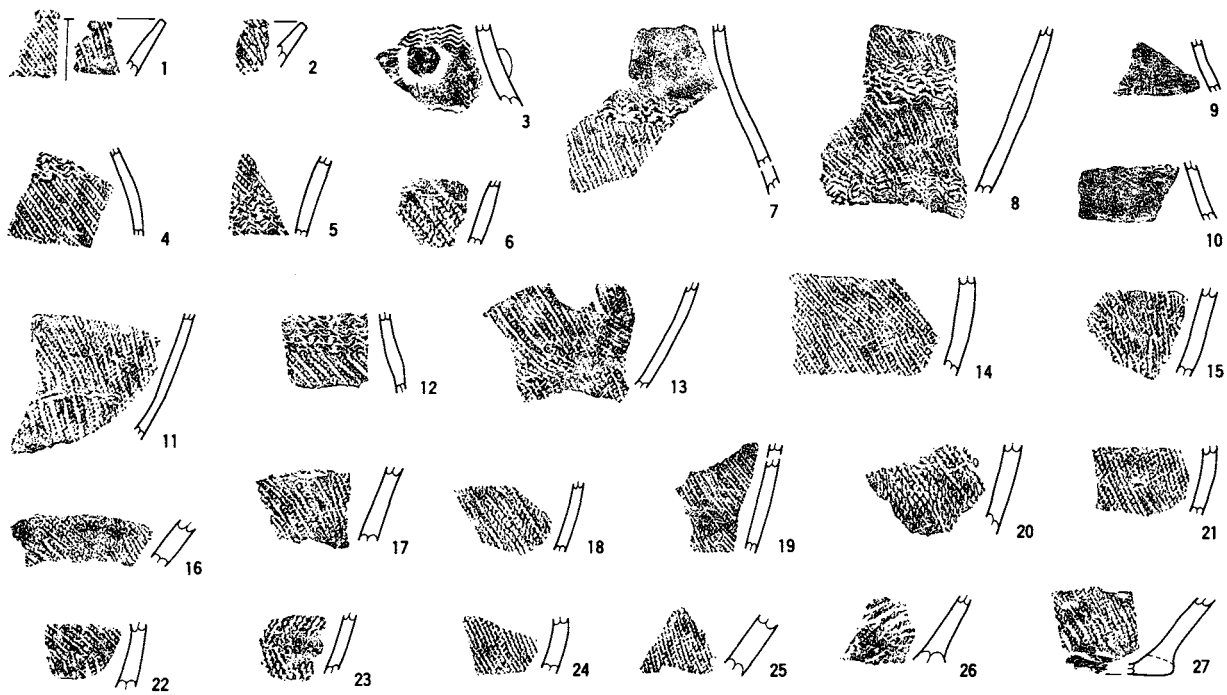
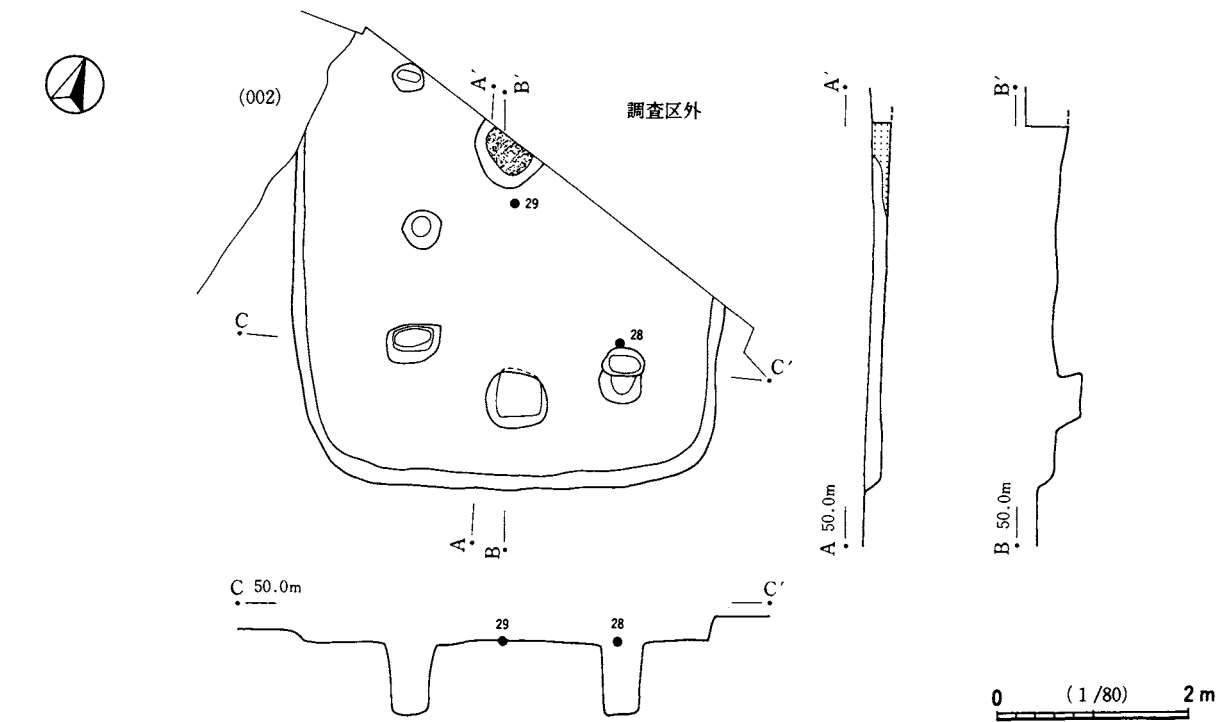
（遺 構）11D-19、11E-10・11・20・21区に位置する。

北東側約3分の1が調査区外になり、また、002住居跡に切られる。そのためはっきりとした規模は不明であるが、主軸長は約6.0m、横軸長は約4.6mの隅丸方形で、主軸方向はN-22°-Wである。確認面から床面までの深さは8cm~24cmである。炉は半分調査区外にかかっているが、約0.9m×0.8m×0.03mの不整形円形である。周溝は検出されない。支柱穴は3本検出され、掘方は28cmないし40cm×32cmないし52cmの長方形である。深さは68cm~72cmほどである。南壁中央近くに梯子穴が存在する。床面は全体に平坦で堅牢である。床面積は不明である。

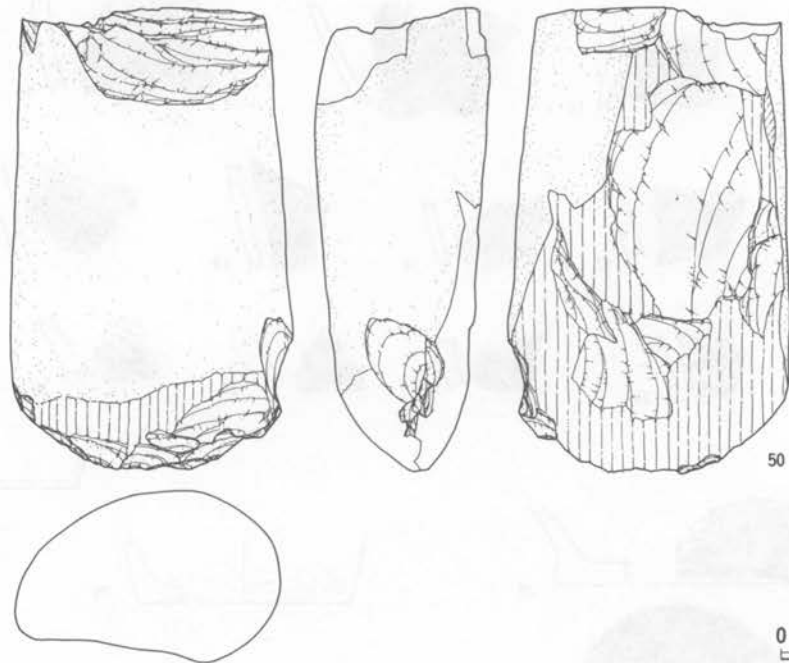
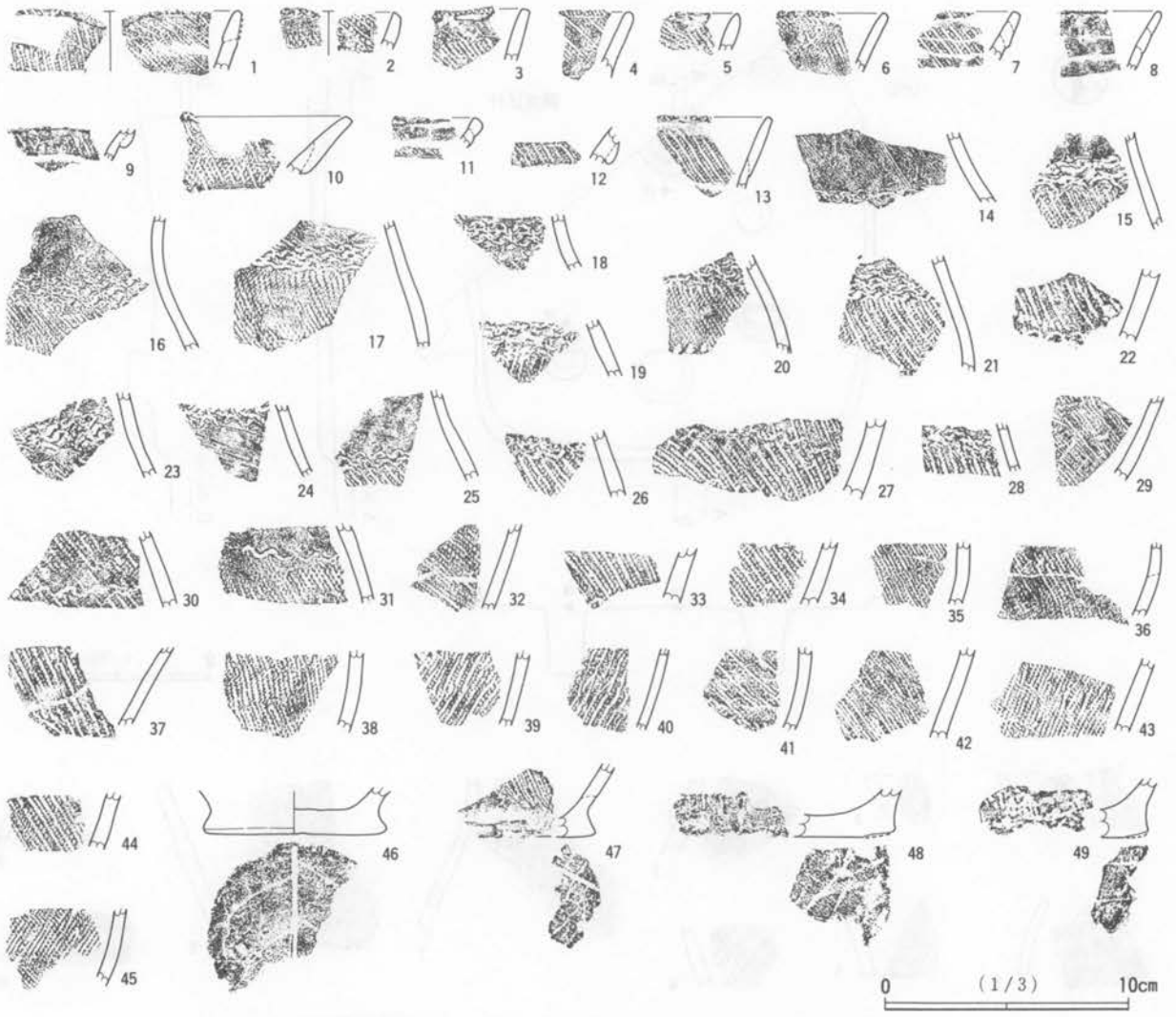
（遺 物）1、2は口縁部の破片で、いずれも附加条縄文が施されるものである。1は口唇上及び内面にも施文がされるもので、原体は全て同一とみられる。2は全面に附加条縄文が施されるもので、口唇上にも施文される。3は壺型土器の頸部の破片で、円形浮文が見られ、そこから下側には赤彩が施される。4~26は胴部破片である。4~8、11、12は附加条縄文とS字条結節が組み合わされるもので、地文は6を除いて附加条第2種である。7は壺の頸部から胴部にかけての破片で、S字状結節文を附加条縄文施文部の上端に施す。その上側には斜め方向の擦痕が観察される。無文の9、10にも同様の擦痕が観察され、同一個体である可能性が高い。13~26は附加条縄文あるいは縄文のみが施されるものである。施文は24が縄文であるほかは全て附加条縄文で、そのほとんどが附加条第2種である。27は胴部から底部にかけての資料である。胴部文様は附加条第2種である。28、29は底部破片である。28は底面が3分の1ほど残存しており、胴部文様は附加条第2種で、底面には木葉庄痕が観察される。摩滅が著しく状況は不良である。29は無文の底部である。内・外面とも横方向のナデが観察される。胎土には石英粒が多量に混入する。内面には煤が多量に付着する。

グリッド等出土遺物（第54図、図版15）

1から13は口縁部及びその付近の破片である。1、2は表裏施文されるもので、口唇上にも施文される。1には輪積み痕跡をわざと残して装飾的效果を持たせている。3、4、6は口唇上に施文するものである。7、8は1と同じく輪積み痕をわざと残して装飾的效果を持たせているもので、7は口唇上から表面にかけて附加条縄文が施文されるもの、8は無文のものである。9、11、12もやはり同様のものであるが、さらに肥厚して隆帯状になっているものである。9と12は上側が輪積み痕から割れて失われているが、口縁

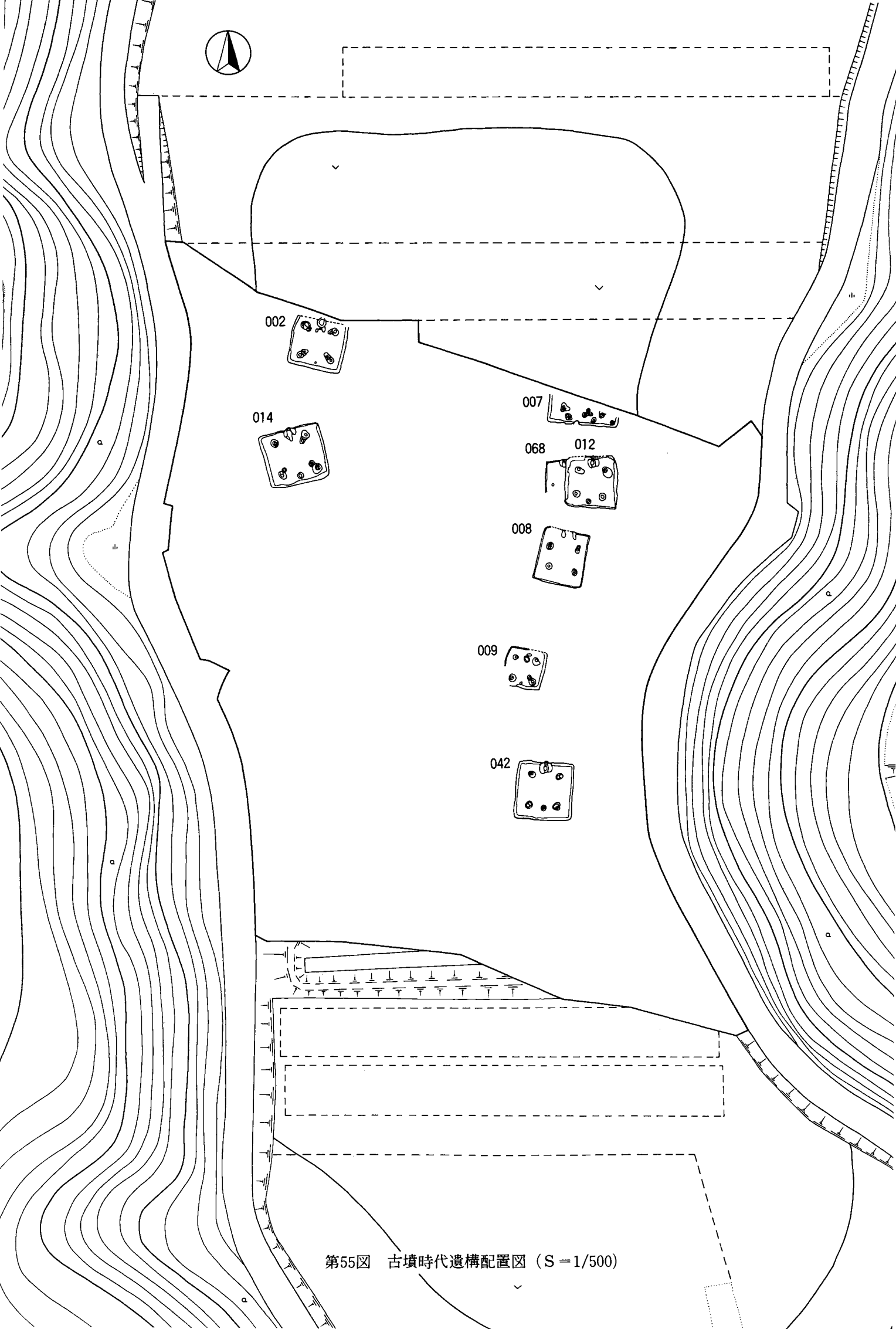


第53图 003竖穴住居跡、出土遺物実測図



第54図 グリッド等出土弥生土器、弥生時代石器実測図

部付近の破片であろう。10、13は口唇部がかろうじて残されているもので、口唇肥厚はそれほど大きくなく折り返し口縁状になるものである。いずれも口唇上にも縄文が施文される。14～21、23～26は胴部破片で、附加条縄文とS字状結節との組み合わせである。いずれも壺型土器の胴部から頸部にかけてと考えられ、14～17、24、25には無文帯も観察される。22、27～31は附加条縄文と結束文とを組み合わせるものである。28、30、31は壺型土器の胴部から頸部にかけてと考えられ、31には無文帯が存在する。32～45は附加条縄文のみのもので、壺型土器あるいは鉢型土器の底部近くと考えられるものである。一部が附加条第1種であるほかは、全て附加条第2種である。46～49は底部破片である。いずれも底面に木葉圧痕が観察される。50は太型蛤刃石斧の未成品である。長さ126.0mm、幅74.0mm、厚さ47.0mm、重さ581.6gである。図の左右から大きく剝離を加えて大まかな整形をし、下側から細かい剝離を加えて刃部を整えている。通常ならば全面研磨されて成形されるはずであるが、刃部や裏面の剝離痕がそのまま残っているため、おそらく途中で製作が放棄されたものであろう。



第55図 古墳時代遺構配置図 (S = 1/500)

第3節 古墳時代

1 概 観

この時期の遺構は竪穴住居跡が8軒検出された。ただし、中世に大幅な地形改変が行われた上、耕作による削平が著しく全体に遺存状況は悪い。したがって、実際にはもっと多数の遺構が存在していた可能性が強い。

時期的には6世紀後半から7世紀にわたるが、ほとんどが7世紀中葉である。削平が著しいとはいえ、調査区東側では主軸方向がほぼそろった住居跡が南北に並んで構築されている様子が、はっきりとうかがえる。また、一部の住居跡では拡張作業を伴う立て替えの痕跡が見られるほか、カマドの被熱状況や床面の硬化状況などから、各住居跡がかなり安定的に使用され続けた状況がうかがえ、この遺跡の集落が継続的に営まれたことを示している。

道木内遺跡の西側に存在する清和乙遺跡では、7世紀後半の集落跡が検出されている。今後はそうした近隣の遺跡との関係を把握しながら、終末期古墳の様相とも合わせて総合的に考察する必要がある。

2 遺構と出土遺物

002竪穴住居跡（第56図、図版16・17）

（遺 構）11D-18・19・28・29区に位置する。

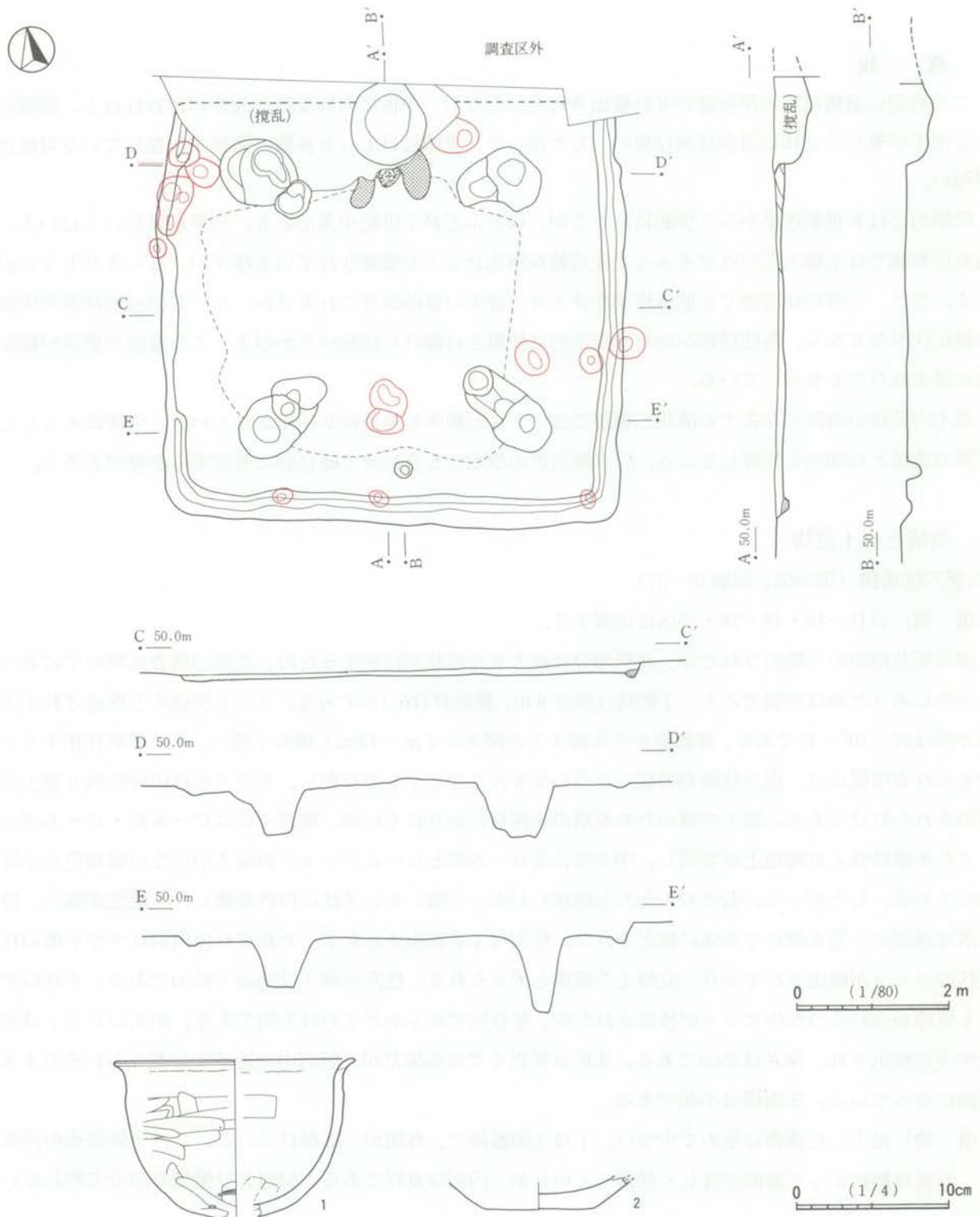
調査区北端部から検出されたが、北壁部分には大きな攪乱が存在するため、北壁が調査区域の中にあつたか外にあつたかは不明である。主軸長は推定6m、横軸長は6.1mである。カマドを通ると推定される主軸方位はN-10°-Eである。確認面から床面までの深さは3cm~18cmと極めて浅い。カマドが存在すると考えられる位置には、掘立柱建物の柱穴を思わせる大きなピットが存在し、そのそばに山砂の塊と焼土が検出されただけである。覆土が薄いため堆積の状況はわかりにくいだが、壁近くにはローム粒・ロームブロックを多量に含んだ褐色土が堆積し、中央部にはローム粒とロームブロックの混入が少ない暗褐色土で堆積している。したがって、若干の人為的な埋戻しがあった後、レンズ状に自然堆積した可能性が強い。壁周溝は西側の一部を除いて全体に検出された。柱穴は4本検出されたが、それぞれの内側にやや小型の柱穴状のピットが検出されており、立替えの痕跡と考えられる。柱穴の深さは56cm~95cmである。それ以外にも壁際からいくつか小ピットが検出されたが、壁柱穴であるかどうかは不明である。出入口ピットは南壁中央に検出され、深さは35cmである。床面は壁近くでは貼床だが、竪穴中央近くでは掘り方がそのまま床面になっている。床面積は不明である。

（遺 物）出土した遺物は極めて少ない。1は土師器鉢で、外面が一部煤けている。2は土師器甕の底部で、外面は熱によって器面が著しく剝落しているが、内面は良好である。胴部とは輪積み部分で割れている。

007竪穴住居跡（第57図、図版16・17）

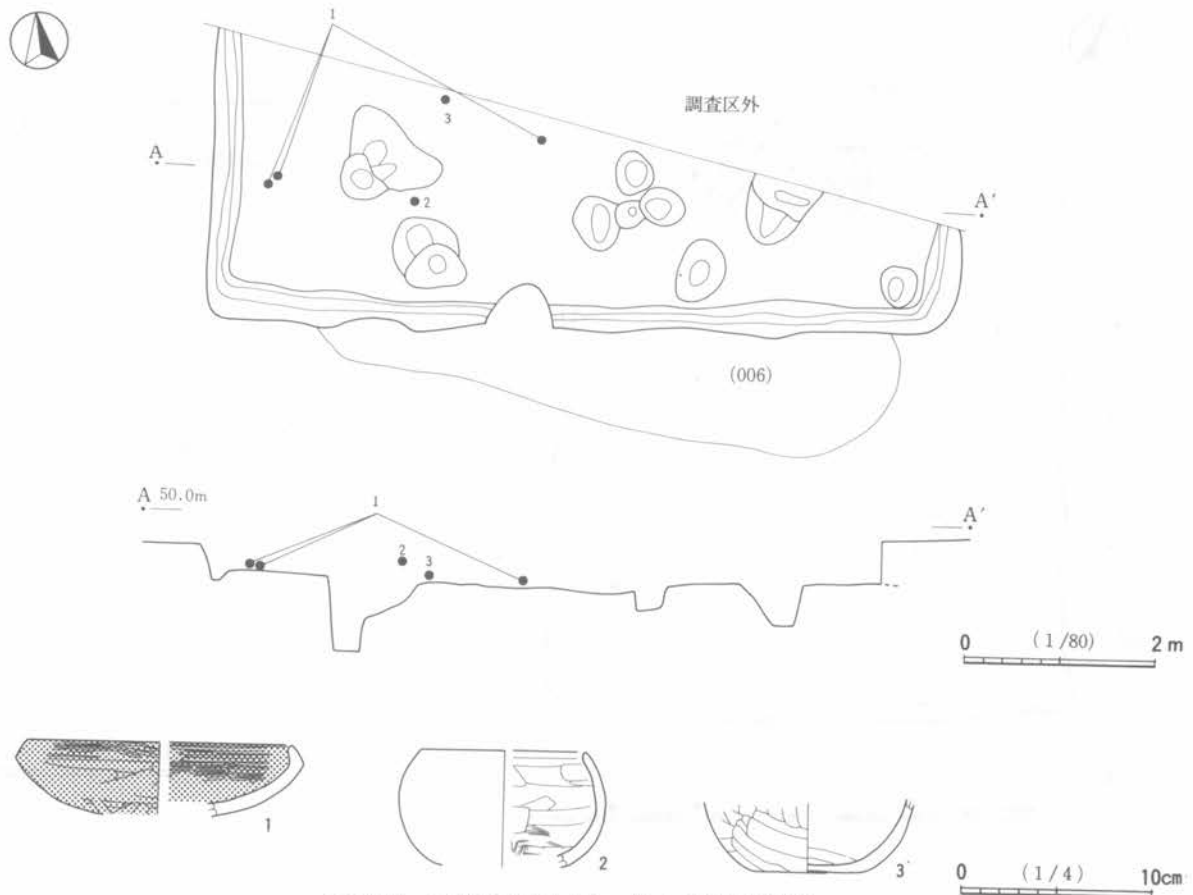
（遺 構）11E-35・36・37・46・47区に位置し、006竪穴住居跡に切られる。

北側約3分の2以上は調査区域外である。主軸長は不明であるが、横軸長は推定7.9mである。主軸方位は南壁に直交するものと仮定すると、およそN-7°-Eである。確認面から床面までの深さは22cm~38cm



第56図 002竖穴住居跡、出土遺物実測図

と極めて浅い。カマドは調査区域外である。覆土はほぼ単一で、ローム粒をやや多く含む暗褐色土層で、人為堆積と考えられる。周溝は全面から検出された。柱穴は2本が検出されたにとどまり、しかも東側の柱穴は調査区境に当たるため完全に掘りきれなかったが、住居跡全体で4本になるものと思われる。柱穴の深さは75cmである。出入口ピットは南壁中央に検出されており、深さは18cmである。床面は全体に平坦



第57図 007竖穴住居跡、出土遺物実測図

かつ堅牢であり、掘り方がそのまま床面になっている。床面積は不明である。

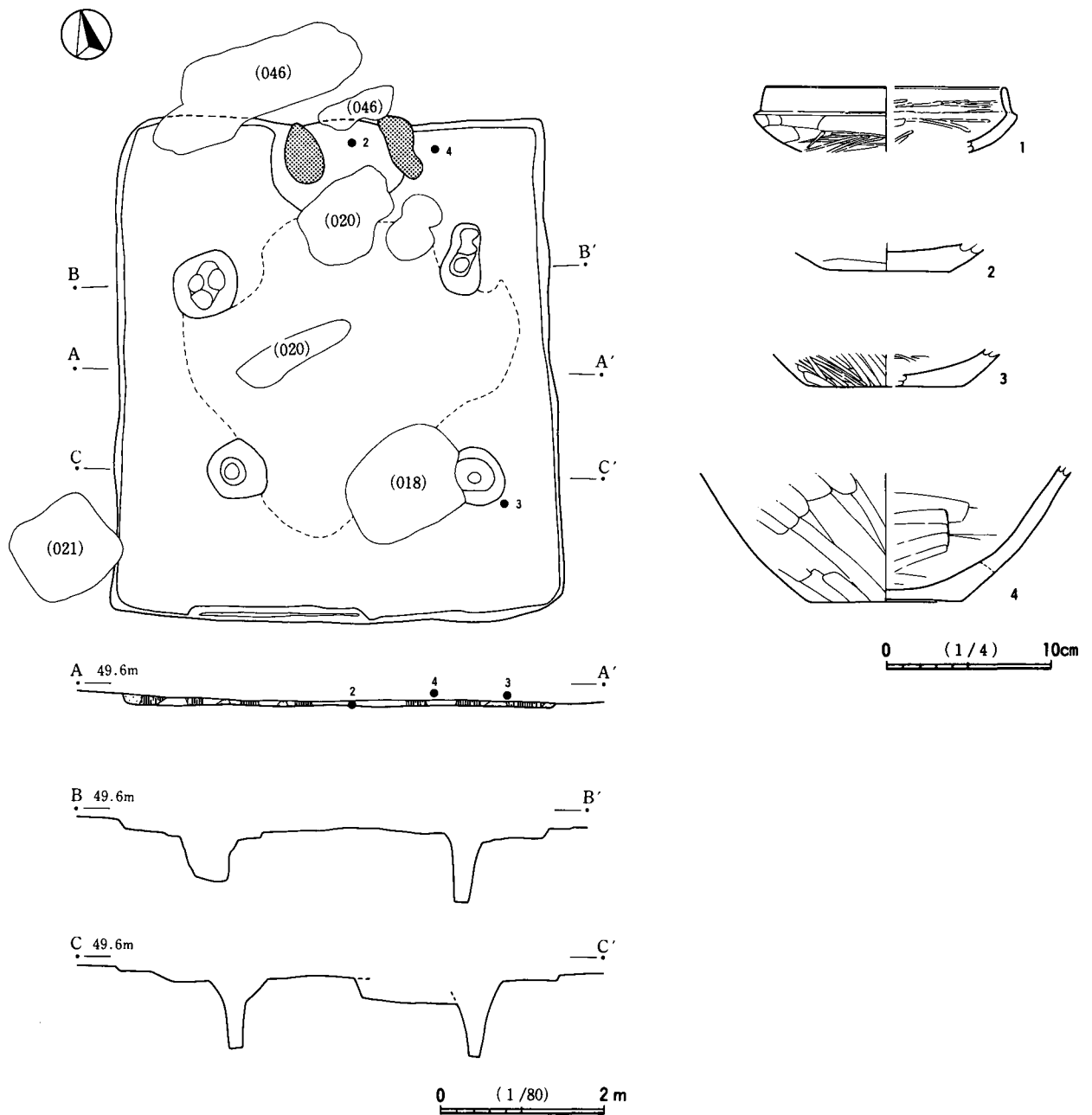
(遺物) 1は土師器坏で、須恵器坏身模倣坏である。外面に強い稜を作り、口縁部は内傾する。2は土師器甕である。胴部中央部に最大径を持ち、口縁部は内湾する。外面は風化が著しく細かい調整は不明である。3は土師器小型甕の底部である。内・外面とも状況は良好で、あまり使用された痕跡がみられない。

008号竖穴住居跡 (第58図、図版16・17)

(遺構) 12E-65・66・75・76・85・86区に位置する。

主軸長は6.1m、横軸長は5.2mで、主軸方位はN-13°-Eである。確認面から床面までの深さは4cm~13cmと極めて浅い。中世の土坑が多数掘り込まれており、さらにトレンチャーによる攪乱が著しいため、遺存状況は悪い。カマドは北壁中央に存在するが、両袖とも遺存度は悪く、火床面もそれほど明確ではない。覆土は単一で、ローム粒・ロームブロックを多数含んだ暗褐色土が堆積している。周溝は南壁側の一部で検出されただけである。柱穴は4カ所から検出され、深さは64cm~91cmである。出入口ピットは検出されていない。床面積は約28.3m²である。

(遺物) 1は土師器坏で、須恵器坏身模倣坏である。外面に強い稜を持ち、口縁部は内傾する。2~4は土師器甕底部である。2は熱によって著しく摩耗しており、細かい調整は不明。3は外面に煤が付着しているものの、遺存状態は良好である。いわゆる常総型甕である。4は土師器甕底部で、器面が熱によって剝落しざらざらしている。



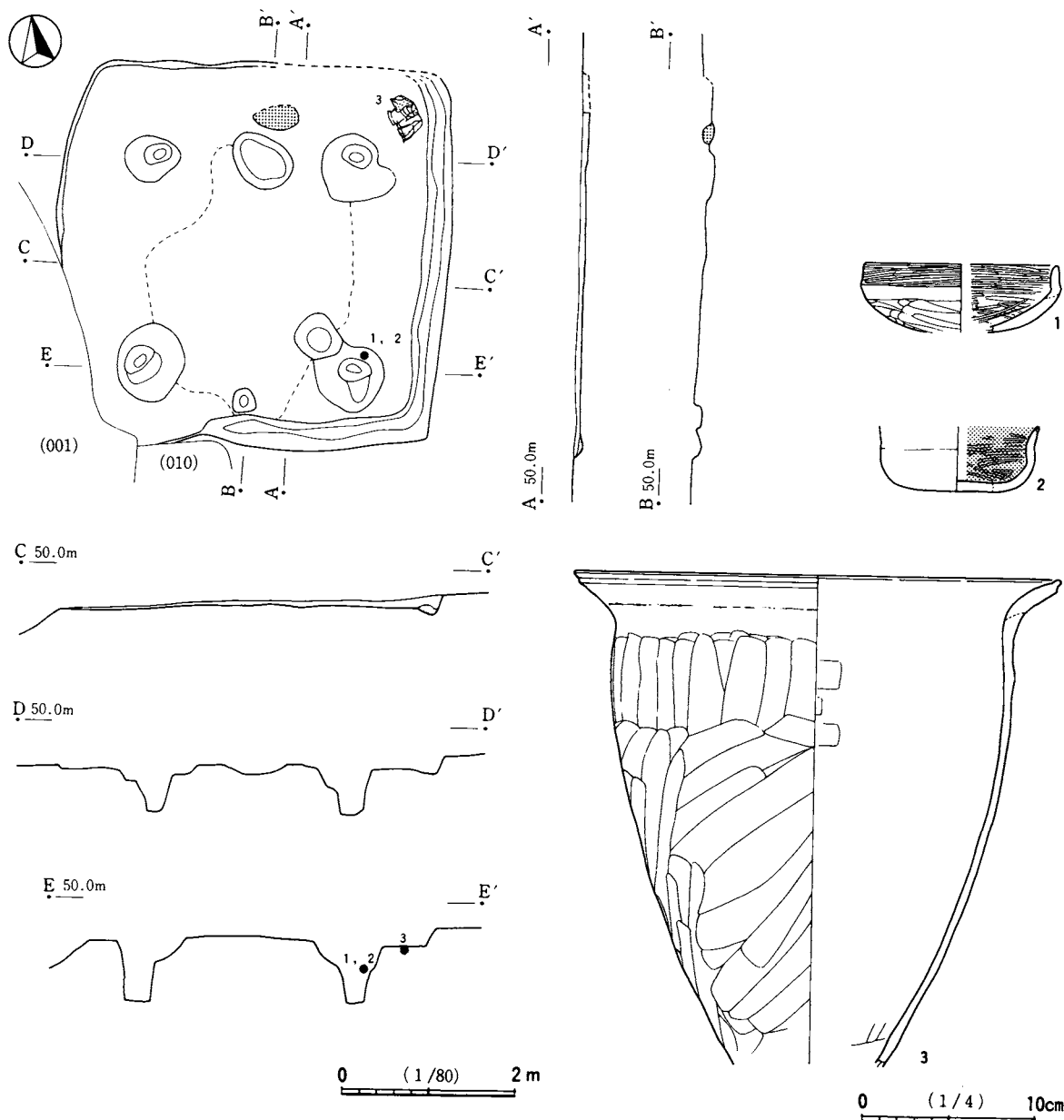
第58図 008竪穴住居跡、出土遺物実測図

009号竪穴住居跡（第59図、図版16・17）

（遺 構）12E-04・05・14・15区に位置し、001中世台地区画整形に切られている。

主軸長は4.4m、横軸長は4.5mで、主軸方位はN-12°-Eである。確認面から床面までの深さは8cm~20cmである。カマドは北壁中央に存在するが、攪乱が大きく入っておりほとんど消滅している。覆土は単一で、ローム粒、ロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。人為的堆積と考えられる。周溝は東壁から南壁にかけて検出された。支柱穴と思われるピットは4カ所から検出され、深さは41cm~70cmである。そのほかにもう1本柱穴らしいピットが検出されており、立替えが行われた可能性もある。出入口ピットは南壁中央部から検出され、深さは6cmと浅い。床面積は不明である。

（遺 物）1は土師器坏で、須恵器坏身模倣坏である。外面にやや強い稜を持ち、口縁部は若干内傾する。



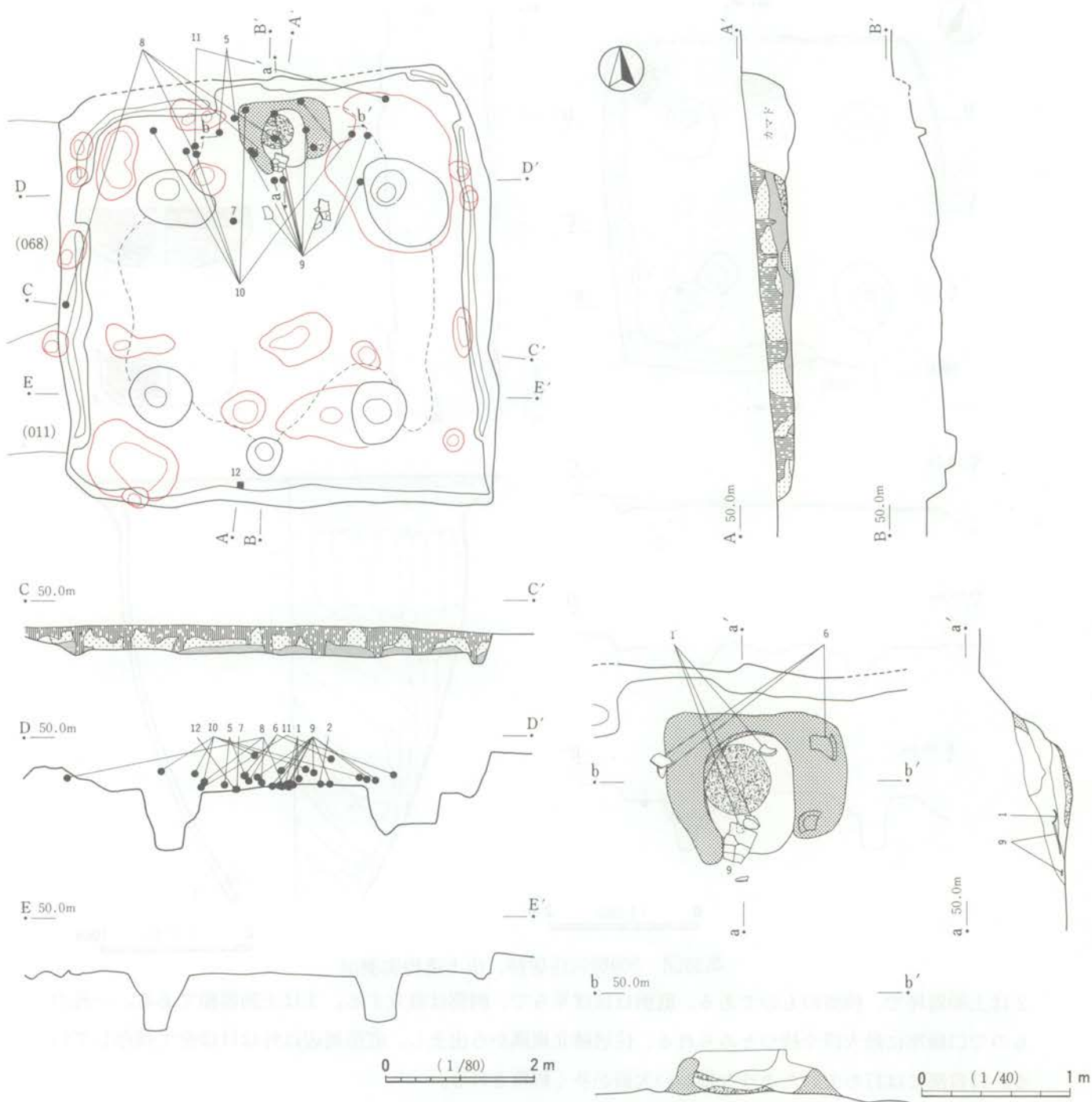
第59図 009竪穴住居跡、出土遺物実測図

2は土師器坏で、椀型のものである。底面はほぼ平らで、胴部は直立する。3は土師器甕である。一孔のもので口縁部に最大径を持つとみられる。住居跡北東隅から出土し、底部周辺以外はほぼ全て残存している。口唇部には打ち欠いたような細かい欠損が多く観察される。

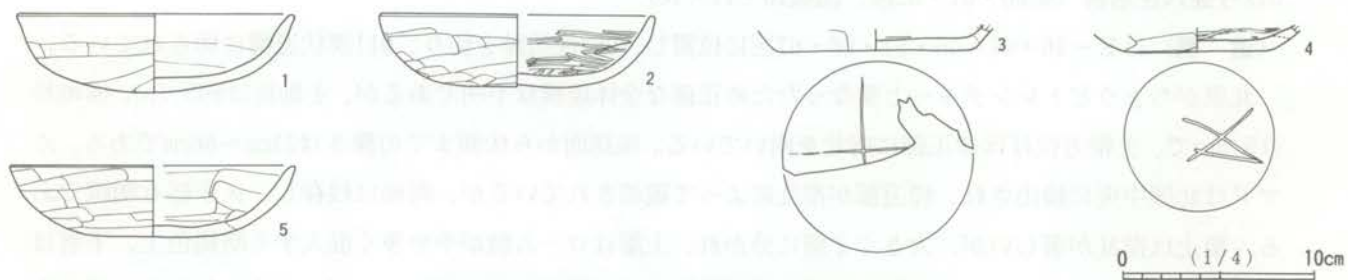
012号竪穴住居跡 (第60・61・62図、図版16・17・18)

(遺 構) 11E-46・47・56・57・66・67区に位置し、068住居跡を切り、011溝状遺構に切られている。

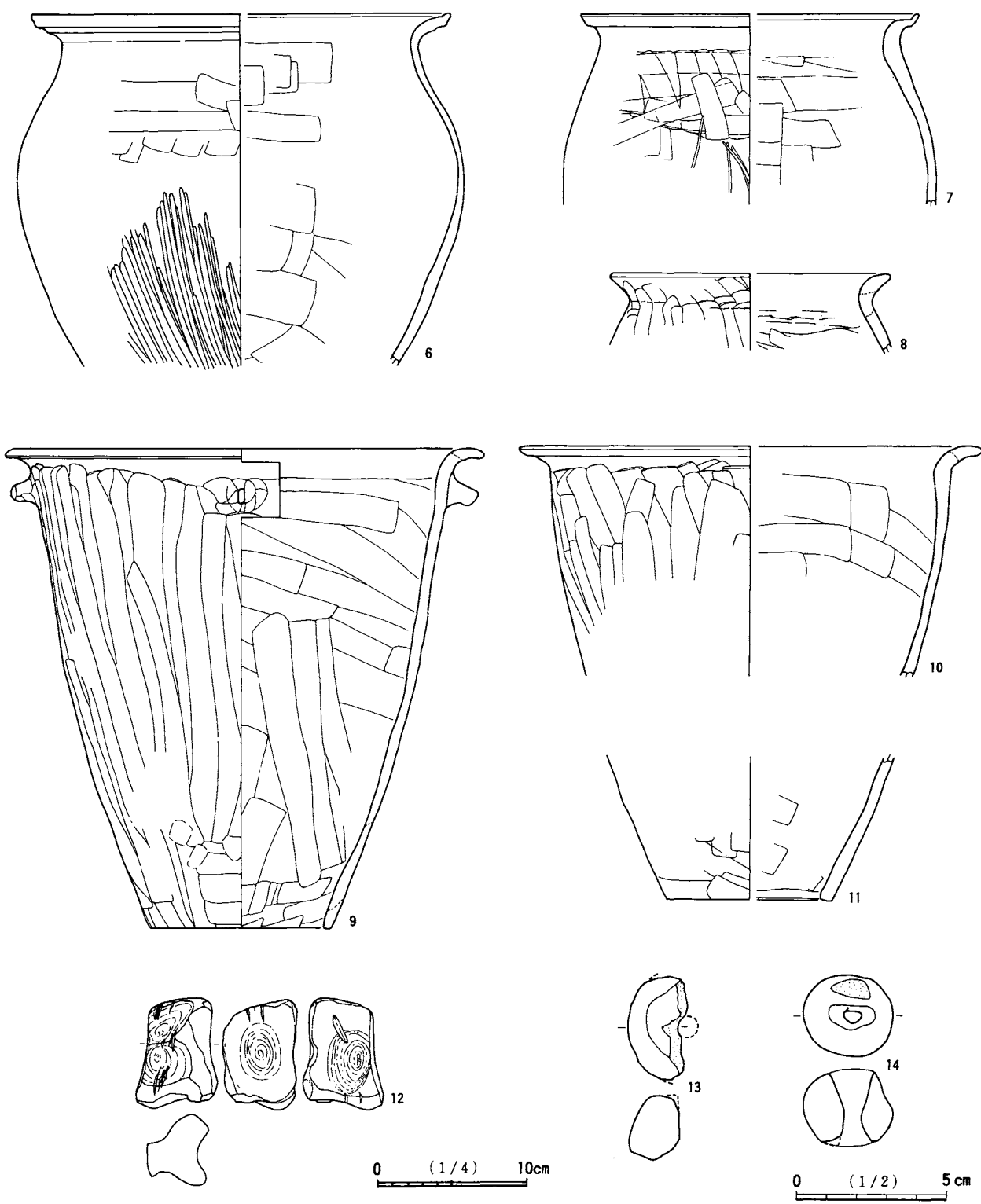
北壁がちょうどレンジャーと重なったため正確な全体規模は不明であるが、主軸長は約5.7m、横軸長は5.8mで、主軸方位はほぼ正確に南北を向いている。確認面から床面までの深さは21cm~66cmである。カマドは北壁中央に検出され、煙道部が攪乱によって破壊されているが、両袖は残存し、火床部も明瞭である。覆土は攪乱が著しいが、大きく2層に分かれ、上層はローム粒がやや多く混入する暗褐色土、下層はローム粒とロームブロックをやや多く含む暗褐色ないしは黄褐色土であり、いずれも人為的埋没と考えら



第60図 012竖穴住居跡実測図



第61図 012竖穴住居跡出土遺物実測図 (1)



第62図 012竪穴住居跡出土遺物実測図(2)

れる。周溝は南壁を除く全体から検出されたが、一部途切れている部分もある。出入口ピットは南壁中央に検出されており、深さは14cmである。支柱穴は4本検出されており、深さは61cm～78cmである。そのほかに土坑が2基検出されているが、いずれも中世以降のものと思われる。床面積は約25.4㎡である。

(遺物) 1～5は土師器坏である。いずれも碗型を呈する。1はわずかに丸底になるもので、赤彩は剥落が著しい。2、5は平底になるもので、外面にも赤彩の痕跡が観察されるが、口縁部のみか全面かは不

明である。3には底面に硬い針状の工具によって付けられた「十」の線刻（記号）が見られる。赤彩を傷つけており、焼成後に付けられたものである。4にも底面に硬い針状の工具によって付けられた「△」の線刻（記号）が見られ、3と同じく焼成後に付けられたものである。6、7はいわゆる常総型甕である。6には口縁部と内面の一部に油煙の付着がみられる。8は土師器甕の口縁部である。口縁部が大きく外反する。9～11は土師器甕である。9はほぼ完形の大型品で、握手が四方に付けられている。一孔のもので、口縁部に最大径を持つ。内面に煤が付着している。10は胴部から上側が残存しているもので、口縁に最大径を持つ。内面の一部に煤が付着しているが、状況は良好である。11は底部側が残存しているものである。一孔のもので、胎土は6や7の常総型甕と同じく石英粒を多量に含む。下端部はヘラで面取りしている。12は砥石である。長さ74.0mm、幅53.0mm、厚さ49.0mm、重さ207.6gである。砂岩製で、四面に半球状の砥面が残る。13は土玉である。半分しか残っていないため直径は不明であるが、厚さは21.5mm、重さは12.2gである。胎土は粒子がやや細かく、淡茶褐色を呈する。全面ヘラナデであり、焼成はやや不良である。14は土玉である。楕円形を呈し、長径30.0mm、短径26.8mm、厚さ23.0mm、重さ17.6gである。胎土は粒子がやや細かく、淡橙色を呈する。指頭整形されており、焼成はやや不良である。

014号竪穴住居跡（第63図、図版19）

（遺構）11D-47・48・49・57・58・59区に位置し、013住居跡に切られる。

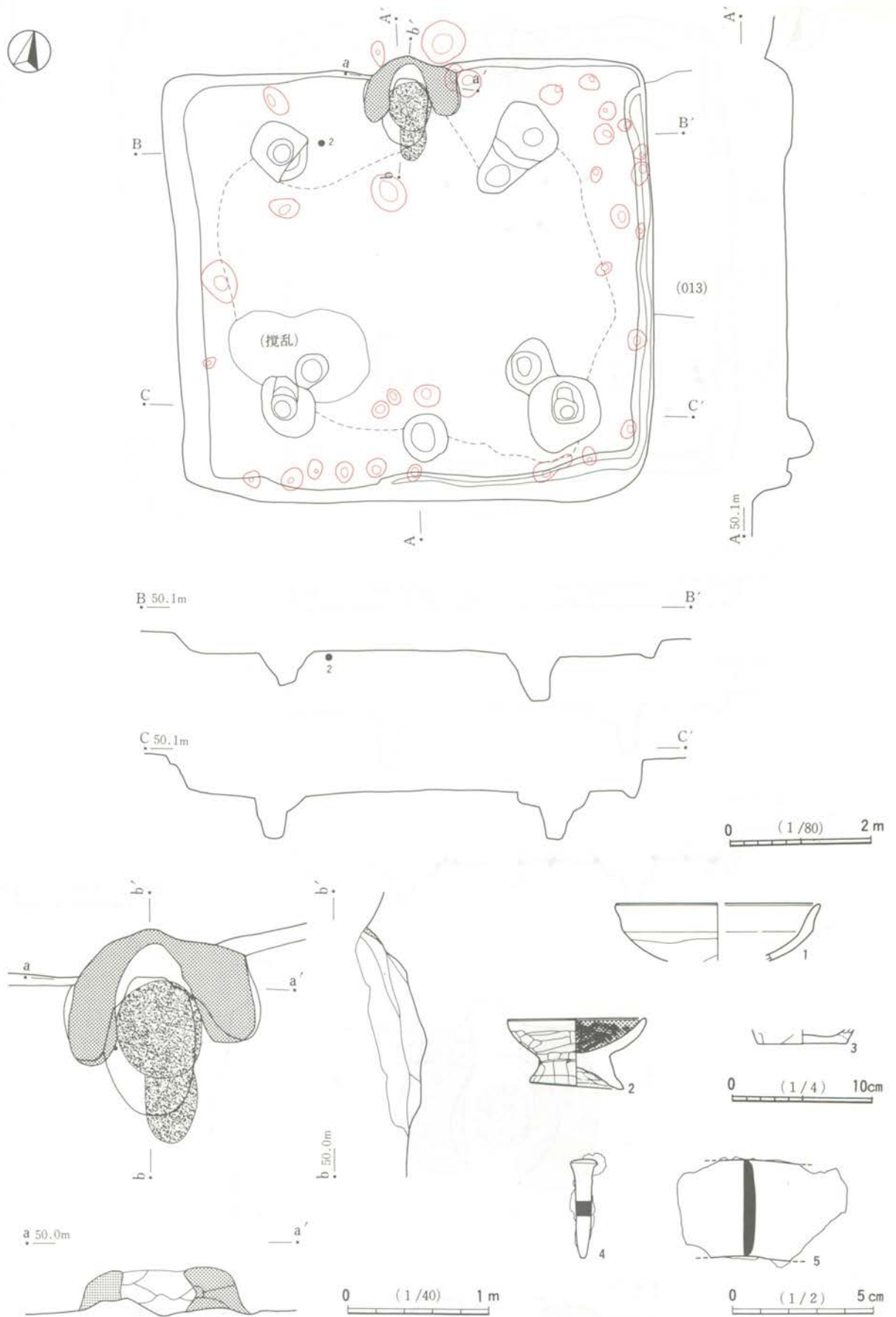
主軸長は6.3m、横軸長は6.8mで、主軸方位はN-14°-Wである。確認面から床面までの深さは15cm～52cmである。カマドは北西壁中央に存在し、火床面は2ヶ所検出された。覆土は大きく2層に分かれ、上層はローム粒をやや多く含む暗褐色土、下層はローム粒、ロームブロックや焼土などを少しずつ含む暗褐色土である。いずれも人為堆積と思われる。周溝は北東壁から南東壁中央にかけて検出された。周溝内には小ピットが多数検出されており、壁材の補強のためと考えられる。出入口ピットは南東壁中央に検出され、深さは35cmである。柱穴は8カ所検出されたが、全て2本ずつペアになっており、立替えの痕跡をとどめている。深さは内側の4本が48cm～70cm、外側の4本が65cm～97cmである。床面は全面貼床であり、中央部は特に硬化が著しい。内側の4本の柱穴は全て硬化面の下になっており、また、カマドの火床面も住居跡内側の方が古いとみられるため、住居を拡張したものとみられる。床面積は約34.3m²である。

（遺物）1は土師器坏で、須恵器坏蓋模倣坏である。外面に弱い稜を持ち、口縁部は外反する。2は土師器器台で、ほぼ完形品である。ただし時期的には8世紀の所産と考えられ、013住居跡からの流込みである可能性が強い。底部が斜めになっているため若干傾いている。全体に状況は良好であるが、口唇部は摩耗が著しい。3は土師器甕の底部である。胴部とは輪積み部分から割れている。4は釘とみられる鉄製品である。長さ35.0mm、幅5.0mm、厚さ5.0mm、重さ4.9gである。5は薄い板状の鉄製品で、鎌の刃部とみられる。残存長60.5mm、幅34.3mm、厚さ4.0mm、重さ26.7gである。

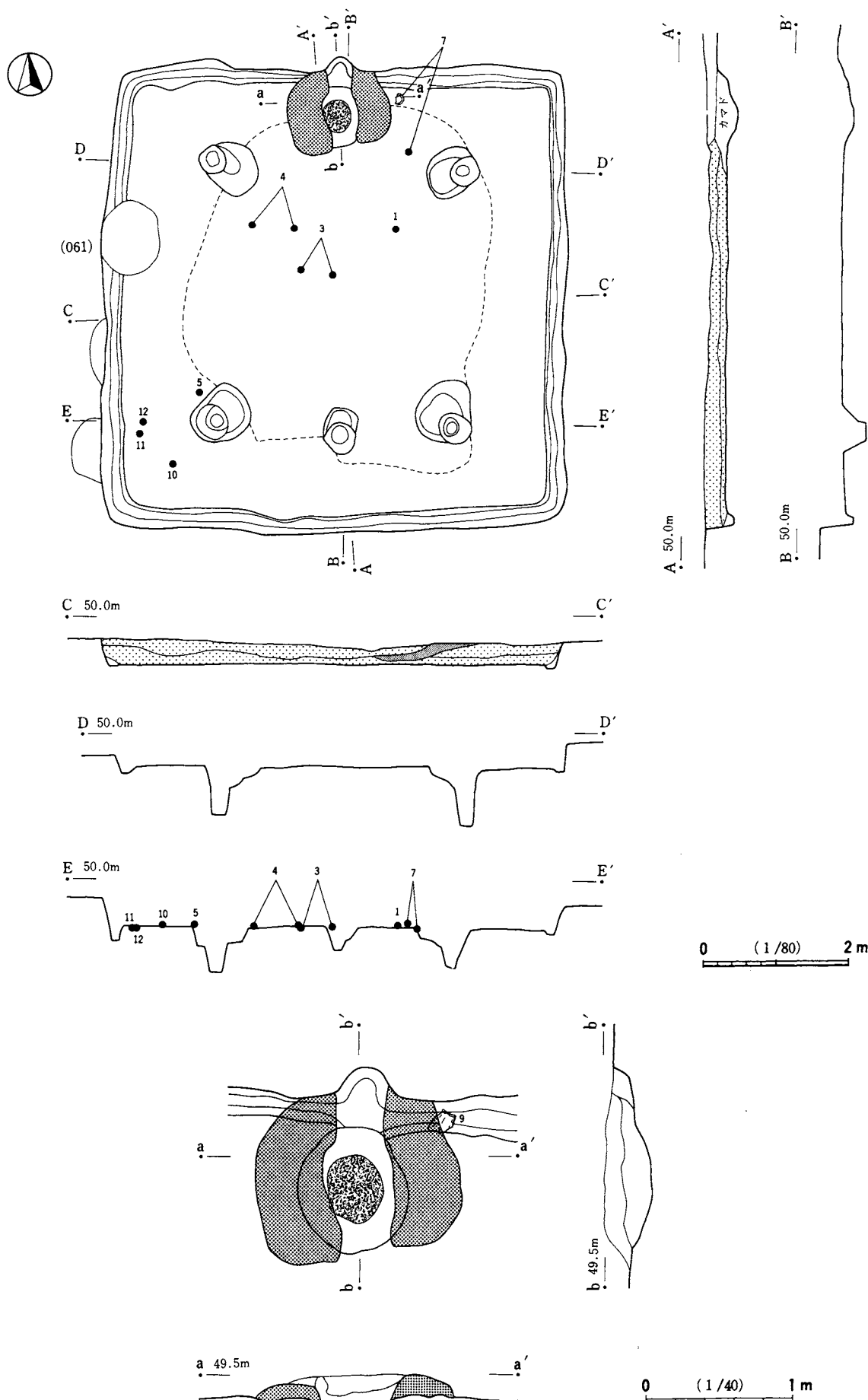
042号竪穴住居跡（第64・65図、図版19）

（遺構）12E-34・35・36・44・45・46・55・56区に位置し、061掘立柱建物及び040溝状遺構に切られる。

主軸長は6.6m、横軸長は6.4mで、主軸方位はおおよそN-4°-Eである。確認面から床面までの深さは30cm～46cmである。カマドは040に切られる形でかろうじて残存している。周溝は壁面全体から検出され



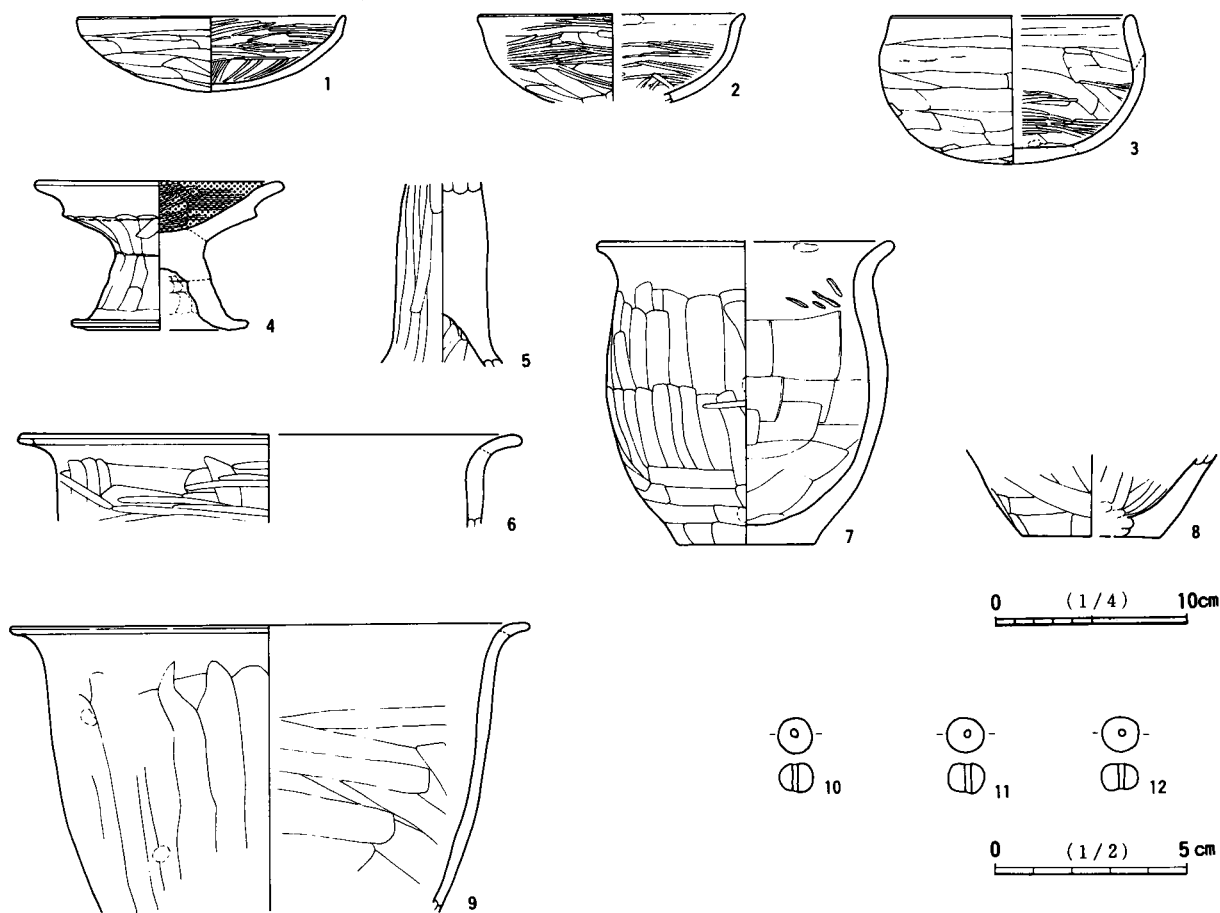
第63図 014竖穴住居跡、出土遺物実測図



0 (1/80) 2 m

0 (1/40) 1 m

第64图 042竖穴住居跡実測図



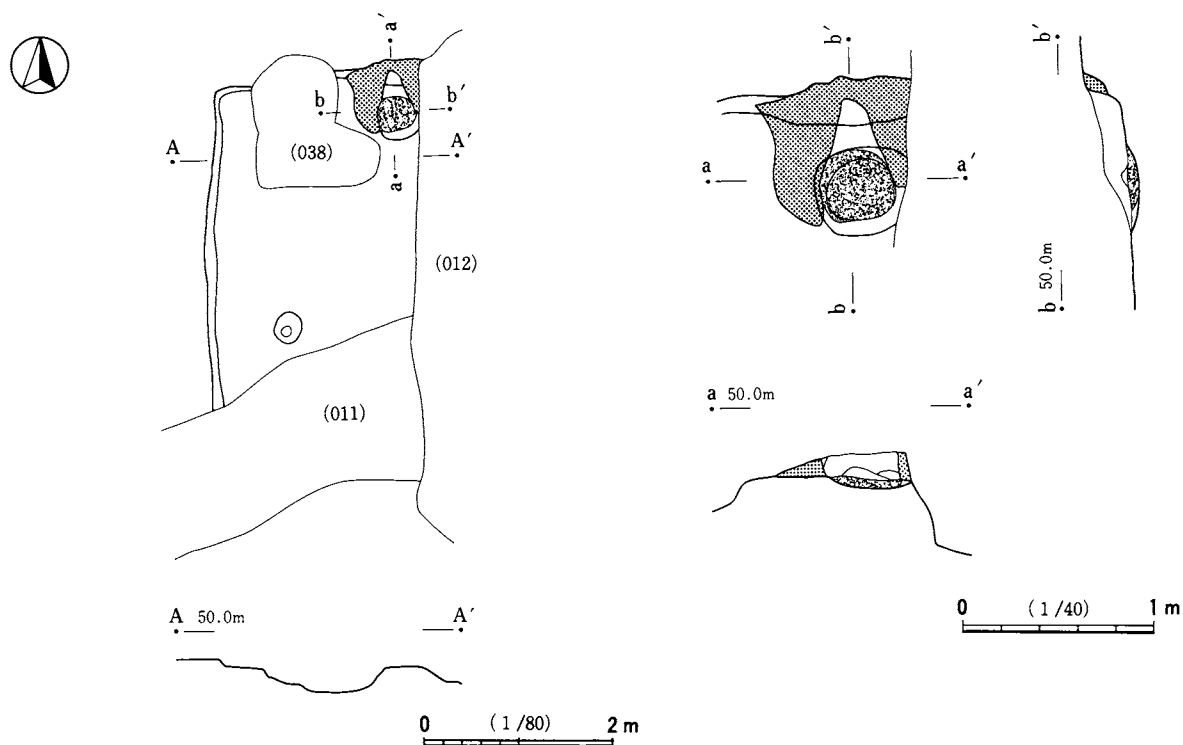
第65図 042堅穴住居跡出土遺物実測図

ている。覆土は大きく2層に分かれ、上層はローム粒、ロームブロックを多量に含む暗褐色土、下層は上の層よりややロームブロックが少なくなる暗褐色土である。人為堆積と考えられる。出入口ピットは南壁中央付近より検出され、深さは31cmである。柱穴は4本検出され、深さは55cm～76cmである。床面は全体に平坦かつ堅牢であり、掘り方がそのまま床面となっている。床面積は約33.1㎡である。

(遺物) 1は土師器坏で、須恵器坏蓋模倣坏である。外面に弱い稜を持ち、口縁部は若干外反する。遺存状況は良好であるが、口唇部はやや摩耗している。2は土師器坏である。口縁部が若干肥厚し、わずかに外反する。3は土師器坏で、椀型を呈する。胴部が内湾し、口縁部は内傾する。4は土師器高坏である。坏部は須恵器坏身模倣坏と同様の形状を呈する。外面に強い稜を持ち、口縁部は大きく外反する。脚柱部は太く、裾は大きく外反する。5は土師器高坏の脚柱部である。かなり大型である。6、9は土師器甑である。いずれも口縁部が大きく外反する形態を持つものであるが、6は外面がやや摩耗しているのに対し、9は器面の状態は良好でほとんど使用された痕跡がみられない。7は土師器小型甕である。口縁部に最大径を持つ。外面は熱による摩耗が著しい。8は土師器甕底部である。胴部とは輪積み部分で割れている。10～12は小型の土玉である。10は直径8.7mm、厚さ7.4mm、孔径1.6mm、重さ0.6g、11は直径9.0mm、厚さ7.7mm、孔径1.8mm、重さ0.6g、12は直径9.2mm、厚さ6.8mm、孔径1.7mm、重さ0.7gである。

068号堅穴住居跡 (第66図、図版16)

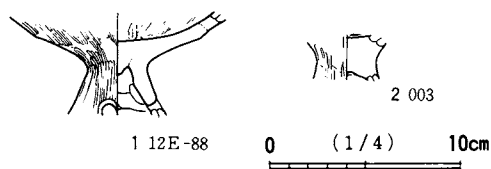
(遺構) 11E-55・56区に位置し、012住居跡と011溝状遺構に切られる。



第66図 068竪穴住居跡実測図

大半が他の遺構に切られてしまっているため、全体規模は不明である。かろうじてカマドが北壁に残存しており、遺存は悪いものの火床部は比較的明瞭に残っている。仮にそのカマドが北壁の中央であるとすると、縦横約4mでほぼ南北を主軸方向にするものと推定できる。確認面から床面までの深さは6cm~10cmと極めて浅い。覆土は攪乱が著しいためうまく観察できなかった。周溝、出入口ピットは検出されなかった。柱穴は1本のみ検出され、深さは37cmである。床面は掘り方をそのまま床面としているが、硬化が進んでおらず全体に軟弱である。床面積は不明である。

(遺物) 図示できる遺物はない。



第67図 グリッド等出土古墳時代遺物実測図

グリッド等出土遺物 (第67図)

器形復元できるのは2点のみであった。1は土師器高坏である。脚柱部と坏部下半が遺存する。脚柱部は直線状に開いていく形状を呈する。透かし穴が3か所あけられる。2は土師器高坏の脚柱部である。

第34表 002出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|--------------------------|-------|--------------|-------------------------|-----|------------------------------------|
| 56 | 1 | 甗 | 口径 15.8 底径 器高 10.2 | 20% | 粒子細かい | 内・外面：淡茶褐色、器肉：茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：ヘラナデ、胴部：下側および上側一部にヘラケズリ |
| | 2 | 甗 | 口径 底径 7.2 器高 | 底部30% | 粒子やや細かい雲母片混入 | 内面：淡茶褐色、外・底面：赤褐色、器肉：茶褐色 | やや良 | 内面：軽いヘラナデ、外・底面：被熱により詳細不明 |

第35表 007出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|---------------------|--------|--------------|-----------------------|------|-----------------------------------|
| 57 | 1 | 坏 | 口径 13.7 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子細かい、酸化鉄混入 | 内・外面：黒色処理、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラミガキ、外面：手持ちヘラケズリ、口縁部：ヘラミガキ |
| | 2 | 椀 | 口径 8.6 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子細かい | 内面：濃茶褐色、外面：茶褐色、器肉：茶褐色 | やや不良 | 内面：ヘラケズリ、底部付近軽いヘラミガキ、外面：剝落著しく詳細不明 |
| | 3 | 甗 | 口径 底径 5.9 器高 | 底部100% | 粒子やや粗い、石英粒混入 | 器表・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ |

第36表 008出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|---------------------|--------|-----------------|--------------------------|----|------------------------------------|
| 58 | 1 | 坏 | 口径 14.4 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子細かい、酸化鉄多量に混入 | 内・外面：橙色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデと軽いヘラミガキ、外面：手持ちヘラケズリ、軽いヘラナデ |
| | 2 | 甗 | 口径 底径 7.6 器高 | 底部100% | 粒子粗い、石英粒混入 | 器表・器肉赤褐色 | 不良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ（一部被熱による剝落がみられる） |
| | 3 | 甗 | 口径 底径 9.6 器高 | 底部25% | 粒子粗い、石英、長石多量に混入 | 内面：乳褐色、外・底面：濃茶褐色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：ヘラケズリの上からヘラミガキ、底面：ヘラケズリ |
| | 4 | 甗 | 口径 底径 9.0 器高 | 底部90% | 粒子粗い、石英混入 | 器表：赤褐色、器肉：中心部黒褐色、外縁部：赤褐色 | 不良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ |

第37表 009出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|-------------------------|--------|---------------|------------------------|-----|----------------------------------------------|
| 59 | 1 | 坏 | 口径 10.8 底径 器高 3.9 | 口縁部25% | 粒子やや細かい、石英粒混入 | | 良 | 内面：丁寧なヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ、口縁部：ヘラミガキ |
| | 2 | 坏 | 口径 底径 5.0 器高 | 底部 | 粒子細かい | 内面：赤彩、外・底面・器肉：乳褐色 | 良 | 内面：丁寧なヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ、一部ヘラミガキ（剝落著しく詳細不明） |
| | 3 | 甗 | 口径 27.8 底径 器高 | 85% | 粒子粗い、雲母片混入 | 内面：赤褐色、一部黒色化、外面・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部回転ヘラケズリ、胴部：ヘラケズリ |

第38表 012出土土器観察表

| 挿入番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|-------------------------------|--------|-------------------|----------------------------|-----|-------------------------------------------------|
| 61 | 1 | 坏 | 口径 14.4 底径 4.1 器高 | 95% | 粒子細かい、酸化鉄混入 | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 14.0 底径 4.8 器高 3.7 | 30% | 粒子やや粗い、石英粒混入 | 内面：赤彩、外・底面：淡茶褐色、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ上から軽いヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 10.0 底径 器高 | 底部45% | 粒子細かい、雲母片混入 | 器表：赤彩（かなり茶色がかっている）、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外・内面：手持ちヘラケズリ（いずれも剝落著しく詳細不明） |
| | 4 | 坏 | 口径 8.0 底径 器高 | 底部100% | 粒子細かい、雲母片多量に混入 | 器表：淡橙色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 坏 | 口径 14.6 底径 6.2 器高 3.8 | 70% | 粒子やや細かい、酸化鉄・石英混入 | 内面：赤彩、外・底面：淡橙色 | 良 | 外・底面：手持ちヘラケズリ、内面：ヘラナデ |
| 62 | 6 | 甕 | 口径 27.6 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子粗い、石英粒多量に混入 | 器表・器肉：茶褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：胴部上半は縦ヘラナデの上から横ヘラナデ、下半はヘラミガキ |
| | 7 | 甕 | 口径 22.3 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや粗い、雲母片多量に混入 | 内面：茶褐色、外・器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：胴部縦ヘラケズリの後、軽い横ヘラナデ、下半部にかけて軽いヘラミガキがあり |
| | 8 | 甕 | 口径 18.4 底径 器高 | 口縁部45% | 粒子やや粗い、砂粒多量に混入 | 器表・器肉：赤褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、胴部にヘラケズリあり、外面：ヘラケズリ |
| | 9 | 甗 | 口径 31.0 底径 10.8 器高 31.5 | 90% | 粒子やや粗い、酸化鉄混入 | 内面：濃橙色、外面：茶褐色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、底部付近ヘラケズリ成形、外面：縦ヘラケズリ、底部付近軽いヘラナデ |
| | 10 | 甗 | 口径 30.0 底径 器高 | 口縁部75% | 粒子粗い、石英・長石多量に混入 | 器表：赤褐色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：縦ヘラケズリ |
| | 11 | 甗 | 口径 10.8 底径 器高 | 底部50% | 粒子粗い、石英粒、雲母片多量に混入 | 内面：黒褐色、外面：黒褐色、淡茶褐色、器肉：淡茶褐色 | 不良 | 内面：ヘラナデ、外面：ヘラナデ、底部付近ヘラケズリ |

第39表 014出土土器観察表

| 挿入番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|----------------------------|--------|-----------------|-----------------------------|-----|------------------------------------------------------|
| 63 | 1 | 坏 | 口径 14.2 底径 器高 | 口縁部20% | 粒子細かい | 器表：淡橙色、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：上半ヘラナデ、下半手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 高台付坏 | 口径 9.7 底径 6.5 器高 5.0 | 95% | 粒子細かい、酸化鉄、雲母片混入 | 内面：黒色処理、外面：濃茶褐色、淡茶褐色、底面：黒褐色 | やや良 | 内面：丁寧なヘラミガキ、外面：手持ちヘラケズリ、口縁部と底部付近ヘラナデ、底面：指頭成形、外縁部ヘラナデ |
| | 3 | 甕 | 口径 6.2 底径 器高 | 口縁部40% | 粒子やや細かい | 器表・器肉：淡橙色 | 良 | 内・外面：ヘラケズリ、底面 |

第40表 042出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|------------------------------|--------|---------------|--------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------|
| 65 | 1 | 坏 | 口径 13.8 底径 3.9 器高 | 98% | 粒子細かい、石英粒混入 | 器表：濃茶褐色、 器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデの上からヘラミガキ、 外面：口縁部ヘラナデ、胴部手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 13.8 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや細かい | 内面：濃茶褐色、 外面：黒褐色 | 良 | 内面：ヘラナデの上からヘラミガキ、 外面：手持ちヘラケズリの後、軽いヘラミガキ |
| | 3 | 椀 | 口径 14.2 底径 器高 7.8 | 50% | 粒子やや細かい | 内面：橙色、淡茶褐色、 外面：淡茶褐色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、屈曲部分ヘラケズリ成形、一部軽いヘラミガキ、 外面：口縁部ヘラナデ、胴部手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 高坏 | 口径 12.2 底径 9.2 器高 7.8 | 60% | 粒子やや細かい、長石粒混入 | 内面：黒色処理、 外面・脚部内面：濃茶褐色、 器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：ヘラミガキ、外面：口縁部・脚部下半ヘラナデ、 胴部・脚部上半手持ちヘラケズリ、 脚部内面：ヘラナデ、指頭成形 |
| | 5 | 高坏 | 口径 底径 器高 | 脚部100% | 粒子細かい | 器表・器肉：淡茶褐色 | 良 | 脚内面：ヘラケズリ成形、 外面：縦ヘラケズリ |
| | 6 | 甕 | 口径 25.6 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや粗い、石英粒混入 | 器表・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、 外面：口縁部ヘラナデ、 胴部ヘラケズリ、一部軽いヘラミガキ |
| | 7 | 甕 | 口径 15.0 底径 7.0 器高 15.7 | 95% | 粒子粗い | 内面：濃茶褐色、 外面：赤褐色、器肉：中心部は黒色 | 不良 | 内面：ヘラナデ、 外面：口縁部ヘラナデ、 胴部上半縦ヘラケズリ、 下半横ヘラケズリ、 底面：ヘラケズリ |
| | 8 | 甕 | 口径 底径 器高 6.2 | 底部25% | 粒子やや細かい、酸化鉄混入 | 内面：濃茶褐色、 外面：濃橙色、器肉：淡茶褐色 | やや不良 | 内面：ヘラケズリ成形、 外面：ヘラケズリ、 一部ヘラナデ、 底面：ヘラナデ |
| | 9 | 甗 | 口径 26.8 底径 器高 | 口縁部20% | 粒子粗い、長石粒多量に混入 | 内面・器肉：茶褐色、 外面：赤褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、 外面：口縁部ヘラナデ、 胴部縦ヘラケズリ |

第41表 グリッド等出土古墳時代・土器観察表

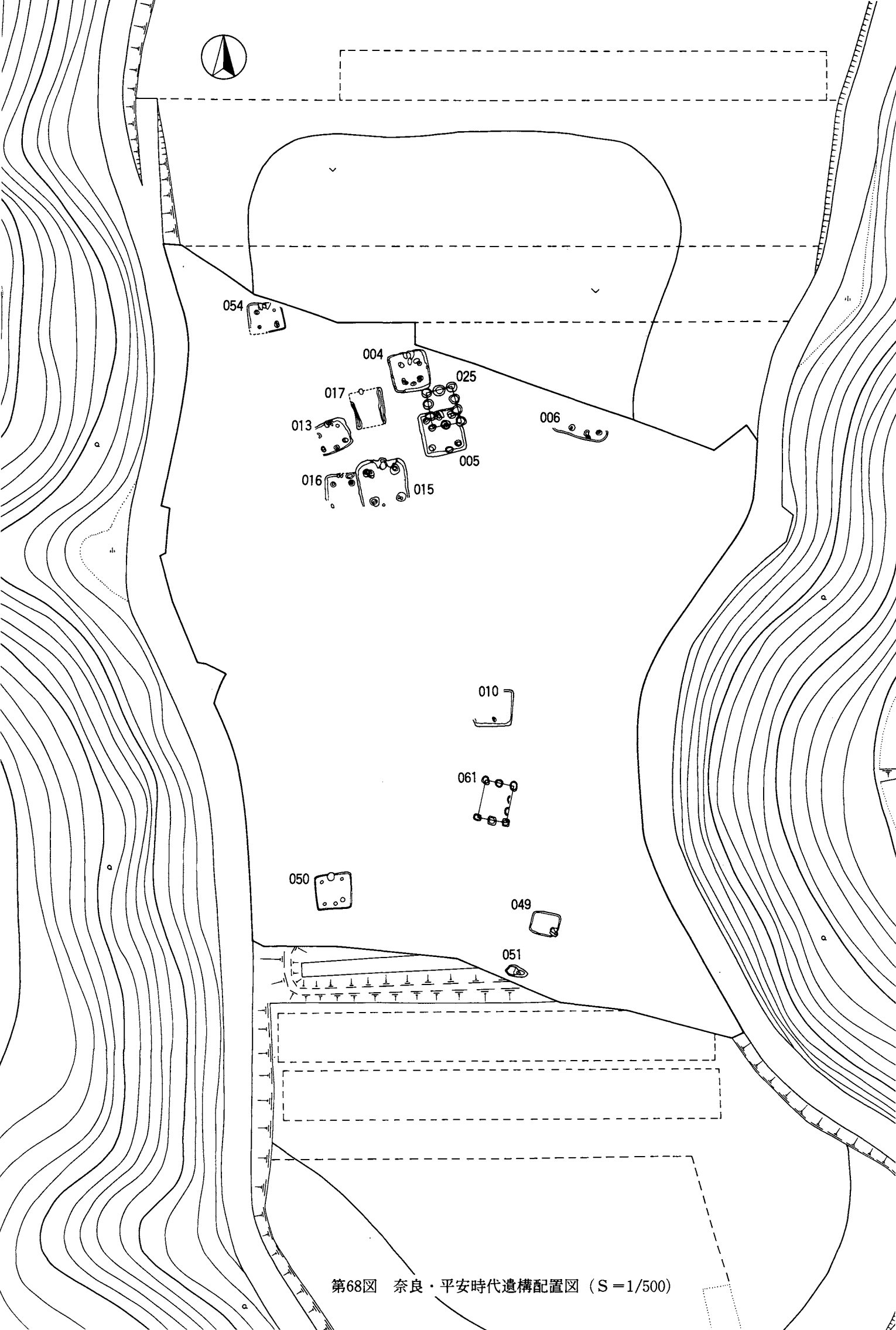
| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|----------------|----------|-------------|-------------------------------|----|-----------------------------------------------------------|
| 67 | 1 | 高坏 | 口径 底径 器高 | 脚取付部100% | 粒子細かい、酸化鉄混入 | 器表：淡橙色、 器肉：灰褐色 | 良 | 坏部内面：ヘラミガキ、 胴部内面：手持ちヘラケズリ、 外面：手持ちヘラケズリ成形後、 ヘラミガキ |
| | 2 | 高坏 | 口径 底径 器高 | 脚取付部100% | 粒子やや粗い | 坏部内面・器肉：淡茶褐色、 脚部内面・外面：濃茶褐色 | 良 | 坏部内面：ヘラミガキ、 脚部内面：手持ちヘラケズリ、 外面：横ヘラナデ、 軽いヘラミガキ |

第42表 古墳時代遺構出土土器数量計測表(1)

| 遺構番号 | | | 002 | 007 | 008 | 009 | 012 | 014 |
|--------|---------|-------|---------|--------|----------|---------|---------|---------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | |
| 破片資料 | 須惠器 | 坏 | 12.0 | 1.0 | 1.0 | | 13.0 | 15.0 |
| | | | 50.0 | 10.0 | 4.4 | | 95.6 | 70.1 |
| | | 甕 | 13.0 | 3.0 | 1.0 | | 27.0 | 13.0 |
| | | | 120.0 | 75.0 | 10.0 | | 345.6 | 107.2 |
| | | 甗 | | | | | | 1.0 |
| | | | | | | | | 11.4 |
| | | 蓋 | 2.0 | | | | 9.0 | 12.0 |
| | | | 20.0 | | | | 77.9 | 100.5 |
| | | 壺 | 4.0 | | 3.0 | | 1.0 | 10.0 |
| | 45.0 | | | 130.0 | | 7.7 | 89.8 | |
| | 不明 | | | 1.0 | | | | |
| | 合計A点 | 31.0 | 4.0 | 6.0 | 0.0 | 50.0 | 51.0 | |
| | B g | 235.0 | 85.0 | 204.4 | 0.0 | 526.8 | 379.0 | |
| | B/B+D% | 8.3% | 8.6% | 22.0% | 0.0% | 5.0% | 18.2% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 106.0 | 30.0 | 21.0 | 16.0 | 291.0 | 260.0 |
| | | | 750.0 | 273.0 | 200.0 | 100.0 | 1,951.6 | 1,693.5 |
| | | 甕・鉢 | 187.0 | 88.0 | 40.0 | 44.0 | 592.0 | 716.0 |
| | | | 1,850.0 | 635.0 | 525.0 | 710.0 | 6,990.7 | 5.4 |
| | | 甗 | | | | | 101.0 | |
| | | | | | | 1,170.5 | | |
| 小形土器 | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | 1.0 | | | |
| 合計C点 | 293.0 | 118.0 | 61.0 | 61.0 | 984.0 | 976.0 | | |
| D g | 2,600.0 | 908.0 | 725.0 | 822.0 | 10,112.8 | 1,698.9 | | |
| D/B+D% | 91.7% | 91.4% | 78.0% | 100.0% | 95.0% | 81.8% | | |
| 実測資料 | 須惠器 | 坏 | | 3 | | | | |
| | | 甕 | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計E点 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | E/E+F% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | 1 | 2 | 5 | |
| | | 甕・鉢 | 2 | | 3 | | 3 | |
| | | 甗 | | | | 1 | 3 | |
| | | 小形土器 | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| 合計F点 | | 2 | 0 | 4 | 3 | 11 | 0 | |
| F/E+F% | 100.0% | 0.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | |

第43表 古墳時代遺構出土土器数量計測表(2)

| 遺構番号 | | | 042 | 合計 |
|----------|----------|----------|---------|----------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 2.0 | 44.0 |
| | | | 23.4 | 253.5 |
| | | 甕 | | 57.0 |
| | | | | 657.8 |
| | | 甗 | | 1.0 |
| | | | | 11.4 |
| | | 蓋 | 1.0 | 24.0 |
| | | | 5.1 | 203.5 |
| | | 壺 | 1.0 | 19.0 |
| | | | 11.6 | 284.1 |
| | 不明 | | 1.0 | |
| | | | 60.0 | |
| | 合計A点 | 4.0 | 146.0 | |
| | B g | 40.1 | 1,470.3 | |
| | B/B + D% | 2.5% | 7.4% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 19.0 | 743.0 |
| | | | 146.0 | 5,114.1 |
| | | 甕・鉢 | 123.0 | 1,790.0 |
| | | | 1,298.1 | 12,014.2 |
| 甗 | | 1.0 | 102.0 | |
| | | 95.4 | 1,265.9 | |
| 小形土器 | | | 0.0 | |
| | | | 0.0 | |
| 支脚 | | | 0.0 | |
| | | | 0.0 | |
| 不明 | | 1.0 | | |
| | | 12.0 | | |
| 合計C点 | 143.0 | 2,636.0 | | |
| D g | 1,539.5 | 18,406.2 | | |
| D/B + D% | 97.5% | 92.6% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | 3 |
| | | 甕 | | 0 |
| | | 甗 | | 0 |
| | | 蓋 | | 0 |
| | | 壺 | | 0 |
| | | 不明 | | 0 |
| | | 合計E点 | 0 | 3 |
| | | E/E + F% | 0.0% | 10.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 3 | 11 |
| | | 甕・鉢 | 2 | 10 |
| | | 甗 | 2 | 6 |
| | | 小形土器 | | 0 |
| | | 支脚 | | 0 |
| | | 不明 | | 0 |
| | | 合計F点 | 7 | 27 |
| | | F/E + F% | 100.0% | 90.0% |



第68図 奈良・平安時代遺構配置図 (S=1/500)

第4節 奈良・平安時代

1 概観

この時期の遺構は竪穴住居跡が11軒、掘立柱建物跡が2棟、土坑が1基検出された。ただし、全体に中世遺構に切られていることと、耕作による削平が著しいため遺存状況は悪く、017のように床面しか残存していないものもあり、実際にはもっと多数の遺構が存在していた可能性が強い。

時期的には8世紀中葉から9世紀前半にかけてのものであるが、特に8世紀後半の遺構が多数を占める。特に調査区北側には、8世紀中葉から後葉にかけての住居跡が密集しており、主軸方向がほぼ統一されていることなどから、集落の変遷にある程度の系統性を想定できよう。また、隣接する台地上に存在する池尻遺跡や、さらにその東側に位置する諏訪山遺跡、桜井平遺跡、あるいは道木内遺跡の西側の台地に位置する清和乙遺跡などにおいて8～9世紀の集落の存在が明らかになってきており、道木内遺跡の集落と合わせてこの地域の古代の様相を総合的に考察する必要がある。

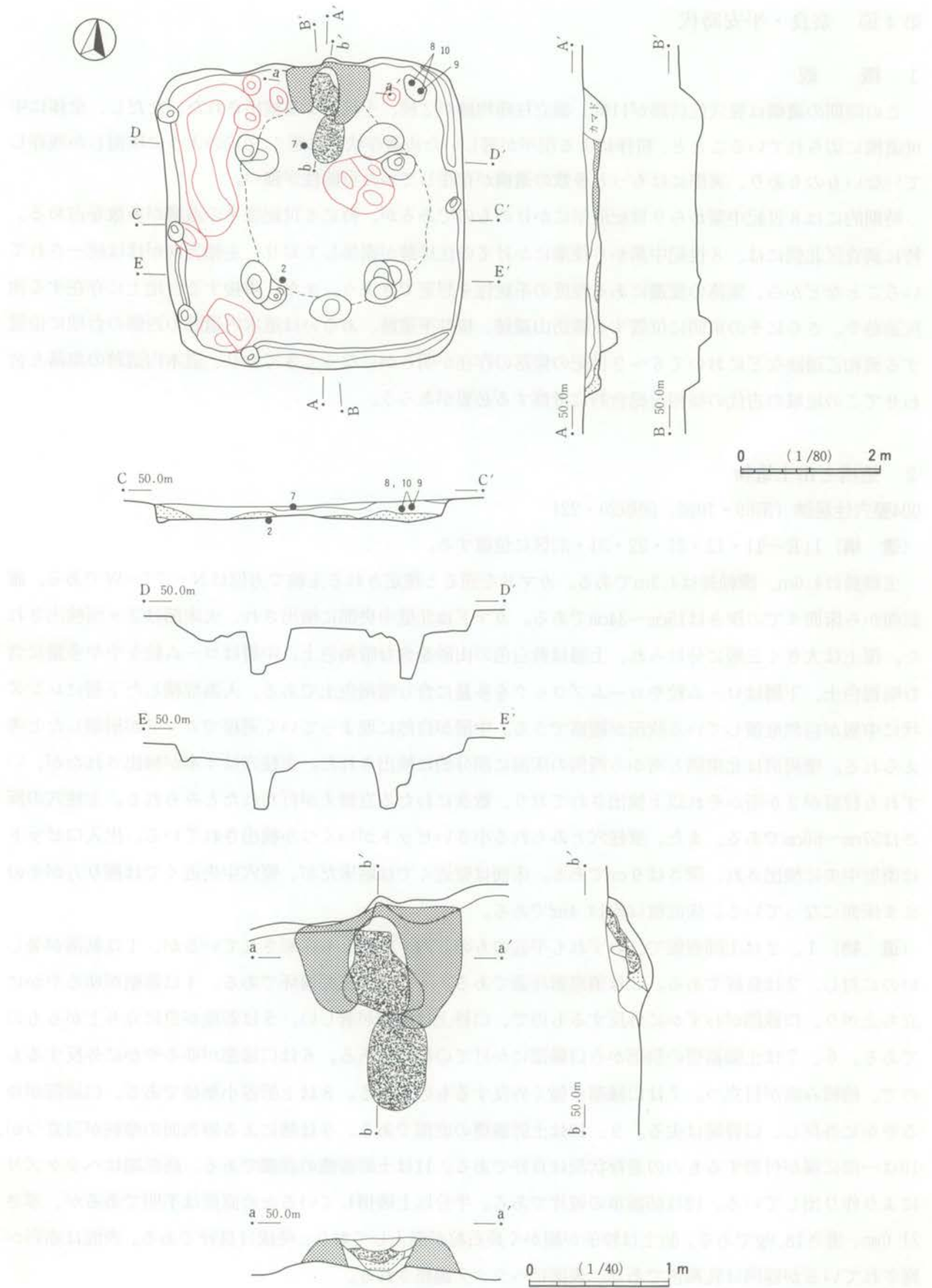
2 遺構と出土遺物

004竪穴住居跡（第69・70図、図版20・22）

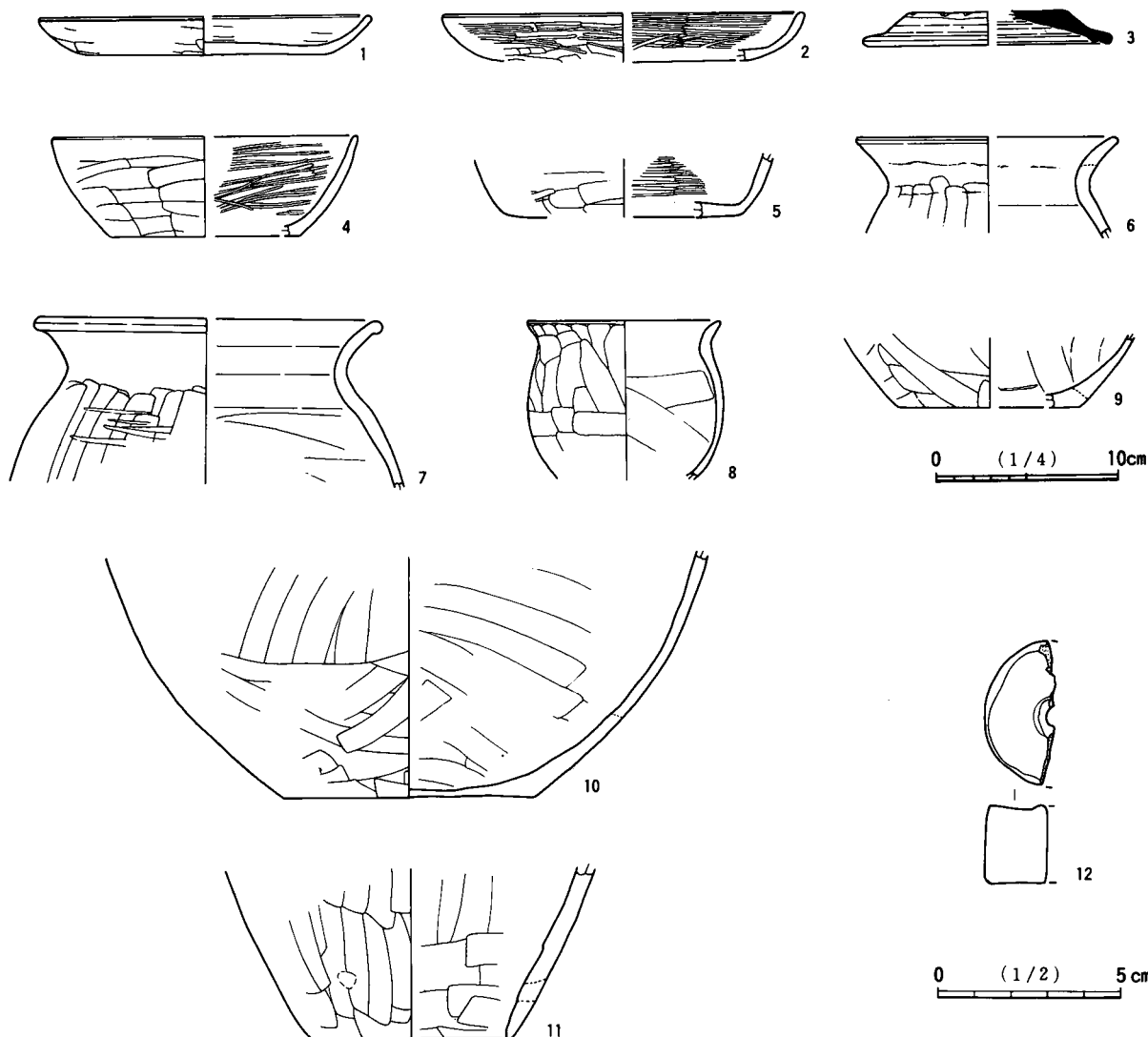
（遺構）11E-11・12・21・22・31・32区に位置する。

主軸長は4.6m、横軸長は4.3mである。カマドを通ると推定される主軸で方位はN-7°-Wである。確認面から床面までの深さは15cm～34cmである。カマドは北壁中央部に検出され、火床部は2ヶ所検出された。覆土は大きく三層に分けられ、上層は黄白色の山砂を含む暗褐色土、中層はローム粒をやや多量に含む暗褐色土、下層はローム粒やロームブロックを多量に含む暗褐色土である。人為堆積した下層にレンズ状に中層が自然堆積している状況が観察できる。中層が自然に埋まっていく過程でカマドが崩壊したと考えられる。壁周溝は北東隅と南から西側の床面に部分的に検出された。支柱穴は4本が検出されたが、いずれも柱痕が2か所かそれ以上検出されており、数次にわたる立替えが行われたとみられる。支柱穴の深さは57cm～66cmである。また、壁柱穴とみられる小さいピットがいくつか検出されている。出入口ピットは南壁中央に検出され、深さは9cmである。床面は壁近くでは貼床だが、竪穴中央近くでは掘り方がそのまま床面になっている。床面積は約14.4㎡である。

（遺物）1、2は土師器盤で、いずれも平底のもの。内・外面とも赤彩されているが、1は剥落が著しいのに対し、2は良好である。3は須恵器坏蓋である。4、5は土師器坏である。4は器壁がゆるやかに立ち上がり、口縁部がわずかに外反するもので、口唇上は摩耗が著しい。5は器壁が急に立ち上がるものである。6、7は土師器甕の胴部から口縁部にかけての破片である。6は口縁部がゆるやかに外反するもので、輪積み痕が目立つ。7は口縁部が強く外反するものである。8は土師器小型甕である。口縁部がゆるやかに外反し、口唇端は尖る。9、10は土師器甕の底部である。9は熱による器表面の摩耗が目立つが、10は一部に煤が付着するものの遺存状況は良好である。11は土師器甕の底部である。底部端はヘラケズリにより作り出している。12は紡錘車の破片である。半分以上破損しているため直径は不明であるが、厚さ21.0mm、重さ18.9gである。胎土は粒子が細かく長石粒が混入しており、焼成は良好である。表面は赤彩が施されているが器肉は乳褐色であり、表面はヘラナデ調整される。



第69図 004竖穴住居跡実測図



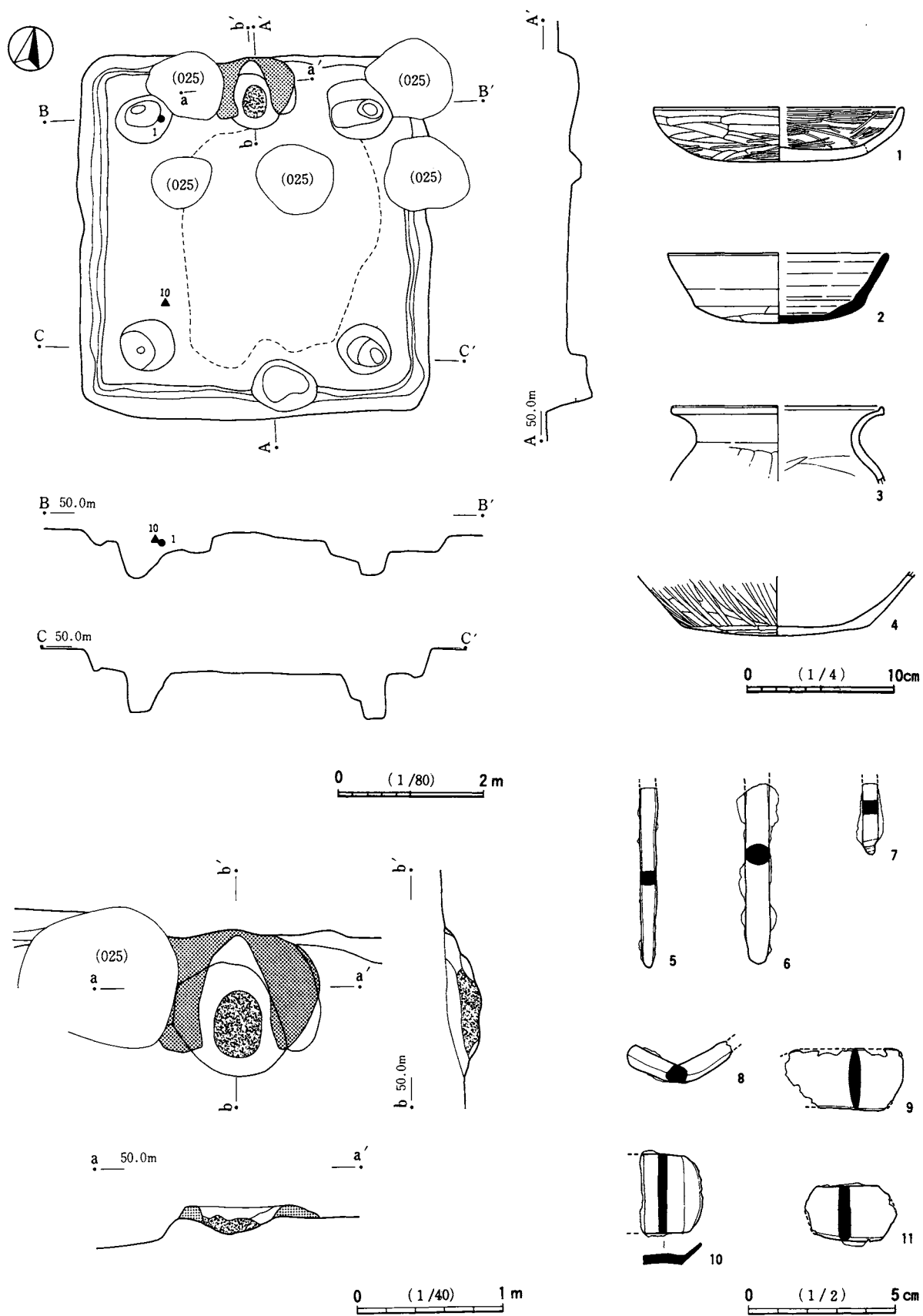
第70図 004竪穴住居跡出土遺物実測図

005竪穴住居跡 (第71図、図版20・22)

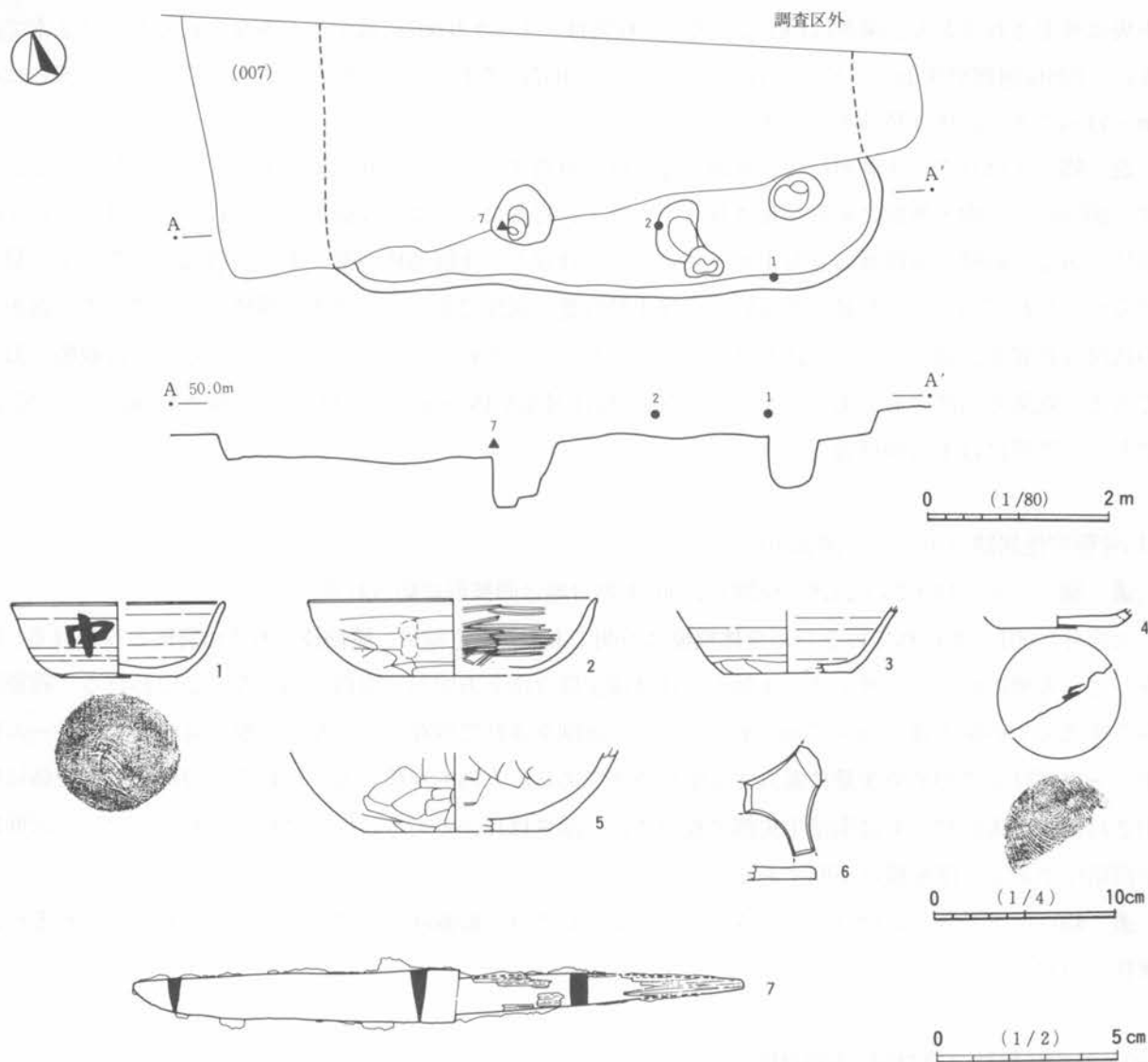
(遺 構) 11E-32・33・42・43区に位置し、025掘立柱建物に切られる。

主軸長は5.0m、横軸長は4.7mである。主軸方位はN-13°-Wである。確認面から床面までの深さは9cm~38cmである。カマドは北西壁中央に存在し、025掘立柱建物の柱穴に切られながらも、かろうじて残存している。覆土はほぼ単一で、ローム粒をやや多く含む焼土粒を少々含む暗褐色土層で、人為堆積とみられる。周溝は北東隅を除く壁面全面から検出された。支柱穴は4本が検出され、いずれもかなり隅に寄っている。柱穴の深さは48cm~59cmである。出入口ピットは南東壁やや東寄りの壁際から検出されており、深さは36cmである。床面は掘り方がそのまま床面になっている。床面積は約16.8m²である。

(遺 物) 1は土師器盤で、丸底に近い平底である。底部外面中央に熱による変色がみられるが、全体の遺存状況は極めて良好である。2は須恵器坏で、丸底である。焼成が悪く、器表面の剝落が著しい。3は土師器甕口縁部である。口唇端がつまみ出される。熱による剝落が極めて著しく、外面の細かい調整はほとんどわからない。4は土師器甕の底部である。内面には煤が付着する。5~11は鉄製品である。5~7は鉄鏃とみられる。5は頸部と考えられ遺存長60.8mm、幅5.7mm、厚さ5.0mm、重さ5.0g、6は頸部と考え



第71图 005竖穴住居跡、出土遺物実測図



第72図 006竖穴住居跡、出土遺物実測図

られ遺存長61.3mm、幅8.6mm、厚さ7.0mm、重さ12.2g、7は基部と考えられ遺存長24.0mm、幅5.2mm、厚さ5.0mm、重さ2.4gである。8は釘とみられる。途中で折れ曲がっており、遺存長35.8mm、幅6.0mm、厚さ7.0mm、重さ6.0gである。9～11は板状の製品で、刃物とみられるが性格は不明。9は遺存長40.5mm、幅20.5mm、厚さ4.0mm、重さ8.8g、10は途中で折れ曲がっており、遺存長20.3mm、幅26.5mm、厚さ3.0mm、重さ5.9g、11は遺存長31.0mm、幅19.2mm、厚さ4.0mm、重さ6.4gである。

006号竖穴住居跡（第72図、図版20・22）

（遺 構）11E-35・36・37・45・46・47区に位置し、007住居跡を切っている。ただし、攪乱が著しく007住居跡上の006の床面ははっきり捉えられていない。

主軸長は不明、横軸長も不明であるが残存している南壁から推定して6m程度とみられ、主軸方位は南壁の正面にカマドが存在すると考えると、およそN-12°-Eである。確認面から床面までの深さは16cm～31cmである。カマドは調査区外に存在するとみられる。覆土は単一で、ローム粒やロームブロック、焼土粒

をやや多量に含む暗褐色土である。人為堆積と考えられる。周溝は検出されない。出入口ピットは南西壁中央に検出されており、深さは19cmである。支柱穴は、はっきり007に属するとみなされるものは2本であるが、006住居跡の床面から検出されたピットには、007に属するものが存在する可能性がある。深さは43cm～71cmである。床面積は不明である。

(遺物) 1はロクロ土師器坏で、外面一部に煤が付着する。胴部外面に墨書文字「中」が見られる。2は土師器坏で、内・外面に赤彩が施される。口唇上に打ち欠いたような破損が見られる。3はロクロ土師器坏である。器壁が直線状に立ち上がっていく。4はロクロ土師器坏底部である。底面に墨書文字が見られるが、割れているため判読できない。5は土師器甕の底部である。6は土師器甕の底部である。器表面の状況は良好で、熱を受けた痕跡がほとんど見られない。四孔のものの一部とみられる。7は鉄製の刀子である。両関でほぼ完形であり、全長169.2mm、幅は刃部が15.0mm、頸部が8.6mm、厚さ4.5mm、重さ26.4gである。頸部には木質が付着している。

010号竪穴住居跡 (第73図、図版20)

(遺構) 12E-14・23・24区に位置し、001中世台地区画整形に切られる。

大部分が001に切られているため全体規模は不明であるが、主軸長、横軸長とも4m前後とみられる。残存している壁の状況から考えて、主軸方位はほぼ正確な南北方向か、東西方向になると思われる。確認面から床面までの深さは12cm～27cmである。カマドは削平されて残存していない。覆土は単一で、ローム粒やロームブロックがやや多量に混入する暗褐色土である。人為的堆積と考えられる。周溝は南壁全体に検出された。出入口ピットは南壁中央部に検出され、深さは12cmである。柱穴は検出されていない。床面は全面貼床である。床面積は不明である。

(遺物) 図示できる遺物は1点のみである。1はロクロ土師器坏で、内・外面とも赤彩が施されるが、摩耗が目立つ。

050号竪穴住居跡 (第74図、図版21)

(遺構) 12D-69・79、12E-60・70区に位置する。

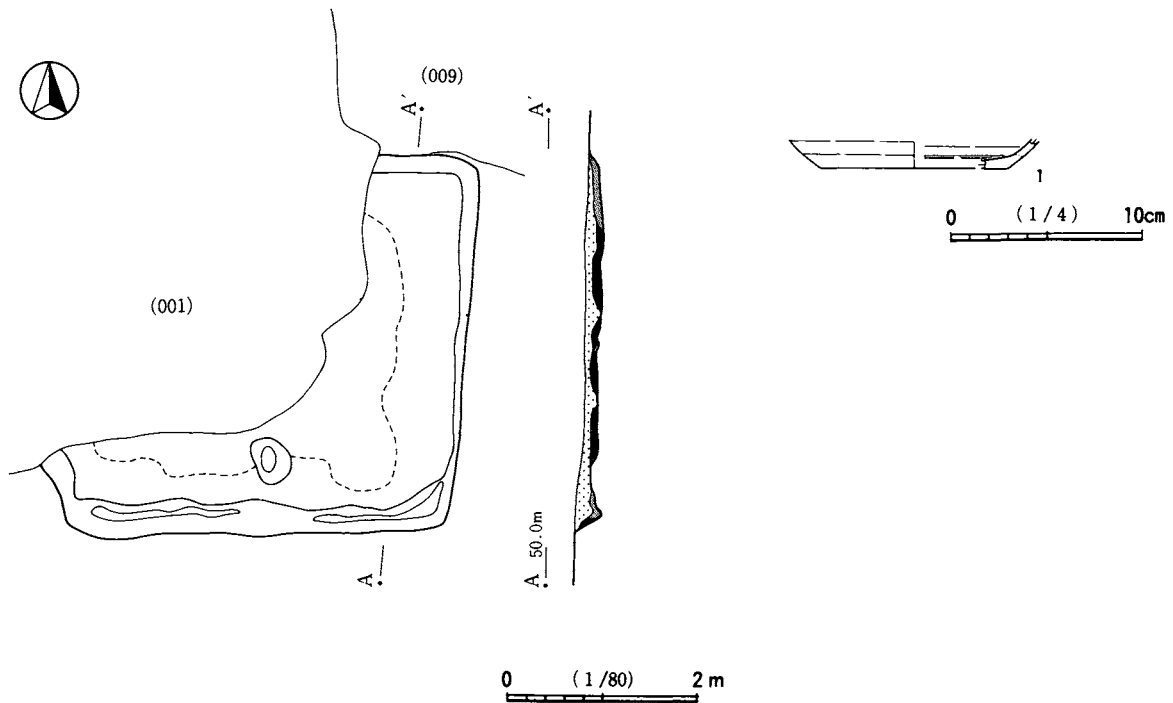
主軸長は4.0m、横軸長は4.1mで、主軸方位はN-6°-Wである。確認面から床面までの深さは7cm～19cmである。カマドは北壁中央部から検出されたが、ほとんど削平され火床部が残存するのみである。覆土は単一で、ローム粒を多量に含みロームブロックをやや多く含む暗褐色土であり、人為堆積と考えられる。周溝は検出されなかった。出入口ピットはやや小さいながら南壁中央に検出されており、深さは39cmである。支柱穴は4本検出されており、深さは55cm～63cmである。掘り方がそのまま床面になっており、全体に堅牢である。床面積は約13.7㎡である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

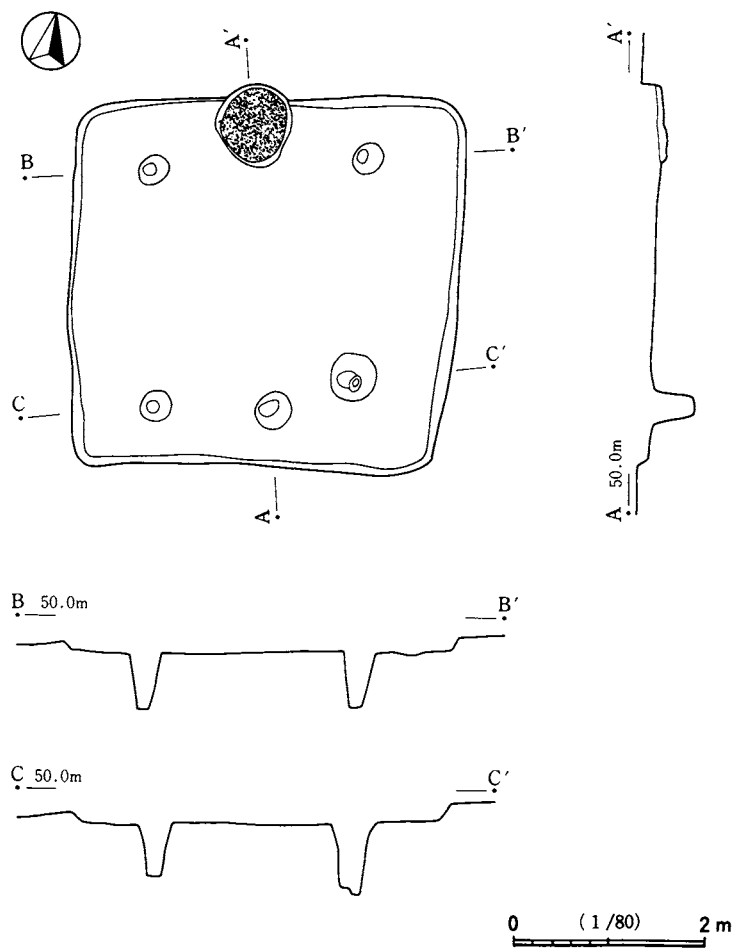
013号竪穴住居跡 (第75図、図版20・22)

(遺構) 11D-39・49、11E-40区に位置し、014住居跡を切り、026土坑群に切られる。ただし、014との関係については調査段階では逆に捉えられてしまったため、013の西壁は検出できなかった。

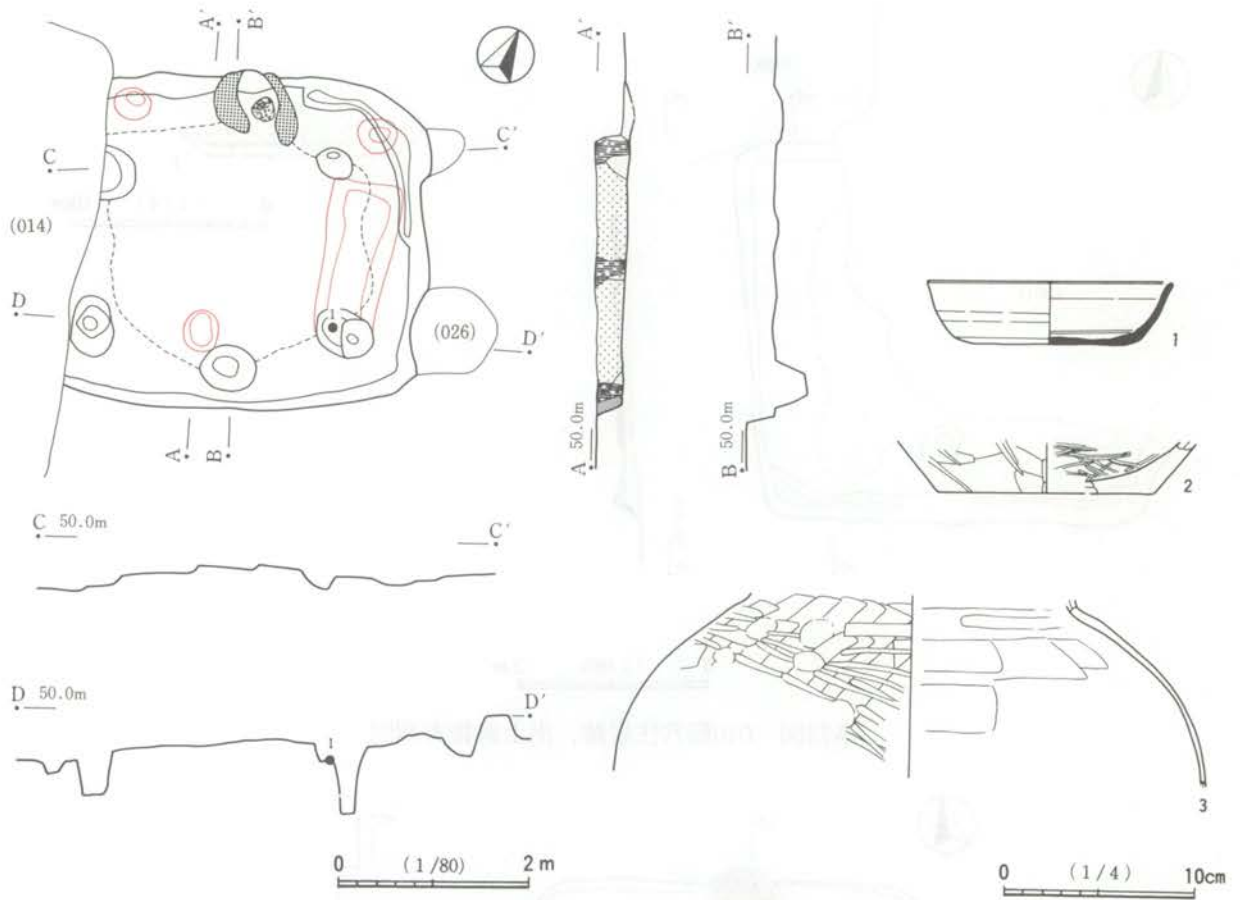
主軸長は3.7m、横軸長は不明であるがおよそ4mとみられる。主軸方位は推定N-25°-Wである。確認



第73图 010竖穴住居跡、出土遺物実測図



第74图 050竖穴住居跡実測図



第75図 013竪穴住居跡、出土遺物実測図

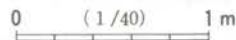
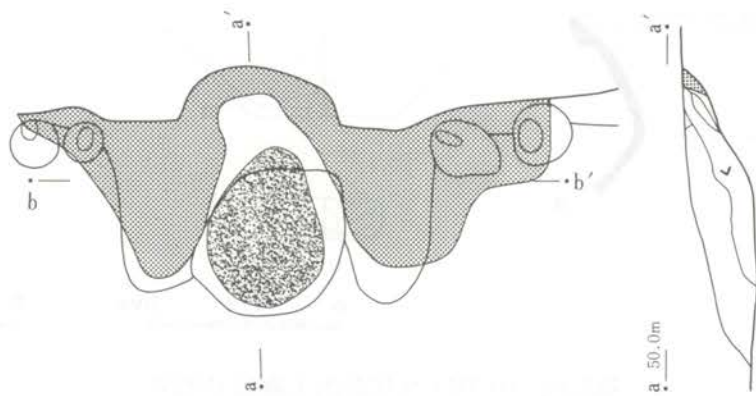
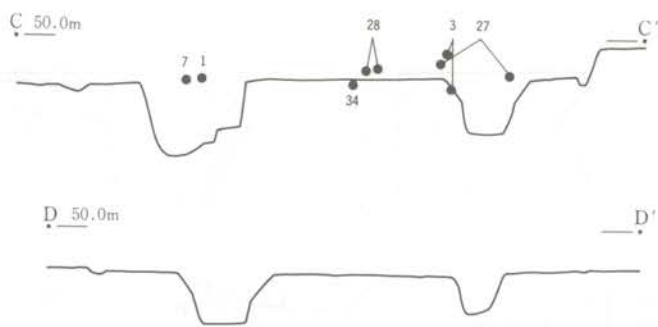
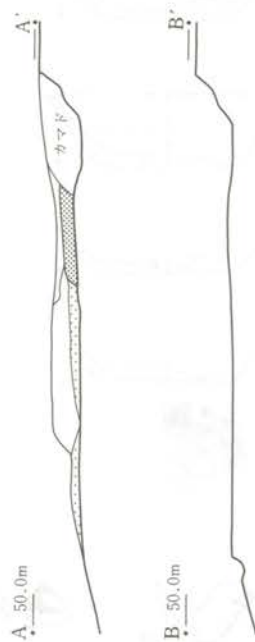
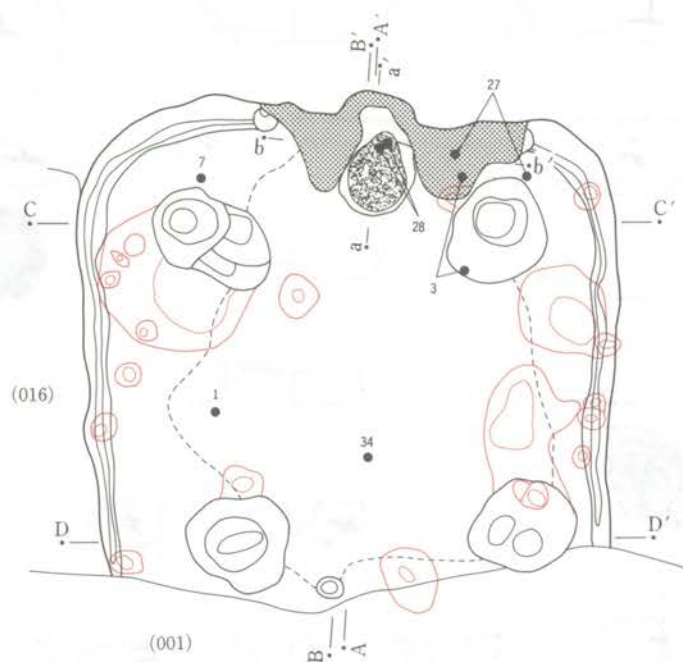
面から床面までの深さは3cm~26cmと極めて浅い。カマドは北西壁中央に存在するが、トレンチャーによる攪乱が著しく、袖と火床面の一部がかろうじて残存している程度である。覆土は単一で、ローム粒やロームブロックをやや多く含む暗褐色土である。人為堆積と思われる。周溝は北東隅に検出された。出入口ピットは南東壁中央部に検出され、深さは29cmである。主柱穴は4本検出されたが、南側の2本が深さ43cm~68cmと安定しているのに対し、北側の2本は深さ10cm~14cmと浅すぎる。床面は掘り方をそのまま使用している。中央部は特に硬化が著しい。床面積は不明である。

(遺物) 1は須恵器坏である。柱穴の中から出土した。胎土はきめ細かく、焼成も極めて良好。2は土師器甕の底部で、器面の剝落が著しい。外面に油煙の付着が観察される。3は土師器甕の頸部で、壺型を呈する。器表面は被熱による剝落が著しい。

015号竪穴住居跡 (第76・77図、図版20・21・23)

(遺構) 11E-50・51・60・61区に位置する。

南側が001中世台地区画整形に切られるため、主軸長は不明であるが、横軸長は5.5mで、主軸方位はおおよそN-7°-Wである。確認面から床面までの深さは33cm~35cmである。カマドは北壁中央部から検出され、攪乱が目立つものの袖、火床部とも残存している。周溝は壁面全体から検出されている。覆土は大きく二層に分けられ、上層はローム粒を少量含む黒褐色土が堆積しているが、下層はローム粒、ロームブロックをやや多量に混入する暗褐色土である。下層は人為堆積と考えられるが、上層は自然堆積の可能性が



第76图 015竖穴住居跡实测图



第77図 015竪穴住居跡出土遺物実測図

強い。出入口ピットは検出されなかった。主柱穴は4本検出されたが、いずれも柱痕を2本以上持つもので、立替えが行われた可能性がある。深さは35cm~72cmである。床面積は不明である。

(遺物) この遺跡の中では出土遺物をもっとも多かった。1~12、14はロクロ土師器坏である。1は胴部が内湾し、口縁部が外反するもので、外面に墨書文字「土」又は「土」が見られる。2は1より口縁部の外反が大きいもので、やはり外面に墨書文字「土」又は「土」が見られる。3は器壁が直線状に立ち上がるもの。4は胴部の開きが大きいもの。5は器壁が底部近くで大きく開いて立ち上がっていくもので、

器表面は摩耗が著しい。外面に墨書文字が観察されるが、判読不能である。6は口縁部が輪積み痕で割れているものである。7は底部から胴部にかけての破片で、胴部外面に墨書文字「土」又は「士」が見られるほか、底部内面にも文字らしきものが観察されるが、判読不能。10は内・外面に赤彩が施されるもので、016住居跡からの混入である可能性が高い。15～26はロクロ土師器坏の破片で、墨書が観察されるものである。15、16が口縁部、17～23が胴部、24～26が底部である。16、19、26が墨書文字「土」又は「士」であると考えられるほかは、判読不能である。27、28は土師器甕の口縁部から胴部にかけてである。27は口唇部が強くつまみ出されるもので、内面の一部に煤が付着している。輪積み痕が顕著に残る。28は口縁部がほぼ全部残存しているもので、外面は熱による摩耗が観察される。29～33は土師器甕の底部である。30、32には煤が多量に付着している。34は須恵器甕の口縁部から胴部にかけてである。酸化炎焼成のため濃橙色を呈する。35はミニチュア土器である。指頭整形であるが、底面には木葉痕が観察される。36は土製紡錘車である。直径36.5mm、厚さ15.0mm、重さ21.9gである。胎土は粒子が細かく、焼成は不良である。色調は淡茶褐色であり、表面はヘラケズリ調整が施される。

016号竪穴住居跡（第78図、図版20・21・23）

（遺構）11D-59・69、11E-50・60区に位置し、015住居跡、001中世台地区画整形、062中世土坑群に切られる。

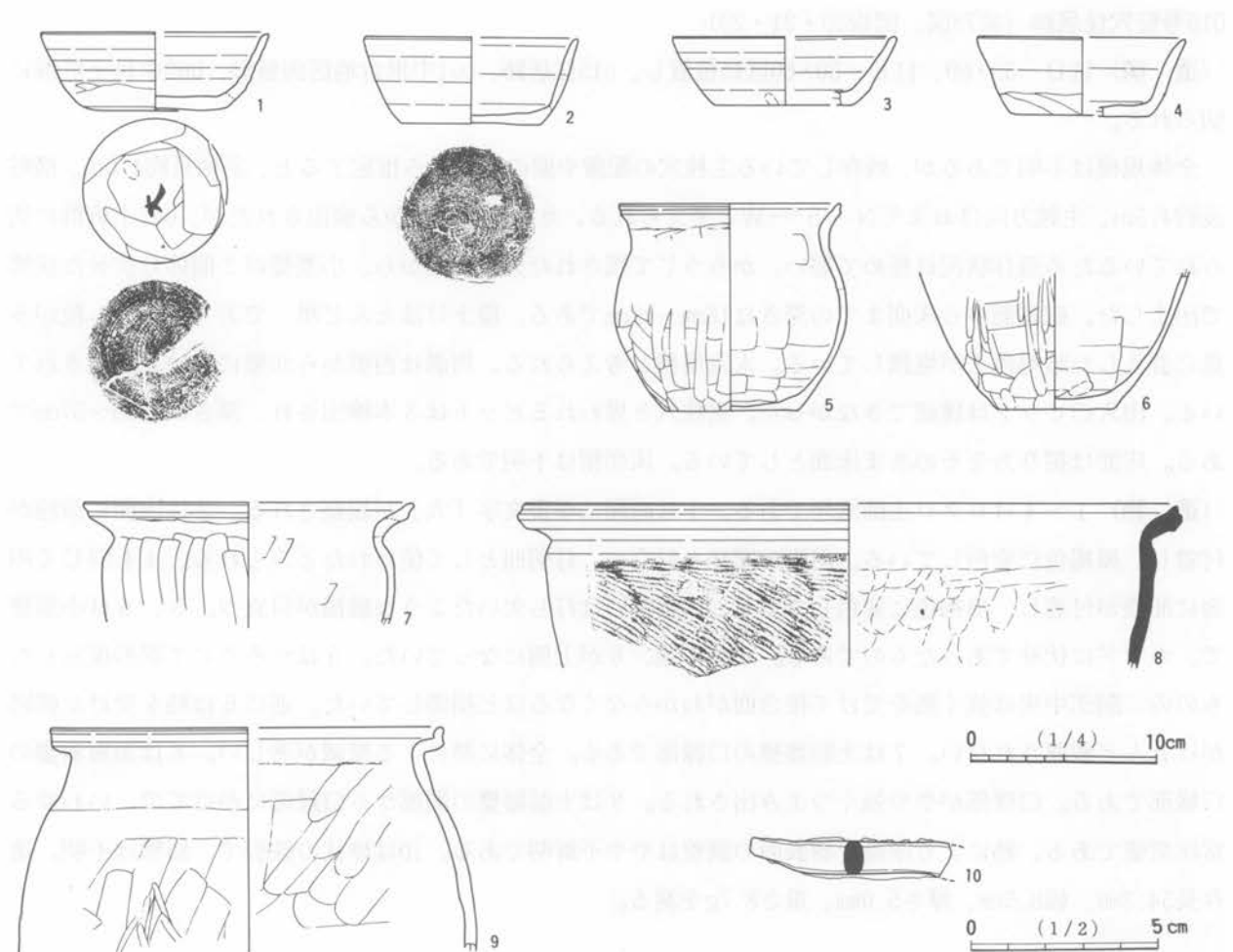
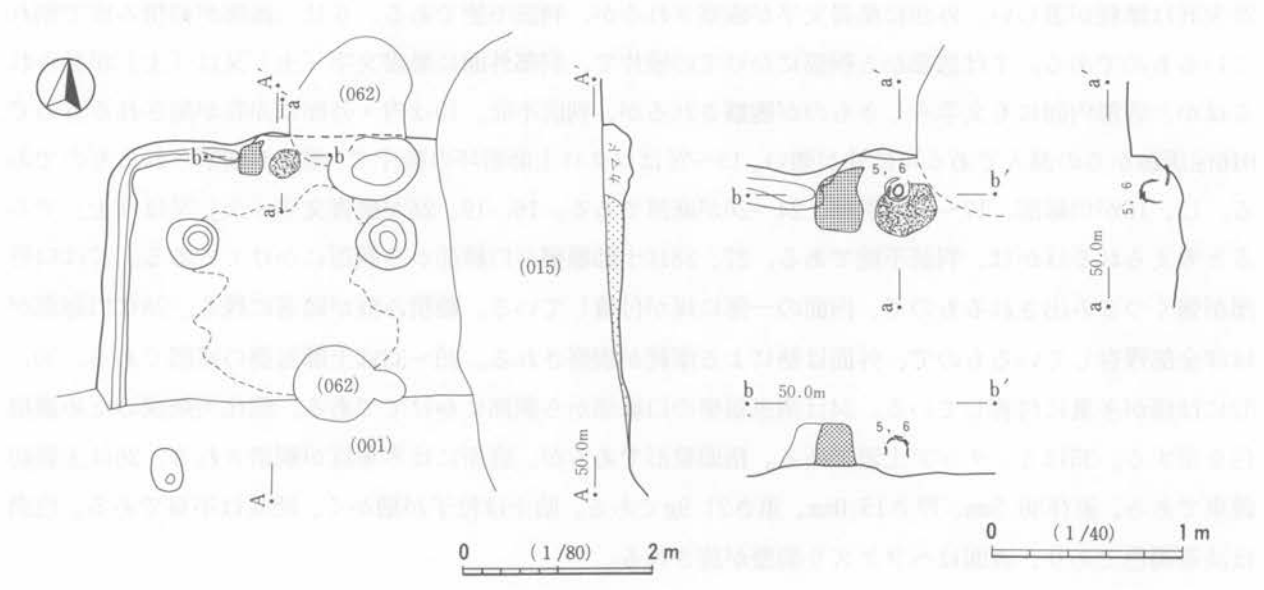
全体規模は不明であるが、残存している支柱穴の配置や壁の状況から推定すると、主軸長約4.0m、横軸長約4.5m、主軸方向はおよそN-5°-Wと考えられる。カマドは北壁から検出されたが、062土坑群に切られているため遺存状況は極めて悪い。かろうじて残された火床面上から、小型甕が2個体分伏せた状態で出土した。確認面から床面までの深さは16cm～42cmである。覆土はほとんど単一であり、ローム粒が多量に混入した暗褐色土が堆積している。人為堆積と考えられる。周溝は西壁から北壁にかけて検出されている。出入口ピットは確認できなかった。支柱穴と思われるピットは3本検出され、深さは45cm～57cmである。床面は掘り方をそのまま床面としている。床面積は不明である。

（遺物）1～4はロクロ土師器坏である。1は底面に墨書文字「大」が観察される。2は内面に油煙が付着し、黒褐色に変色している。器面の摩耗も目立つ。灯明皿として使われたとみられる。4も同じく内面に油煙が付着し、黒褐色に変色している。口唇部には打ち欠いたような破損が目立つ。5、6は小型甕で、カマドに伏せてあったものである。5が下側、6が上側になっていた。5はかろうじて器形復元したものの、胴部中央は強く熱を受けて接合面がわからなくなるほど損傷していた。逆に6は熱を受けた痕跡がほとんど観察されない。7は土師器甕の口縁部である。全体に熱による摩滅が著しい。8は須恵器甕の口縁部である。口唇部がやや強くつまみ出される。9は土師器甕の胴部から口縁部にかけてで、いわゆる常総型甕である。熱による摩滅で器表面の調整はやや不鮮明である。10は棒状の鉄製で、器種は不明。遺存長54.2mm、幅8.5mm、厚さ5.0mm、重さ8.7gを測る。

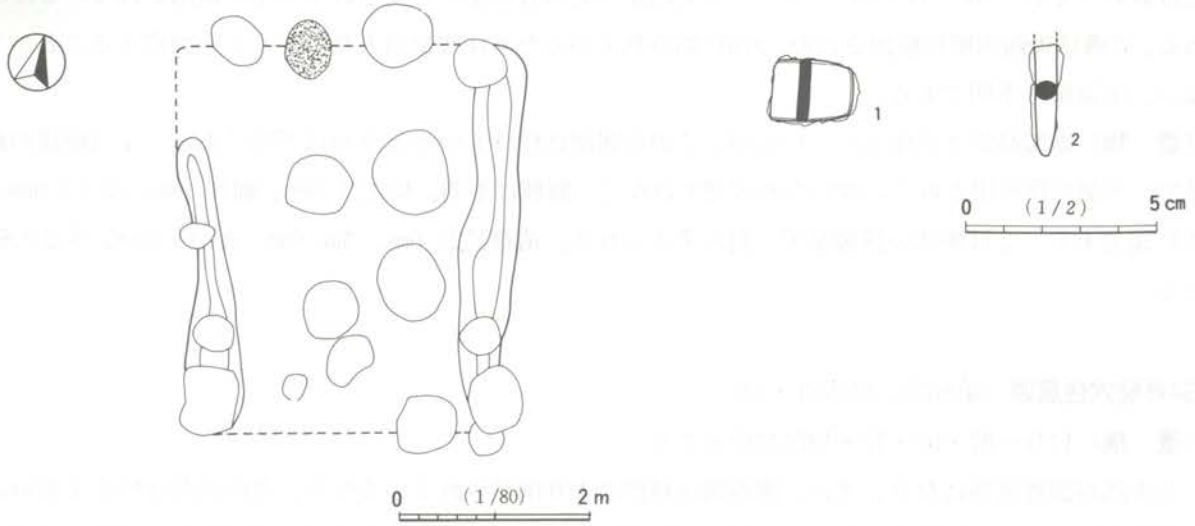
017号竪穴住居跡（第79図、図版21・24）

（遺構）11E-30・31・40・41区に位置し、026土坑群に切られる。

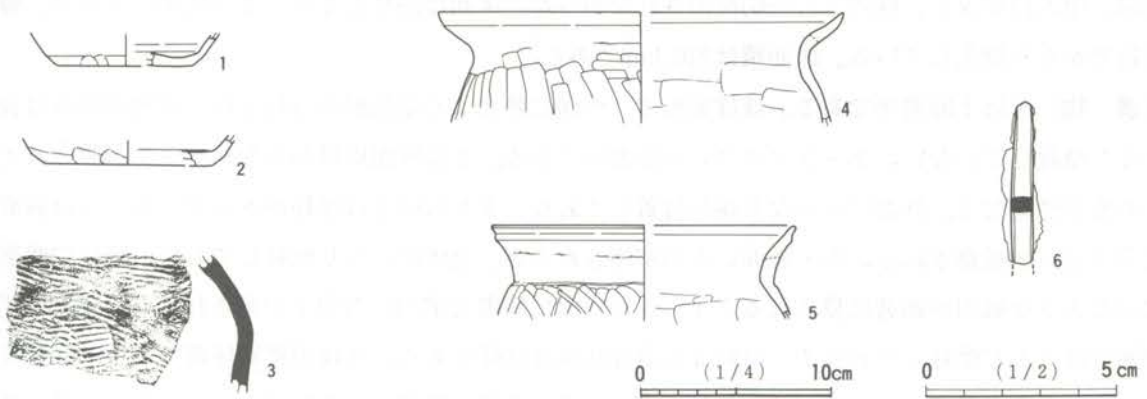
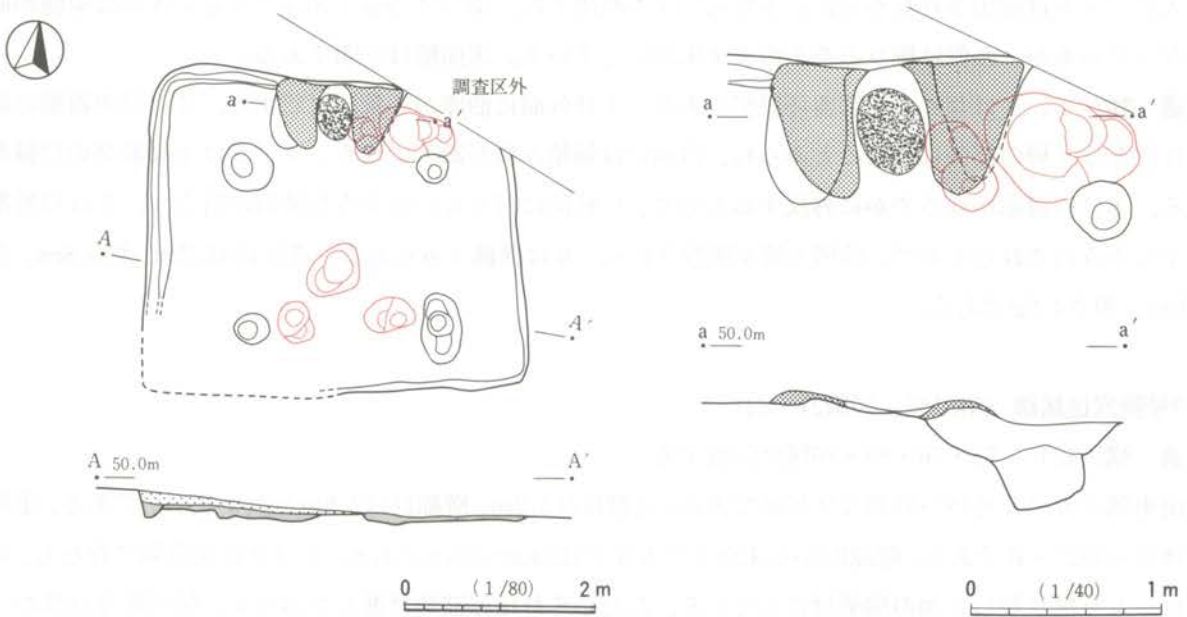
耕作によって床面まで削平されており、また、026によって大きく攪乱されているため、全体規模の把握は極めて困難である。残されたわずかな遺構から推定すると、主軸長は約4m、横軸長は約3.5mで主軸方



第78図 016竪穴住居跡、出土遺物実測図



第79図 017竖穴住居跡、出土遺物実測図



第80図 054竖穴住居跡、出土遺物実測図

位はおおよそN-10°-Wである。カマドは北西壁中央に火床部と推定される焼土が検出されているのみである。周溝は東西両壁に検出された。026に切られているため柱穴や出入口ピットを判別することができない。床面積は不明である。

(遺物) 鉄製品が2点出土しているが、この住居跡に伴うものかどうかは不明である。1は板状の鉄製品で、刃部が作り出されていないため刃物ではなく、器種は不明。長さ21.5mm、幅16.3mm、厚さ3.0mm、重さ4.2gである。2は棒状の鉄製品で、釘と考えられる。遺存長29.6mm、幅6.0mm、厚さ5.0mm、重さ2.6gである。

054号竪穴住居跡 (第80図、図版21・23)

(遺構) 11D-07・08・17・18区に位置する。

北東隅が調査区外になり、また、南西隅は耕作により削平されているため、遺存状況は極めて悪い。主軸長は3.2m、横軸長は3.9mである。主軸方位はN-9°-Wである。カマドは北壁中央に検出されているが、袖の底部と火床面がかろうじて残存している程度である。周溝は西壁から北壁にかけて検出された。出入口ピットは検出されなかった。主柱穴は4本検出され、深さは29cm~46cmである。床面は東側が貼床になっているが、西側は掘り方をそのまま床面にしている。床面積は不明である。

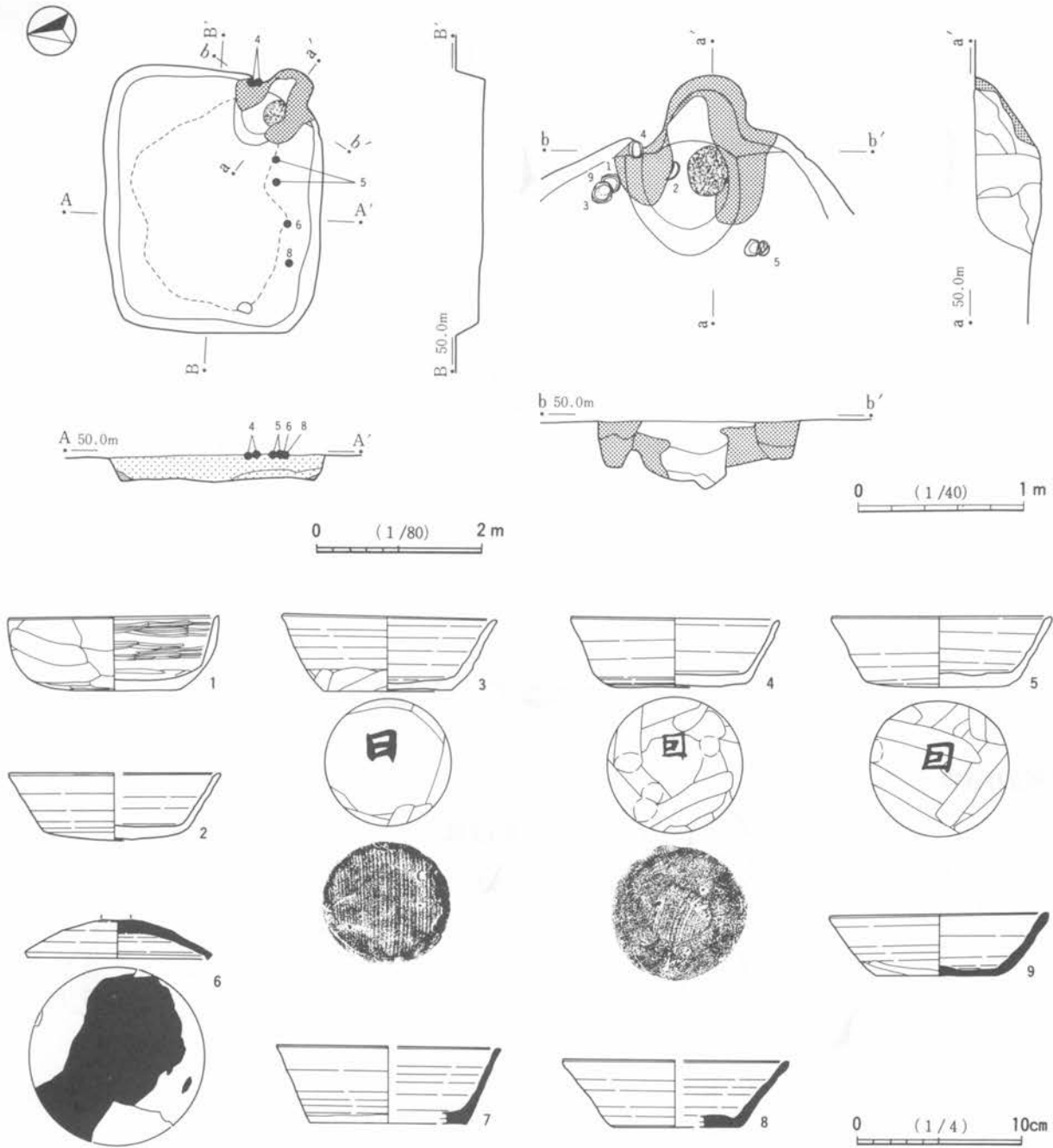
(遺物) 1、2はロクロ土師器坏底部である。1は外面に油煙が多量に付着する。3は須恵器甕の胴部破片である。肩の部分に当たるとみられ、内面には輪積み痕が顕著に残る。4、5は土師器甕の口縁部である。4は口縁部がゆるやかに外反するもので、口唇部は打ち欠いたような破損が目立つ。5は口唇部が若干つまみ出されるもので、輪積み痕が観察される。6は鉄鏝とみられる。遺存長42.2mm、幅5.8mm、厚さ4.0mm、重さ4.2gである。

049号竪穴住居跡 (第81図、図版21・24)

(遺構) 12E-75・76・85・86区に位置する。

南東隅にカマドを持つ特異な住居跡である。主軸長は3.2m、横軸長は2.6mとかなり小型である。主軸方位はN-102°-Eである。確認面から床面までの深さは24cm~30cmである。カマドは南東隅に存在し、地山のロームを掘り残して袖の構築材にしている。ただしそれほど被熱は進んでおらず、使用頻度は低かったとみられる。覆土はほとんど単一で、ローム粒を多量に含みロームブロックを少量含む暗褐色土である。周溝、出入口ピット、柱穴とも一切検出されなかった。床面は掘り方をそのまま使用しており、竪穴中央付近でかなり硬化している。床面積は約6.0㎡である。

(遺物) 1は土師器坏である。ほぼ完形で、外面に熱による変色がみられるが、器面の状況は良好でほとんど摩耗していない。2~5はロクロ土師器坏である。2は底面周縁がかなりヘラで調整されており、やや安定性を欠く。外面にはかなり煤が付着しており、また口唇上は摩耗が進んでいる。3は底面に墨書文字「日」が観察される。内・外面に赤彩が施されるが、全体にかなり摩耗しており、特に口唇部は打ち欠いたような破損が顕著に見られる。4、5は底面に墨書文字「回(因)」が記されるもので、いずれも器表面はほとんど摩耗しておらず、口唇部も遺存状況は良好である。6は須恵器坏蓋である。酸化炎焼成のため淡茶褐色を呈する。つまみは剥落している。この土器は墨溜として転用されたらしく、墨が多量に付着していた。7~9は須恵器坏である。7は酸化炎焼成によるもので、淡橙色を呈する。胎土はきめ細か



第81図 049竪穴住居跡、出土遺物実測図

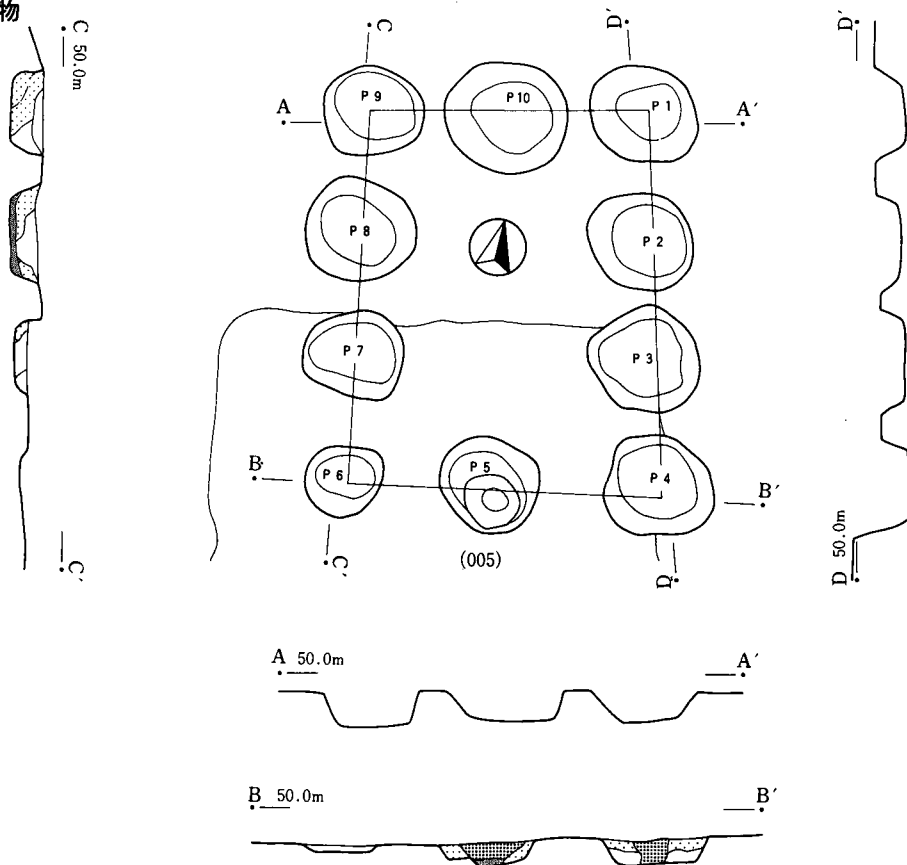
く、成形も稜やロクロ目が極めてシャープである。焼成も極めて良好である。8、9は胎土に石英粒を多量に含み、焼成は不良である。特に9は口唇部に打ち欠いたような破損が見られるほか、全体に摩耗が著しい。

025掘立柱建物跡 (第82図、図版21)

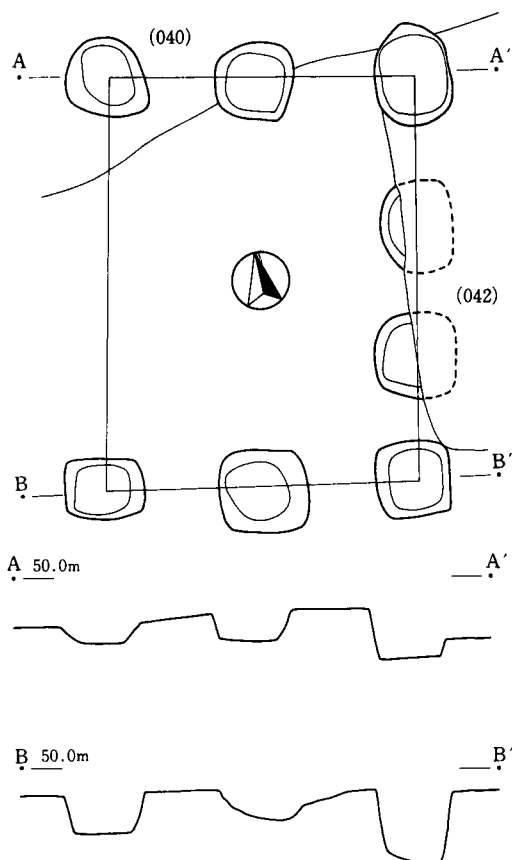
(遺構) 11E-22・23・32・33・42・43区に位置し、005住居跡を切っている。

2間×3間の側柱建物である。桁行長4.8m、梁行長は北側が4.0m、南側が4.4mで、平面形態は台形を呈する。長軸方向はN-15°-Wである。柱穴はいずれもかなり大型の円形で、直径は0.7m~1.2m、確認

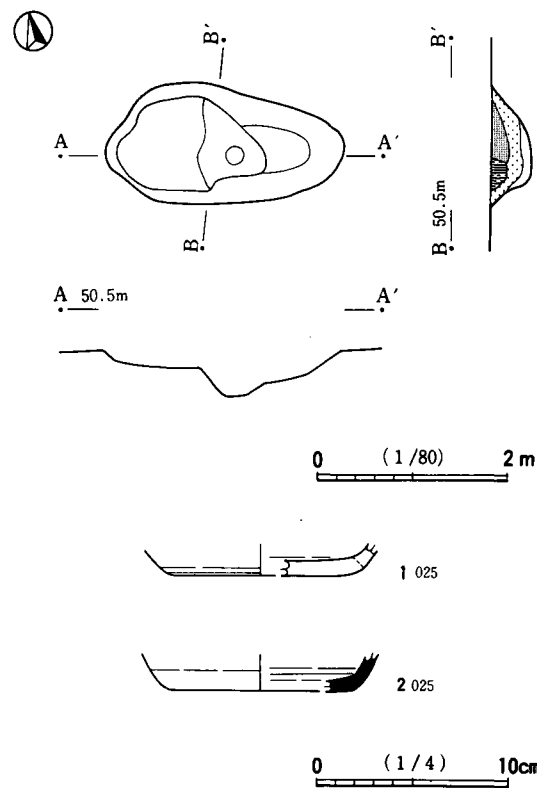
025掘立柱建物



061掘立柱建物



051土坑



第82図 奈良・平安時代掘立柱建物、土坑実測図

面からの深さは19cm～30cmである。柱間寸法は桁間で0.15m～0.6m、梁間で0.2m～0.7mとかなり狭い。覆土には柱痕が残されているのが観察される。

(遺物) 1はロクロ土師器坏の底部である。P 9から出土した。内・外面に赤彩が施されるが、摩耗が著しい。2は須恵器坏の底部である。P 7から出土した。

061掘立柱建物跡 (第82図)

(遺構) 12E-33・34・43・44・54区に位置し、042住居跡を切り、040溝状遺構に切られる。

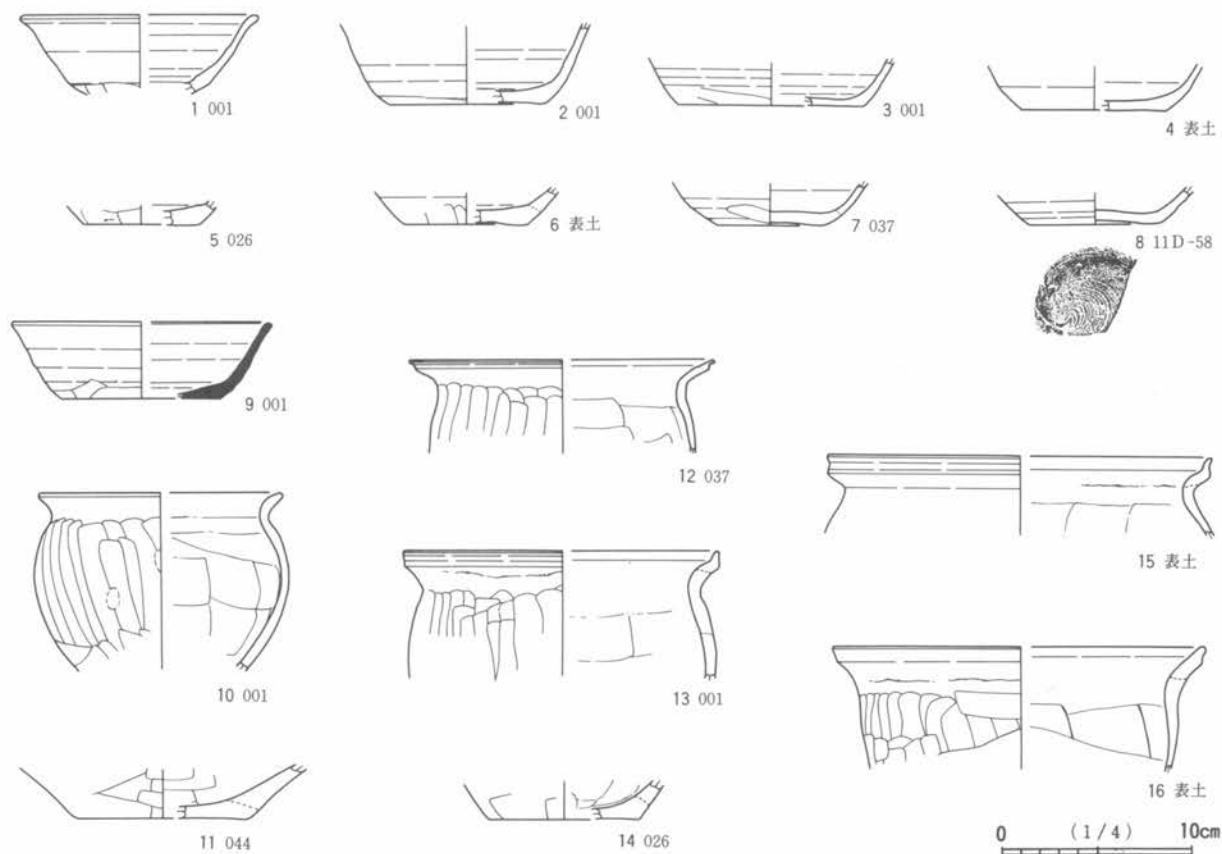
2間×3間の側柱建物であるが、西側に存在するべき柱穴2本は確認されなかった。桁行長5.0m、梁行長4.0mで、長軸方向はN-12°-Eである。柱穴は大型で隅丸方形を呈し、どれも一辺0.7m～0.9mと大きさがそろっている。確認面からの深さは13cm～53cmである。柱間寸法は桁間で0.4m、梁間で0.7mでそろっている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

051土坑 (第82図、図版21)

(遺構) 12E-94・95区に位置する。

長軸2.5m、短軸1.3m、確認面から床面までの深さは45cmの楕円形である。中央に柱穴状の円形の落込みがあり、両側が段状の高まりになっている。覆土中には焼土や炭化物は含まれない。他の中世土坑とは形態がかなり異なることから、この時期のものとしたが、確定はできない。



第83図 グリッド等出土奈良・平安時代遺物実測図

(遺物) 図示できる遺物はない。

グリッド等出土遺物 (第83図)

グリッド、表面採集品、他の時代の遺構から出土した奈良・平安時代の遺物を一括して掲載した。

1～8はロクロ土師器坏である。1はロクロ目がやや目立つ。2の内面には煤が付着する。9は須恵器坏である。10～15は土師器甕である。10は小型のもので、器面の遺存状況は良好。14は外面に煤が付着する。15は胎土に石英粒を多量に含むもので、いわゆる常総型甕であろう。16は土師器甗である。口縁部に最大径を持つもので、外面には被熱した砂粒が付着する。

第44表 004出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|------------------------------|--------|-----------------|-------------------------|------|-------------------------------------------------|
| 70 | 1 | 盤 | 口径 17.8 底径 13.2 器高 2.1 | 30% | 粒子細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 盤 | 口径 19.6 底径 14.6 器高 2.6 | 口縁部20% | 粒子細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：丁寧なヘラミガキ、外面：手持ちヘラケズリ、軽いヘラミガキ |
| | 3 | 須恵器蓋 | 口径 13.6 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや粗い、長石粒多量に混入 | 器表：青灰色、器肉：灰褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ後、上面手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 16.2 底径 10.2 器高 5.6 | 口縁部20% | 粒子やや細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 坏 | 口径 13.0 底径 器高 | 底部25% | 粒子細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、側壁は丁寧なヘラミガキ、外面：手持ちヘラケズリ、底面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ |
| | 6 | 甗 | 口径 13.6 底径 器高 | 頸部25% | 粒子やや粗い、石英粒多量に混入 | 器表・器肉：赤褐色 | やや不良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部回転ヘラケズリ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 7 | 甗 | 口径 18.4 底径 器高 | 口縁部30% | 粒子やや粗い、長石粒混入 | 器表：濃茶褐色、器肉：茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部回転ヘラケズリ、胴部縦ヘラケズリ、軽いヘラミガキ |
| | 8 | 甗 | 口径 10.5 底径 器高 | 口縁部90% | 粒子やや粗い | 内面：茶褐色、外面：濃茶褐色、器肉：茶褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：上半縦ヘラケズリ、下半横ヘラケズリ |
| | 9 | 甗 | 口径 10.0 底径 器高 | 底部25% | 粒子粗い、雲母片混入 | 内面：淡茶褐色、外面・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ、一部ヘラナデ |
| | 10 | 甗 | 口径 13.8 底径 器高 | 底部50% | 粒子粗い、石英粒多量に混入 | 内面：淡橙色、外・底面：濃茶褐色、器肉：赤褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ |
| | 11 | 甗 | 口径 11.0 底径 器高 | 底部20% | 粒子やや粗い、石英粒混入 | 器表・器肉：濃橙色 | 良 | 内面：胴部上側ヘラナデ、下側ヘラケズリ、外面：縦ヘラケズリ、底部周縁のみ横ヘラケズリ |

第45表 005出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|-----------------------------|--------|------------------|---------------------------------------|------|-----------------------------------------|
| 71 | 1 | 盤 | 口径 16.8 底径 6.8 器高 3.7 | 60% | 粒子細かい、雲母片混入 | 内面：橙色、外面：淡橙色、底面：黒色、器肉：橙色（内側は濃く外側はうすい） | 良 | 内面：ヘラナデ、ヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ、軽いヘラミガキ |
| | 2 | 須恵器坏 | 口径 14.6 底径 器高 4.7 | 口縁部25% | 粒子粗い、石英・長石粒多量に混入 | 器表・器肉：灰褐色 | やや不良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 甗 | 口径 14.2 底径 器高 | 口縁部30% | 粒子やや粗い、長石粒混入 | 内面：淡茶褐色、外面：淡桃色、器肉：淡茶褐色、淡桃色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部回転ヘラケズリ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 4 | 甗 | 口径 12.6 底径 器高 | 底部50% | 粒子粗い、石英粒多量に混入 | 器表・器肉：茶褐色 | やや不良 | 内面：ヘラナデ、外面：横ヘラケズリの後ヘラミガキ、底面：円周に沿ったヘラケズリ |

第46表 006出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|-----|-----------------------------|-------|-----------------|-----------------------------------|-----|----------------------------------------------------------|
| 72 | 1 | 坏 | 口径 11.6 底径 6.4 器高 4.1 | 60% | 粒子細かい、雲母混入 | 器表：橙色、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り後、手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 15.8 底径 8.6 器高 4.2 | 25% | 粒子やや細かい | 器表：赤彩、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：丁寧なヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 底径 器高 7.0 | 底部30% | 粒子やや細かい、長石多量に混入 | 内面：濃橙色、外面・器肉：乳褐色 | やや良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り後、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 底径 器高 6.6 | 底部50% | 粒子やや細かい | 内面・器肉：橙色、底面：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 甕 | 口径 底径 器高 10.0 | 底部25% | 粒子やや粗い | 外面：濃橙色、内面：濃茶褐色、器肉：外側2mm濃橙色、他は濃茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ |
| | 6 | 甕底部 | 口径 底径 器高 | | 粒子やや細かい、雲母多量に混入 | 器表：黒褐色、器肉：灰褐色 | 良 | ヘラナデ |

第47表 010出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|----|--------------------|-------|---------|--------------|----|-----------------------|
| 73 | 1 | 坏 | 口径 底径 器高 9.6 | 底部25% | 粒子やや細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：ヘラケズリ |

第48表 013出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|-----------------------------|-------|-------------|----------------------|-----|-------------------------------------------|
| 75 | 1 | 須恵器坏 | 口径 12.6 底径 8.0 器高 3.3 | 90% | 粒子細かい、長石粒混入 | 器表：青灰色、器肉：灰褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：回転ヘラ切り |
| | 2 | 甕 | 口径 底径 器高 11.2 | 底部25% | 粒子細かい、酸化鉄混入 | 器表・器肉：乳褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ、外面：ヘラケズリ、軽いヘラミガキ、底面：ヘラケズリ |
| | 3 | 甕 | 口径 底径 器高 | 頸部25% | 粒子粗い、石英粒混入 | 内面：橙色、外面：淡橙色、器肉：淡茶褐色 | やや良 | 内面：横ヘラナデ、外面：縦ヘラケズリ後、軽いヘラナデ、ヘラミガキ |

第49表 015出土土器観察表(1)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 調 整 |
|------|------|------|-----------------------------|--------|---------------|--------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 77 | 1 | 坏 | 口径 11.6 底径 6.6 器高 3.9 | 70% | 粒子細かい、雲母混入 | 内面：淡橙色、外面・器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：十字方向の手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 12.2 底径 6.8 器高 3.8 | 70% | 粒子やや細かい、長石粒混入 | 内面：淡茶褐色、外面・器肉：乳褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：十字方向の手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 12.2 底径 6.5 器高 4.1 | 60% | 粒子細かい、スコリア混入 | 器表：淡橙色、器肉：乳褐色 | やや良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：十字方向の手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 12.4 底径 7.0 器高 3.8 | 30% | 粒子やや細かい | 器表・器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 坏 | 口径 11.2 底径 4.8 器高 3.9 | 底部30% | 粒子細かい | 器表・器肉：乳褐色 | 不良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 6 | 坏 | 口径 10.7 底径 器高 | 口縁部50% | 粒子やや細かい、石英粒混入 | 内面：淡橙色、外面：茶褐色、器肉：内側淡橙色、外側茶褐色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |
| | 7 | 坏 | 口径 底径 5.6 器高 | 底部100% | 粒子細かい、石英粒混入 | 内面：茶褐色、外面：茶褐色、黒褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 8 | 坏 | 口径 底径 6.8 器高 | 底部60% | 粒子細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：乳褐色 | 不良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 9 | 坏 | 口径 底径 6.0 器高 | 底部60% | 粒子細かい、長石粒混入 | 器表・器肉：乳褐色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：回転糸切り |
| | 10 | 坏 | 口径 底径 8.0 器高 | 底部40% | 粒子やや細かい、石英粒混入 | 器表：赤彩、器肉：茶褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 11 | 坏 | 口径 底径 7.0 器高 | 底部25% | 粒子細かい、スコリア混入 | 内面：濃茶褐色、外・底面：淡橙色、器肉：淡橙色ただし内側1mmは濃茶褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 12 | 坏 | 口径 底径 7.6 器高 | 底部25% | 粒子やや細かい、長石混入 | 器表・器肉：濃茶褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：(残存部分は)手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 13 | 高台付坏 | 口径 底径 7.0 器高 | 高台部40% | 粒子細かい、スコリア混入 | 内面：黒色処理、外面：灰褐色 | 良 | 内面：ヘラナダ、軽いヘラミガキ、外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ高台接合後、回転ヘラケズリ |
| | 14 | 高台付坏 | 口径 底径 6.8 器高 | 高台部40% | 粒子細かい、石英混入 | 器表・器肉：淡橙色 | 良 | 内面：ヘラナダ、軽いヘラミガキ、外・底面：回転ヘラケズリ |
| | 15 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい | 器表・器肉：乳褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |
| | 16 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい | 器表・器肉：乳褐色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |
| | 17 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、スコリア混入 | 内面：黒色処理、外面・器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラミガキ、外面：回転ヘラケズリ |
| | 18 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子やや細かい | 器表・器肉：乳褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |
| | 19 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、石英粒混入 | 器表・器肉：乳褐色 | 不良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |

第50表 015出土土器観察表(2)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 調 整 | |
|------|-----------|----------------|-------------------|------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 77 | 20 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、白砂 粒混入 | 内面・器肉：乳褐色、 外面：茶褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ | |
| | 21 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子やや粗い、スコ リア混入 | 内面：茶褐色、外 面・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：ヘラケズリ | |
| | 22 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、石英 粒混入 | 器表・器肉：淡橙 色 | やや不 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ | |
| | 23 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい | 器表・器肉とも乳 褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘ ラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、 底面：手持ちヘラケズリ | |
| | 24 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、雲母 片混入 | 内面：黒色処理、 外面・器肉：乳褐 色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：手持ちヘラケ ズリ | |
| | 25 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子細かい、スコ リア混入 | 器表・器肉とも淡 橙色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：静止糸 切り、周縁部手持ちヘラケズリ | |
| | 26 | 坏 | 口径 底径 器高 | | 粒子やや細かい、ス コリア多量に混 入 | 器表・器肉とも乳 褐色 | やや不 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転糸 切り、周縁部手持ちヘラケズリ | |
| | 27 | 甕 | 口径 底径 器高 | 20.2 | 口縁部50% | 粒子粗い、長石粒 混入 | 器表：茶褐色、濃 橙色、器肉：濃橙 色 | やや良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘ ラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 28 | 甕 | 口径 底径 器高 | 12.2 | 口縁部95% | 粒子粗い、酸化鉄 混入 | 器表・器肉：赤褐 色、一部濃茶褐色 | やや良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘ ラナデ、胴部斜めヘラケズリ |
| | 29 | 甕 | 口径 底径 器高 | 7.8 | 底部30% | 粒子粗い、長石粒 多量に混入 | 器表・器肉：赤褐 色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ、外 面：横ヘラケズリ、底面：ヘラナデ |
| | 30 | 甕 | 口径 底径 器高 | 9.0 | 底部25% | 粒子粗い、スコ リア混入 | 内面：赤褐色、外 面：濃茶褐色、器 肉：内側赤褐色、 外側濃茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：横ヘラナデ、 一部ヘラケズリ、底面：ヘラケズリ |
| | 31 | 甕 | 口径 底径 器高 | 6.0 | 底部30% | 粒子やや細かい | 内面・器肉：橙色、 外面：濃茶褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、軽いヘラミガキ、外 面：横ヘラケズリ、底面：ヘラケズリ |
| | 32 | 甕 | 口径 底径 器高 | 6.2 | 底部95% | 粒子粗い、雲母片 混入 | 器表・器肉：濃茶 褐色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズ リ |
| | 33 | 甕 | 口径 底径 器高 | 7.2 | 底部40% | 粒子粗い | 内面：濃茶褐色、 外面・器表：赤褐 色 | やや不 良 | 内面：横ヘラナデ、外・底面：ヘラケ ズリ |
| | 34 | 須恵器甕 | 口径 底径 器高 | 22.0 | 口縁部30% | 粒子やや粗い | 器表・器肉：赤褐 色 | 良 | 内面：口縁部回転ヘラケズリ、胴部ヘ ラナデ、外面：口縁部回転ヘラケズリ、 胴部縦平行タタキ |
| 35 | 手捏ね土 器 | 口径 底径 器高 | 5.9 5.0 2.3 | 95% | 粒子やや粗い、石 英粒混入 | 器表・器肉：赤褐 色 | やや不 良 | 内・外面：指頭成形、底面：木葉庄痕 | |

第51表 016出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|------------------------------|--------|-----------------|-------------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 78 | 1 | 坏 | 口径 11.8 底径 7.8 器高 4.2 | 50% | 粒子細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：淡橙色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 11.2 底径 7.5 器高 4.6 | 70% | 粒子やや細かい、スコリア混入 | 内面：濃茶褐色、外・底面・器肉：濃茶褐色、橙色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 11.8 底径 7.2 器高 3.7 | 底部25% | 粒子やや細かい、長石粒混入 | 器表・器肉：濃茶褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 11.0 底径 7.2 器高 4.2 | 底部25% | 粒子細かい、石英混入 | 内面・器肉：濃茶褐色、外面：茶褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近斜めヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 甕 | 口径 11.6 底径 7.0 器高 11.0 | 60% | 粒子やや粗い、酸化鉄混入 | 器表・器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部上半縦ヘラケズリ、下半横ヘラケズリ、底面：一方向のヘラケズリ |
| | 6 | 甕 | 口径 底径 器高 6.2 | 底部100% | 粒子やや粗い、雲母多量に混入 | 内面：淡橙色、外面・器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：縦ヘラケズリ、軽いヘラミガキ、底面：ヘラケズリ |
| | 7 | 甕 | 口径 17.4 底径 器高 | 口縁部20% | 粒子粗い | 内面：濃茶褐色、外面：赤褐色、器肉：濃茶褐色 | やや良 | 内面：ヘラナデ、外面：口縁部ヘラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 8 | 須恵器甕 | 口径 35.0 底径 器高 | 頸部20% | 粒子やや粗い、雲母片混入 | 器表・器肉：灰褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、胴部あて具痕、外面：回転ヘラケズリ、胴部平行タタキ |
| | 9 | 甕 | 口径 20.6 底径 器高 | 口縁部30% | 粒子粗い、石英・雲母多量に混入 | 器表：濃茶褐色、器肉：淡橙色 | 良 | 内面：ヘラナデ、外面：ヘラナデ、胴部に軽いヘラミガキ |

第52表 025出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|--------------------|-------|------------|--------------------|------|--------------------------|
| 82 | 1 | 坏 | 口径 底径 9.6 器高 | 底部25% | 粒子細かい、石英混入 | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 須恵器坏 | 口径 底径 9.6 器高 | 底部25% | 粒子やや細かい | 外面：濃青灰色、内面・器肉：淡灰褐色 | やや不良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |

第53表 049出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|-----------------------------|--------|----------------|-----------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 81 | 1 | 坏 | 口径 12.6 底径 8.7 器高 4.5 | 95% | 粒子細かい、スコリア混入 | 内面：濃橙色、外面：淡茶褐色、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：ヘラケズリの後、丁寧なヘラミガキ、外・底面：手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 12.6 底径 8.2 器高 4.0 | 30% | 粒子やや細かい | 器表・器肉：赤褐色、濃茶褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：静止糸切り後、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 12.7 底径 7.7 器高 4.7 | 95% | 粒子細かい、長石混入 | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 12.4 底径 8.2 器高 4.3 | 90% | 粒子やや細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：濃橙色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 坏 | 口径 13.1 底径 8.8 器高 4.2 | 85% | 粒子やや細かい、スコリア混入 | 内面：濃橙色、外面・器肉：淡茶褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 6 | 須恵器蓋 | 口径 11.0 底径 器高 | 85% | 粒子細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：淡茶褐色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ |
| | 7 | 須恵器坏 | 口径 13.2 底径 9.4 器高 4.6 | 底部25% | 粒子細かい、スコリア混入 | 内面・器肉：淡茶褐色、外面：淡橙色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部周縁手持ちヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 8 | 須恵器坏 | 口径 13.4 底径 7.8 器高 4.0 | 口縁部30% | 粒子やや細かい、石英粒混入 | 器表・器肉：灰褐色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 9 | 須恵器坏 | 口径 13.0 底径 7.3 器高 3.9 | 95% | 粒子粗い、長石粒多量に混入 | 器表：青灰色、灰褐色、器肉：灰褐色 | やや良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |

第54表 054出土土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 調整 |
|------|------|------|---------------------|-------|----------------|-----------------------|------|--------------------------------------------|
| 80 | 1 | 坏 | 口径 底径 7.0 器高 | 底部25% | 粒子細かい | 外面：濃茶褐色、濃橙色、内面・器肉：濃橙色 | 良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：静止糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 底径 8.6 器高 | 底部25% | 粒子細かい | 器表：赤彩、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近ヘラナデ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 須恵器甕 | 口径 底径 器高 | | 粒子やや粗い、雲母多量に混入 | 器表・器肉：灰褐色 | やや不良 | 内面：あて具痕残存、外面：平行タタキ |
| | 4 | 甕 | 口径 21.0 底径 器高 | 頸部30% | 粒子やや粗い、長石粒混入 | 器表・器肉：濃橙色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 5 | 甕 | 口径 15.6 底径 器高 | 頸部25% | 粒子やや粗い、長石粒混入 | 器表・器肉：濃橙色 | 良 | 内面：横ナデ、外面：口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ |

第55表 奈良・平安時代遺構出土遺物数量計測表(1)

| 遺構番号 | | | 004 | 005 | 006 | 010 | 013 | 015 | |
|-----------|-----------|------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | | |
| 破片資料 | 須惠器 | 坏 | 13.0 | 17.0 | | | 7.0 | 20.0 | |
| | | | 130.0 | 110.0 | | | 34.4 | 122.4 | |
| | | 甕 | 8.0 | 29.0 | 25.0 | 3.0 | 5.0 | 88.0 | |
| | | | 190.0 | 243.7 | 355.0 | 90.0 | 44.3 | 1,132.2 | |
| | | 甗 | | | | | 1.0 | 1.0 | |
| | | | | | | | 1.0 | 85.6 | |
| | | 蓋 | 3.0 | 8.0 | | | 12.2 | 11.0 | |
| | | | 50.0 | 60.0 | | | 3.0 | 63.8 | |
| | | 壺 | | 3.0 | | | 25.1 | 10.0 | |
| | | | | 20.0 | | | | 62.1 | |
| | 不明 | | | 1.0 | | | | | |
| | | | | 10.0 | | | | | |
| | 合計A点 | | | 24.0 | 57.0 | 26.0 | 3.0 | 49.3 | 130.0 |
| | B g | | | 370.0 | 433.7 | 365.0 | 90.0 | 82.7 | 1,466.1 |
| | B/B + D % | | | 5.5% | 7.4% | 18.3% | 16.1% | 2.5% | 16.5% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 226.0 | 70.0 | 49.0 | 13.0 | 86.0 | 479.0 | |
| | | | 1,640.0 | 611.2 | 360.0 | 70.0 | 484.8 | 2,364.0 | |
| | | 甕・鉢 | 404.0 | 526.0 | 51.0 | 31.0 | 308.0 | 836.0 | |
| | | | 4,400.0 | 4,800.0 | 1,275.0 | 400.0 | 2,800.0 | 5,029.5 | |
| | | 甗 | 1.0 | | | | | 2.0 | |
| 250.0 | | | | | | | 47.5 | | |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 不明 | 1.0 | 4.0 | | | | | | | |
| | 25.0 | 30.0 | | | | | | | |
| 合計C点 | | | 632.0 | 600.0 | 100.0 | 44.0 | 394.0 | 1,317.0 | |
| D g | | | 6,315.0 | 5,441.2 | 1,635.0 | 470.0 | 3,284.8 | 7,441.0 | |
| D/B + D % | | | 94.5% | 92.6% | 81.8% | 83.9% | 97.5% | 83.5% | |
| 実測資料 | 須惠器 | 坏 | | | | | 1 | | |
| | | | | | | | | 1 | |
| | | 甕 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | 1 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 壺 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 合計E点 | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | E/E + F % | | | 9.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 33.3% | 4.3% |
| 土師器 | 坏・皿 | 4 | 2 | 5 | 1 | | 14 | | |
| | | 5 | 2 | | | 2 | 7 | | |
| | 甕・鉢 | 1 | | 1 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 小形土器 | | | | | | 1 | | |
| | | | | | | | | | |
| | 支脚 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計F点 | | | 10 | 4 | 6 | 1 | 2 | 22 | |
| F/E + F % | | | 90.9% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 66.7% | 95.7% | |

第56表 奈良・平安時代遺構出土遺物数量計測表(2)

| 遺構番号 | | | 016 | 017 | 025 | 049 | 050 | 054 |
|----------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|-------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 5.0 | 3.0 | 1.0 | 1.0 | | 4.0 |
| | | | 12.6 | 6.8 | 3.3 | 1.1 | 228.0 | |
| | | 甕 | 11.0 | 1.0 | 17.0 | 4.0 | 3.0 | |
| | | | 124.9 | 50.7 | 240.0 | 149.5 | 55.8 | |
| | | 甗 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 蓋 | 3.0 | | 1.0 | | 1.0 | |
| | | | 5.8 | | 1.7 | | 10.0 | |
| | | 壺 | 2.0 | | 2.0 | 4.0 | 1.0 | |
| | | | 3.1 | | 9.1 | 8.7 | 6.8 | |
| | 不明 | | | | | | | |
| | 合計A点 | 21.0 | 4.0 | 21.0 | 9.0 | 1.0 | 8.0 | |
| | B g | 146.4 | 57.5 | 254.1 | 159.3 | 6.8 | 293.8 | |
| | B/B + D% | 9.5% | 18.0% | 14.2% | 30.5% | 1.6% | 23.2% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 43.0 | 16.0 | 49.0 | 38.0 | 3.0 | 40.0 |
| | | | 250.8 | 65.1 | 310.0 | 221.0 | 25.3 | 282.9 |
| | | 甕・鉢 | 123.0 | 34.0 | 141.0 | 23.0 | 26.0 | 124.0 |
| | | | 1,085.6 | 186.2 | 1,230.0 | 142.4 | 382.0 | 661.5 |
| | | 甗 | 1.0 | 1.0 | | | | 1.0 |
| | | | 57.2 | 10.1 | | | | 28.3 |
| 小形土器 | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | |
| 合計C点 | | 167.0 | 51.0 | 190.0 | 61.0 | 29.0 | 165.0 | |
| D g | 1,393.6 | 261.4 | 1,540.0 | 363.4 | 407.3 | 972.7 | | |
| D/B + D% | 90.5% | 82.0% | 85.8% | 69.5% | 98.4% | 76.8% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | 1 | 3 | | |
| | | | 1 | | | | 1 | |
| | | 甕 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | |
| | | | | | | 1 | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | |
| | 合計E点 | 1 | 0 | 1 | 4 | 0 | 1 | |
| | E/E + F% | 10.0% | | 50.0% | 44.4% | | 20.0% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 4 | | 1 | 5 | | 2 |
| | | | 5 | | | | | 2 |
| | | 甕・鉢 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 甗 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | |
| 合計F点 | 9 | 0 | 1 | 5 | 0 | 4 | | |
| F/E + F% | 90.0% | | 50.0% | 55.6% | | 80.0% | | |

第57表 奈良・平安時代遺構出土遺物数量計測表(3)

| 遺構番号 | | | 061 | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|---------|----------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | | 71.0 |
| | | | | 648.6 |
| | | 甕 | 1.0 | 194.0 |
| | | | 11.0 | 2,676.1 |
| | | 甗 | | 1.0 |
| | | | | 86.6 |
| | | 蓋 | 1.0 | 39.2 |
| | | | 1.7 | 194.3 |
| | | 壺 | | 47.1 |
| | | | | 109.8 |
| | 不明 | | 1.0 | |
| | | | 10.0 | |
| | 合計A点 | 2.0 | 353.3 | |
| | B g | 12.7 | 3,725.4 | |
| | B/B + D % | 13.8% | 11.2% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 4.0 | 1,112.0 |
| | | | 15.0 | 6,685.1 |
| | | 甕・鉢 | 6.0 | 2,627.0 |
| | | | 64.3 | 22,392.2 |
| | | 甗 | | 6.0 |
| | | | 393.1 | |
| 小形土器 | | | 0.0 | |
| | | | 0.0 | |
| 支脚 | | | 0.0 | |
| | | | 0.0 | |
| 不明 | | 5.0 | | |
| | | 55.0 | | |
| 合計C点 | 10.0 | 3,750.0 | | |
| D g | 79.3 | 29,525.4 | | |
| D/B + D % | 86.2% | 88.8% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | 5 |
| | | 甕 | | 3 |
| | | 甗 | | 0 |
| | | 蓋 | | 2 |
| | | 壺 | | 0 |
| | | 不明 | | 0 |
| | | 合計E点 | 0 | 10 |
| | | E/E + F % | | 13.5% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | 38 |
| | | 甕・鉢 | | 23 |
| | | 甗 | | 2 |
| | | 小形土器 | | 1 |
| | | 支脚 | | 0 |
| | | 不明 | | 0 |
| | | 合計F点 | 0 | 64 |
| | | F/E + F % | | 86.5% |

第58表 グリッド等出土奈良・平安時代土器観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 法量 (cm) | 遺存度 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 調 整 |
|------|------|------|-----------------------------|--------|-----------------|------------------------|------|----------------------------------------------------------|
| 83 | 1 | 坏 | 口径 12.0 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや粗い、石英粒多量に混入 | 器表・器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ |
| | 2 | 坏 | 口径 8.0 底径 器高 | 底部30% | 粒子細かい | 内面：濃茶褐色、外面：淡茶褐色、器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：静止糸切り後、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 3 | 坏 | 口径 9.8 底径 器高 | 底部25% | 粒子細かい、石英粒混入 | 器表：赤彩、器肉：淡橙色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 4 | 坏 | 口径 7.4 底径 器高 | 底部25% | 粒子やや細かい、石英粒混入 | 器表・器肉：乳褐色 | やや良 | 内面・外面：回転ヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 5 | 坏 | 口径 6.0 底径 器高 | 底部30% | 粒子やや細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：淡橙色 | やや良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：手持ちヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 6 | 坏 | 口径 6.4 底径 器高 | 底部40% | 粒子やや細かい | 器表・器肉：橙色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、周縁部手持ちヘラケズリ |
| | 7 | 坏 | 口径 5.5 底径 器高 | 底部100% | 粒子やや細かい、スコリア混入 | 器表・器肉：乳褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部付近手持ちヘラケズリ、底面：回転糸切り、軽いヘラナデ |
| | 8 | 坏 | 口径 7.0 底径 器高 | 底部35% | 粒子細かい | 器表・器肉：橙色 | やや良 | 内・外面：回転ヘラケズリ、底面：回転糸切り |
| | 9 | 須恵器坏 | 口径 13.2 底径 8.2 器高 4.0 | 30% | 粒子細かい | 器表・器肉：灰褐色 | 良 | 内面：回転ヘラケズリ、外面：回転ヘラケズリ、底部周縁手持ちヘラケズリ、底面：手持ちヘラケズリ |
| | 10 | 甕 | 口径 12.4 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子粗い、石英、スコリア混入 | 器表・器肉：淡橙色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 11 | 甕 | 口径 8.8 底径 器高 | 底部25% | 粒子粗い、長石粒多量に混入 | 内面：黒褐色、外面・器肉：淡茶褐色 | やや不良 | 内面：ヘラナデ、外・底面：ヘラケズリ |
| | 12 | 甕 | 口径 15.8 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子粗い | 器表：濃茶褐色、器肉：赤褐色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 13 | 甕 | 口径 16.2 底径 器高 | 頸部25% | 粒子やや粗い、石英粒混入 | 器表：濃茶褐色、器肉：淡茶褐色 | 良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部縦ヘラケズリ |
| | 14 | 甕 | 口径 8.0 底径 器高 | 底部25% | 粒子粗い、石英粒多量に混入 | 器表：濃茶褐色、器肉：赤褐色 | やや不良 | 内面：横ヘラナデ、外面：横ヘラケズリ、底面：ヘラケズリ |
| | 15 | 甕 | 口径 19.8 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子粗い、石英粒多量に混入 | 器表・器肉：淡橙色 | 良 | 内・外面：横ヘラナデ |
| | 16 | 甕 | 口径 19.2 底径 器高 | 口縁部25% | 粒子やや粗い、スコリア混入 | 器表：濃茶褐色、器肉：赤褐色 | やや良 | 内面：横ヘラナデ、外面：口縁部横ヘラナデ、胴部ヘラケズリ |

第59表 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計測表(1)

| 遺構番号 | | | 001 | 003 | 011 | 021 | 026 | 028 |
|--------|--------|---------|---------|-------|--------|-------|--------|------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 9.0 | | 4.0 | | 1.0 | |
| | | | 36.1 | | 26.6 | | 3.3 | |
| | | 甕 | 22.0 | 2.0 | 9.0 | | 1.0 | |
| | | | 311.5 | 30.0 | 115.6 | | 13.0 | |
| | | 甗 | 1.0 | | | | | |
| | | | 4.2 | | | | | |
| | | 蓋 | 1.0 | | | | | |
| | | | 2.0 | | | | | |
| | | 壺 | 9.0 | | 1.0 | | | |
| | | | 66.6 | | 4.9 | | | |
| | 不明 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 合計A点 | | 42.0 | 2.0 | 14.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 |
| | Bg | | 420.4 | 30.0 | 147.1 | 0.0 | 16.3 | 0.0 |
| | B/B+D% | | 10.0% | 19.4% | 14.6% | 0.0% | 7.5% | 0.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 186.0 | 10.0 | 22.0 | 2.0 | 3.0 | 1.0 |
| | | | 999.4 | 25.0 | 97.0 | 2.2 | 18.0 | 10.7 |
| | | 甕・鉢 | 374.0 | 21.0 | 118.0 | 2.0 | 41.0 | 1.0 |
| | | | 2,792.0 | 100.0 | 760.0 | 7.6 | 183.0 | 3.5 |
| | | 甗 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 合計C点 | | 560.0 | 31.0 | 140.0 | 4.0 | 44.0 | 2.0 | |
| Dg | | 3,791.4 | 125.0 | 857.0 | 9.8 | 201.0 | 14.2 | |
| D/B+D% | | 90.0% | 80.6% | 85.4% | 100.0% | 92.5% | 100.0% | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | 1 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 甕 | 1 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 壺 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 合計E点 | | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | E/E+F% | | 28.6% | 0.0% | | | | |
| 土師器 | 坏・皿 | 3 | 1 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 甕・鉢 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 小形土器 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| その他 | | | 1 | | | | | |
| 合計F点 | | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| F/E+F% | | 71.4% | 100.0% | | | | | |

第60表 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計測表(2)

| 遺構番号 | | | 029 | 030 | 031 | 033 | 034 | 035 |
|----------|----------|----------|-------|-------|-------|--------|------|------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | | | 1.0 | | 1.0 | |
| | | | | | | 3.3 | | 10.0 |
| | | 甕 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | |
| | | | 6.4 | 163.0 | 4.1 | 9.0 | 19.8 | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | 1.0 | |
| | | 不明 | | | | | 10.1 | |
| | | 合計A点 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | 4.0 | 0.0 |
| | | B g | 6.4 | 163.0 | 7.4 | 9.0 | 39.9 | 0.0 |
| | B/B + D% | 7.1% | 80.8% | 2.8% | 24.4% | 41.4% | 0.0% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 2.0 | 2.0 | 6.0 | 1.0 | 2.0 | 4.0 |
| | | | 12.4 | 13.5 | 46.0 | 1.1 | 21.4 | 13.4 |
| | | 甕・鉢 | 11.0 | 3.0 | 37.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 |
| | | | 71.1 | 25.2 | 207.9 | 26.8 | 35.0 | 28.1 |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計C点 | 13.0 | 5.0 | 43.0 | 5.0 | 6.0 | 8.0 |
| D g | | 83.5 | 38.7 | 253.9 | 27.9 | 56.4 | 41.5 | |
| D/B + D% | 92.9% | 19.2% | 97.2% | 75.6% | 58.6% | 100.0% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | |
| | | 甕 | | | | | | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計E点 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | E/E + F% | | | | | | |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | | | |
| | | 甕・鉢 | | | | | | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | |
| | | その他 | | | | | | |
| 合計F点 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| F/E + F% | | | | | | | | |

第61表 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計測表(3)

| 遺構番号 | | | 036 | 037 | 038 | 039 | 040 | 044 | |
|----------|----------|----------|-------|-------|---------|-------|---------|---------|------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | | 15.0 | | |
| | | | 4.1 | 42.8 | 12.5 | | 89.2 | | |
| | | 甕 | | 2.0 | | | | 29.0 | |
| | | | | 22.5 | | | | 389.5 | |
| | | 甗 | | 1.0 | 1.0 | | | | |
| | | | | 17.4 | 13.3 | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | 5.0 | |
| | | | | | | | | 25.0 | |
| | | 壺 | | | | | | 5.0 | |
| | | | | | | | 47.5 | | |
| | 不明 | | | | | | | | |
| | 合計A点 | | 1.0 | 5.0 | 3.0 | 0.0 | 54.0 | 0.0 | |
| | B g | | 4.1 | 82.7 | 25.8 | 0.0 | 551.2 | 0.0 | |
| | B/B + D% | | 8.7% | 28.0% | 2.1% | 0.0% | 25.3% | 0.0% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | | 2.0 | 10.0 | 46.0 | 4.0 | 57.0 | |
| | | | | 4.3 | 47.8 | 361.3 | 19.5 | 345.3 | |
| | | 甕・鉢 | | 5.0 | 28.0 | 99.0 | 11.0 | 195.0 | 1.0 |
| | | | | 38.5 | 164.5 | 865.4 | 48.8 | 1,285.4 | 16.9 |
| | | 甗 | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| 合計C点 | | | 7.0 | 38.0 | 145.0 | 15.0 | 252.0 | 1.0 | |
| D g | | | 42.8 | 212.3 | 1,226.7 | 68.3 | 1,630.7 | 16.9 | |
| D/B + D% | | 91.3% | 72.0% | 97.9% | 100.0% | 74.7% | 100.0% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | | |
| | | 甕 | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | | |
| | | 合計E点 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | E/E + F% | | | | | | | 0.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | | | | |
| | | 甕・鉢 | | | | | | | 1 |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |
| 合計F点 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | |
| F/E + F% | | | | | | | 100.0% | | |

第62表 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計測表(4)

| 遺構番号 | | | 045 | 046 | 052 | 053 | 062 | 063 | |
|----------|----------|-----|--------|--------|---------|-------|--------|-------|-------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | | | 6.0 | 1.0 | | 1.0 | |
| | | | | | 17.8 | 12.3 | | 3.8 | |
| | | 甕 | | | | 8.0 | 2.0 | | |
| | | | | | | 62.6 | 108.9 | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | 2.0 | | | |
| | | | | | 21.3 | | | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 合計A点 | | | 0.0 | 0.0 | 16.0 | 3.0 | 0.0 | 1.0 |
| | D g | | | 0.0 | 0.0 | 101.7 | 121.2 | 0.0 | 3.8 |
| | B/B + D% | | | 0.0% | 0.0% | 7.2% | 32.9% | 0.0% | 1.7% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | 13.0 | | 111.0 | 7.0 | 13.0 | 12.0 |
| | | | | 56.8 | | 402.8 | 47.3 | 50.7 | 57.2 |
| | | 甕・鉢 | | 3.0 | 2.0 | 169.0 | 29.0 | 14.0 | 16.0 |
| | | | | 20.0 | 6.7 | 900.5 | 199.8 | 66.5 | 159.7 |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計C点 | | | 16.0 | 2.0 | 280.0 | 36.0 | 27.0 | 28.0 | |
| D g | | | 76.8 | 6.7 | 1,303.3 | 247.1 | 117.2 | 216.9 | |
| D/B + D% | | | 100.0% | 100.0% | 92.8% | 67.1% | 100.0% | 98.3% | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 甕 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 合計E点 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | E/E + F% | | | | | | | | |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 甕・鉢 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計F点 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| F/E + F% | | | | | | | | | |

第63表 他時代遺構出土奈良・平安時代土器数量計測表(5)

| 遺構番号 | | | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|---------|
| 種別 | 種類 | 器種 | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 44.0 |
| | | | 261.8 |
| | | 甕 | 82.0 |
| | | | 1,255.9 |
| | | 甗 | 3.0 |
| | | | 34.9 |
| | | 蓋 | 8.0 |
| | | | 48.3 |
| | | 壺 | 16.0 |
| | | | 129.1 |
| | 不明 | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| | 合計A点 | 153.0 | |
| | B g | 1,730.0 | |
| | B/B + D % | 14.0% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 516.0 |
| | | | 2,653.1 |
| | | 甕・鉢 | 1,192.0 |
| | | | 8,012.9 |
| | | 甗 | 0.0 |
| | | 0.0 | |
| 小形土器 | | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| 支脚 | | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| 不明 | 0.0 | | |
| | 0.0 | | |
| 合計C点 | 1,708.0 | | |
| D g | 10,666.0 | | |
| D/B + D % | 86.0% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | 1 |
| | | 甕 | 1 |
| | | 甗 | 0 |
| | | 蓋 | 0 |
| | | 壺 | 0 |
| | | 不明 | 0 |
| | | 合計E点 | 2 |
| | | E/E + F % | 20.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 4 |
| | | 甕・鉢 | 3 |
| | | 甗 | 0 |
| | | 小形土器 | 0 |
| | | 支脚 | 0 |
| | | その他 | 1 |
| | | 合計F点 | 8 |
| F/E + F % | 80.0% | | |

第64表 グリッド・表土出土奈良・平安時代土器数量計測表(1)

| グリッド番号 | | | 11D-58 | 11E-33 | 11E-34 | 11E-87 | 11E-88 | 11E-97 | |
|----------|----------|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 4.0 | | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 4.0 | |
| | | | 17.3 | | 15.2 | 8.6 | 3.3 | 10.7 | |
| | | 甕 | 3.0 | | 1.0 | 1.0 | | 1.0 | |
| | | | 17.1 | | 28.5 | 11.6 | | 3.9 | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 蓋 | 3.0 | | 1.0 | 1.0 | 1.0 | | |
| | | | 21.1 | | 3.2 | 5.9 | 14.4 | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 不明 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 合計A点 | | | 10.0 | 0.0 | 3.0 | 4.0 | 2.0 | 5.0 |
| | B g | | | 55.5 | 0.0 | 46.9 | 26.1 | 17.7 | 14.6 |
| | B/B + D% | | | 3.4% | 0.0% | 11.9% | 19.4% | 23.0% | 21.3% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 34.0 | | 16.0 | 5.0 | 2.0 | 5.0 | |
| | | | 164.5 | | 90.3 | 23.4 | 4.5 | 8.5 | |
| | | 甕・鉢 | 192.0 | 5.0 | 35.0 | 17.0 | 8.0 | 5.0 | |
| | | | 1,400.0 | 61.9 | 256.0 | 85.3 | 54.8 | 45.5 | |
| 甗 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計C点 | | | 226.0 | 5.0 | 51.0 | 22.0 | 10.0 | 10.0 | |
| D g | | | 1,564.5 | 61.9 | 346.3 | 108.7 | 59.3 | 54.0 | |
| D/B + D% | | | 96.6% | 100.0% | 88.1% | 80.6% | 77.0% | 78.7% | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | | |
| | | 甕 | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | | |
| | | 合計E点 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | E/E + F% | | | 0.0% | | | | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 1 | | | | | | |
| | | 甕・鉢 | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| 合計F点 | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| F/E + F% | | | 100.0% | | | | | | |

第65表 グリッド・表土出土奈良・平安時代土器数量計測表(2)

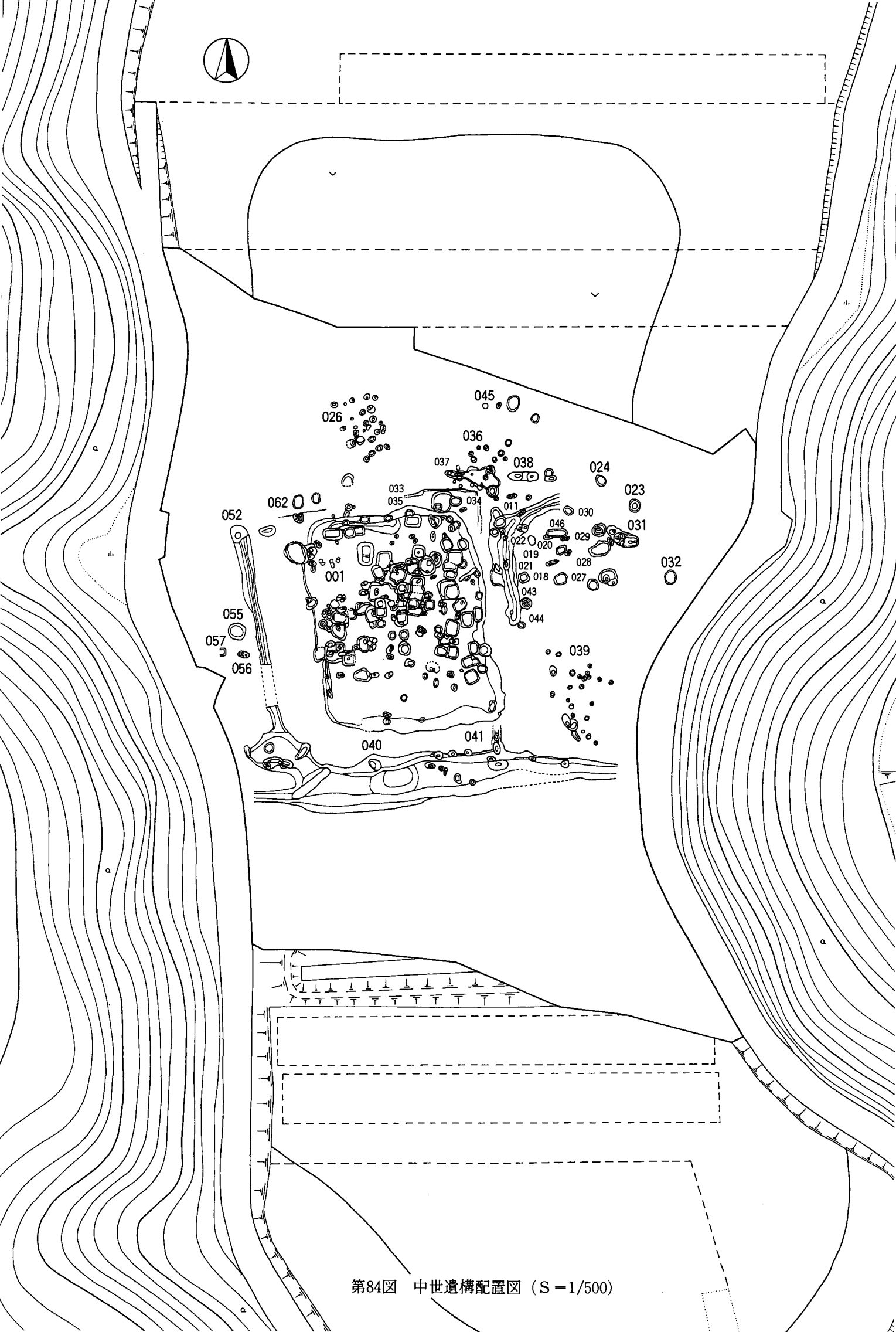
| グリッド番号 | | | 11E-98 | 12E-65 | 12E-73 | 12E-74 | 12E-84 | 12E-88 |
|----------|----------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | | | | 1.0 | | |
| | | | | | | 13.4 | | |
| | | 甕 | | 1.0 | | 1.0 | | |
| | | | | 4.8 | | 9.1 | | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計A点 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 |
| | B g | 0.0 | 4.8 | 0.0 | 22.5 | 0.0 | 0.0 | |
| | B/B + D% | 0.0% | 66.7% | 0.0% | 17.4% | 0.0% | | |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | 11.0 | | |
| | | | | | | 45.3 | | |
| | | 甕・鉢 | 1.0 | 1.0 | 5.0 | 12.0 | 1.0 | |
| | | | 28.5 | 2.4 | 13.1 | 61.7 | 6.8 | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| 合計C点 | | 1.0 | 1.0 | 5.0 | 23.0 | 1.0 | 0.0 | |
| D g | 28.5 | 2.4 | 13.1 | 107.0 | 6.8 | 0.0 | | |
| D/B + D% | 100.0% | 33.3% | 100.0% | 82.6% | 100.0% | | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | 2 |
| | | 甕 | | | | | | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計E点 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | E/E + F% | | | | | | 100.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | | | |
| | | 甕・鉢 | | | | | | |
| | | 甌 | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | |
| | | 合計F点 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| F/E + F% | | | | | | 0.0% | | |

第66表 グリッド・表土出土奈良・平安時代土器数量計測表(3)

| グリッド番号 | | | 12E-89 | 12E-95 | 12E-96 | 12E-98 | 12F-90 | 表面採集 | |
|----------|----------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 種別 | 種類 | 器種 | | | | | | | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | | 1.0 | | | 1.0 | 17.0 | |
| | | | | 9.1 | | | 1.7 | 125.3 | |
| | | 甕 | | | 2.0 | | | | 19.0 |
| | | | | | 14.1 | | | | 303.1 |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | 2.0 |
| | | | | | | | | | 5.0 |
| | | 壺 | | | | | | | 9.0 |
| | | | | | | | | | 195.1 |
| | 不明 | | | | | | | | |
| | 合計A点 | | | 0.0 | 1.0 | 2.0 | 0.0 | 1.0 | 47.0 |
| | B g | | | 0.0 | 9.1 | 14.1 | 0.0 | 1.7 | 628.5 |
| | B/B + D% | | | 0.0% | 12.1% | 26.2% | 0.0% | 10.2% | 18.4% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | 4.0 | 2.0 | | | 92.0 |
| | | | | | 14.5 | 6.9 | | | 530.3 |
| | | 甕・鉢 | | 1.0 | 18.0 | 6.0 | 1.0 | 1.0 | 303.0 |
| | | | | 2.9 | 51.5 | 32.8 | 6.6 | 14.9 | 2,231.9 |
| | | 甗 | | | | | | | 1.0 |
| | | | | | | | | | 33.5 |
| 小形土器 | | | | | | | | | |
| 支脚 | | | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| 合計C点 | | | 1.0 | 22.0 | 8.0 | 1.0 | 1.0 | 396.0 | |
| D g | | | 2.9 | 66.0 | 39.7 | 6.6 | 14.9 | 2,795.7 | |
| D/B + D% | | | 100.0% | 87.9% | 73.8% | 100.0% | 89.8% | 81.6% | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | | | | | | | |
| | | 甕 | | | | | | | |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 蓋 | | | | | | | |
| | | 壺 | | | | | | | |
| | | 不明 | | | | | | | |
| | | 合計E点 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | E/E + F% | | | | | | | 0.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | | | | | | | 3 |
| | | 甕・鉢 | | | | | | | 2 |
| | | 甗 | | | | | | | |
| | | 小形土器 | | | | | | | |
| | | 支脚 | | | | | | | |
| 不明 | | | | | | | | | |
| 合計F点 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | |
| F/E + F% | | | | | | | | 100.0% | |

第67表 グリッド・表土出土奈良・平安時代土器数量計測表(4)

| グリッド番号 | | | 合計 |
|----------|----------|----------|---------|
| 種別 | 種類 | 器種 | |
| 破片資料 | 須恵器 | 坏 | 32.0 |
| | | | 204.6 |
| | | 甕 | 29.0 |
| | | | 392.2 |
| | | 甗 | 0 |
| | | | 0 |
| | | 蓋 | 8.0 |
| | | | 49.6 |
| | | 壺 | 9.0 |
| | | | 195.1 |
| | 不明 | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| | 合計A点 | 78.0 | |
| | B g | 841.5 | |
| | B/B + D% | 13.8% | |
| | 土師器 | 坏・皿 | 171.0 |
| | | | 888.2 |
| | | 甕・鉢 | 612.0 |
| | | | 4,356.6 |
| | | 甗 | 1.0 |
| | | 33.5 | |
| 小形土器 | | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| 支脚 | | 0.0 | |
| | | 0.0 | |
| 不明 | 0.0 | | |
| | 0.0 | | |
| 合計C点 | 784.0 | | |
| D g | 5,278.3 | | |
| D/B + D% | 86.2% | | |
| 実測資料 | 須恵器 | 坏 | 2 |
| | | 甕 | 0 |
| | | 甗 | 0 |
| | | 蓋 | 0 |
| | | 壺 | 0 |
| | | 不明 | 0 |
| | | 合計E点 | 2 |
| | | E/E + F% | 25.0% |
| | 土師器 | 坏・皿 | 4 |
| | | 甕・鉢 | 2 |
| | | 甗 | 0 |
| | | 小形土器 | 0 |
| | | 支脚 | 0 |
| | | 不明 | 0 |
| 合計F点 | 6 | | |
| F/E + F% | 75.0% | | |



第84図 中世遺構配置図 (S=1/500)

第5節 中世

1 概観

この時期の遺構は、調査区の中央部に台地整形区画が完全な姿で検出されたほか、周囲に溝状遺構、土坑群などが多数検出された。ただし地上構築物があったため上層の削平が著しく、特に西側はかなりの遺構が消滅している可能性がある。

出土遺物が少ないため、台地整形区画と外側の溝状遺構や土坑群との関係を判別するのは難しいが、溝状遺構は明らかに台地整形区画に付属するように構築されていること、土坑群もやはり台地整形区画の近くでは密度が濃く、調査区端ではほとんど検出されないことなどから、これらの遺構群は一体となった施設であり、調査範囲内ではほぼ完結しているものとみられる。時期決定は難しいが、出土した陶磁器や銭貨などから14世紀代が主体になるものとみられる。

近年、この時期の遺構の調査例は増加しているものの、全体を調査できることはあまりなく、特に東総地域では皆無であった。今回の調査例は貴重な資料になるものと考えられる。今後は周辺に多数存在する城郭遺跡などとのつながりを考慮しながら、中世のこの地域の状況について検討する必要がある。

2 001台地整形区画と出土遺物（第85～87図、図版25～30）

道木内遺跡の中世遺構の中核をなす遺構である。11D-68区から12E-24区にかけて位置する。

隅丸方形を呈し、西壁約22.4m、東壁約23.2m、北壁約16.0m、南壁約19.2mで、全体としては台形状である。長軸方向を主軸とすると、南壁と北壁の間を通る主軸方向はN-10°-Wである。確認面から底面の深さは南東隅で最も深く112cmを測る。西側に行くにしたがって浅くなり北西隅では24cm、南西隅では18cmである。全体に攪乱が著しいほか、西側には地上構築物が存在していたため削平されているが、造成当時も南東側が最も深かったと考えられる。区画内の平板測量も行っており、第85図に等高線を示しているが、やはり南東隅が最もレベルが低くなっている。壁は東壁が最も急で比高差60cmあり、西壁が最もなだらかで比高差10cm前後である。

区画内からは多数の土坑が検出されているが、大まかに分けると掘立柱建物1棟、地下式墳1基、粘土貼土坑11基、炭化物堆積土坑15基、馬骨出土土坑1基などとなっている。遺構番号は全部で115まで振られているが、個々の遺構を番号順に記載するのは無駄が多いので、類別に分けて説明することとする。また、性格不明な小ピットについては説明を省略した。なお、第1章で記したとおり、区画内で検出された遺構には001-の下に新たに3桁の番号を付けて対処している（例 001-115）。

（1）掘立柱建物跡

001-114掘立柱建物跡

（遺構） 11D-89区から12E-01区にかけて位置する。

粘土敷土坑などに切られてあまりはっきりしないが、2間×3間の側柱建物であると考えられる。桁行長は約8m、梁行長は北側が約6.4m、南側が約5.6mで台形状を呈する。長軸方向はほぼ南北である。柱穴は楕円形で、長軸0.8m～1.0m、短軸0.4m～0.6m、区画底面からの深さは14cm～51cmである。柱間寸法は分からないところも多いが、桁間1.6m～3.2m、梁間1.8m～3.8mぐらいである。調査時点では掘立柱建物として捉えられていないため、柱痕が存在していたかどうかは不明である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

(2) 地下式墳

001-109地下式墳

(遺構) 11D-78・79区に位置する。

区画の北西隅付近に位置する地下式墳である。長軸は全体で3.6m、うち縦坑部1.1m、地下室部2.5m、短軸は縦坑部1.7m、地下室部2.4m、主軸方向はN-98°-Wである。区画底面からの深さは縦坑部で79cm、地下室部は縦坑底面から57cmである。地下室は底面平坦で、形状は長楕円形を呈する。

(遺物) 第97図2は棒状鉄製品で、両端が破損している。断面長方形で、遺存長38.0mm、幅5.7mm、厚さ4.0mm、重量4.0gである。鉄鏃と考えられる。第100図1は常滑三筋壺と考えられる壺胴部の破片である。櫛による4条の沈線が入る。胎土は砂っぽくなく、礫もほとんど含まない。断面は灰色を、表面は濃い褐色を呈する。

(3) 粘土貼土坑

001-006粘土貼土坑

(遺構) 11E-70区に位置する。

隅丸長方形を呈し、長軸2.6m、短軸1.8m、区画底面からの深さ61cmを測る。2基の土坑の斬り合いのような状況であるが、覆土は単一であった。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 第97図1は棒状鉄製品で、両端が破損している。断面円形で、遺存長52.5mm、幅5.5mm、厚さ5.5mm、重量4.6gである。性格は不明。

001-019粘土貼土坑

(遺構) 11E-72・73・82・83区に位置し、001-021土坑を切っている。

隅丸長方形を呈し、長軸1.2m、短軸0.9m、区画底面からの深さ35cmを測る。全面に白色粘土が貼られ、厚さは10cmほどである。覆土はローム粒が多量に混入する暗褐色土である。掘り方床面は平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-024粘土貼土坑

(遺構) 11E-81区に位置する。

隅丸方形を呈し、一辺1.2m、区画底面からの深さ34cmである。全面に白色粘土が貼られ、厚さは4cm~10cmである。覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土でしまりが無い。なお、下から円形土坑が2基検出されたが、区画に伴うものかどうかは不明。

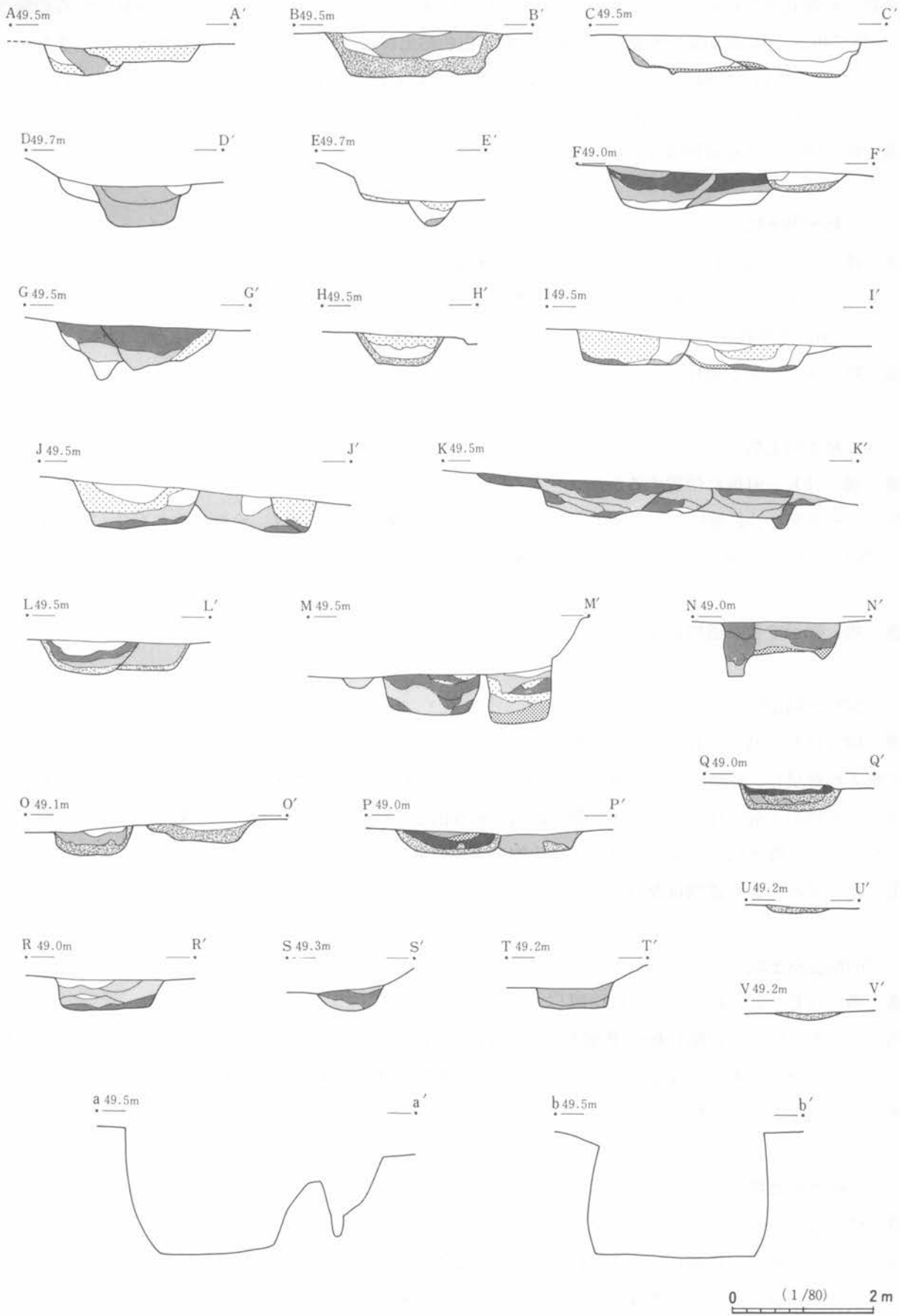
(遺物) 図示できる遺物はない。

001-039・040粘土貼土坑

(遺構) 11E-90・91、12E-00・01区に位置する。040が古く、039が新しい。



第85图 001台地整形区画实测图(1)



第86图 001台地整形区画实测图(2)

2基とも隅丸長方形を呈し、長軸2.0m(039、040いずれも1.0mずつ)、短軸1.1m、区画底面からの深さは039側が40cm、040側が33cmを測る。040は全面に白色粘土が貼られているが、039は南側の壁(すなわち040と切り合っている部分)のみ貼られていない。厚さはいずれも5cm～10cmである。覆土はいずれもロームブロックや粘土ブロックを多量に含んだ暗褐色土で、しまりが無い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-051粘土貼土坑

(遺構) 11E-81区に位置し、001-042に切られる。

隅丸方形であったとみられるが、大半が消失しているため全体の規模は不明である。残存している部分は一辺0.9m、区画底面からの深さ25cmである。全面に白色粘土が貼られ、厚さは約8cmである。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-053粘土貼土坑

(遺構) 11E-91区に位置する。

隅丸方形を呈し、長軸1.1m、短軸1.0m、区画底面からの深さ28cmを測る。全面に白色粘土が貼られ、厚さは壁側で5cm～8cm、床面で15cmである。覆土はロームブロックや炭化物、焼土を多量に含んだ暗褐色土である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-054粘土貼土坑

(遺構) 11E-91、12E-01区に位置する。

不整形方形を呈し、長軸1.5m、短軸1.4m、区画底面からの深さ22cmを測る。全面に白色粘土が貼られ、厚さは20cmと他の土坑に比べて厚い。北側が段状に張り出しているが、この部分から炭化物、焼土の塊が検出されている。覆土はロームブロックや炭化物をやや多量に含んだ暗褐色土である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-060粘土貼土坑

(遺構) 11E-92、12E-02区に位置し、061を切っている。

隅丸長方形を呈し、長軸1.4m、短軸1.1m、区画底面からの深さ11cmを測る。全面に白色粘土が貼られ、厚さは6cm～18cmである。覆土はロームブロックや炭化物が多量に混入する暗褐色土である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-065粘土貼土坑

(遺構) 11E-93、12E-03区に位置する。

隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸1.2m、区画底面からの深さ29cmを測る。全面に白色粘土が貼られ、厚さは8cm～16cmである。覆土はローム粒を多く含んだ暗褐色土や、ロームブロック、粘土ブロックの層が交互に水平堆積する。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-091粘土貼土坑

(遺構) 11E-90・91区に位置し、001-043を切っている。

円形を呈し、直径1.0m、区画底面からの深さ10cmと極めて浅い。覆土は壁に貼られた白色粘土のみであった。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-092粘土貼土坑

(遺物) 11E-91区に位置する。

円形を呈し、直径1.0m、区画底面からの深さ7cmと極めて浅い。覆土は壁に貼られた白色粘土のみであった。

(遺物) 図示できる遺物はない。

(4) 炭化物出土土坑

001-007土坑

(遺構) 11E-70・71・80・81区に位置し、001-008を切っている。

隅丸方形を呈し、いくつかの小ピットが絡んでいる。それも含めて長軸2.0m、短軸1.2m、区画底面からの深さ54cmを測る。覆土は暗褐色土が混入するロームブロック層で、底面付近には炭化物の塊が出土している。

(遺物) 第97図3は棒状鉄製品で、片側が破損している。遺存長29.2mm、幅3.0mm、厚さ3.5mm、重量0.9gである。釘と考えられる。

001-021土坑

(遺構) 11E-72・73区に位置し、001-019・020双方に切られる。

隅丸長方形を呈し、長軸1.7m、短軸1.2m、区画底面からの深さ44cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、底面付近には炭化物粒が多量に混入する。北壁沿いに炭化物、灰の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-022土坑

(遺構) 11E-71・81区に位置し、001-023を切っている。

隅丸長方形であるが、南壁が張り出している。それを含めた長軸は1.8m、短軸1.7m、区画底面からの深さは64cmである。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、底面付近は炭化物が混入する。底面はほぼ平坦であるが、中央部に小ピットが存在する。東壁沿いに炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 第98図1は001-022出土の砥石である。凝灰岩製で遺存長63.5mm、最大幅28.3mm、最大厚23.2mm、重量49.0gである。

001-026・029土坑

(遺構) 11E-71・72区に位置し、001-027を切り001-025に切られる。

方形土坑と円形の小ピットが切り合ったような形態をなしており、方形部分に001-026、小ピット側に001-029という番号が付けられているが、両者の区別はあまり明瞭ではなく土層断面からも切り合っている様子はよく分からないため、両者を一括して説明する。

長軸2.0m、短軸約1.6m、区画底面からの深さ36cm～48cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する褐色土で、底部付近にはロームブロックのみの層も堆積する。底面は中央部は平坦であるが、北側は段状になっていて小ピットが存在する。西壁沿いに炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-027土坑

(遺構) 11E-72区に位置し、001-028を切り001-025・026に切られる。

不整形を呈し、長軸2.3m、短軸1.8m、区画底面からの深さ36cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する褐色土で、しまりが無い。底面は平坦であるが、小ピットがいくつか存在する。西壁沿いに炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-030・031・032土坑

(遺構) 11E-81・82区に位置する。

これらは一体となったようなプランを持つ土坑を、断面観察によって3基に区切ったものであるが、平面形態からははっきりとした区別をつけることが難しいことや、それぞれ密接に関係しているとみられるため、一括して扱うこととした。隅丸長方形の土坑が連結されたような形状を呈し、長軸2.6m、短軸1.6m、区画底面からの深さは3基ともほとんど差がなく50cm前後を測る。覆土は001-030と001-032はロームブロックが多量に混入する暗褐色土、001-031はロームブロックを多量に含む暗褐色土と灰褐色砂層とが交互に堆積する。底面はほぼ平坦であるが、001-030には小ピットが存在する。001-031とした部分の壁際に炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 第98図2は001-030出土の砥石である。泥岩製で全長75.5mm、最大幅32.4mm、最大厚13.5mm、重量39.4gである。3は001-032出土の砥石である。泥岩製で遺存長73.5mm、最大幅12.0mm、最大厚45.4mmである。

001-034・035・037土坑

(遺構) 11E-80・81区に位置し、001-024に切られる。

これらも一体となったようなプランを持つ土坑を、断面観察によって3基に区切ったものであるが、平面形態からははっきりとした区別をつけることが難しいことや、それぞれ密接に関係しているとみられるため、一括して扱うこととした。隅丸長方形の土坑が連結されたような形状を呈し、長軸3.2m、短軸1.5m～2.2m、区画底面からの深さは3基ともほとんど差がなく40cm～50cmを測る。覆土は001-034はロームブロックが多量に混入する暗褐色土が主であるが、炭化物や焼土が混入した土層が間層として観察される。

001-035と037はロームブロックが多量に混入する暗褐色土であるが、底面付近には炭化物の混入が見られる。床面はほぼ平坦であるが、001-034には掘り鉢状の小ピットが存在する。001-034の南壁際に多量の炭化物が検出されているほか、001-035の北壁沿いにも炭化物の塊が見られる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-042土坑

(遺構) 11E-80・90区に位置し、001-051を切り、001-043に切られる。

不整形で西側が張り出している。長軸2.2m、短軸1.2m、区画底面からの深さは30cm～40cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土が上部に堆積し、底面より上15cm～30cmには炭化物粒、灰を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。ここでは明瞭な炭化物の塊は検出されなかったが、厚い炭化物包含層の存在から考えて、他の炭化物検出土坑と同じ性格のものとみなすことができるため、ここに含めた。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-045土坑

(遺構) 11E-83・93区に位置する。

東壁際に存在する。隅丸長方形を呈し、長軸1.6m、短軸0.9m、区画底面からの深さは70cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土が上部に堆積し、底面より上15cm～30cmには炭化物粒、灰を多量に含んだ暗褐色土が堆積している。この遺構も明瞭な炭化物の塊は検出されなかったが、厚い炭化物包含層の存在から考えて、他の炭化物検出土坑と同じ性格のものとみなすことができるため、ここに含めた。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-048土坑

(遺構) 11E-83区に位置する。この土坑は調査時には2基の土坑の切り合いとみなされたものであるが、土層断面では分けられるものの平面形態からはほとんど区別できない。したがってここでは1基の土坑とみなす。なお、写真ではこの土坑の西側にさらにもう1基土坑が存在しているのが見えるが、図面が残されていないため詳細は不明である。

不整形を呈し、長軸1.5m、短軸1.3m、区画底面からの深さは24cm～32cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、全体に炭化物粒が混入する。底面はほぼ平坦で、南隅に炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-050土坑

(遺構) 11E-92・93区に位置する。

隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸1.6m、区画底面からの深さは90cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土層と、暗褐色土が混入するロームブロック層が交互に堆積する。底面付近では炭

化物粒の混入が観察される。底面は平坦で堅牢である。南東隅から炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-056土坑

(遺構) 11E-82区に位置する。

隅丸正方形であるが、南西隅が張り出している。一辺1.2m、区画底面からの深さは20cmと浅い。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。南東隅に炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-086土坑

(遺構) 11E-92・93区に位置する。001-073と切り合っているが、新旧関係については記録がないため不明である。

隅丸長方形を呈し、長軸1.7m、短軸1.6m、区画底面からの深さは約50cmを測る。覆土については記録がないため詳細は不明。南東隅に炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-095土坑

(遺構) 11E-90、12E-00区に位置し、001-096・097を切っている。

やや楕円形に近い隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸1.2m、区画底面からの深さは23cmを測る。覆土は記録がないため不明である。底面南側のかなり広い範囲に、炭化物の塊が検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

(5) その他の方形土坑

001-002・003土坑

(遺構) 11E-60区に位置し、003が古く002が新しい。

2基とも隅丸方形を呈し、長軸2.2m、短軸は002側が0.9m、003側が1.2m、区画底面からの深さは002が36cm、003側が20cmである。覆土はいずれもローム粒、ロームブロックが多量に混入する褐色土で、しまりが無い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-008遺構

(遺構) 11E-70・71区に位置し、001-007に切られる。

隅丸長方形を呈し、長軸2.2m、短軸1.7m、区画底面からの深さ52cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、底面付近には炭化物粒が混入する。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-009土坑

(遺構) 11E-61・62区に位置し、001-010を切っている。

隅丸長方形を呈し、長軸1.9m、短軸1.4m、区画底面からの深さ56cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土でしまりが無い。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-010土坑

(遺構) 11E-61区に位置し、001-009に切られる。

区画の北壁に構築されている。隅丸方形を呈していたと思われる。残存規模は東西1.0m、南北0.6m、区画底面からの深さは20cmを測る。覆土はロームブロックがやや多く混入する暗褐色土である。底面は壁に沿うように傾斜している。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-014・015土坑

(遺構) 11E-62・72・73区に位置する。

隅丸長方形土坑に長楕円形の張り出しがついたような形状を呈する。方形部分に014、張り出し部に015という番号が付けられているが、形状から考えて両者は一体のものと考えられる。長軸は2.1m、短軸は方形部分が1.2m、張り出し部が0.5m、区画底面からの深さは24cm～32cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-018土坑

(遺物) 11E-63・73区に位置する。

区画東壁際に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸1.3m、短軸2.7m、区画底面からの深さ16cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-020土坑

(遺構) 11E-72・73区に位置し、001-021を切っている。

隅丸正方形を呈し、一辺1.8m、区画底面からの深さ56cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土層と、暗褐色土が斑状に混入するロームブロック層とが交互に堆積する。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 第100図5は古瀬戸の鉢類の底部片である。内面には灰釉が掛かり、一部に重ね焼きの際の窯道具痕が残る。外部は底部を含め回転ヘラケズリ調整である。

001-025土坑

(遺構) 11E-71・72区に位置し、001-026・027を切っている。

形状が001-026・027に似ているため、これらと同じ性格を持つ遺構の可能性もあるが、これらより新しいことや、炭化物の塊が検出されておらず、覆土に炭化物粒や焼土がほとんど混入しないことから、別種の遺構として扱った。隅丸長方形を呈し、長軸約1.8m、短軸1.5m、区画底面からの深さは50cm～60cmを測る。覆土はローム粒やロームブロックが多量に混入する褐色土で、しまりがいい。底面はほぼ平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-033土坑

(遺構) 11E-81・82区に位置し、001-032を切っている。

隅丸正方形を呈し、一辺1.2m、区画底面からの深さは20cm～44cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、炭化物粒や粘土粒なども少量混入する。底面はやや不安定で、小ピットがいくつか検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-043土坑

(遺構) 11E-80・90・91区に位置し、001-042を切り、001-040・091に切られる。

不整形で南側が張り出している。長軸2.3m、短軸1.8m、区画底面からの深さ30cm～50cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土層が主であるが、炭化物や灰の層が間層として薄く堆積しているのが観察される。底面は壁際が高く、中央部は浅い皿状にくぼんでいる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-044土坑

(遺構) 11E-83区に位置する。

区画東壁際に存在する。隅丸長方形を呈し、長軸0.9m、短軸0.7m、区画底面からの深さ20cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土でしまりがいい。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-046土坑

(遺構) 11E-93区に位置する。

隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸1.5m、区画底面からの深さ44cm～56cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-052土坑

(遺構) 11E-81・91区に位置する。

この土坑は北側が深く落ち込んでいるが、土層断面を観察してもここは南側の土坑を切って別の土坑が掘り込まれているのが観察でき、2基の土坑の切り合いである可能性が高い。ただし平面形状ではそれぞれ

れのプランが確認できないので、ここでは同一のものとして扱う。隅丸長方形で南側が張り出している。長軸1.8m、短軸1.2m、区画底面からの深さは北側で76cm、南側で40cm～48cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土であるが、南側では黄白色粘土ブロックや炭化物なども混入する。底面は落ち込み部分以外はほぼ平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-063土坑

(遺構) 11E-92・93区に位置し、001-050、001-062及び001-093と切り合っているが、新旧関係は不明。

隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸1.2m、区画底面からの深さは約10cmである。底面には小ピットが検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-061土坑

(遺構) 11E-92・93、12E-02・03区に位置し、001-060に切られる。

隅丸長方形を呈し、長軸1.4m、短軸1.2m、区画底面からの深さ28cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、焼土粒、炭化物粒も混入する。底面はほぼ平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-066土坑

(遺構) 12E-03区に位置する。

隅丸長方形の土坑が2基切り合ったような形状を呈し、長軸2.0m、短軸は西側の広い部分が1.2m、東側の狭い部分が0.8m、区画底面からの深さは40cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。底面は平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-067土坑

(遺構) 12E-03・13区に位置する。

隅丸正方形を呈し、一辺1.5m、区画底面からの深さ36cm～44cmを測る。覆土は上部がロームブロックが多量に混入する暗褐色土、下部はほとんどロームブロックである。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-073土坑

(遺構) 11E-82・83区に位置し、001-086と切り合っているが、新旧関係については記録がないため不明である。

隅丸正方形を呈し、一辺2.1m、区画底面からの深さ26cm～46cmを測る。覆土は記録がないため不明である。底面は平坦である。

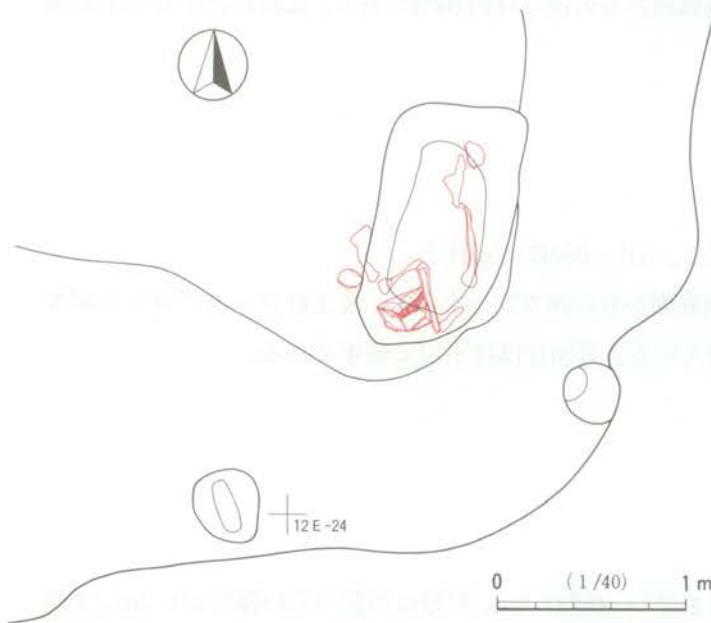
(遺物) 図示できる遺物はない。

001-079土坑

(遺構) 11E-93・94、12E-03・04区に位置する。

区画東壁際に位置する。円形に近い隅丸正方形を呈し、一辺1.4m、区画底面からの深さ5cm前後と極めて浅い。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土でしまりが無い。底面はやや壁側が高くなるように傾斜している。

(遺物) 図示できる遺物はない。



001-082土坑

(遺構) 12E-14区に位置する。

区画南東隅の壁の下に存在する。不整形を呈し、長軸1.2m、短軸0.7m、底面からの深さ13cmを測る。出土した馬骨は顎と上肢骨の一部とみられ、折り重なったような状況で出土した。覆土はロームブロックを主体としたしまりのない土層である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-083土坑

(遺構) 12E-03・04区に位置する。

区画東壁際に位置する。楕円に近い隅丸長方形を呈し、長軸1.2m、短軸1.0m、区画

底面からの深さ30cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土でしまりが無い。底面は平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-094土坑

(遺構) 12E-00区に位置し、001-114掘立柱建物の柱穴と切り合っているが、新旧関係は不明である。

不整形を呈するが、2基の土坑の切り合いの可能性もある。長軸約2.0m、短軸1.5m、区画底面からの深さ21cm~36cmを測る。底面は浅い皿状にくぼんでいる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-105土坑

(遺構) 11D-99、11E-90、12D-09、12E-00区に位置し、001-107に切られる。

隅丸長方形を呈し、長軸2.3m、短軸2.0m、区画底面からの深さ12cm~40cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。小ピットが多数検出されているが、001-114掘立柱建物の柱穴が存

在するものとみられる。底面自体もあまり安定しておらず、浅い皿状にくぼんでいる。

(遺物) 第97図4は棒状鉄製品で、片側が折れ曲がり、反対側が破損している。遺存長54.0mm、幅5.0mm、厚さ9.0mm、重量14.5gである。第100図4は須恵器甕片転用砥石である。濃灰褐色を呈し焼成は良好である。外面に格子目状タタキが、内面には同心円状タタキが施される。破片となった後砥石として再利用されている。

001-107土坑

(遺構) 12D-09区に位置し、001-105を切っている。

区画西壁際に存在するが、北側は浅くて区画の底面とほとんど同じ高さとなるため、明確な形状は把握できなかった。隅丸正方形を呈するとみられ、一辺約1.4m、確認面からの深さ27cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-110土坑

(遺構) 12E-00区に位置し、001-107と切り合っているが、新旧関係は不明である。

全体の規模は不明であるが、隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸1.7m、短軸は遺存している部分で1.2m、区画底面からの深さ60cmを測る。北側が段状になっているが、1基の土坑の底面を段状に成形しているのか、2基の土坑の切り合いなのかは不明である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-111土坑

(遺構) 11D-99、11E-90区に位置する。001-112と切り合っているように見えるが、新旧関係などは不明である。

不整形を呈し、長軸1.8m、短軸1.6m、区画底面からの深さ36cmを測る。底面に小ピットが検出されているが、001-114掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-112土坑

(遺構) 11D-99、11E-90に位置する。001-111と切り合っているように見えるが、新旧関係などは不明である。

隅丸長方形を呈し、長軸1.7m、短軸1.4m、区画底面からの深さ36cm～64cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。底面はほぼ平坦で堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-115土坑

(遺構) 11D-69・79区に位置する。

区画北壁沿いに溝が掘り込まれており、その西端部に存在する。隅丸長方形を呈し、長軸約2.2m、短軸

1.4m、区画底面からの深さ66cm～76cmを測る。

(遺物) 図示できる遺物はない。

(6) 主な円形土坑

001-001土坑

(遺構) 11D-69、11E-60区に位置する。

区画北壁際に存在する。楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、区画底面からの深さ11cmを測る。底面は浅い皿状にくぼんでいる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-004土坑

(遺構) 11E-60区に位置する。

区画北壁中に存在する。楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.9m、区画底面からの深さは壁側で30cm、区画底面側で10cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、炭化物が少量混入する。底面は平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-005土坑

(遺構) 11E-61区に位置する。

区画北壁中に存在する。楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.7m、区画底面からの深さは壁側で24cm、区画底面側で8cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、炭化物が少量混入する。底面は平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-011土坑

(遺構) 11E-62区に位置し、001-012に切られている。

区画北壁際に存在する。不整円形を呈し、長軸1.5m、短軸は推定1.2m、区画底面からの深さ12cm～16cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土である。底面は壁側が高くなるように傾斜している。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-012土坑

(遺構) 11E-62区に位置し、001-011を切っている。

区画北壁際に存在する。長楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.6m、区画底面からの深さは壁側で24cm、区画底面側で8cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、炭化物が少量混入する。底面は平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-013土坑

(遺 構) 11E-62・72区に位置する。

長楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.6m、区画底面からの深さは48cm～52cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土でしまりが無い。底面は段状を呈し中央部が深い。

(遺 物) 第100図2は常滑三筋壺と考えられる壺胴部の破片である。櫛による4条の沈線が入る。胎土は砂っぽくなく、礫もほとんど含まない。断面は灰色を、表面は濃い褐色を呈する。

001-016・017土坑

(遺 構) 11E-62・63区に位置する。

区画東壁際に位置する。2基の楕円形の土坑が切り合っている。長軸は016が0.8m、017が約1.2m、短軸は016が0.6m、017が0.8m、区画底面からの深さは016が30cm、017は極めて浅くて5cmである。新旧関係は覆土が浅いため分かりにくいだが、016が017を切っていると判断した。覆土はいずれもロームブロックを多量に含む暗褐色土でしまりが無い。底面は016は掘り鉢状にくぼんでおり、017は平坦である。

(遺 物) 図示できる遺物はない。

001-023土坑

(遺 構) 11E-71区に位置し、001-022に切られる。

楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.0m、区画底面からの深さ36cm～80cmを測る。覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土で、上部にはロームブロックのみの層も存在する。底面は安定せず凸凹が激しい。

(遺 物) 図示できる遺物はない。

001-028土坑

(遺 構) 11E-72区に位置し、001-027に切られると考えられる。

楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸約1.4m、区画底面からの深さ38cm～57cmを測る。底面は掘り鉢状に中央部が深くなっている。

(遺 物) 図示できる遺物はない。

001-036土坑

(遺 構) 11E-81区に位置する。001-037と切っているが、新旧関係は不明。

長楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.4m、区画底面からの深さは50cmを測る。底面は平坦である。

(遺 物) 図示できる遺物はない。

001-059土坑

(遺 構) 12E-02区に位置する。

攪乱が著しく全体規模は不明。長楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸約1.2m、区画底面からの深さは52cmを測る。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、炭化物が少量混入する。底面は掘り鉢状になっている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

001-113土坑

(遺構) 11D-89区に位置する。

区画西壁に存在する。長楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸0.8m、区画底面からの深さは32cm、確認面からの深さは43cmを測る。底面は掘り鉢状にくぼんでいる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

(7) 土坑外出土の遺物

第99図1は銅銭である。12E-10区の区画底面上から出土した。半分以上破損しているが、下側は「元」、左側は「寶」と読めるので、□□元寶もしくは□元通寶とみられる。第100図3は常滑甕の口縁部破片で、胎土中には白色の砂粒を多く含む。断面は赤褐色、表面は茶褐色を呈する。口縁端が水平方向に平坦に磨滅しており、破片になった後、砥石として再利用されている。4、6は常滑掘鉢の破片である。4は口縁端が横方向につまみ出されている。内面下半部が使用によりかなり磨滅している。また、断面が2か所で磨滅しており、破片となった後、砥石として再利用されている。

3 その他の遺構と出土遺物

018土坑(第88図、図版31)

(遺構) 11E-76・86区に位置し、008住居跡を切っている。

隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸1.2m、008住居跡の床面から底面までの深さは21cm~27cmである。覆土はロームブロックを多量に含んでしまりがなく、上部に炭化物、焼土を多量に含む。下部からは軟質砂岩の塊がいくつか出土した。骨などの出土はなかったが、土墳墓の可能性が高い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

019土坑(第88図、図版31)

(遺構) 11E-75区に位置し、008住居跡を切っている。

隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.4m、008住居跡の床面から底面までの深さは33cm~40cmである。覆土はロームブロックを多量に含んでしまりが無い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

020土坑(第88図、図版31)

(遺構) 11E-75・76区に位置し、008住居跡を切っている。

攪乱が著しくはっきりしない部分もあるが、やや不整な方形を呈し、長軸1.2m、短軸0.9m、008住居跡床面から底面までの深さは19cmである。壁から底面にかけて白色粘土が貼ってあり、厚さは壁面で10cm~20cm、床面で5cmである。掘り方は浅い皿状を呈し、底面は堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。



第88图 018~024、027~032、043、044、046土坑实测图

021土坑（第88図、図版31）

（遺 構） 11E-75・85区に位置する。

隅丸正方形を呈し、一辺1.1m、確認面から底面までの深さは12cm～23cmである。壁から底面にかけて白色粘土が貼られる。厚さは2cm～8cmである。掘り方は浅い皿状を呈し、底面は堅牢である。

（遺 物） 図示できる遺物はない。

022土坑（第88図、図版31）

（遺 構） 11E-65・75区に位置する。

楕円形を呈し、長軸1.0m、幅0.8m、確認面から底面までの深さは3cm～8cmである。壁から底面にかけて白色粘土が貼られる。厚さは8cmである。掘り方は浅い皿状を呈し、底面は堅牢である。

（遺 物） 図示できる遺物はない。

023土坑（第88図、図版31）

（遺 構） 11E-58・68区に位置する。

楕円形を呈し、長軸1.4m、幅1.2m、確認面から底面までの深さは9cm～13cmである。壁から底面にかけて白色粘土が貼られる。厚さは4cm～12cmである。掘り方は浅い皿状を呈し、底面は堅牢である。

（遺 物） 図示できる遺物はない。

024土坑（第88図、図版31）

（遺 構） 11E-57区に位置し、012住居跡を切っている。

楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸1.0m、012住居跡床面から底面までの深さは38cm～44cmである。覆土はロームブロックや焼土が混入した黒褐色土が堆積する。掘り方は円筒形で、壁は切り立ち底面は平らである。

（遺 物） 図示できる遺物はない。

027土坑（第88図、図版32）

（遺 構） 11E-86・87区に位置する。

ほぼ正円形を呈し、直径1.3m、確認面から底面までの深さは39cm～47cmである。覆土はロームブロックが混入する暗褐色土で、しまりが無い。断面逆台形状を呈し、底面は平らである。

（遺 物） 図示できる遺物はない。

028土坑（第88図、図版32）

（遺 構） 11E-77・87区に位置する。

不整楕円形を呈し、長軸2.2m、短軸1.9m、確認面から底面までの深さは7cm～14cmである。中には深さ10cm～20cmの皿状のくぼみが存在する。覆土はロームブロックが多量に混入する暗褐色土で、底面近くには炭化物の混入も観察される。

（遺 物） 第97図7は鉄製椀と考えられる遺物である（図版34）。底部が30%ほど遺存し、遺存高は3.1cm、

底径は約8cm、重量は49.6gである。第98図5は砥石である(図版34)。凝灰岩製で、遺存長66.0mm、幅21.0mm、厚さ17.0mm、重量32.7gである。四面全面が砥面として利用されている。第99図3は銅銭である(図版34)。摩滅が著しく分かりにくい、元豊通寶もしくは元祐通寶であろう。

029土坑(第88図、図版32)

(遺構) 11E-77・87区に位置する。

不整形を呈し、長軸2.5m、短軸1.8m、確認面から底面までの深さ10cm~15cmである。底面はほぼ平らである。

(遺物) 図示できる遺物はない。

030土坑(第88図、図版32)

(遺構) 11E-67区に位置する。

楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸1.4m、確認面から底面までの深さは42cmである。円筒形状の土坑の中心にすり鉢状の土坑が掘られたようになっており、中間に段状の平場がある。そこまでの深さは12cm~15cmである。

(遺物) 第97図6は刀子破片である(図版34)。遺存長31.5mm、幅18.0mm、厚さ2.0mm、重さ4.5gである。

031土坑(第88図、図版32)

(遺構) 11E-67・68・77・78区に位置する。

全体は不整形を呈し、長軸3.9m、短軸1.7mである。西側はすり鉢状のピットになっており、確認面から底面までの深さは11cm~70cmと安定しない。ただし東側は隅丸方形を呈しており、その部分は長軸1.8m、短軸1.3m、深さ33cm~45cmと安定している。断面は逆台形で、底面は平らである。中央部に小ピットが2基検出されている。

(遺物) 図示できる遺物はない。

032土坑(第88図、図版32)

(遺構) 11E-79・89区に位置する。

楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸1.4m、確認面から底面までの深さは6cm~13cmである。掘り方は浅い皿状である。

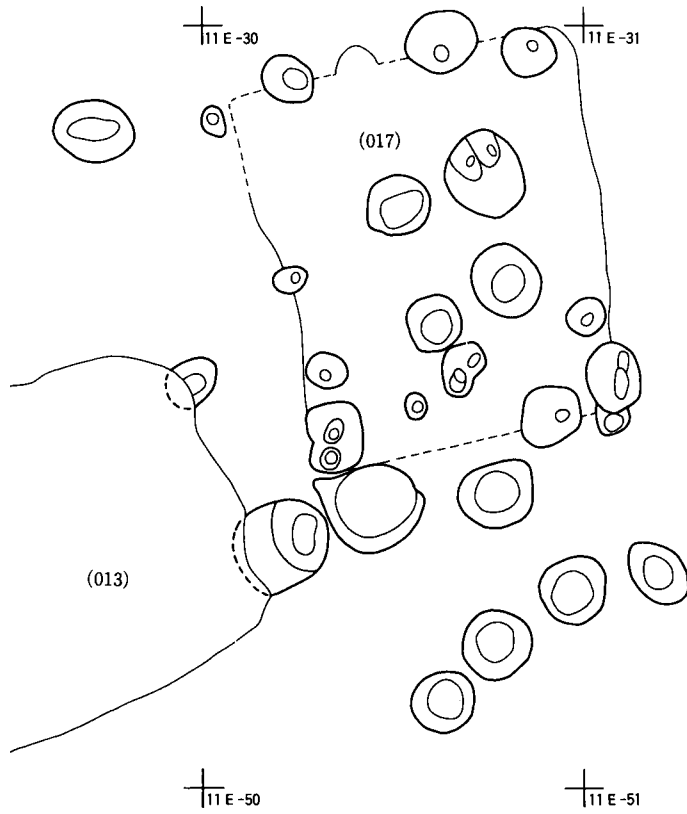
(遺物) 図示できる遺物はない。

043土坑(第88図、図版33)

(遺構) 11E-85区に位置し、011溝状遺構に接している。

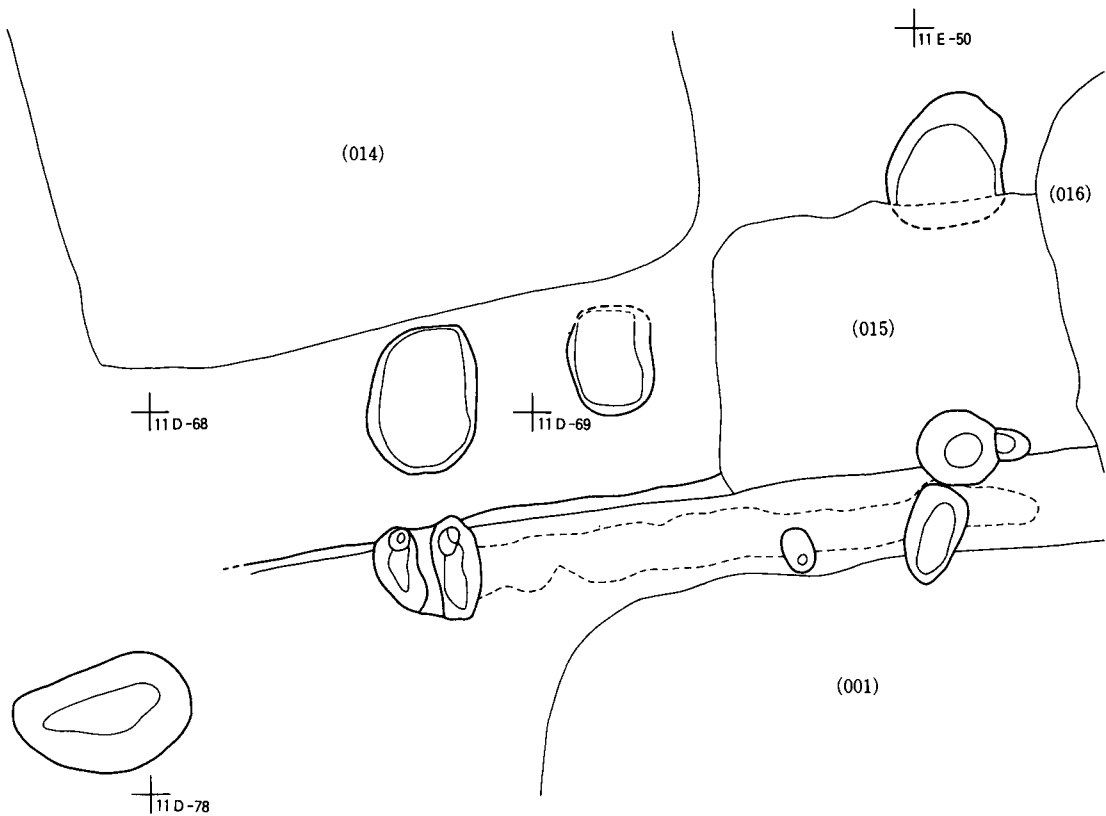
ほぼ正円形を呈し、直径1.2m、確認面から底面までの深さは16cmである。掘り方は浅い皿状で中央部に浅いくぼみがある。底面は堅牢である。

(遺物) 図示できる遺物はない。



0 (1/80) 2 m

第89图 026土坑群实测图



0 (1/80) 2 m

第90图 053段状成形、062土坑群实测图

044土坑（第88図、図版33）

（遺構）11E-85区に位置する。

隅丸方形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、確認面から底面までの深さは10cmである。掘り方は浅い皿状で、床面は堅牢である。

（遺物）図示できる遺物はない。

046土坑（第88図、図版33）

（遺構）11E-65・66区に位置し、008住居跡を切っている。

長楕円形を呈し、長軸2.2m、短軸0.9m、確認面から底面までの深さは32cm～37cmである。断面逆台形で、底面は平坦かつ堅牢である。なお、すぐ近くに存在する小ピットも合わせて掲載したが、この遺構に伴うものかどうかは明らかではない。

（遺物）第97図8は刀子である（図版34）。両関で先端部が欠損している以外はほぼ完形である。遺存長159.0mmで刃部長87.5mm、茎部長71.5mm、刃部幅16.0mm、茎部幅11.8mm、刃部厚3.5mm、茎部厚2.5mm、重量24.2gである。

026土坑群（第89図、図版32）

（遺構）11E-30・31・40・41区に位置し、017住居跡を切っている。

大小26基のピットから構成される遺構で、直径は0.2m～1.1m、確認面から底面までの深さは8cm～67cmである。ただしこの付近はローム層上面の削平が特に著しく、しかも畑の境で削平されている深さが大きく異なるため、現況は遺構構築時の姿とはかなりかけ離れていると考えざるを得ない。ピットの中には柱穴状になるものもあり、これらの土坑群を掘立柱建物とみなすことも可能であるが、並び方がかなり不安定なので土坑群とした。

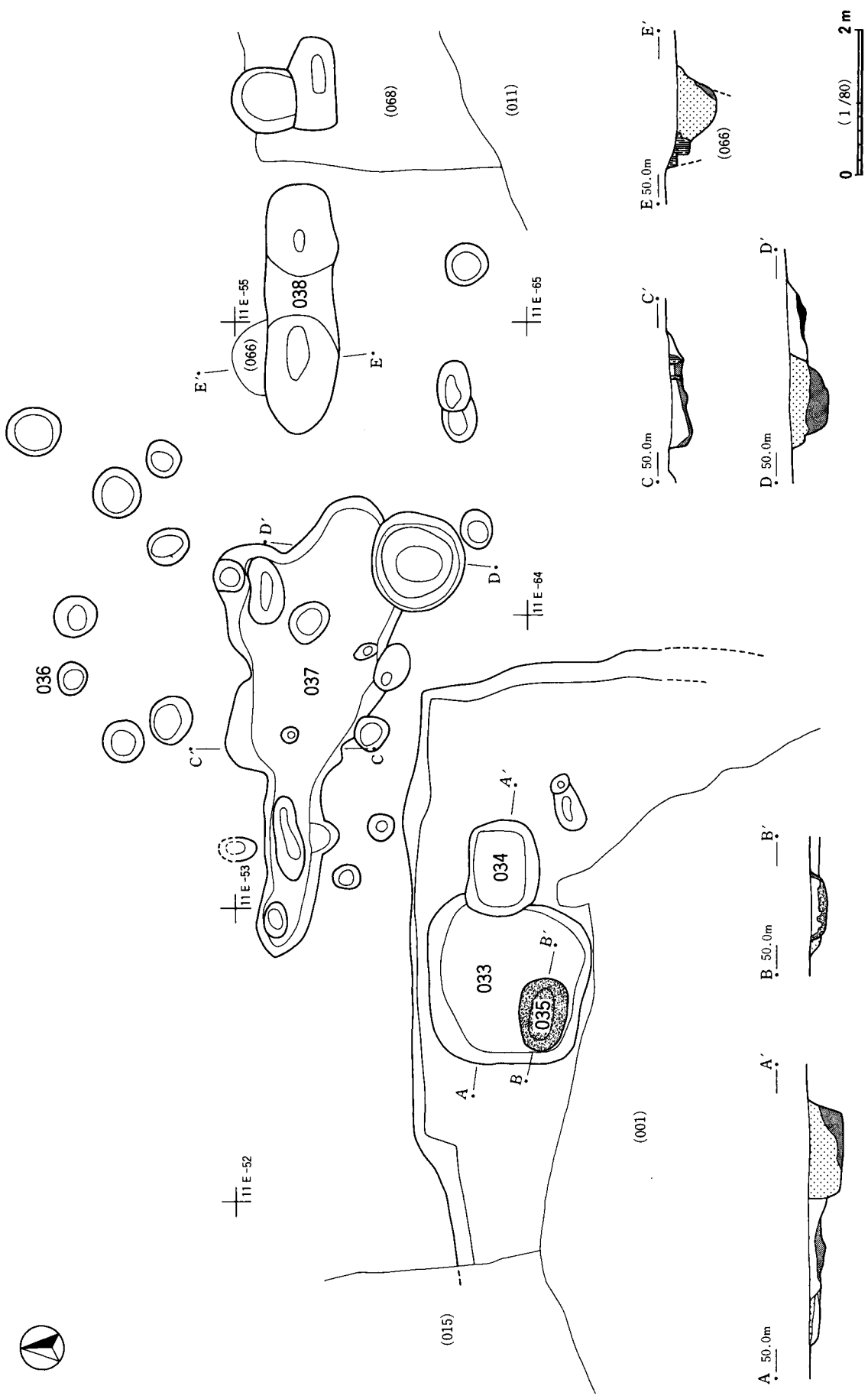
（遺物）第97図5は棒状の鉄製品である（図版34）。断面正方形で、性格は不明。遺存長は37.3mm、幅6.0mm、厚さ6.5mm、重量8.3gである。

053段状成形、062土坑群（第90図）

（遺構）11D-58・59・68・69、11E-50・60区に位置し、016住居跡を切っている。

9基の土坑と、段状に成形された平坦な硬化面から構成される遺構群で、土坑群には062、段状成形には053と遺構番号を付けている。段状成形は001台地整形区画に沿うように構築されている。土坑は隅丸長方形のやや大型のものや、小ピット状の小型のものまでである。長軸0.4m～1.8m、短軸0.3m～1.2m、確認面から底面までの深さは18cm～72cmである。段状成形は東西方向に長さ9.2m、幅1.1mにわたって検出されている。中央部には特に硬化した面が残存しており、長さ5.9m、幅0.5mを測る。東側は015住居跡をはさんで033～035土坑に伴う段状成形が続いている。ただし、015住居跡の覆土中に硬化面が構築されていたかどうかは不明である。

（遺物）第98図6は砥石である（図版34）。凝灰岩製で、遺存長52.0mm、幅25.5mm、厚さ13.0mm、重量25.1gである。四面全面が砥面として利用されているほか、刃先を研いだ痕跡も観察される。第100図12は常滑播鉢の破片である（図版35）。内面はかなり摩滅している。



第91图 033~038土坑群实测图

033、034、035土坑（第91図、図版32）

（遺構）11E-51・52・53・61・62・63区に位置する。

これらの遺構は互いに切り合っており、極めて関係が強いものと考えられたため、一括して説明することとした。また、さきの062土坑群と同様の段状成形が検出されている。033は隅丸方形を呈し、長辺2.2m、短辺1.8m、段状成形面から底面までの深さは17cm～22cmである。覆土はローム粒、ロームブロックを多量に含んだ暗褐色土である。底面は平坦である。034は隅丸長方形を呈し、長軸1.3m、短軸1.0m、段状成形面から底面までの深さは41cm～49cmである。033を切っている。覆土はローム粒、ロームブロックを多量に含んだ黒褐色土である。断面逆台形を呈し、底面は平坦である。035は隅丸長方形を呈する土坑で、長軸1.0m、短軸0.6m、段状成形面から底面までの深さは20cmである。全面に青白色粘土を貼りつけており、厚さは10cmである。この土坑は033土坑を埋め戻してから、新たに構築されている。これらの土坑はちょうど001台地区画整形の北東隅の外側に位置するが、段状成形も034土坑の北北東約2mの場所で向きを南へ変えており、はっきりとしたコーナーを形成している。001との一体性を示しているが、残念ながら途中で削平されており、全貌はうかがえない。

（遺物）第100図10は034から出土した古瀬戸水注である（図版35）。完形品で注口部は上方に反り上がり、板状の把手部を反対側に付ける。口縁は上方に短く立ち上がる。底部は回転糸切り無調整で、外面は底部と体部下半を除いて灰釉を漬け掛けしており内面は無釉である。古瀬戸中期（14世紀前半頃）のものである。

036土坑群（第91図、図版32）

（遺構）11E-43・44・52・53・54・55区に位置する。

小ピット24基から構成される。直径0.4m～1.3m、確認面からの深さ14cm～47cmである。隣接する037土坑と切り合っており、本来はこの037あるいは038に付属しているものが存在する可能性もあるが、現段階では判別が難しいため、小ピットを全て036とした。これらのピットには柱穴状を呈するものもあり、あるいは掘立柱建物である可能性も考えられるが、並び方が不安定なので土坑群とした。

（遺物）図示できる遺物はない。

037土坑（第91図、図版32）

（遺構）11E-43・44・52・53・54区に位置する。

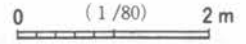
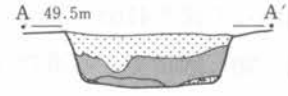
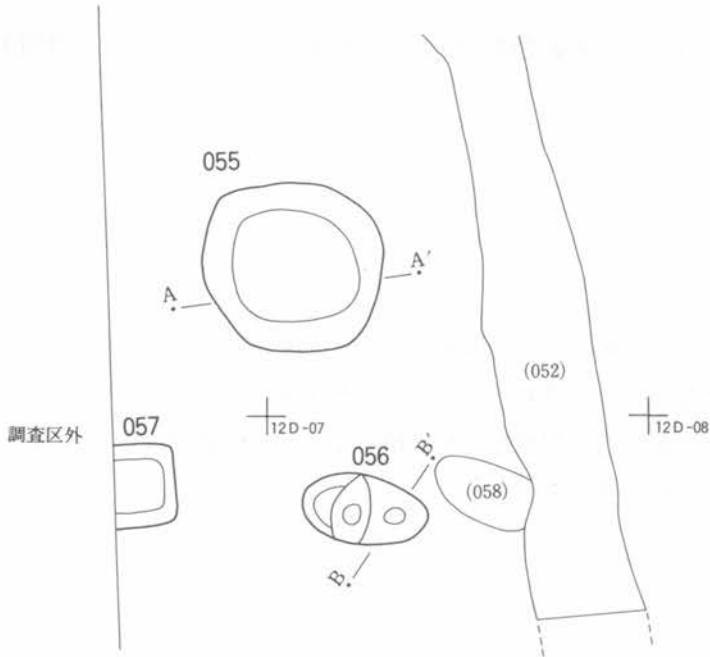
不整形を呈し、長軸6.3m、短軸3.4m、確認面から底面までの深さは14cm～22cmである。覆土は底面近くにロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層はローム粒がわずかに混入する黒褐色土が堆積する。底面はやや不安定で、西側が浅く東側が深い。

（遺物）図示できる遺物はない。

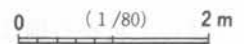
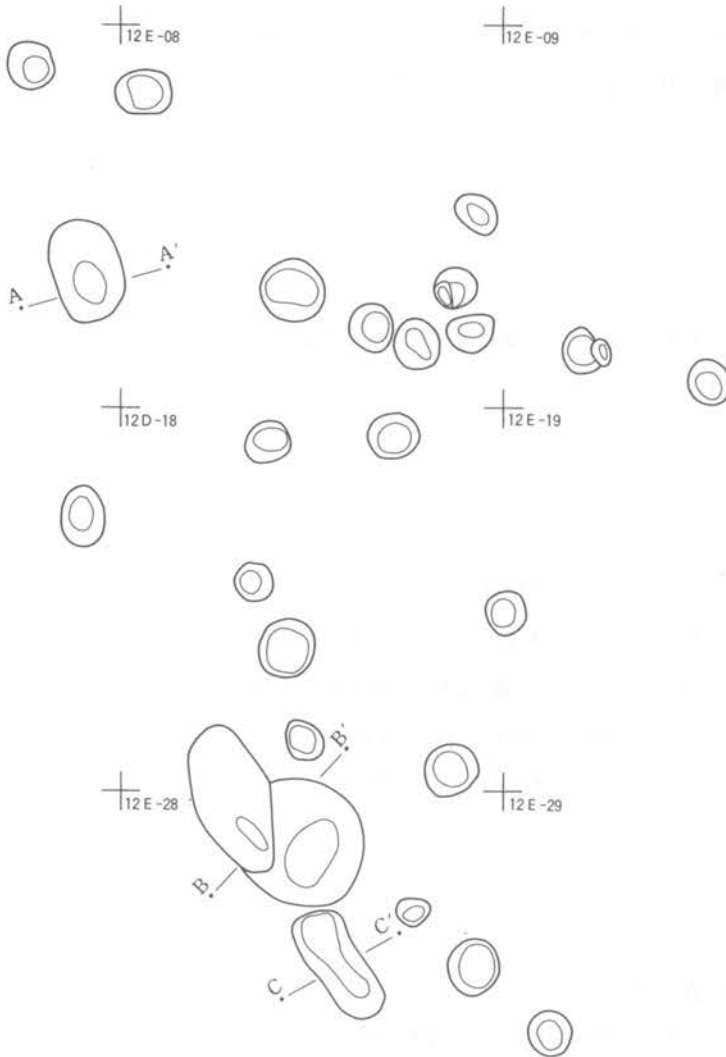
038土坑（第91図、図版32）

（遺構）11E-54・55区に位置し、066陥穴、068住居跡を切っている。

長楕円形の土坑2基から構成される。西側のものは楕円形の土坑が2基連結したような形状を呈し、長軸3.4m、短軸0.9m、確認面から底面までの深さは41cm～52cmである。覆土はローム粒をやや多く含む暗褐色



第92図 055~057土坑実測図



第93図 039土坑群実測図

色土である。東側のものは隅丸長方形の土坑が2基連結したような形状を呈し、東西1.3m、南北1.4m、確認面からの深さ41cm～50cmである。

(遺物) 図示できる遺物はない。

055土坑 (第92図、図版33)

(遺構) 11D-96・97区に位置する。

隅丸方形を呈し、長軸1.9m、短軸1.8m、確認面から底面までの深さは59cmである。覆土は二層に分かれ、上層はローム粒を多量に含む暗褐色土、下層はロームブロックを多量に含むしまりのない暗褐色土である。また、壁際には炭化物や焼土を多量に含んだ黒色土が堆積している。断面逆台形で、底面は平坦である。骨の出土はないが、土壌墓の可能性が高い。

(遺物) 図示できる遺物はない。

056土坑 (第92図、図版33)

(遺構) 12D-07区に位置する。

楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.7m、確認面からの深さは37cm～53cmである。覆土は二層に分かれ、上層はローム粒を多量に含む暗褐色土、下層は黒色土とロームブロックが斑状に混合する層でしまりが無い。掘り方はすり鉢状で、中央部には柱穴状の小ピットが存在する。

(遺物) 図示できる遺物はない。

057土坑 (第92図、図版33)

(遺構) 12D-06区に位置する。

西側半分は調査区外になる。隅丸方形を呈し、長軸は不明であるが、短軸は0.9m、確認面からの深さは15cmである。断面逆台形で、底面は平坦である。

(遺物) 図示できる遺物はない。

039土坑群 (第93図、図版32)

(遺構) 12E-07・08・09・17・18・19・28・29区に位置する。

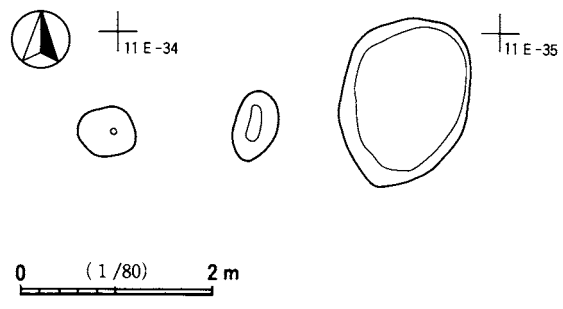
大小25基の土坑から構成される。セクションを実測したものはやや大型のもので、隅丸方形あるいは楕円形を呈し、長軸1.1m～1.6m、短軸0.5m～1.3m、確認面からの深さは30cm～38cmである。それ以外のもものは柱穴状の小ピットで直径0.3m～0.7m、確認面からの深さは6cm～32cmである。これらもあるいは掘立柱建物の可能性が考えられるが、並び方が不安定なため、土坑群とした。

(遺物) 図示できる遺物はない。

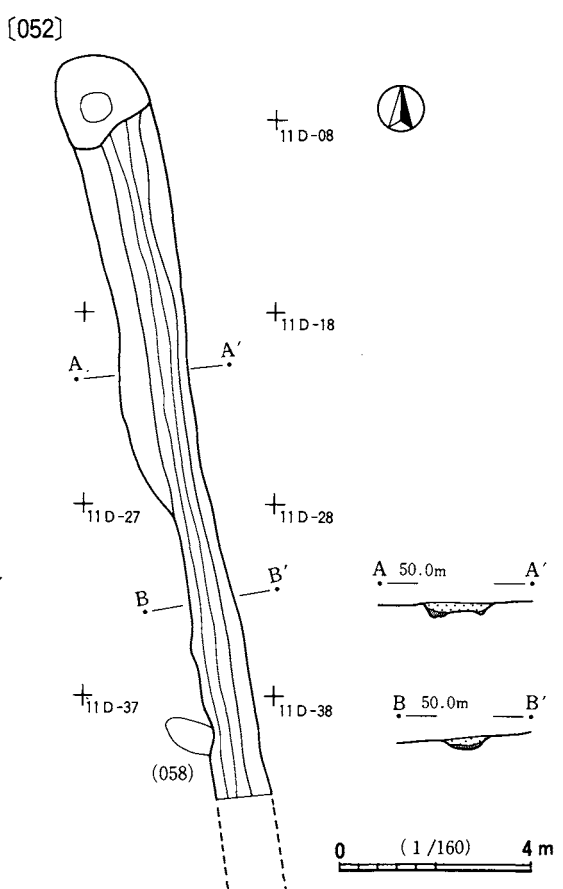
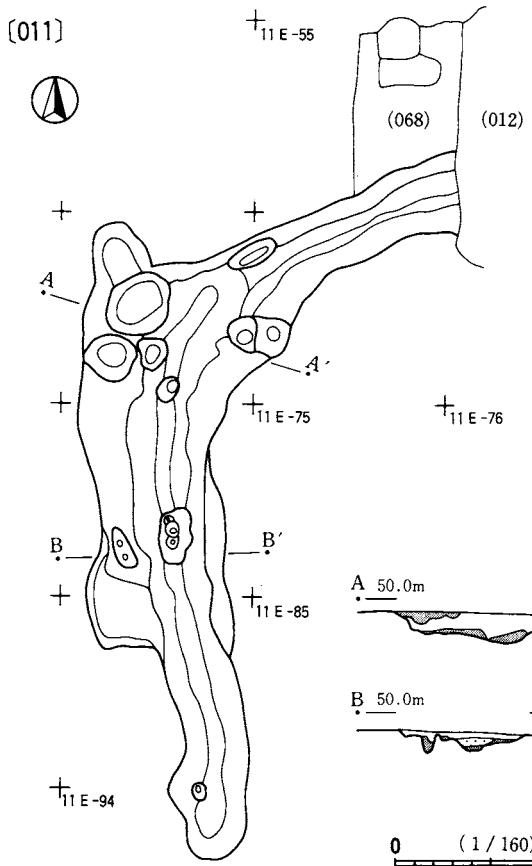
045土坑群 (第94図)

(遺構) 11E-33・34・35区に位置する。

4基の土坑から構成される。いずれも楕円形を呈し、長軸0.6m～1.9m、短軸0.5m～1.3m、確認面からの深さは6cm～43cmである。



第94図 045土坑群実測図



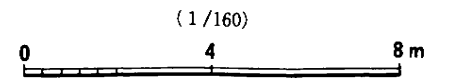
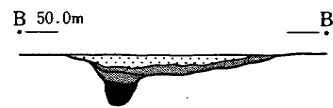
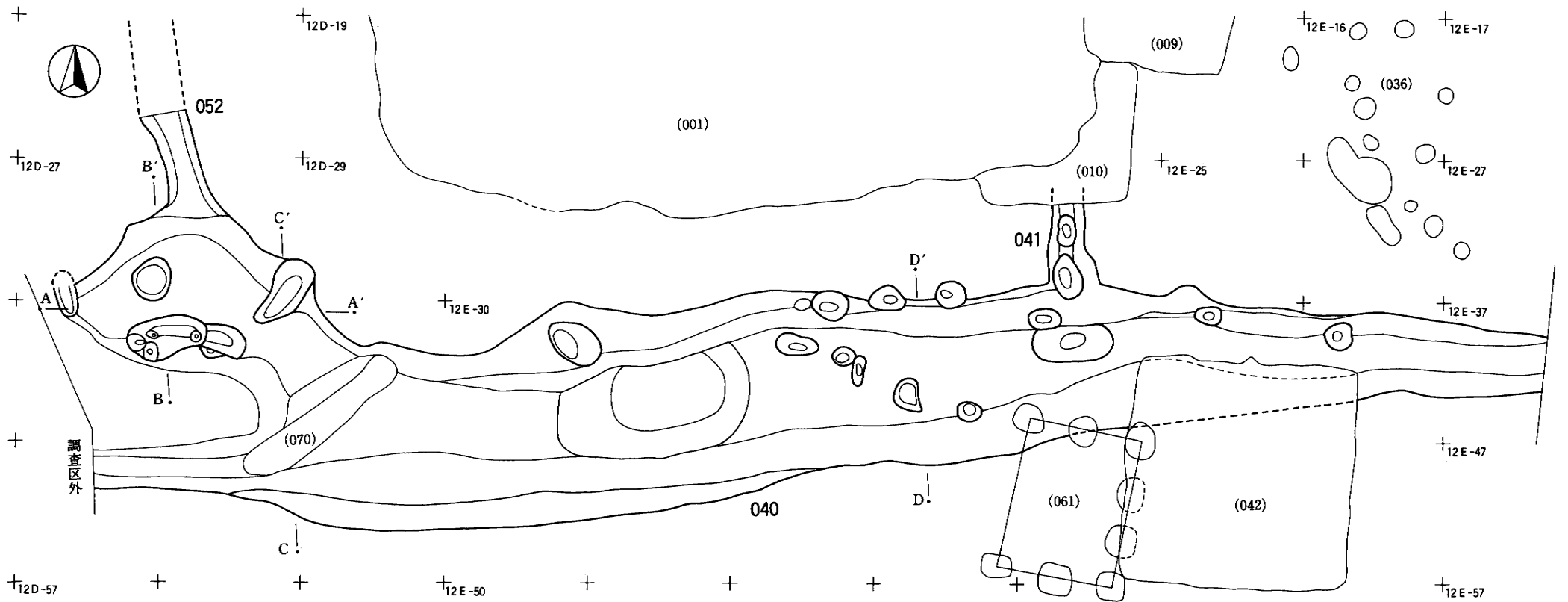
第95図 011・052溝状遺構実測図

(遺物) 図示できる遺物はない。

011溝状遺構 (第95図、図版33)

(遺構) 11E-45区から94区にかけて位置し、012、068住居跡を切っている。ただし012の覆土内にこの遺構が構築されていたかどうか、調査時には確認されていない。

11E-45区から11E-64区にかけては東西方向に、そこで屈曲して11E-94区まで南北方向にのびる。ちょうど屈曲する部分で、幅と深さが最大になる。総延長は約17.6m、幅は平均1.2mで最大4.4m、確認面から底面までの深さは屈曲部で32cm~53cm、それ以外は12cm~40cmである。溝の中にさらにいくつかの土坑が掘り込まれている。覆土はローム粒やロームブロックを多量に含む暗褐色土で、全体にしまりがない。



第96図 040、041溝状遺構実測図

底面は凸凹が多い。

この遺構も方角が001と同じであり、特に屈曲部は001の北東隅に隣接する。001と一体となった施設であると考えられる。

(遺物) 第97図9は棒状の鉄製品である(図版34)。断面長方形で、性格は不明。遺存長39.0mm、幅5.7mm、厚さ4.5mm、重量4.4gである。

052溝状遺構(第95図、図版33)

(遺構) 11D-66区から12D-38区にかけて位置し、南側で040溝状遺構とつながっているほか、058陥穴を切っている。ただし、途中で未調査部分があるので、第95図にはそこより北側を掲載し、南側は040と一緒に第96図に掲載した。

総延長は約23.5m、幅は0.8m~1.8m、確認面から底面までの深さは南側で13cm~20cm、北にいくにしたがって深くなり、最北部の土坑状の部分は47cmである。断面はU字状で、覆土はロームブロックが多量に混入し、焼土が少し混入する暗褐色土である。

この遺構の方角は001台地整形区画の西辺と同じであり、やはり001と一体となった施設であると考えられる。

(遺物) 図示できる遺物はない。

040溝状遺構(第96図、図版33)

(遺構) 12D-27区から12E-37区にかけて位置し、042住居跡、061掘立柱建物、070陥穴を切っている。

台地を横断するように構築され、東西いずれも調査区外にのびている。しかし、規模が大きいののは001台地区画整形の南側で、調査区端に近づくにしたがって規模が小さくなる。総延長は約41m、幅は最小1.1m、最大6.2m、確認面から底面までの深さは調査区端で11cm~19cm、中央部で87cmになる。覆土はほとんど単一でローム粒が若干混入する黒褐色土であり、自然堆積とみられる。

遺構の方角が001台地整形区画の南辺と同じであることや、この溝に接続する041、052なども001と方角がそろっていることなどから考えて、040は001と一体になった施設であると考えられる。

(遺物) 第97図10は棒状の鉄製品である。遺存長55.1mm、幅5.0mm、厚さ5.5mm、重量gである。断面円形で釘の可能性がある。11は棒状の鉄製品である。遺存長29.5mm、幅6.0mm、厚さ4.5mm、重量3.6gである。断面方形で、性格は不明。12は棒状の鉄製品である。遺存長44.0mm、幅5.2mm、厚さ4.5mm、重量4.3gである。断面方形で幅がだんだん広がっていく形状をしている。性格は不明。第100図7は在地産土釜の口縁部破片である。胎土は砂っぽく大粒を含まない。硬質で雲母細粒含む。口縁は丁寧な横ナデ調整を施しているが、胴部内面には粗いヘラケズリの痕跡が残っている。8は在地産内耳鍋の口縁部破片で、外面は黒く煤けている。胎土中に金雲母片を多量に含む。外面には指頭痕が横方向に規則的に残っている。9は古瀬戸緑釉小皿の口縁部破片で灰釉を掛けている。胎土は灰色でやや粗い。11は在地産土鍋か焙烙の底部破片で、胎土中には金雲母細粒を含む。胎土は砂っぽいが大粒砂は含まない。

041溝状遺構（第96図）

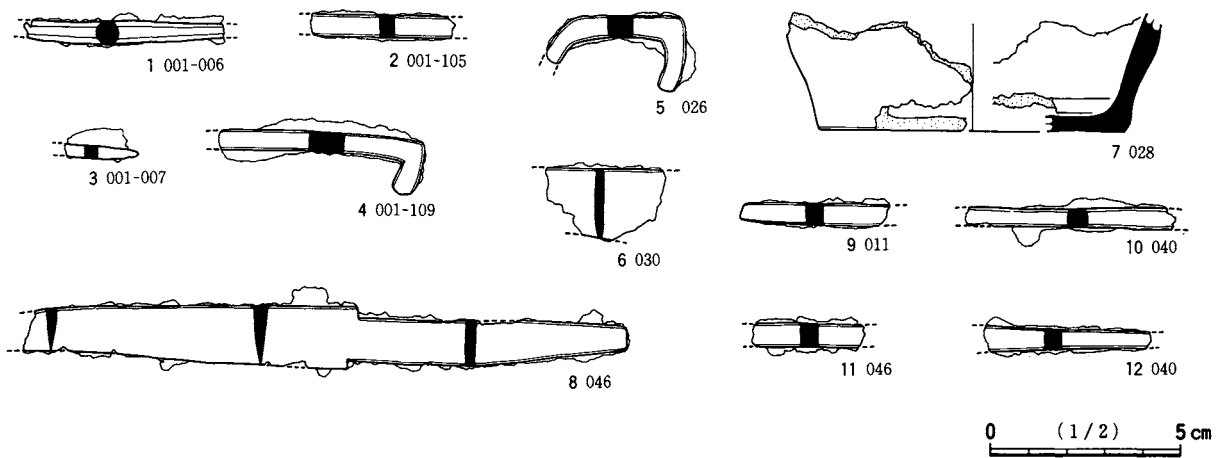
（遺 構）12E-24区に位置し、001台地整形区画と040溝状遺構につながっている。

長さ2.4m、幅1.0m、確認面から底面までの深さは25cm～40cmである。底面には皿状の浅いくぼみが並んでいる。覆土はローム粒やロームブロックを多量に含んだ暗褐色土である。検出状況から考えて、001や040と一体になった施設であることは確実である。

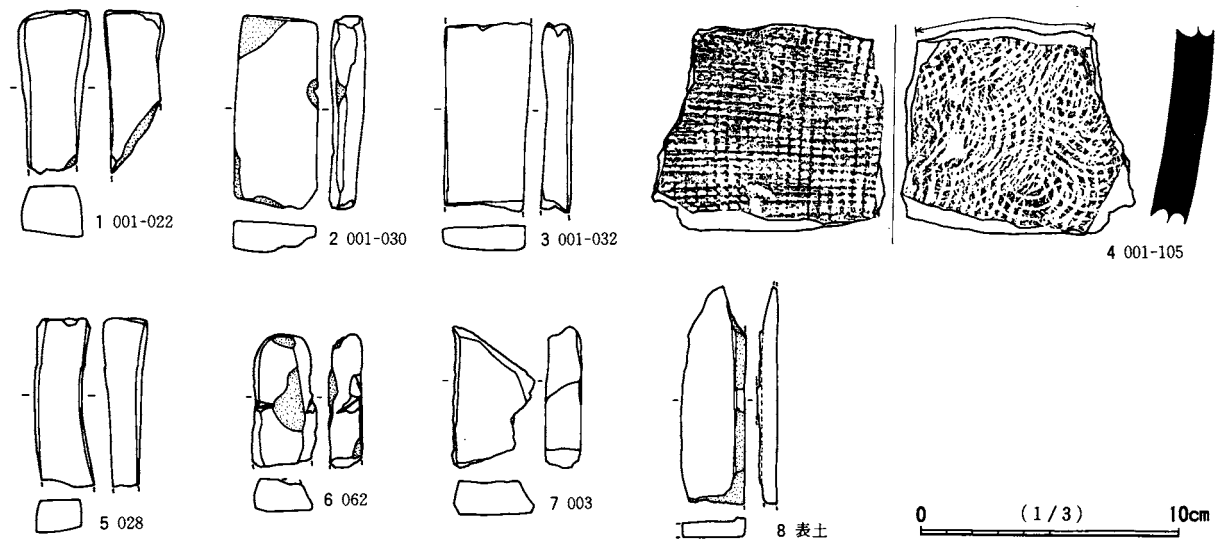
（遺 物）図示できる遺物はない。

グリッド等出土遺物

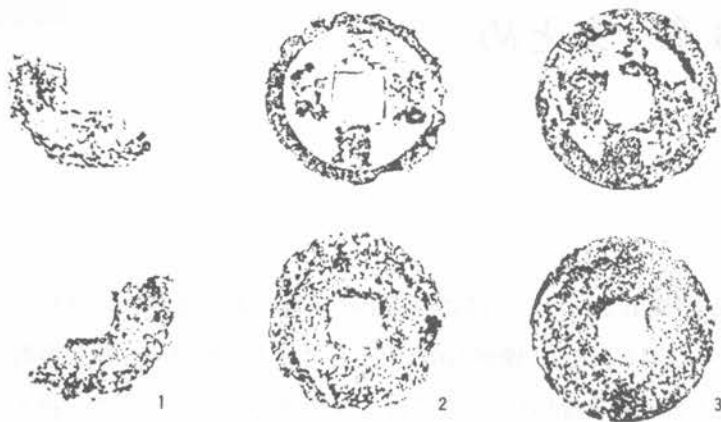
第98図7は003出土の砥石である。状況から考えて流れ込みとみられるが、時期が不明なためここで説明する。砂岩製で、遺存長55.0mm、幅33.0mm、厚さ14.0mm、重量29.9gである。表裏が砥面として利用されている。8は表土出土の硯である。形態から考えて中世以降とみられる。遺存長85.0mm、幅26.3mm、厚さ8.0mm、重量29.3gである。表面に墨の付着が観察される。第99図2は008竪穴住居跡出土の銅銭である。状況から考えて020土坑か046土坑に伴うものと思われるが、攪乱のためはっきりしない。天禧通寶である。第



第97図 中世遺構出土鉄製品実測図



第98図 中世遺構出土石製品実測図

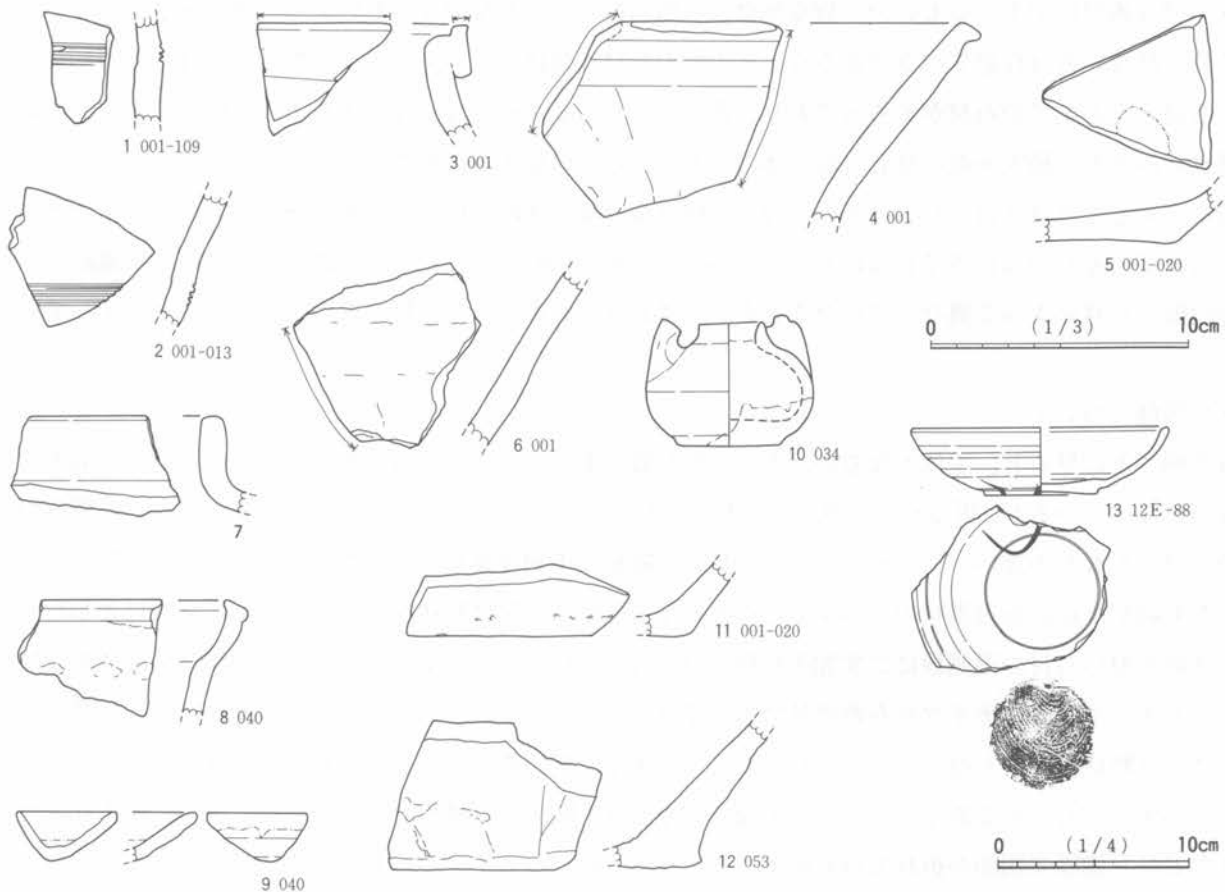


第99図 出土銭貨拓影図(1/1)

100図13は土師器質の坏形態で、底部は直径5.8cmで回転糸切り無調整である。体部は底部との接合面でややくぼみ、厚さの変化がほとんどないまま口縁に向かって大きく内湾する。口縁の直径は13.7cmである。底部には記号状の墨書が残るが判読できない。他の奈良・平安時代の遺構に伴うものとは考えられず、時期は不明。

第68表 出土銭貨計測表

| 番号 | 出土地点 | 名称 | 重量 (g) | 外縁外径 (mm) | 外縁内径 (mm) | 内郭外長 (mm) | 内郭内径 (mm) | 外縁厚 (mm) | 文字面厚 (mm) | 備考 |
|----|------|------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|--------|
| 1 | 001 | □□元寶 | 1.03 | — | — | — | — | 1.1 | 0.49 | □元通寶とも |
| 2 | 008 | 天禧通寶 | 2.24 | 23.0 | 19.5 | 7.0 | 6.3 | 1.4 | 0.69 | |
| 3 | 028 | 元豊通寶 | 2.20 | 17.7 | 7.9 | 7.9 | 6.3 | 1.0 | 0.50 | 元祐通寶とも |



第100図 中世陶器・土器実測図

第3章 まとめ

第1節 旧石器時代

1 道木内遺跡出土の石器群について

道木内遺跡からは礫群を伴うブロックが9か所検出された。一部に混入品の可能性があるが、ほぼ単一の文化層からの出土である。総点数592点のうち石器が146点、礫が346点出土しており、数量的に礫が多数を占めているのが特徴といえよう(上層遺構出土分は含まない)。ここでは、製作技術を中心として、道木内遺跡の石器群について簡単に触れてみたい。

(1) 石材について

道木内遺跡出土の石器の石材のうち、多数を占めるのが珪質頁岩で、全体の34%である。次いで多いのがチャートで29%を占めており、この両者で6割を占める。大まかな傾向としてはこの両者が最大多数を占める状況は、どのブロックでも変わりはない。ただし、石材そのものの現れ方には若干の違いが見られる。第5ブロックでは珪質頁岩が全体の半数以上を占めるのに対し、第7ブロックではむしろチャートが過半数を占めている。また、下総台地で安定的に出土が見られる安山岩については、珪質頁岩やチャートに次いで3番目に出土するものの、数量割合は9%前後と、かなり少ないといえる。特に第7ブロックで全く見られないのは注意すべきであろう。その他の石材は数は少ないものの、種類としてはこの時期に見られるほとんど全ての石材がそろっており、各ブロックにまんべんなく存在するような状況である。次に器種別にみると、最大多数の珪質頁岩全体のうち、何らかの加工がされているものが全50点中19点になり、38%を占めることは注目される。その一方で石核は全く検出されない。次に数が多いチャートは全42点中加工されているものは13点で31%にとどまるが、石核が5点検出されている。このことは道木内遺跡内の製作段階が石材によって異なっていたことを示しており、おそらくは石材の獲得法の差異をも暗示している。

(2) 器種について

各器種ごとに見ると、主体となるのはナイフ形石器である。全部で5点出土しているが(第30、31表では6点になっているが、折られて2点になったものを別々にカウントしているため)、それぞれの形態や製作法には、かなりの違いが見られる。素材を見ると縦長の小剝片をもとにしたものが1点、横長剝片を使用したものが1点、石刃素材のものが2点などとなっている。次に形状を見ると、小剝片を素材としたものは比較的厚い石材の両側縁に二次加工を施すのに対し、横長剝片を使用するものは片側縁の部分的な加工にとどまっている。ナイフ形石器以外についてはほとんどのものを二次加工のある剝片として認識したが、これは特にチャートなどは同時割れを起こしやすく、意図的な加工か同時割れかの判断が付かなかったものが多かったためである。しかし、未成品あるいは失敗作的な様相を見せる石器も多い。例えば第27図4などは左側縁先端部が折れているが、ここが残っていたらナイフ形石器として認識されるべきものであろう。そのほかにも横長剝片で先端部に加工痕を持つものや、縦長剝片で一側縁に連続的な加工痕を持つものは多く、多種多様な器種の製作をうかがわせるものといえる。なお、1点ではあるが角錐状石器の未成品とみられるものが存在する(第38図3)。

(3) 製作技法について

道木内遺跡で石核を出土しているのは第5ブロックや第7ブロックなどで、ほとんどがチャートである。これらの石核を見ると、剥片剥離はほとんどが数回にとどまっており、規則的というよりはかなりランダムに周縁をたたいて終わるものが多い。また、打面作出と剥離を繰り返すものはあまり見られず、一ないし二面を打面として集中的に剥片剥離を行っているものが多い。若干見られる調整痕的な小剥離も、打面調整というよりは剥離する剥片の形状をあらかじめそろえるのが目的とみられ、実際に出土した剥片はほとんど横長剥片か、寸詰まりで平らな先端部を持つ縦長剥片である。一方で道木内遺跡で少数派のメノウや黒色緻密質安山岩などの石核では若干様相が異なり、周縁部の入念な打面作出と剥片剥離を繰り返すものや、一面を打面として集中的に縦長剥片を剥離していく様相が見られる。石材に応じた剥片剥離技法の選択が行われていたかどうかは判断がつかないが、結果として多様な技法の混在をもたらしている。しかし、基本的には横長剥片への指向が働いていると考えられる。なお、縦長剥片素材のナイフ形石器は、すべて単独母岩であって搬入品である。

以上、概観すると、はっきりとした形をとった製品としては帰結していないものの、多種多様な製作技法と器種分化への萌芽がみられること、横長剥片の採取が顕著であること、まとまった礫群が存在することなどから、当遺跡の文化層はIV層～V層に相当すると考えられる。

2 礫群について

道木内遺跡では全てのブロックから多数の礫が検出されている。その基礎的なデータと統計については第2章第1節で触れているので、ここではそれから分かったことについて、簡単に触れることにする。

(1) 平面分布

礫群は全てのブロックから出土しているが、分布状況を見るとおおよそ2種類に分けられる。一つは直径4m～8mの規模の大きなもので、第1、第4、第5、第7、第8ブロックの各礫群が該当する。もう一つは直径4m未満の規模の小さいもので、第2、第3、第6ブロックがこれに相当する。なお、第6ブロックは、全体としては直径7m近くなるが、平面図から明らかなように2つの礫群の集合体なので、後者に含めた。おおよその傾向としては、石器群の規模と礫群の規模はほぼ比例することがうかがえるが、なかには第6ブロックのように極めて狭い範囲に集中的に出土する例がある。このブロックを初めとして規模の小さいブロックは、石器群をみる限り石器製作活動が行われた痕跡はなく、製作跡とは考えにくいことから、キャンプサイトの要素を考える必要があるかもしれない。

(2) 石材別の重量と点数

各ブロックごとの石材別の重量と点数の分布は、各ブロックの項にグラフで掲載しているので、ここでは簡単に概略を述べる。重量別では10g以下の小礫片が圧倒的多数を占め、これはすべてのブロックに共通する。また、50g以下の礫片の総点数は全体の9割以上を占めており、これより重い礫が出土しているブロックは少ない。石材別でみると、点数ではチャートが多数を占めており、次いで砂岩、石英ハン岩、流紋岩などとなる。ブロック別にみても、おおむね似たような傾向を見せるが、第5、第7ブロックでは石英ハン岩と砂岩の割合が多いが目立つのに対し、他のブロックではチャートと流紋岩の割合が多い。しかし、重量でみると最も大きいのは砂岩となり、以下、石英ハン岩、流紋岩、チャートとなる。これはおそらく原石の大きさを反映しているものと考えられる。たとえば、第5ブロックでは熱を受けた黒色緻密質

安山岩の敲石が出土しており、総重量は400g近くなるが、砂岩の原石もこのようなものであった可能性が強い。チャートの場合、大きくてもたとえば第9ブロックで出土した熱を受けていない完形のチャートの円礫程度であったと考えられる。こうした円礫の存在と、それを巡る下総台地における石器製作技法の特殊性は近年各所で指摘されており、房総半島中部における砂礫層や房総丘陵からの原石採集活動について検討が進められている¹⁾。礫数点の出土だけでこうした議論を行うことは無理があるが、ある程度近隣における石材獲得について検討する必要はあろう。

(3) 接合関係と石器群とのつながり

礫群全体をみて顕著なのはブロック間の接合が多いことである。第1、3～5ブロックでそれぞれ接合が観察されるほか、第6と第7ブロック同士でも接合が観察される。接合しないまでも、明らかに同一母岩であると考えられる石材も存在する。全体としては第1～第5ブロックで一つのユニットとでもいべき礫群の群が構成されており、第6、第7ブロックで一つの礫群の群をなしているとも考えよう。両者の間に若干の空間があいており、そのこともこの考えを裏付けるものといえる。こうした状況を石器群から判断するのは、資料が少ないため難しいが、例えば珪質頁岩は第1～第5ブロック側に全体の86%が集中している点などは、場所によって石材の選択が行われたことを示している例かもしれない。また、道木内遺跡出土の尖頭器のほとんどが第6、第7ブロック側から出土している点などは、やはりブロックの性格の違いを暗示している可能性がある。ただし、石器同士でのブロック間接合など、礫群で示された分布のあり方と石器群とを結びつける明らかにつながりを示す資料がないため、この点については今後の課題としたい。

第2節 古墳時代、奈良・平安時代

1 時期区分

道木内遺跡からは古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が19軒、掘立柱建物が2棟検出された。路線調査であることと、遺構の遺存状況が悪かったために、集落の全貌をつかむには制約があるが、隣接する池尻遺跡の成果と合わせて、ある程度時期を類推できる資料をもとに、集落の展開を考えてみたい²⁾。

第1期

須恵器坏身模倣坏を主体とする時期である。底部は丸底で、口縁部下の明瞭な稜と内傾する口縁部を特徴とする。ほかに口縁部下に弱い稜を持ち、口縁部がやや大きく外反する坏がこの時期に相当すると考えられる。佐原市吉原三王遺跡035号住居跡出土資料と同時期と考えられ、6世紀後半段階とみられる。008、014が該当する。

第2期

やはり須恵器坏身模倣坏を主体とするが、若干の小型化が認められる。口縁に対し底部径がかなり小さくなる大型の甑が伴う。6世紀末葉と考えられる。007、009が該当する。

第3期

道木内遺跡では須恵器模倣坏ではなく椀型の坏が主体となる時期である。土師器坏は器高が低くなり丸底で口縁部がつまみ上げられるように外反するものが見られる。また、丸底の底部から強く内弯しながら口縁部が立ち上がる坏や、浅い底部から口縁部が強く外反する体部を持つ高坏などがある。7世紀初頭と

考えられる。042が該当する。

第4期

椀型の手持ちヘラケズリ坏を主体とする時期である。丸底で口縁部が若干内弯気味に立ち上がるものと、平底のものがある。赤彩が施されるものも多い。模倣坏はすでに消滅し、常総型甕が伴うようになる。

7世紀末葉とみられる。012が該当する。

第5期

丸底の底部から口縁が内弯気味に立ち上がる坏がみられる時期である。丸底の須恵器坏が伴う。吉原三王遺跡の012住居跡と同時期と考えられ、8世紀初頭とみられる。005が該当する。

第6期

平底の皿状坏が出現する時期である。口径に対し器高が著しく低く、口縁は若干内弯するように立ち上がる。赤彩されるものが多い。8世紀前半とみられる。004が該当する。

第7期

資料が極めて少なく把握が難しいが、いわゆる盤状坏に類似する坏が出現するのがこの時期であると考えられる。対比できる資料が少ないが、池尻遺跡の045住居跡などと同じ時期と考えられ、8世紀中葉とみられる。013が該当する。

第8期

ロクロ土師器坏は器壁が直立するように立ち上がる、いわゆる箱形坏の形状を呈する。器高に比べ、底径がかなり小さくなる。底面は静止糸切りと周縁部ヘラケズリ調整のものが多数を占める。須恵器は直線状に器壁が立ち上がり、口縁部が直線状あるいはわずかに外反するものが多い。道木内遺跡で墨書土器の出現が見られるのは、この時期からである。池尻遺跡035住居跡や清和乙遺跡GI-016住居跡などと同じ時期と考えられ、8世紀末とみられる。016、049が該当する。

第9期

手持ちヘラケズリの坏や須恵器坏はほとんど姿を消し、ロクロ土師器坏が主体となる。ほとんどは口径が12cm程度、底径が6cm程度で、器壁は底部付近でやや内弯し、口唇部が外反する形態をとる。底部は回転糸切り後周縁部を手持ちヘラケズリ調整される。池尻遺跡006住居跡などと同じ時期と考えられ、9世紀前半とみられる。006が該当する。

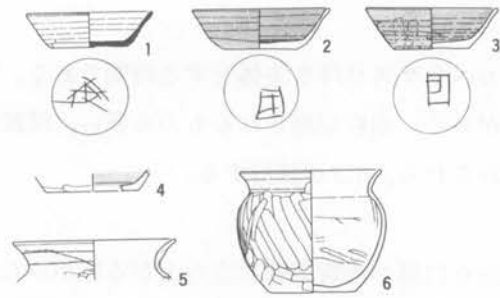
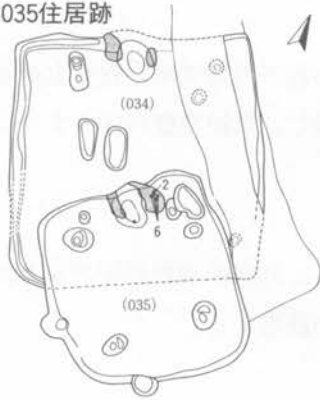
第10期

器種構成は第5期と変わらないものの、ロクロ土師器坏は底径が小さくなり、体部下半無調整のものが増えてくる。若干上げ底気味のものが多くなり、成形も全体に雑になる。池尻遺跡の007住居跡などと同じ時期と考えられ、9世紀中葉とみられる。015が該当する。この時期を最後に、道木内遺跡では住居跡が見られなくなる。

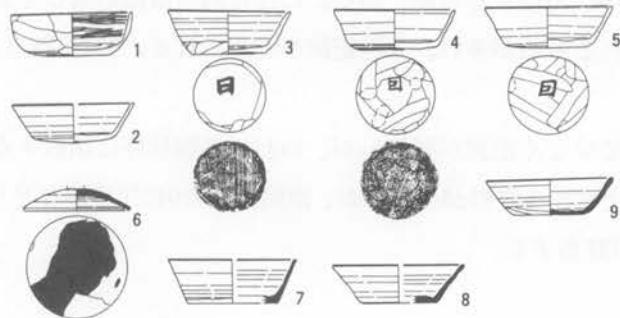
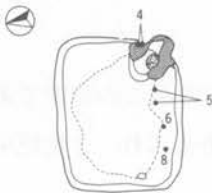
2 集落の変遷

本遺跡では古墳時代後期の6世紀後半から集落が展開されるが、詳細に観察すると、いくつかの空白期間が存在する。ただし、広い台地のごく一部の調査であり、遺構の配置から考えて調査区外にも集落が広がっているのは確実なため、ここで得られる情報はごく限られたものでしかない。そのことをふまえた上で、道木内遺跡の集落について概観したい。

池尻遺跡035住居跡



道木内遺跡049住居跡



第101図 池尻遺跡035住居跡出土遺物と道木内遺跡049住居跡出土遺物

道木内遺跡の集落の始まりは6世紀後半と考えられ、7世紀初頭まで営まれている。第1章でも述べたとおり、この周辺地域の古墳時代後期の集落遺跡の始まりはほとんどが6世紀後半であり、この時期に人口の増加と生産力の拡大を反映する形で台地上に集落遺跡が展開していったものと考えられる。住居跡は東西あるいは南北に一定の距離を置いて2軒ずつ構築され、ある程度占地を考慮して作られていたようである。7世紀初頭から末葉にかけて住居跡が見られなくなるが、台地整形区画で破壊されている可能性が強く、また、調査区外にも遺構が存在するものと思われる。7世紀末になって再び住居跡が観察されるようになり、9世紀中葉まで継続するが、各時期ほとんど1～2軒の住居が継続して営まれている状況である。特に調査区北側は各時期を通じてほとんど主軸方向がそろえられており、意図的な村落経営の痕跡がうかがえる。そうした中で最も遺構数が多いのが第8期で、前項で述べた2軒の住居跡のほかに、断片的な資料しかない010住居跡や054住居跡、025掘立柱建物跡も、この時期に属すると考えられる。また、遺物が出土しなかった061掘立柱建物跡も、平面形態などからこの時期に属すると考えられる。

8世紀末葉にピークを迎えた道木内遺跡の集落は、その後急速に住居跡の数を減らしていき、9世紀中葉に終息する。こうした状況は、池尻遺跡でも見られた開拓村落的な様相を思わせるが、道木内遺跡では一足早く終息する。清和乙遺跡でもやはり同様の消長をたどっており、この地域の古代の開拓村落のあり方を示しているものとも考えられる。

このような遺構群で特に注目されるのが025・061の2棟の掘立柱建物跡と、049住居跡であろう。掘立柱建物跡は柱穴掘り方が0.7m～1.2mと極めて大きく、特に061掘立柱建物跡は隅丸方形を呈するなど、規模も形態も充実している。049住居跡は対照的に当遺跡の他の住居跡に比べ規模が著しく小さく、南東隅にカ

マドがあるなど、特異な形態をしている。出土遺物は他の住居跡とは違って数量ともに甕より坏が多く、底面に墨書のある坏が3点、墨溜転用須恵器坏蓋が1点出土している。墨書はいずれも達筆で、ある程度素養のある人物の手によるものであることは間違いない。墨書のうち1点は「日」、2点は「回」で、いずれも仏教的な色彩が強い。隣の台地の池尻遺跡でも8世紀後半と見られる035住居跡から、同様の文字が線刻された坏が出土している（第101図）³⁾。池尻遺跡では底を持つ大規模な掘立柱建物跡も検出されており、状況としては道木内遺跡と類似している。しかし、池尻遺跡の035住居跡は平面形態は他の住居跡とほとんど変わりなく、出土遺物の量・質とも他の住居跡と大きな違いがあるわけではない。また、出土した線刻もかなり稚拙であり、道木内遺跡049住居跡の墨書とは、明らかに質が異なっている。この049住居の特異な形態や土器の器種構成なども、他の住居とは異なった性格を浮かび上がらせている。ここで注意したいのが先程述べた061掘立柱建物で、主軸方向が049住居跡とそろっており、両者が強い関連を持っていることをうかがわせる。想像をたくましくすれば、村落内寺院として建立された061掘立柱建物と、僧坊としての049住居跡という関係も想定できよう。ただし、明白な仏器やその模倣品などが出土していないことから、これらが明白な仏教関係遺構であったとは言い切れない。こうした仏教的な色彩の強い遺物を出土する遺構の把握と検討の方法については、今後の検討課題である。

第3節 中世

1 道木内遺跡出土中世遺物について

道木内遺跡の中世土器・陶器については下記の表のとおりである。遺物は小片が多く、また、時期判別の根拠となる壺・甕・播鉢の口縁部片の数が少ない。

第69表 道木内遺跡出土中世土器・陶器一覧

| 生産地 | 器種 | 点数 | 遺構-遺物番号 | 型式・年代 |
|------|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 常滑 | 三筋壺? | 3 | 040-13, 001-109-1, 001-013 | 12世紀前半? |
| | 壺・甕 | 20 | 040-13, 040-1, 011-6, 012-1, 012-1, 015-1, 049-1, 037-1, 029-1, 052-2, 052-1, 001-109-1, 001-109-1, 001-011-1, 表採(5点) | 6b~7型式 |
| | 播鉢 | 6 | 011-2, 011-6, 028-2, 053-1, 001-2, 001-3 | 8型式 |
| 古瀬戸 | 瓶類 | 2 | 11D-58-1, 011-1 | |
| | 鉢類 | 1 | 001-020-1 | |
| | 縁釉皿 | 1 | 040-1 | 古瀬戸後期 |
| | 水注 | 1 | 034 | 古瀬戸中期 |
| 瀬戸美濃 | 天目茶碗 | 1 | 017-8 | |
| | 碗類 | 1 | 012-1 | |
| | 鉢類 | 1 | 11D-58-1 | |
| 在産地 | 内耳土鍋 | 7 | 040-2, 040-1, 040-2, 040-1, 040-2, 040-2, 040-2 | 15世紀中心 |
| | 甕・壺 | 2 | 040-13, 062-1 | |
| | 土釜 | 1 | 043-13 | 15世紀中心 |
| | 播鉢 | 1 | 040-13 | |
| | その他 | 2 | 011-1, 012-1 | |
| 合計 | | 50 | | |

遺物の種類ごとに見ると、常滑三筋壺⁴⁾については若干の疑問が残るが、その可能性のあるもの3点、常滑窯製壺・甕類は小片が多いため壺・甕類を一括してカウントすると20点、常滑播鉢（片口鉢）はいずれも常滑窯型式編年II類に分類されるもので計6点、うち使用痕のあるもの4点、その他古瀬戸製品4点、瀬戸美濃製品4点、在地産土器13点である。遺構別に見ると001台地整形区画内から確実に出土しているのはわずかに9点で、最も多く出土している遺構はその南側の040溝状遺構であり、13点にのぼる。その他、東側の011溝状遺構の5点などがある。

ここで、生産地における型式の判別できる遺物についてふれてみよう。常滑窯製品⁵⁾の中の播鉢は口縁端が横方向に先端を鋭利にして突き出すもので、円帯をつくり出すに至っていない。したがって、降っても常滑編年8型式前後までになると思われる。すなわち14世紀後半から15世紀前半に相当すると考えられる。小型甕の口縁端部破片資料では口縁端部の垂下が極端ではなく円帯の幅が2.1cmになるものが見られる。これは常滑編年6bから7型式に該当すると考えられ、13世紀末から14世紀前半に当たる。その他年代を知る資料としては常滑三筋壺がある。小破片で三筋壺と断定しづらい面があるが、胴部に中央2本がやや太い4本歯の櫛描きによる筋状沈線を施している。三筋壺であれば比較的古い1ないし2型式ぐらいに相当し、12世紀前半ぐらいになると考えられる。三筋壺を除けば12世紀代の遺物は見られない。また、常滑窯型式編年I類に属するものの破片は見られない。在地産土器にいたっては未だ明確な編年ができ上がっていないので時期の決定は難しいが、おおむね15世紀代を中心とするものとする。古瀬戸製品についてはわずか4点の出土数であるが、その中で034土坑の水注は完形品で注口部は上方に反りあがり、板状の把手部を反対側に付ける。口縁は上方に短く立ち上がる。底部は回転糸切り無調整で、外面は底部と体部下半を除いて灰釉を漬け掛けしており内面は無釉である。古瀬戸中期（14世紀前半頃）のものである。同じく縁釉皿は小破片であるが15世紀代のもと考えられる。したがって、遺跡全体の年代は12世紀後半から15世紀に収まるものと考えられるが、主体となるのは13世紀末から15世紀といっても大過ないであろう。

遺物の特徴としてはまず常滑三筋壺が見られることが挙げられる。常滑三筋壺は蔵骨器として使用される例が多く見られることから、当遺跡が当初より墓地として機能していたことが考えられる。特に今までの出土例を見ると地表面から偶然発見された例が多く、今回のように明瞭な墓地遺跡から発掘調査によって発見されたことは注目される。

2つめの特徴としては常滑窯製品の占める割合が非常に高いということである。出土土器・陶器総点数50点のうち常滑窯製品は29点で、実に全体の6割を占める。これが当時期の墓地遺跡に見られる一般的な特徴なのかどうかは今後の資料の増加で判明するものと考えられが、その中には破片となった後、断面の一部を転用砥石として顕著に使用されている例が4例見られる。これは千葉県の中世遺跡出土の常滑窯製品や渥美窯製品に見られる特徴で、鉄製の農具や武具の普及に比べ地理的条件から石製の砥石が不足したため、その代用品として、比較的硬質でザラザラした質感の常滑・渥美窯製品の破片が好んで使用されたものと考えられる。

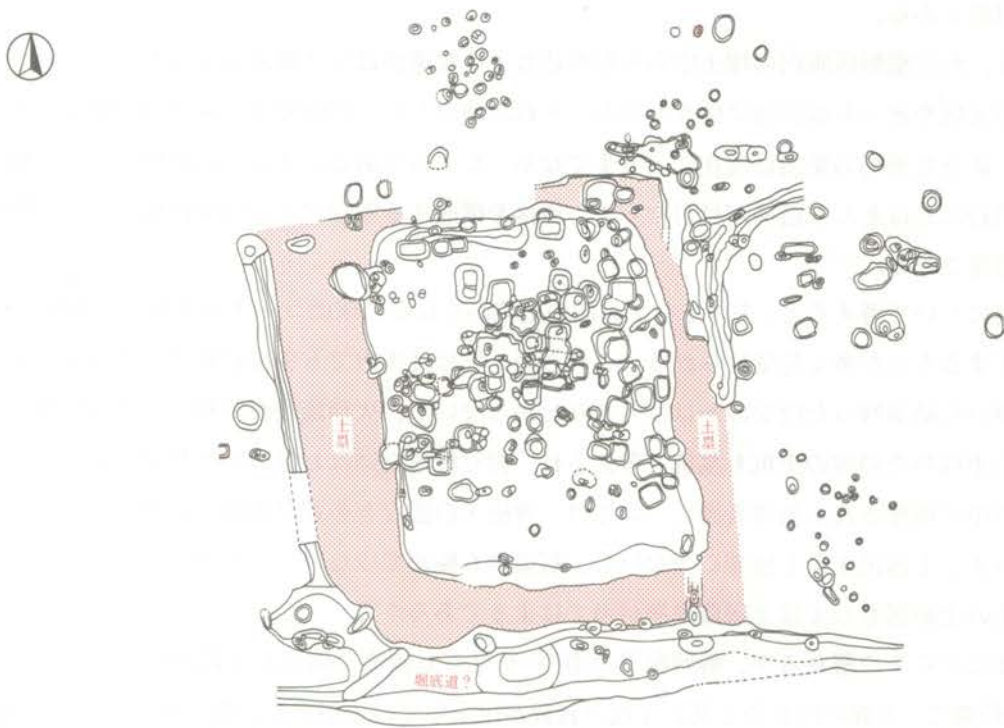
一方で、中世遺跡において表採又は墓坑からの副葬品として出土する例が必ずといって良いほど認められてきた土師質小皿いわゆるカワラケが1点も出土していない。その他銭貨は天禧通寶（初鑄年1017）1点、元豊通寶もしくは元祐通寶が1点、□□元寶もしくは□元通寶が1点の合計3点を確認しているのみである。五輪塔・宝篋印塔・板碑などの石塔類の破片は判断つきづらいものを含めても数点見られる程度である。

2 中世遺構の性格と変遷

まず、遺跡が中世にどのような遺構によって構成されているか列挙すると次のようになる。台地整形区画1基、台地整形区画を取り囲む溝（堀・道路）2条～3条、台地整形区画内では掘立柱建物跡1棟～3棟、地下式坑1基、粘土貼土坑12基、炭化材を含む土坑15基、方形土坑30基以上、小ピット（柱穴か）90基以上で、台地整形区画外では方形土坑20基以上、小ピット70基以上である。

台地整形区画は偶然にも今回の調査区のほぼ中心に位置し、その一角のみの調査と違って台地整形区画の内部と外部との関係を知る上で当遺跡は貴重なものである。台地整形区画の範囲は東西19m、南北24m（約450㎡）で、周囲に遺構の全く存在しない空白域が1m～6mの幅で周り、更にその周囲を溝（堀・道路）に囲まれている。最も安定的に広く幅を保っているのが西側の空白域である。調査時点ではこの平坦面についてはソフトロームが残っており、余り削平は進んでおらず、硬化面はなかったということなので、この空白域には溝（堀）と対をなす土塁が築かれていたことは山武町埴谷周路遺跡や、四街道市池ノ尻館跡の例があり想像に難くない（第102図）。すなわち、内部空間を外敵から守るという中世の屋敷地と同じ様な外部区画構造を持っていたことになる。そして土塁は現在ではその痕跡すら確認できないが、比較的新しい時期まで残存していたため、土塁を削平しての新しい遺造成が行われなかった結果として、現在見るように遺構のない空白域として残ったものと推定される。なお、北側に切れている部分があるが、これは本文中でも述べたとおりこの場所に奈良・平安時代の住居跡があり、その覆土中に中世遺構の痕跡があったかどうか、調査時には確認できなかったためであり、ここに土塁がなかったというわけではない。

南東コーナーで、南側の溝が台地整形区画内に入り込む地点がある。ここは掘り方にピット状の掘込みを伴う。おそらくここが台地整形区画内への出入口（通路）であった可能性が高い。また、南側の東西に幅広く延びる溝状の遺構は比較的浅くなだらかな掘込みで、調査時に硬化面が確認できたので、堀底道であったと推定できる。



第102図 土塁復元図

また、この台地整形区画の東側に北西側をコーナーにするL字状に折れる溝(011)がある。そして、この溝から南東側に一群の土坑群が存在する。ここには粘土貼土坑、方形土坑などがあり、また、南端には掘立柱建物跡に相当するような小ピット群が存在する。このセットのパターンは中央の台地整形区画内と全く同じ状況で、中央の大きな台地整形区画を造成した後、その東側に同様な区画を設けたものと考えられる。ただハードロームまで削平するような大規模な造成は行わず、単に溝によって区画される小規模なものであったのであろうか、溝も途中で確認できなくなっている。また、土坑の数も中央の区画内に比べると著しく少ない。

遺跡から出土した三筋壺は小破片で、出土地点は地下式坑の覆土中と南側の溝(道路)覆土中であり、原位置を保っていないのは明白である。三筋壺は今回出土した中世遺物の中にあっては最も古いものである。遺物の出土状況や内容物については全くわからないが、先述したとおり蔵骨器として使用される事例が大半であり、今回の出土遺物も蔵骨器として埋納されていたものが新たな墓地造成で掘り起こされて、破壊され、破片となったものであろう。

さて、この台地整形区画が造成された時期に三筋壺の生産年代を直接当てる積極的根拠がないので、主体となる遺物から判断すると13世紀末を上限とする時期になる。次に内部の各土坑と地下式坑、掘立柱建物跡が造られた時期であるが、地下式坑の調査時の覆土断面観察ではローム天井部の落ち込みを確認している。台地整形区画はおそらく地下式坑の天井部が落ち込みその上に土砂が堆積した後、造成されたものと考えられる。古瀬戸水注(14世紀前半生産)が出土した034土坑は台地整形区画北東端の区画面より一段高い面に造られていた。ここにも土塁が築かれていたのであればこの土坑の築造時期は台地整形区画造成よりも古くなる。結局、地下式坑と同時期のものと考えると台地整形区画の築造時期が14世紀中頃となる。以後台地区画造成によってハードローム面まで削平され、同時にいくつもの土坑が造られたものと想定される。掘立柱建物跡はこれらの多くの土坑群と重複するので、その築造期間を土坑群の造営期間内に設定することが可能である。

調査時には、台地整形区画内の埋土中から掘り込むような遺構は全く確認できなかったということであり、区画内の土坑やピットは区画に伴うものか、それ以前のものかと判断でき、区画内が機能しなくなって埋没した後、新たな遺構の築造は現在に至るまでなかったようである。また、台地整形区画を構成する溝(道路)の周辺にもほとんど遺構が見当たらず、集落を構成する家などとは完全に独立した空間を持っていたものと想定される。

遺構の性格について考えると、主体をなす方形の土坑からはその床面コーナーを中心に炭化粒・炭化材・灰などを出土するものが多く見受けられる。これらの土坑は区画内でも中央に集中する傾向にある。この灰が遺体を焼いた結果残った灰なのかははっきりわからないが、火葬施設か墓坑と考えて間違いなからう。また、粘土貼土坑やその他の土坑も墓坑と考えられ、掘立柱建物跡はお堂の跡と想定される。

この区画の中に埋葬された被葬者層については、青磁・白磁などの貿易陶磁や古瀬戸の優品などが全く出土しておらず、土器出土量も極端に少ないし、石造物も極めて少ない。したがって、有力な国人領主よりもやや下位の土豪層もしくは上層農民層が当てはまるであろう⁶⁾。

地域は千葉県からやや離れるが、静岡県下の事例⁷⁾を見ると確実に副葬品で銭貨を伴うものは磐田市一ノ谷遺跡155号墓で、古瀬戸四耳壺と共に4枚の銭貨が出土しているが、この例を除けば13、14世紀代には全く見られないということである。静岡県下で銭貨の副葬が一定の普及を見るのは15世紀中頃から後半頃

と見られている。千葉県内の墓坑の調査事例を見ると、永楽通寶の出土比率が非常に高いことがいわれているが、佐倉市北大堀遺跡の出土例を見ると、永楽通寶を必ず1枚以上含む組み合わせ事例と共に、全く含まない組み合わせ例も報告されている。これを永楽通寶が普及する15世紀後半以前の状況と考えられるならば、千葉県で錢貨を副葬する墓の初現は15世紀前半にまで遡りうると考えらる。したがって、錢貨の出土状況のみから見ると若干の北宋錢を副葬している当遺跡の終末は15世紀前半頃に置けよう。方形の簡易な火葬跡の検出から、おそくとも15世紀前半頃までには土豪層または上層農民層に火葬の一定の普及があったものと考えられる。

最後に簡単にまとめると、台地整形区画造成及び内部の墓地造成は14世紀中頃から15世紀前半の短期間に行われたものと推定できる。また、それ以前からこの地域が墓地として機能していたことが常滑三筋壺や古瀬戸水注の出土からわかる。一方で、15世紀後半以降墓域として使われた形跡はない。

注

- 1 田村 隆 1994 「下総台地における石材の獲得」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会
- 2 年代の決定に当たっては、以下の文献を主に参考にした。
太田文雄 1990 『大栄栗源干潟線埋蔵文化財調査報告書』千葉県文化財センター
栗田則久ほか 1990 『佐原市吉原三王遺跡 -東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)-』
千葉県文化財センター
- 3 掲載した図は、安井健一(1996)『主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2 -干潟町池尻遺跡・茄子台遺跡-』(千葉県文化財センター)を改変したものである。
- 4 出土遺物については瀬戸市埋蔵文化財センター藤澤良祐氏に御教示いただいた。三筋壺についてはその可能性が高いということである。
- 5 赤羽一郎・中野晴久 『中世常滑焼をおって 資料集』 1994 日本福祉大学知多半島総合研究所
- 6 笹生 衛 「東国における中世墓地の様相-房総の事例を中心に-」『千葉県文化財センター研究紀要16』
1995
- 7 足立順司 「六道錢と墓」『静岡県における中世墓』 1997 静岡県考古学会

写真図版



道木内遺跡・椎木遺跡航空写真(昭和44年撮影、約1/10,000)



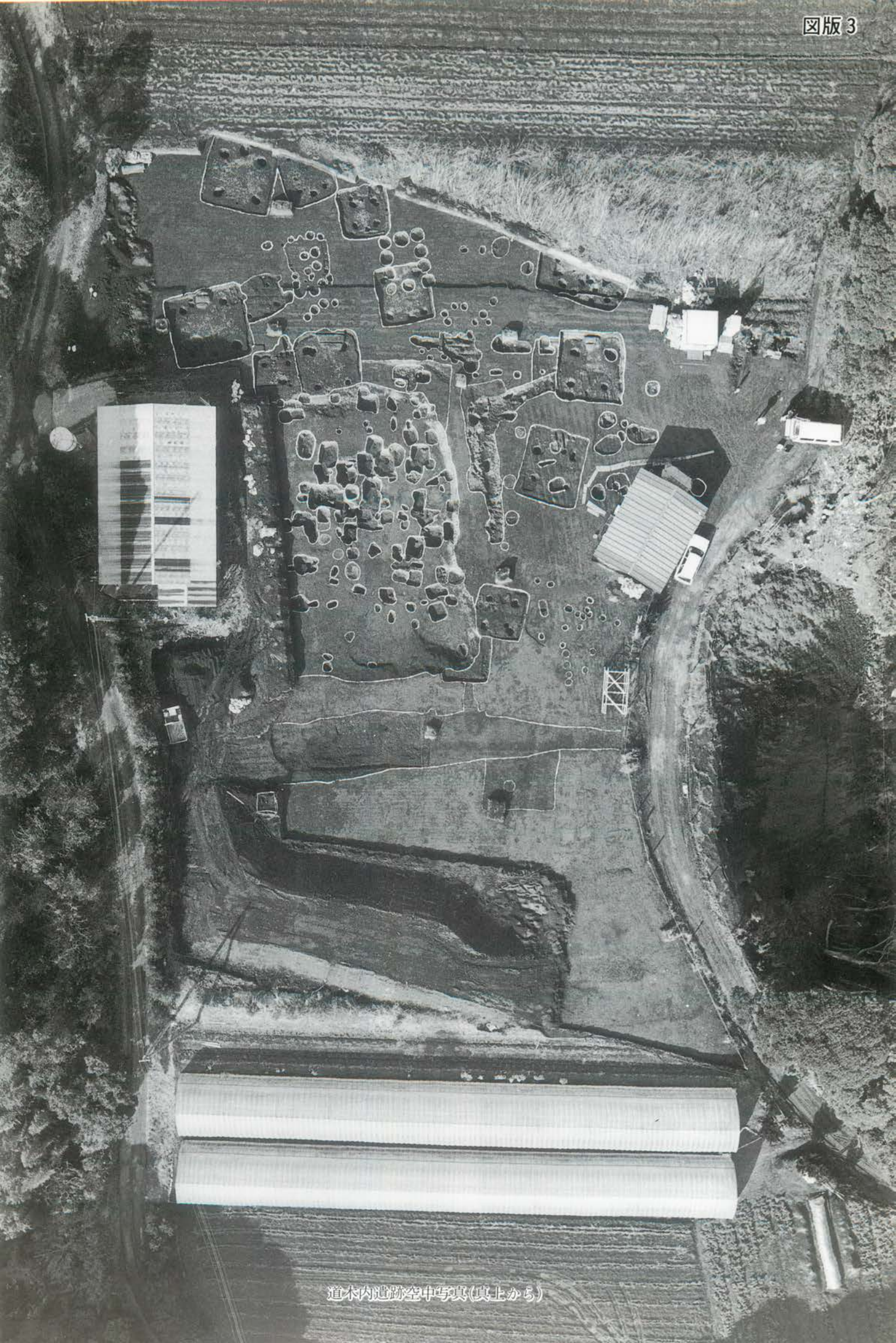
道木内遺跡空中写真
北から



南から



西から
(後方は池尻遺跡)



道木内遺跡空中写真(真上から)



旧石器ブロック調査状況



第1ブロック



手前第1、奥左から第2、3、4ブロック



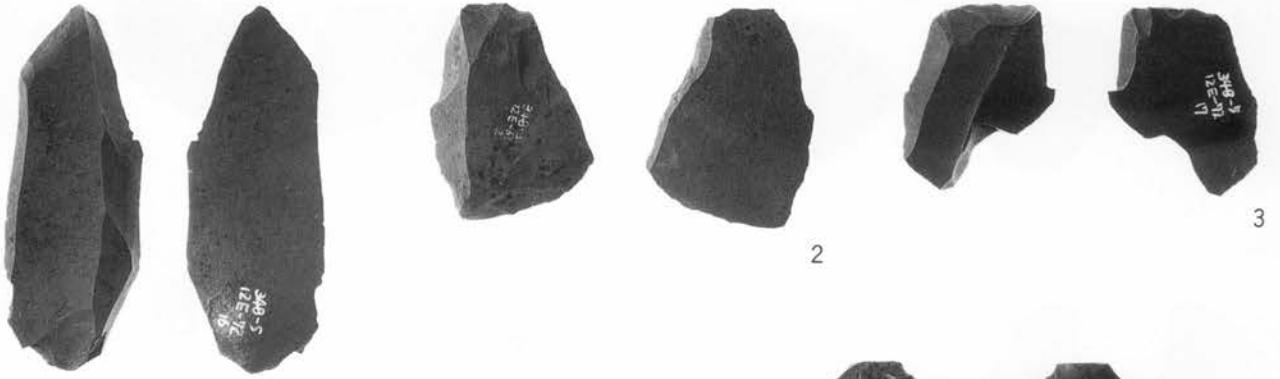
第5ブロック



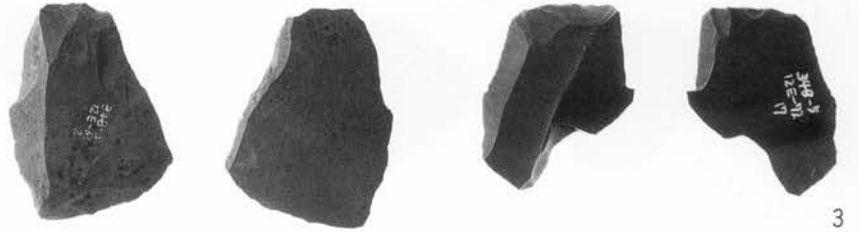
手前第6ブロック、奥第7ブロック



第8ブロック



1



2



3



4



5



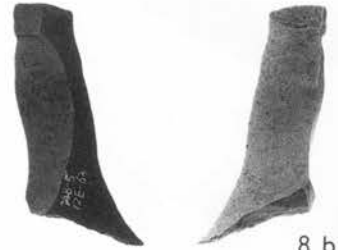
6



8 a



8



8 b



7



9



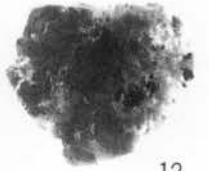
10



11



12



13



14

第1ブロック
出土石器



1



2

第2ブロック
出土石器



1



2



3



4



5

第3ブロック
出土石器



1



2



4



3



第4ブロック
出土石器



1



2



3



4

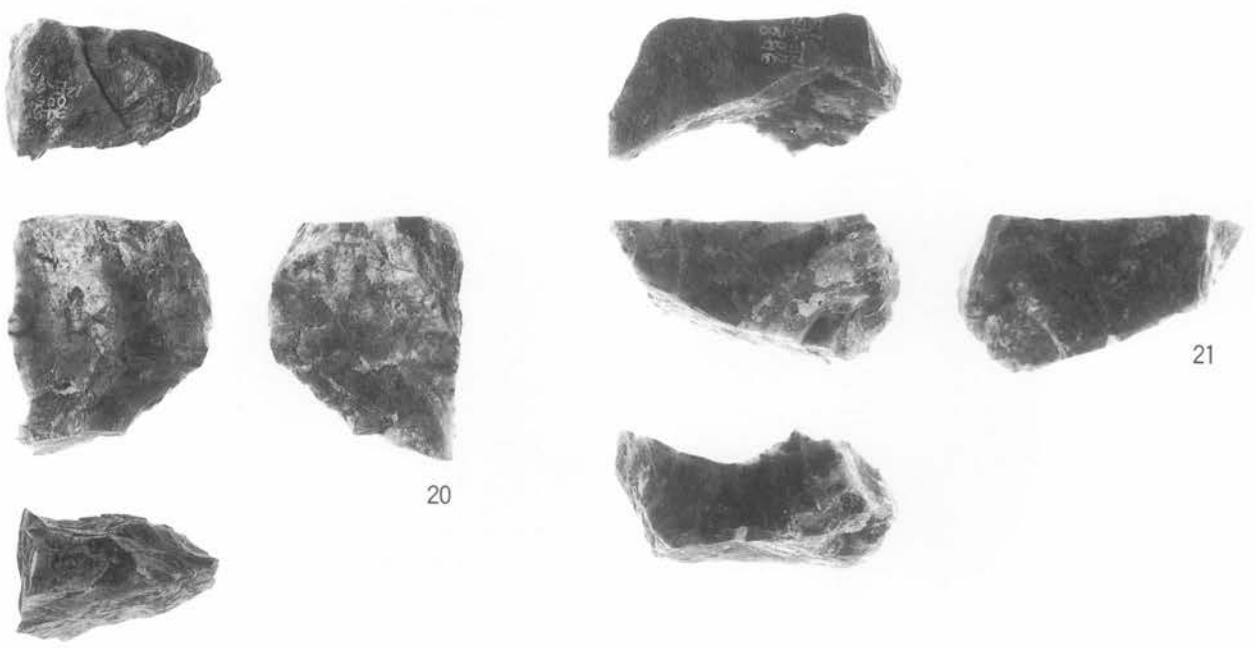
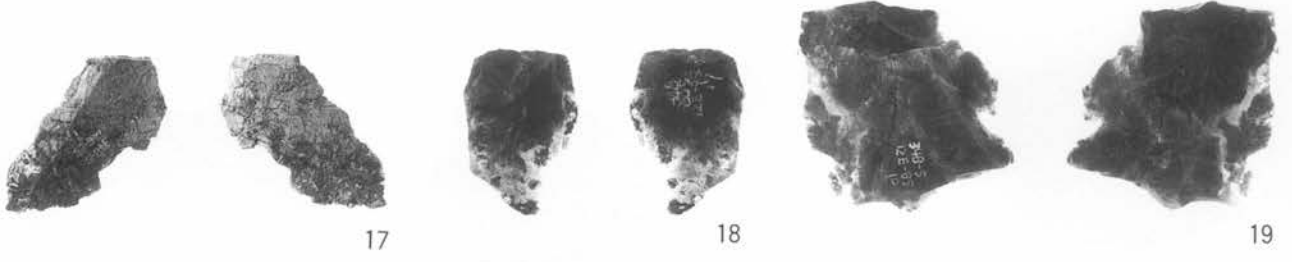


6



5

第5ブロック
出土石器(1)



第5ブロック
出土石器(2)



22



23



24



24 b



24 a



25



26



1



2



3



4



5



6



7



8



9

第6ブロック
出土石器



1



2



5



4



3

第7ブロック
出土石器(1)



6



7



8



9



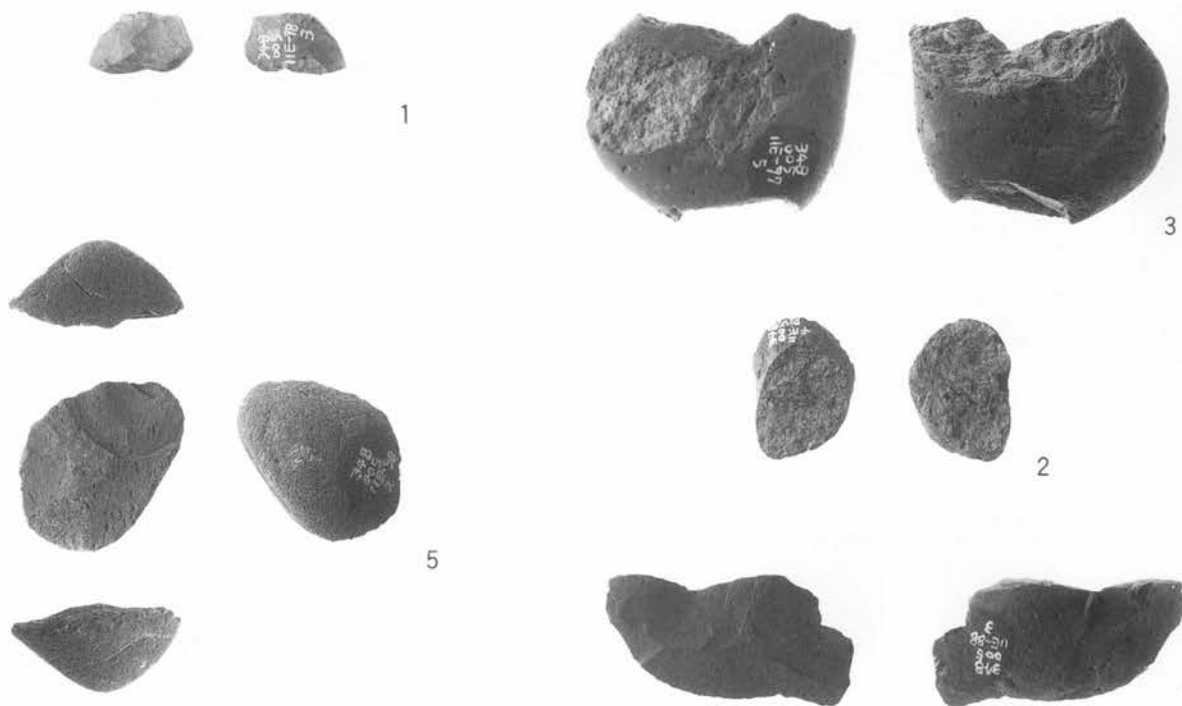
10



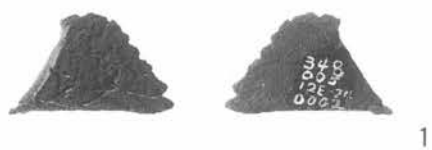
11



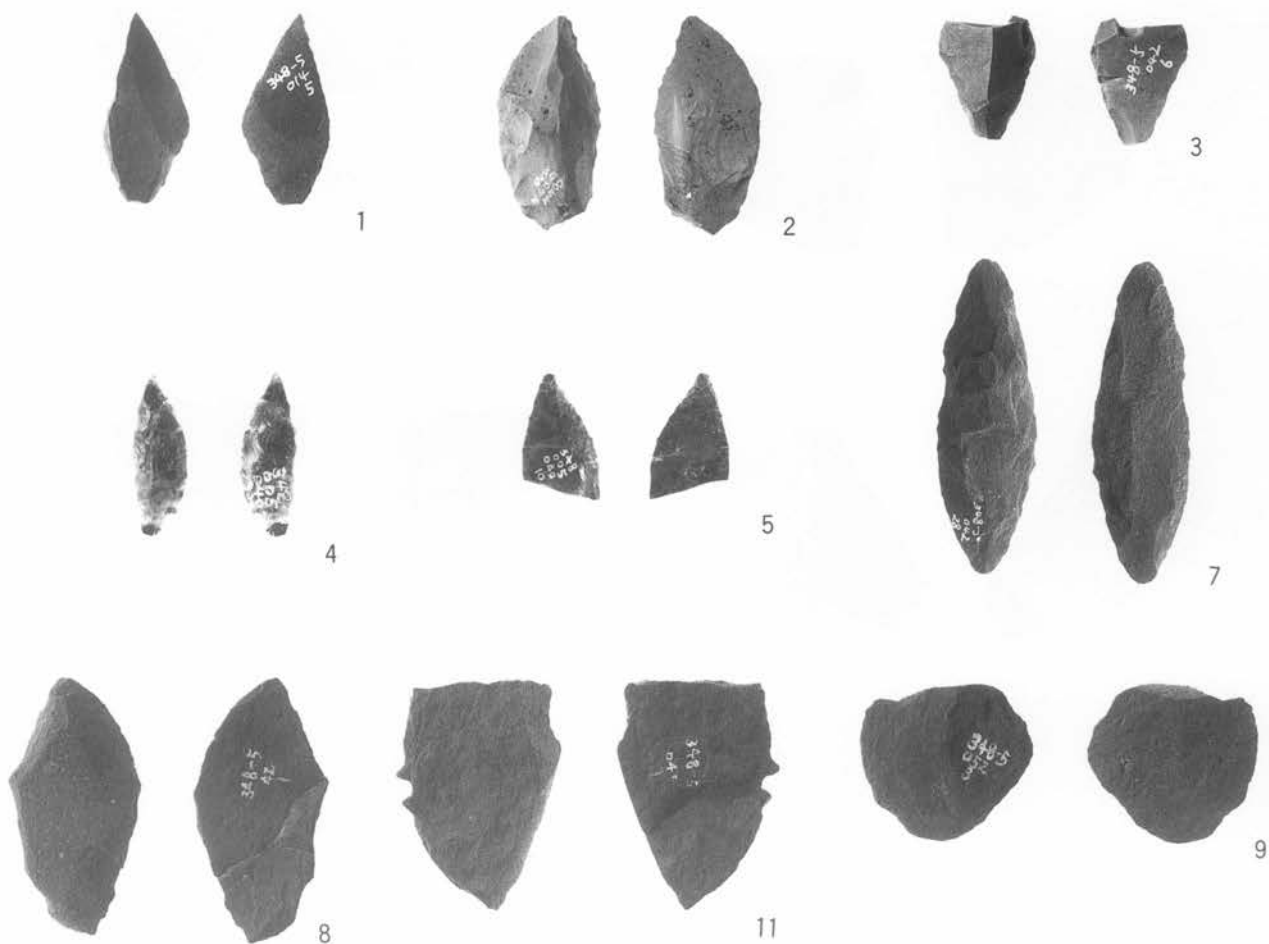
12



第8ブロック
出土石器



第9ブロック
出土石器



上層遺構
出土石器(1)



6



12



13



14



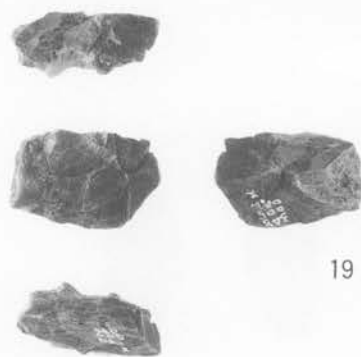
18



17



15



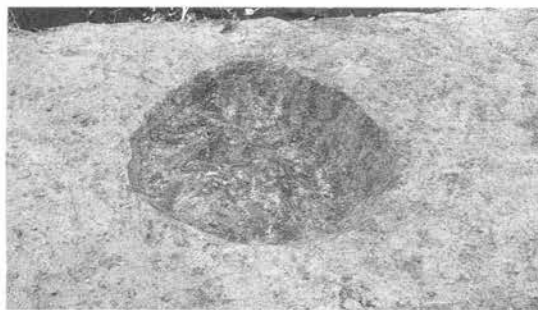
19



16



10



048



059

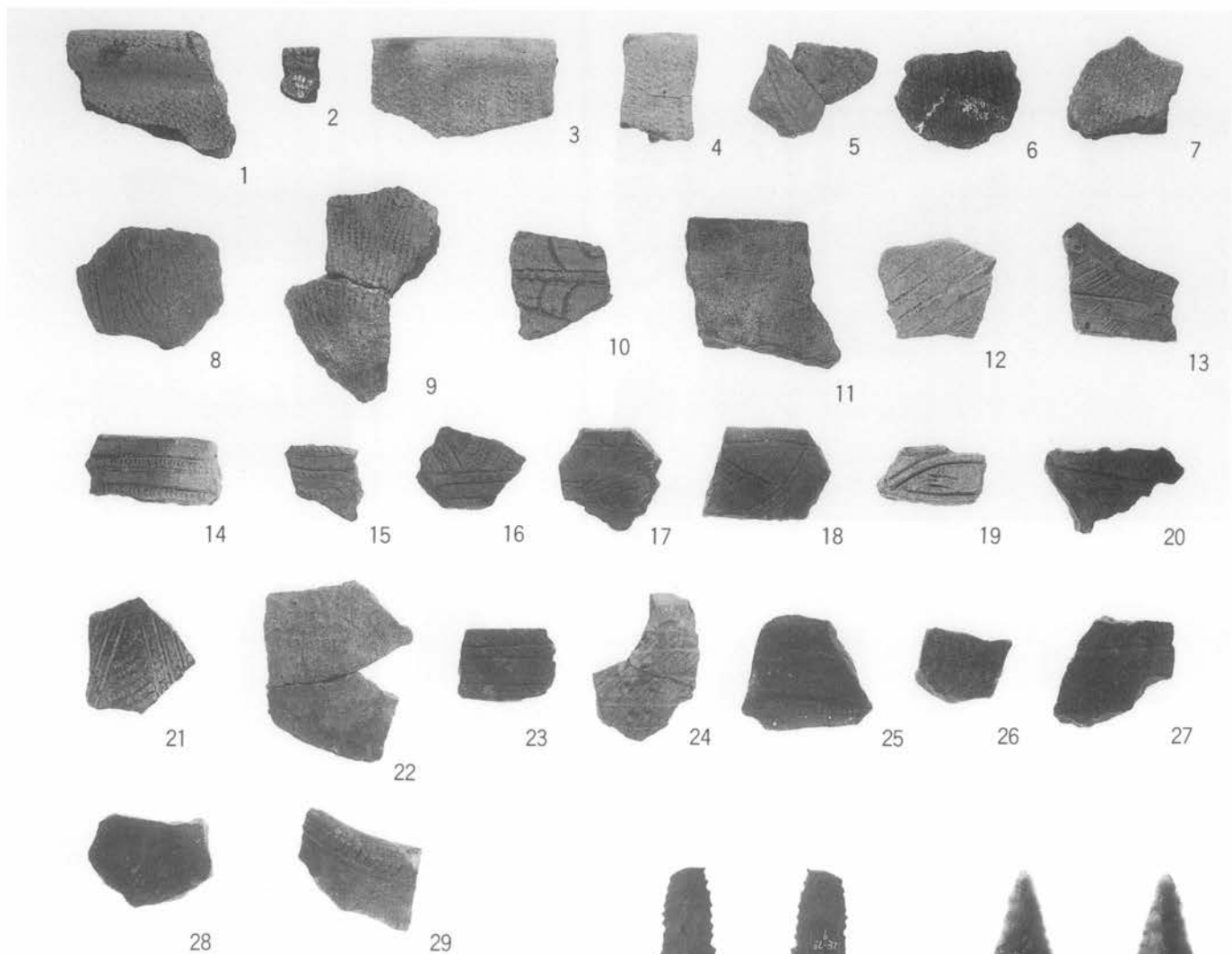


066

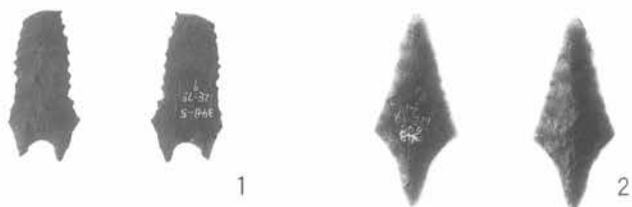


065

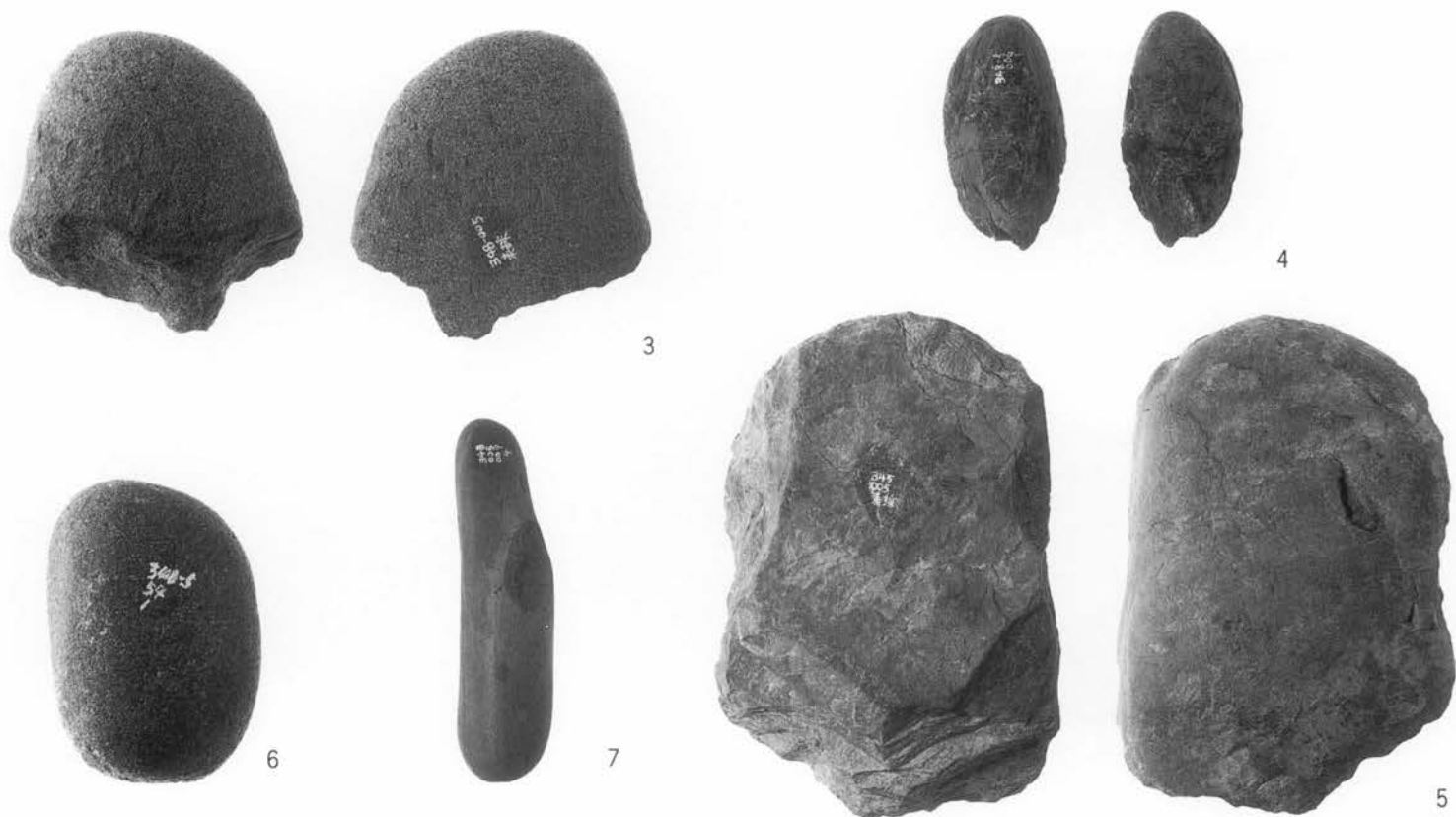
縄文時代遺構



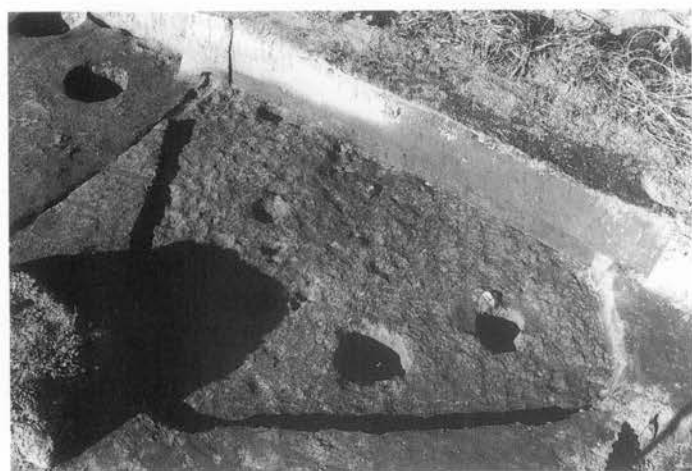
グリッド等出土縄文土器



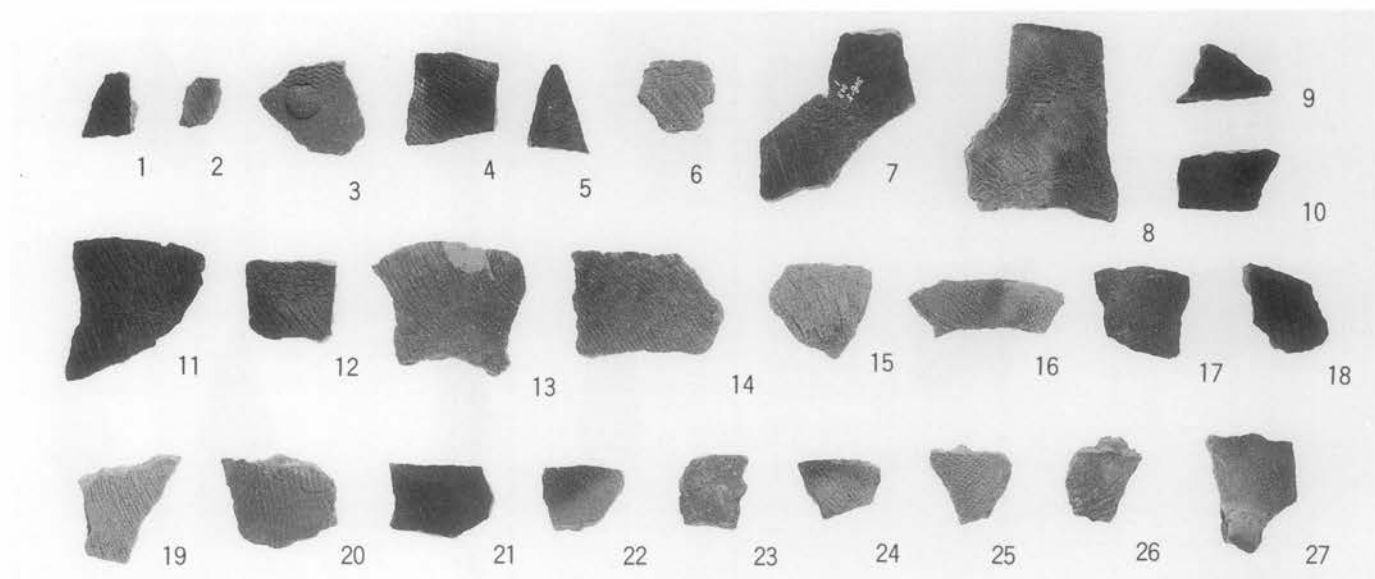
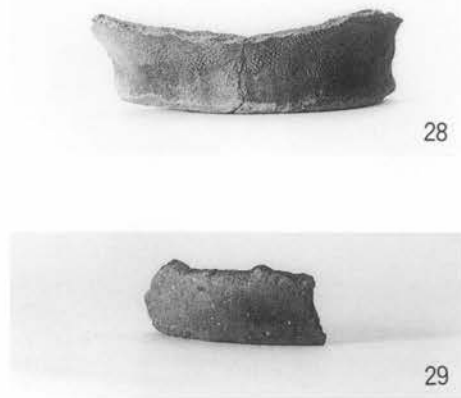
縄文時代石器(1)



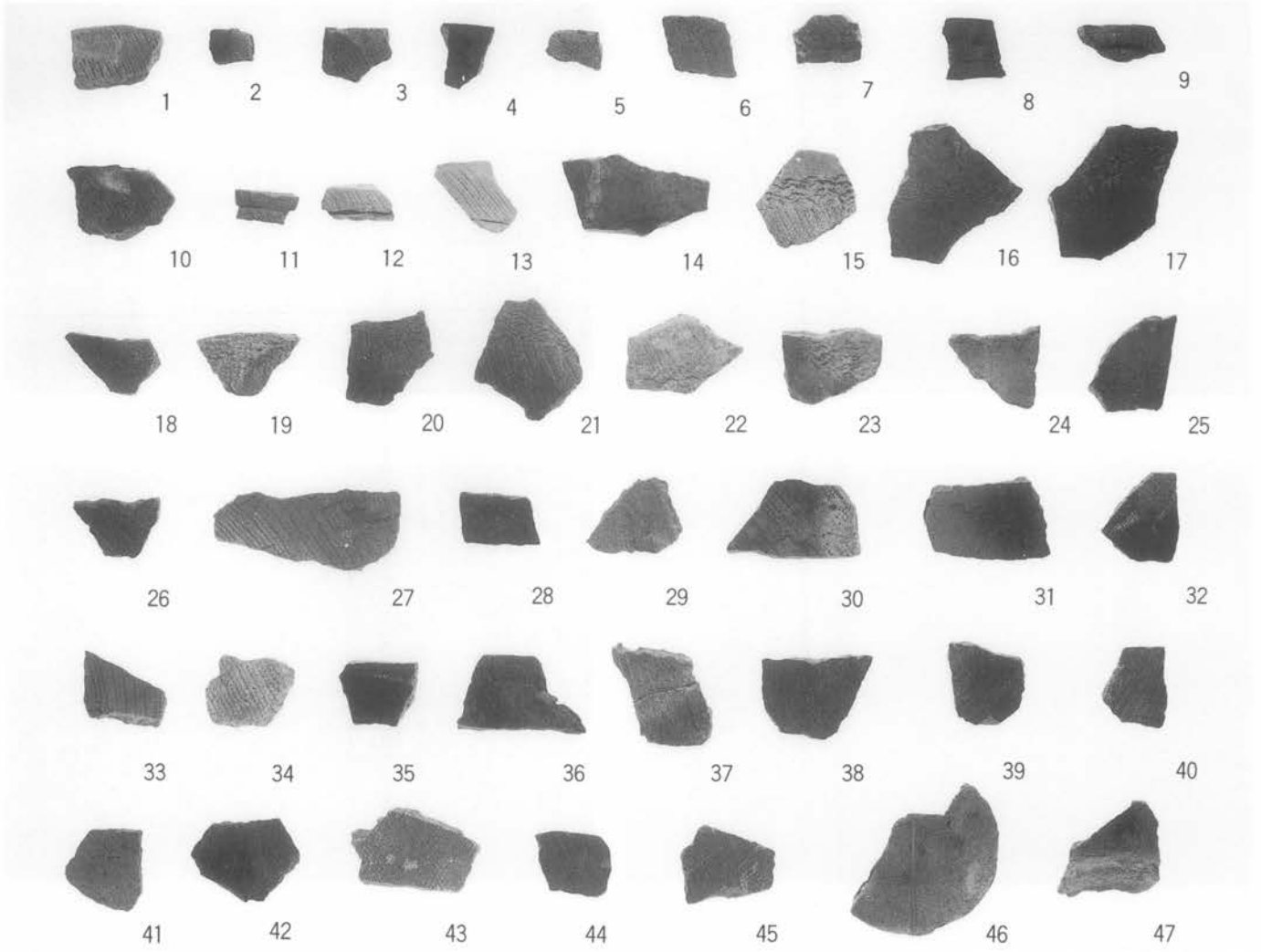
縄文時代石器(2)



003



003出土遺物



グリッド等出土弥生土器



弥生時代石器



002



007



008



009



012



012遺物出土状況



012カマド



068



1
002出土遺物



3
007出土遺物



4
008出土遺物



3



2



009-3出土狀況
009出土遺物



1



2



5

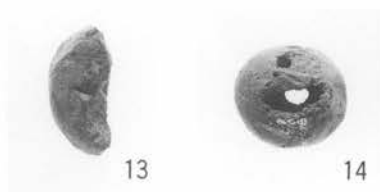


3



4

012出土遺物





014



042



042遺物出土状況



042カマド



2



4



5

014出土遺物



1



3



7



4



5

042出土遺物



004



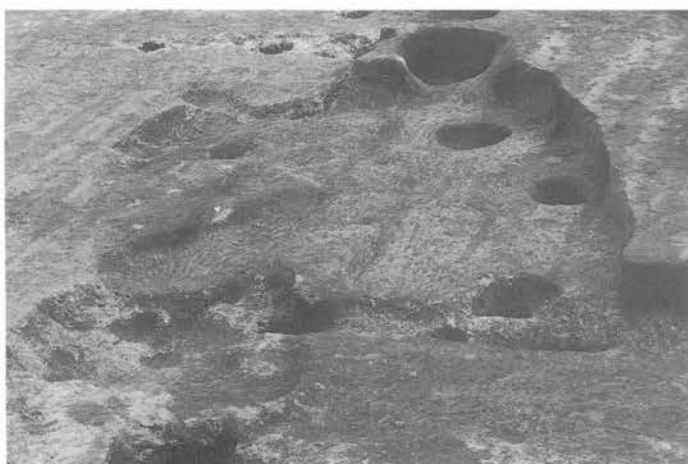
005



006



010



013



015



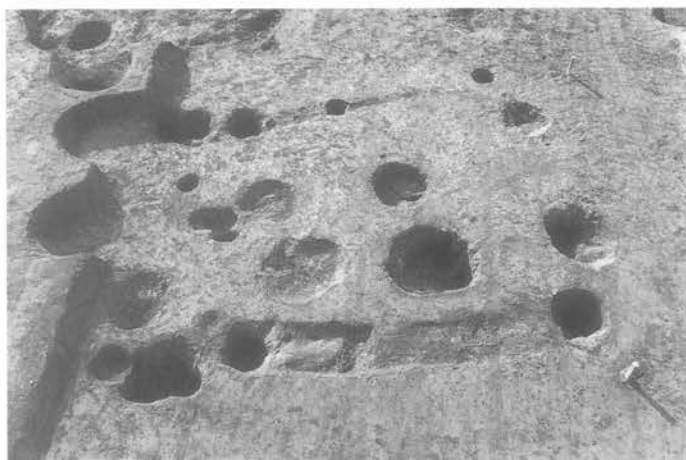
016



016カマド



015と016



017



049



049カマド



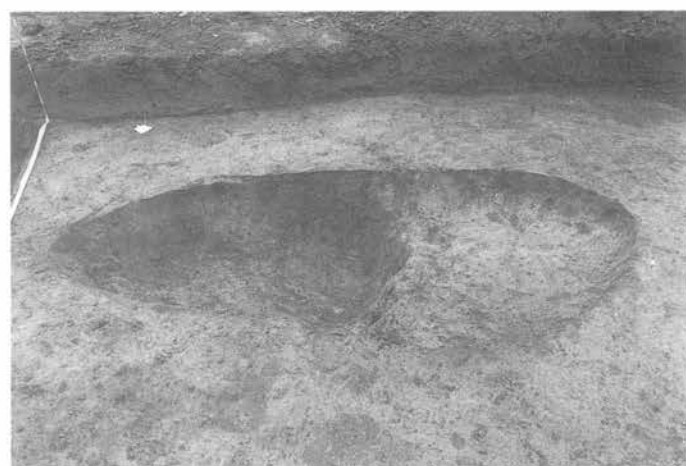
050



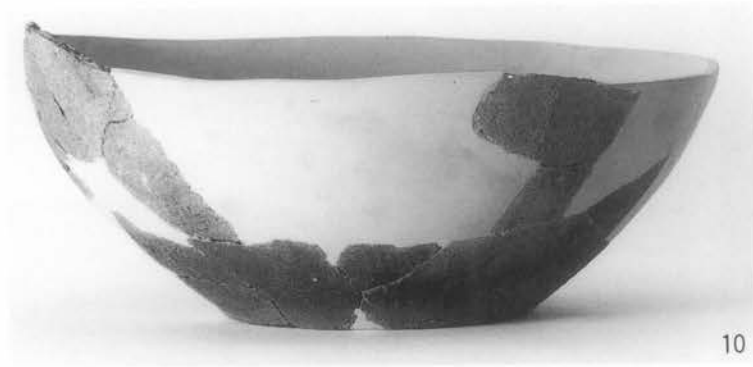
054



025



051



004出土遺物



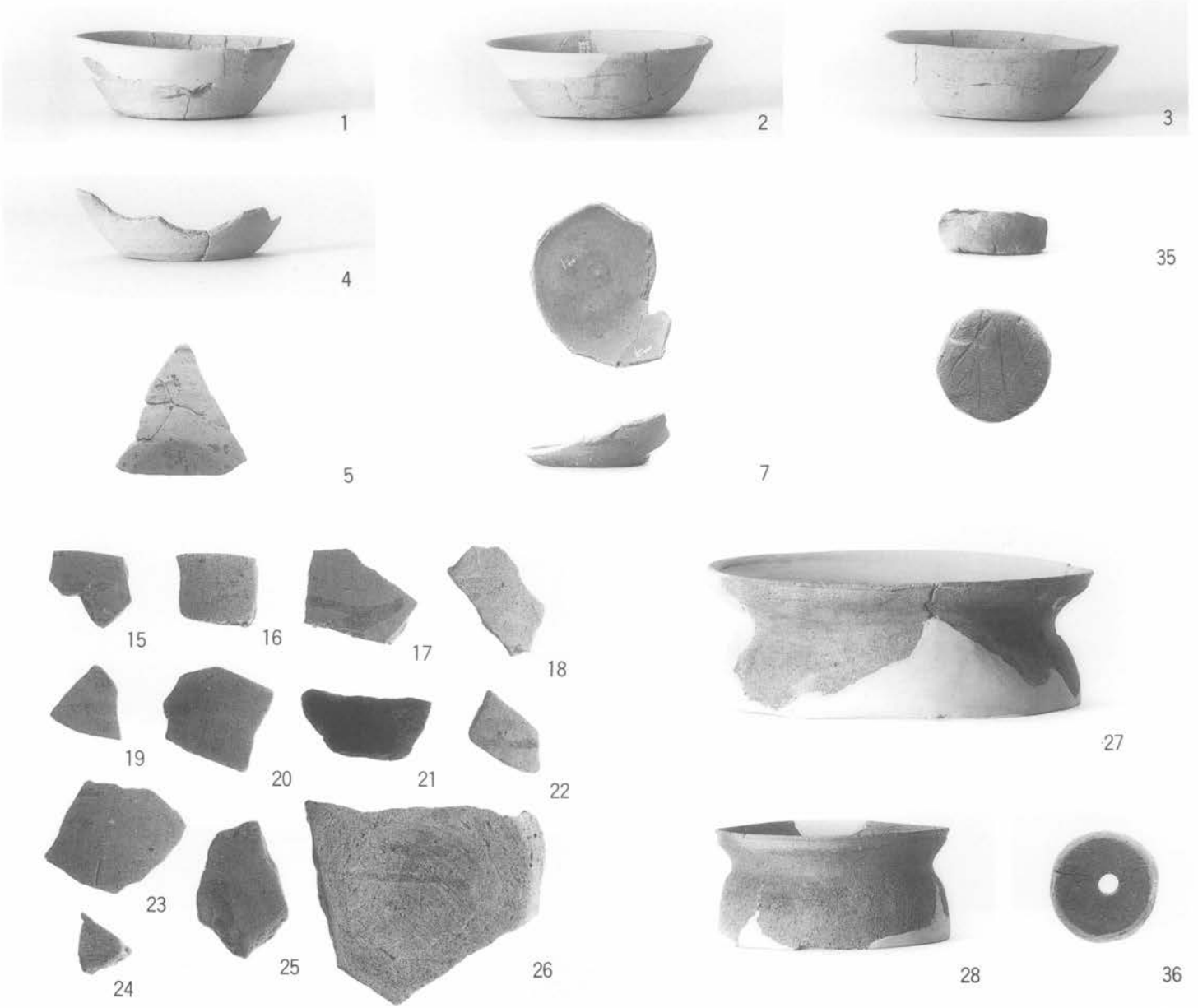
005出土遺物



006出土遺物



013出土遺物



015出土遺物



016出土遺物





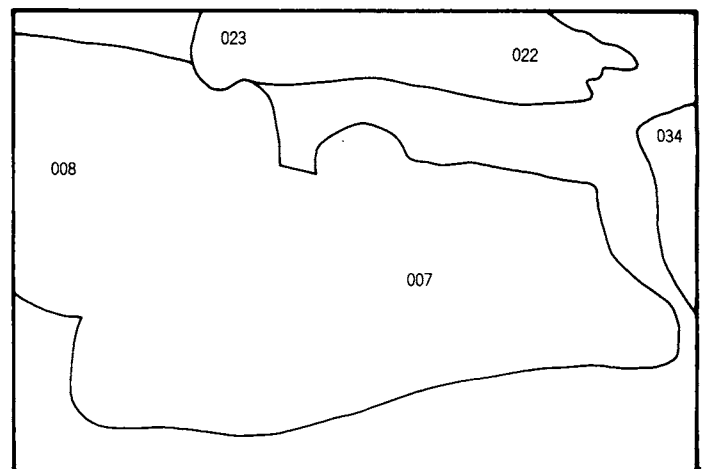
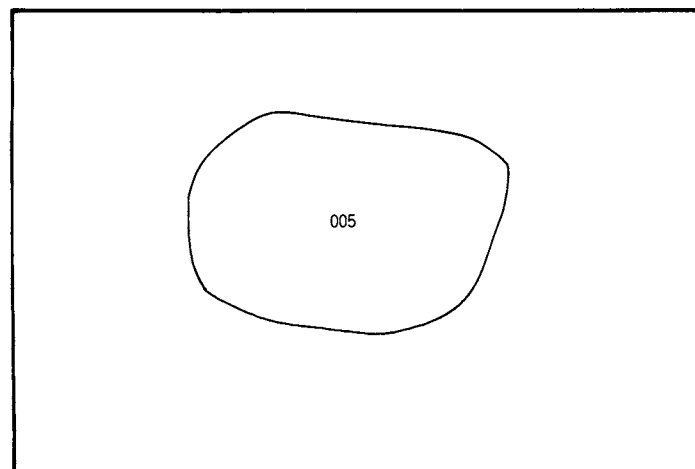
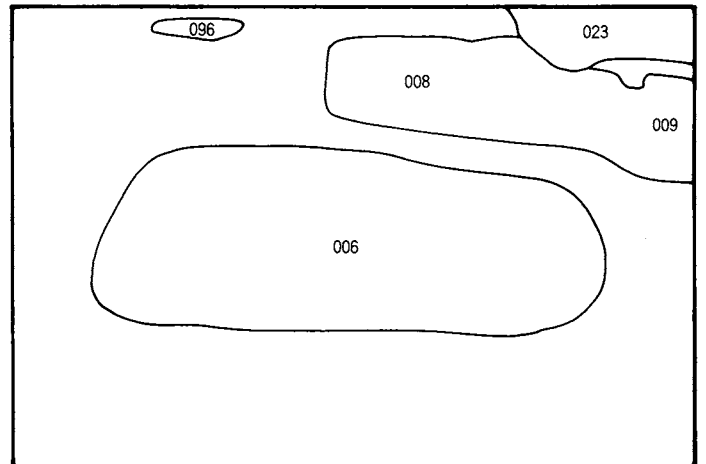
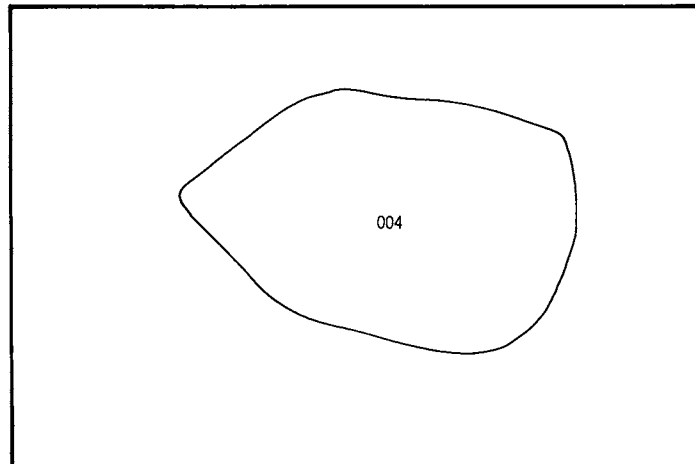
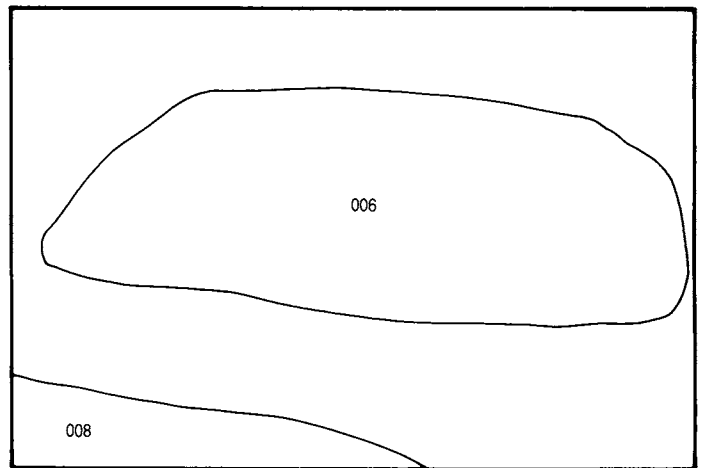
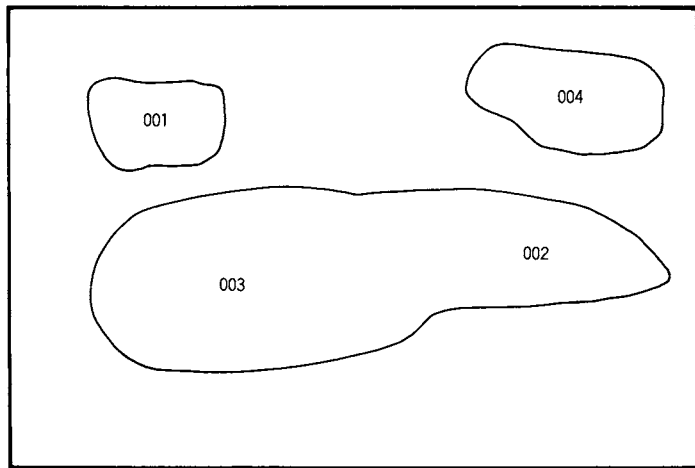
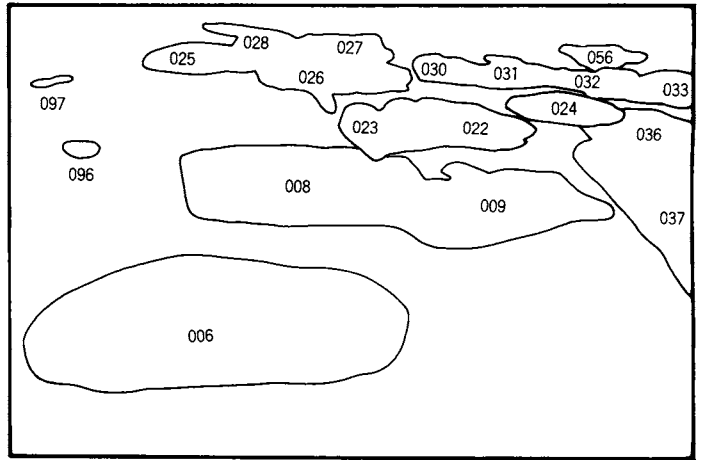
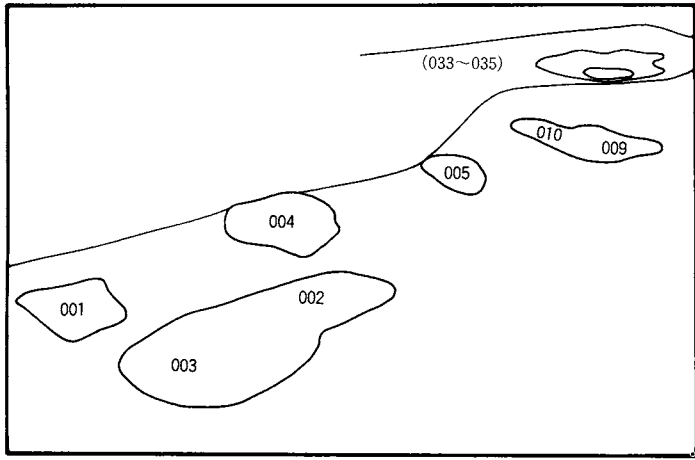
001台地整形区画
東側全景



001台地整形区画
東側近景



001台地整形区画
西側近景
052溝状遺構

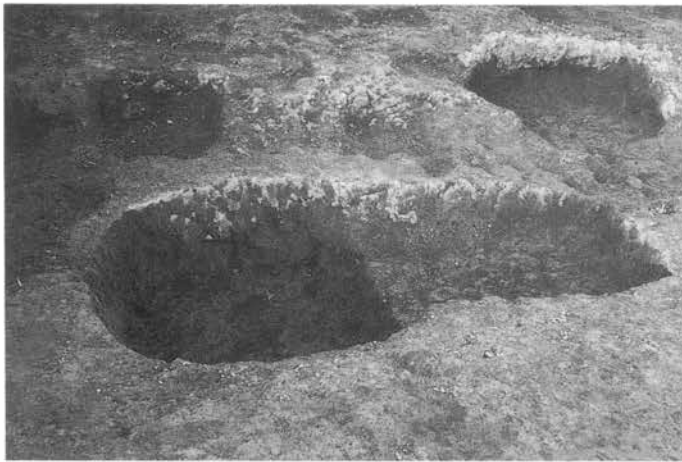




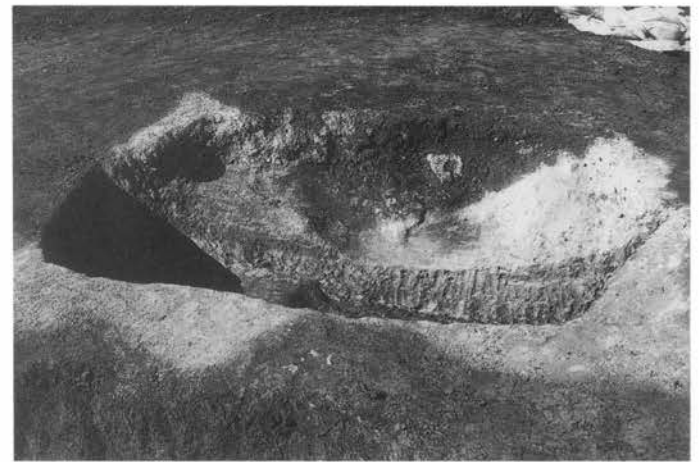
001~005、009、010



006~008、022~028



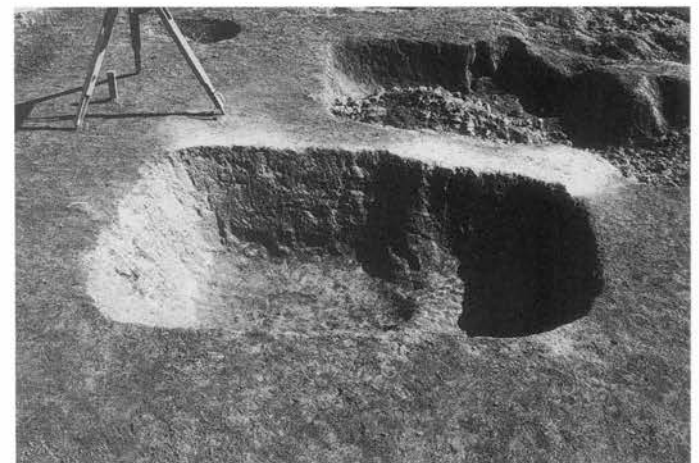
001~004



006セクション



004



006完掘

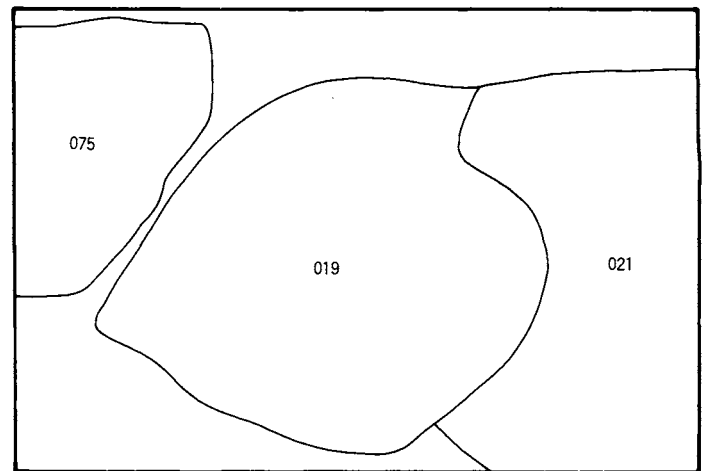
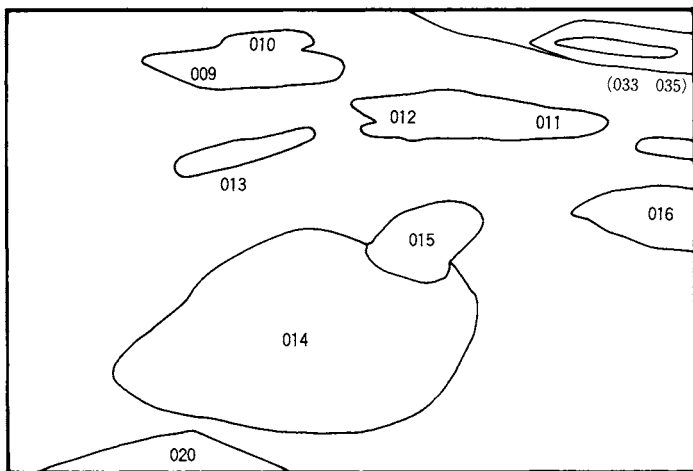
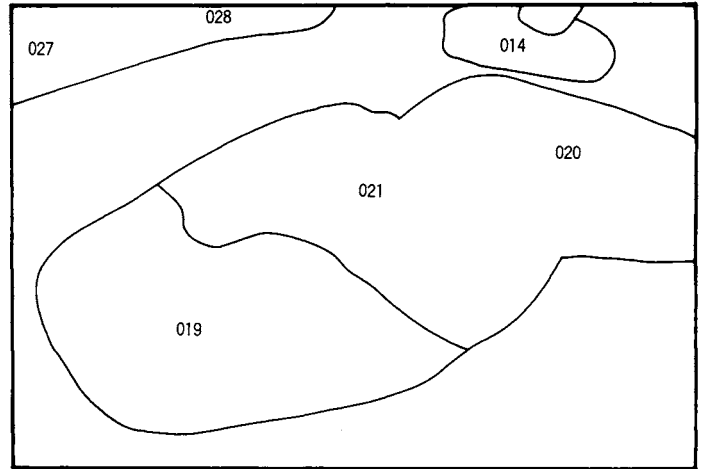
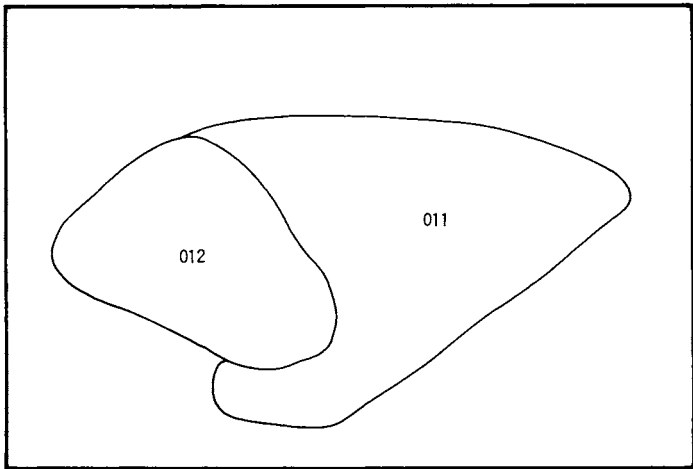
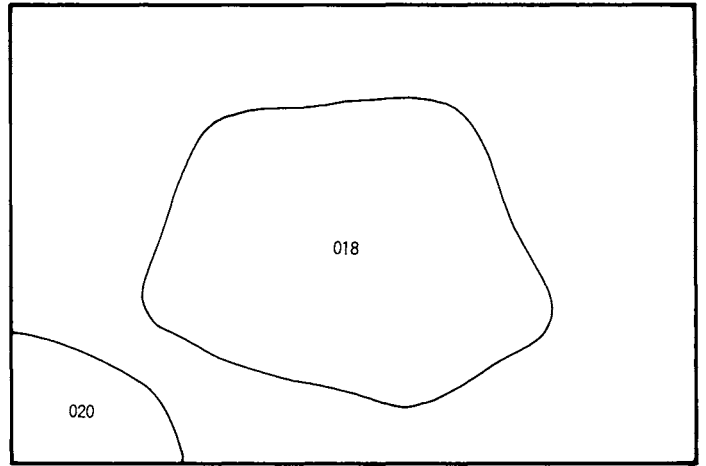
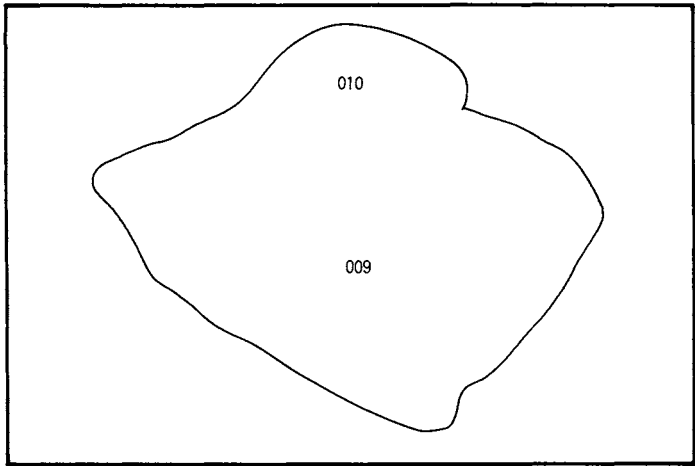
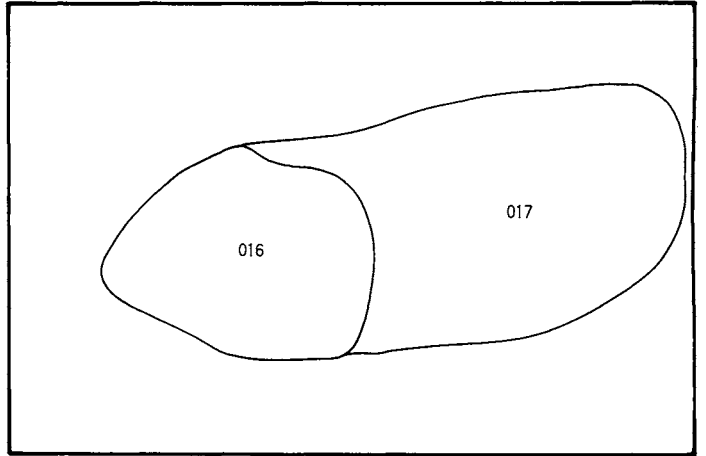
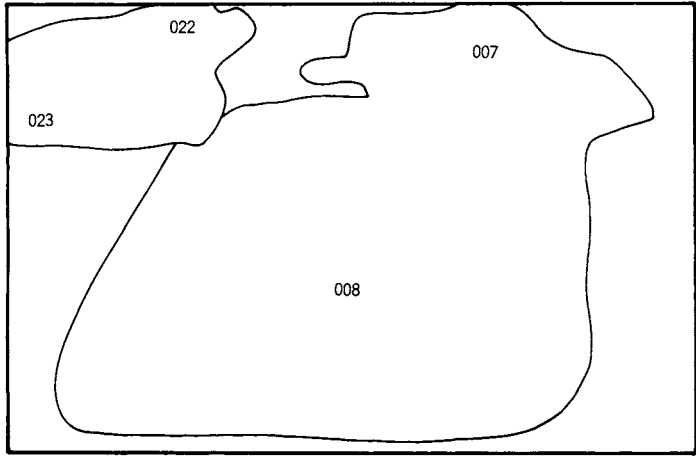


005



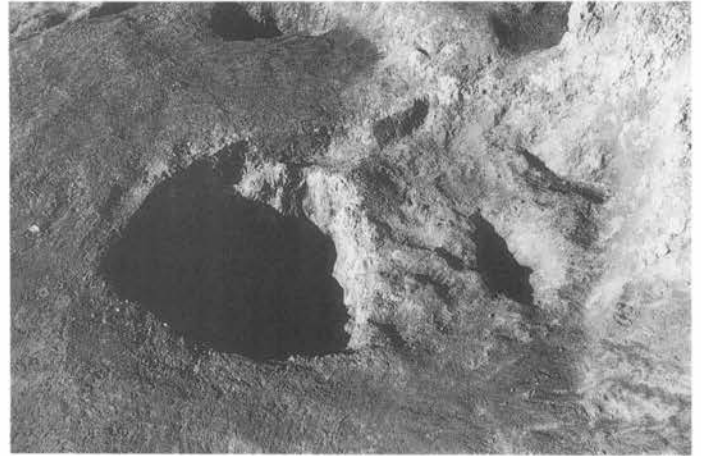
007

001中世台地整形区画(1)

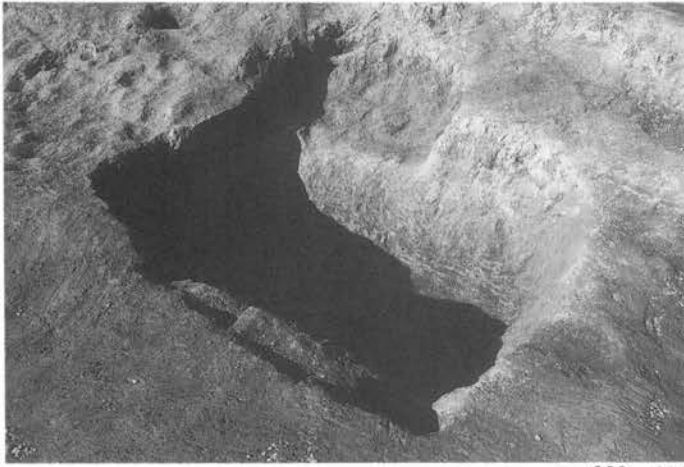




008



016、017



009、010



018



012、013



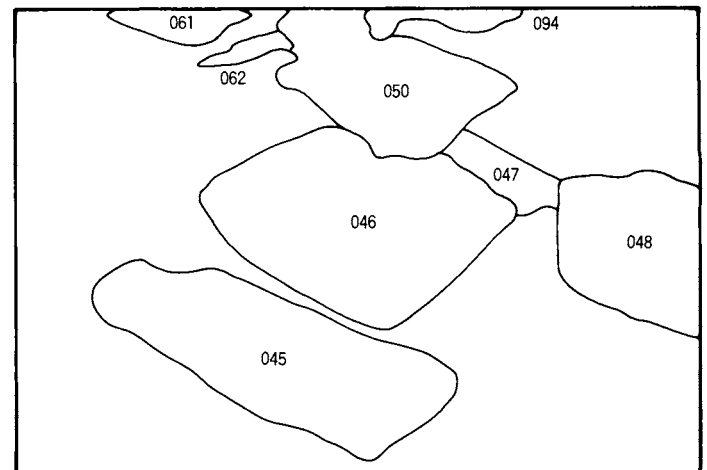
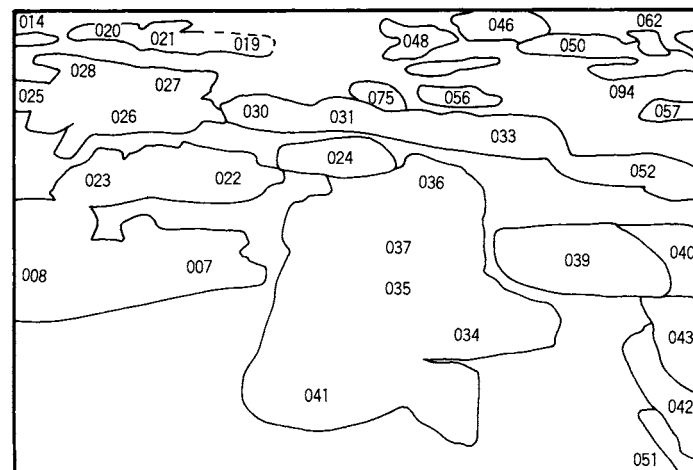
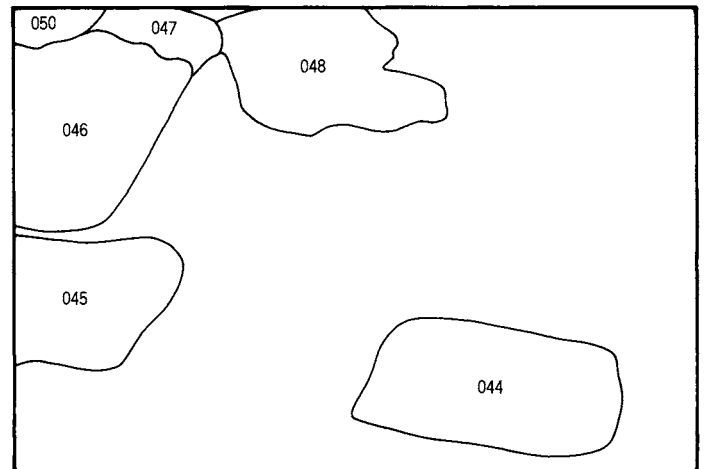
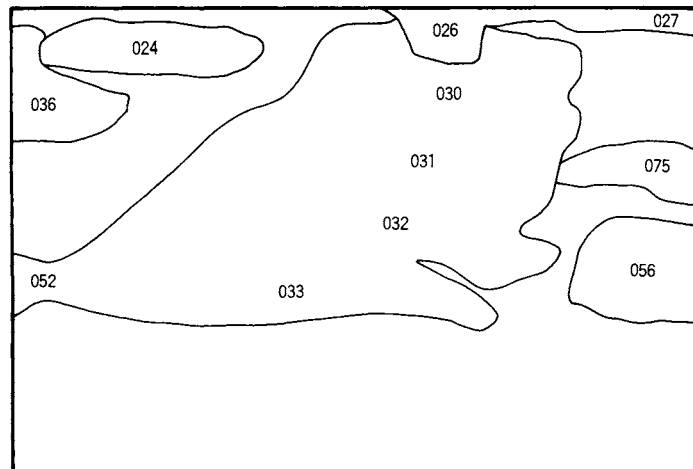
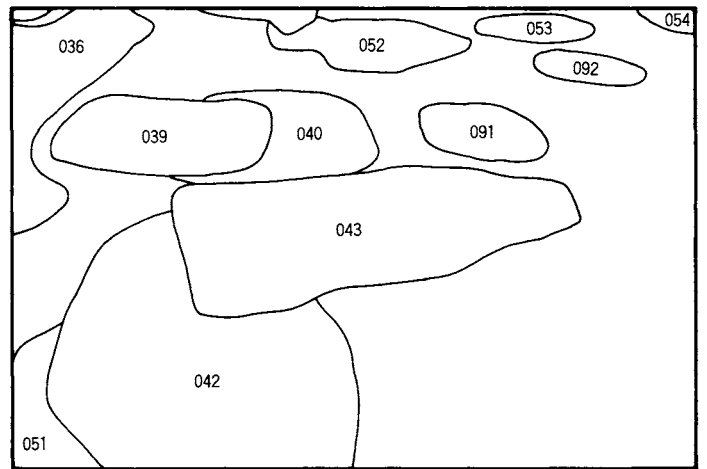
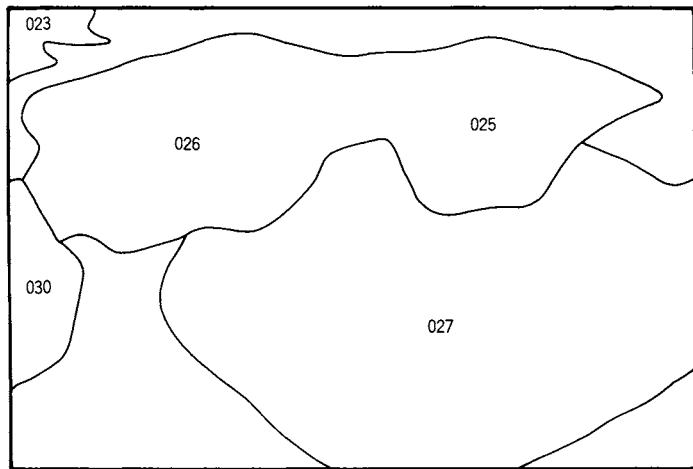
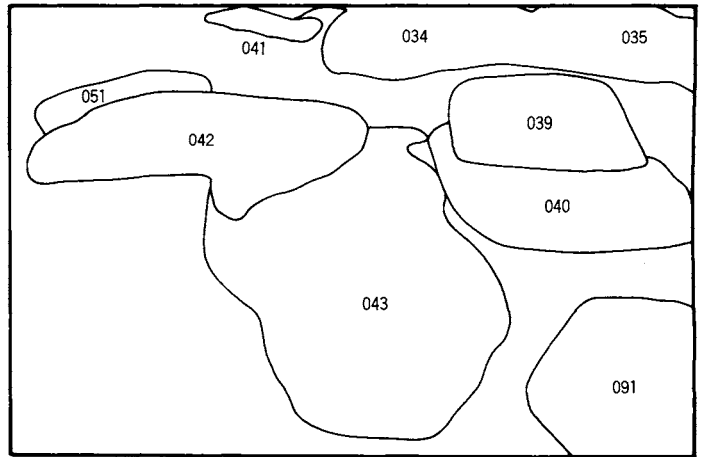
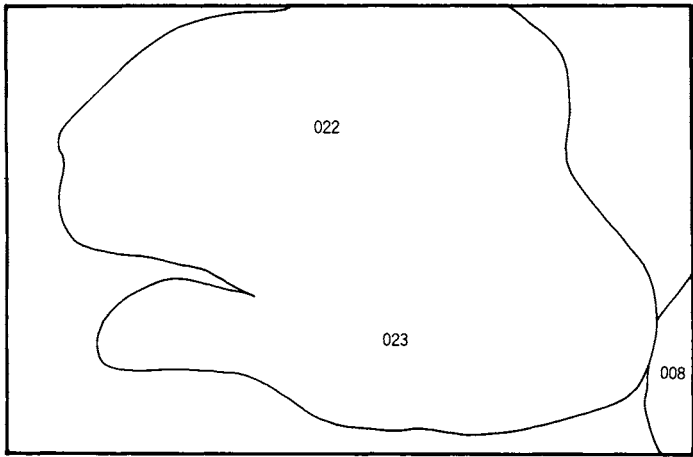
019~021



014、015

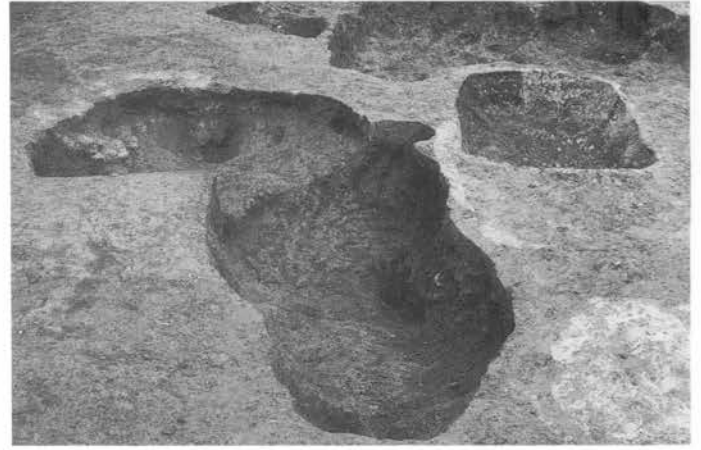


019





022、023



039、040



025~027



039、040、042、043、091



030~033



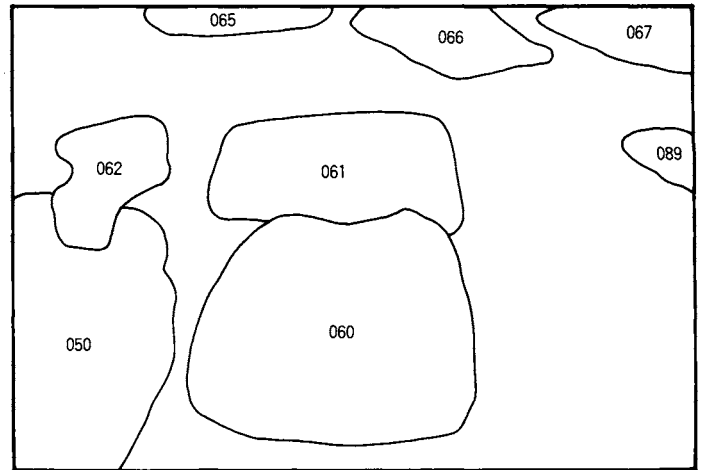
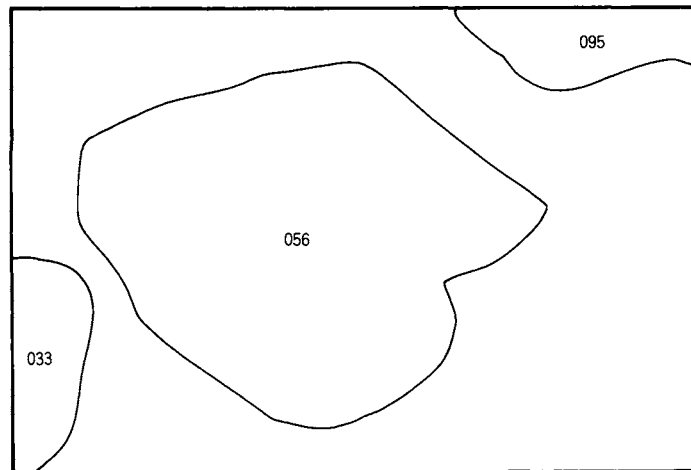
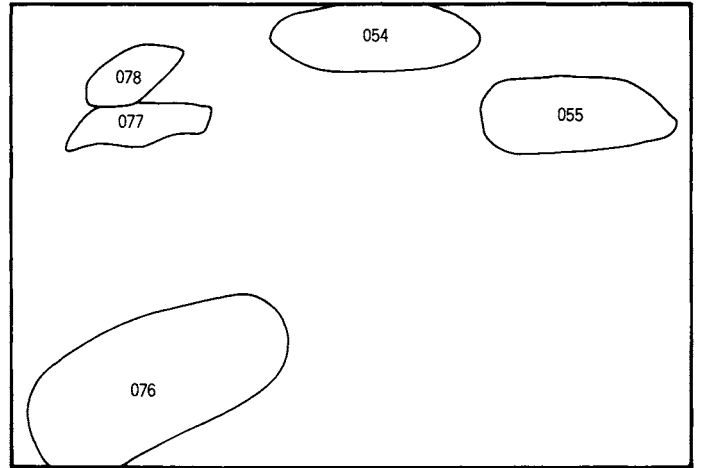
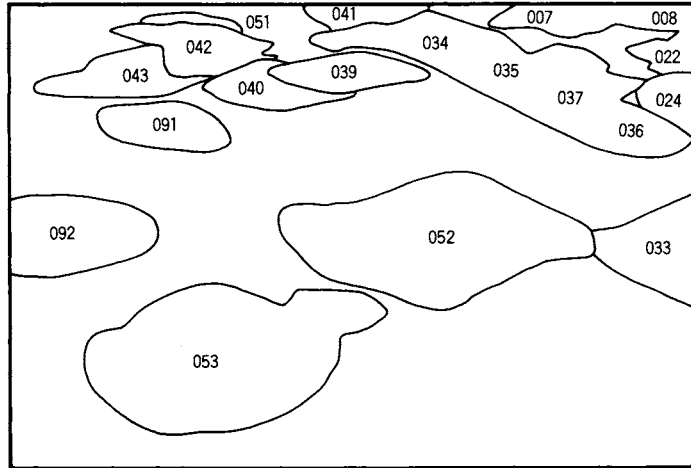
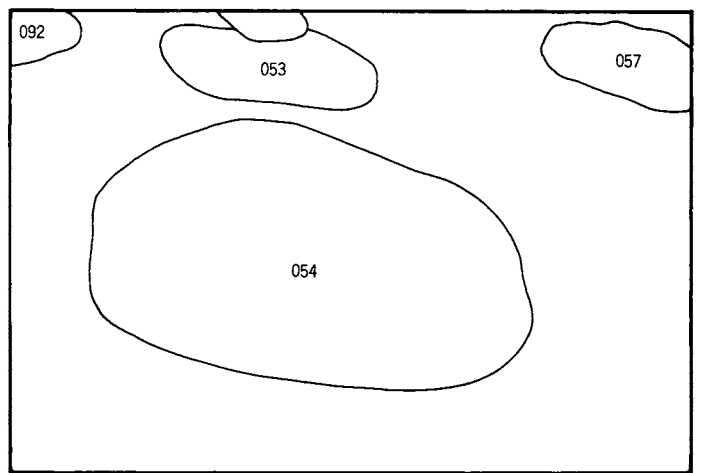
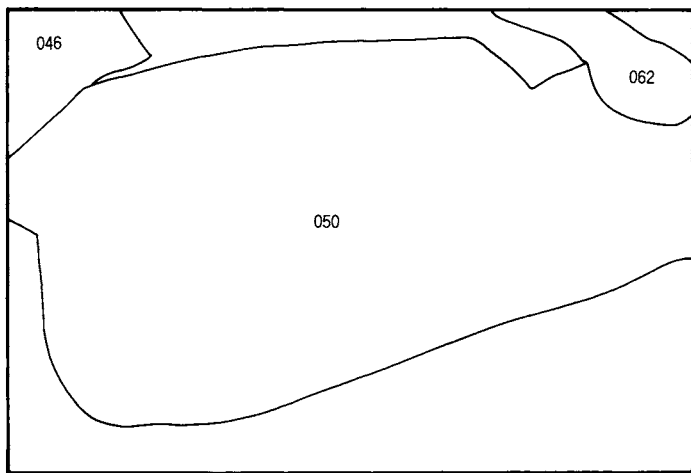
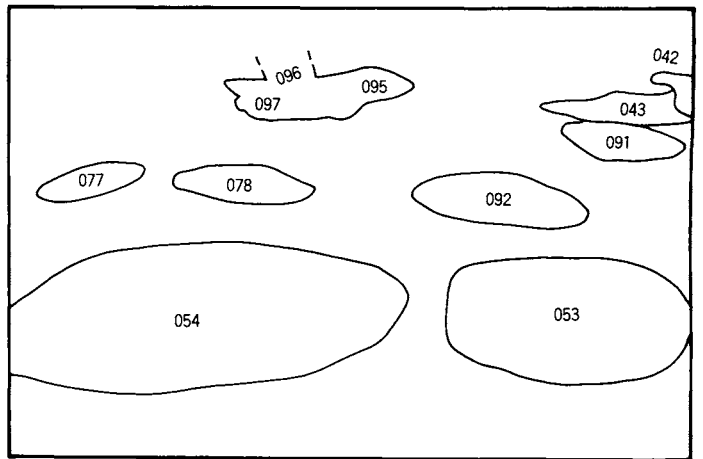
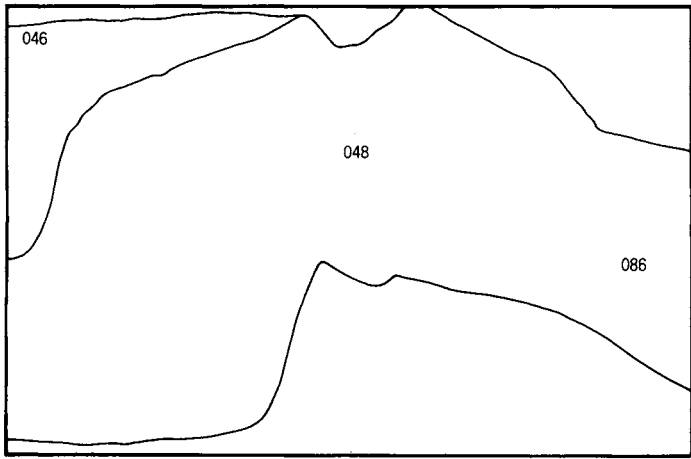
044~048



034~036、041



045~048、050





048



053、054、091、092



050



053、054



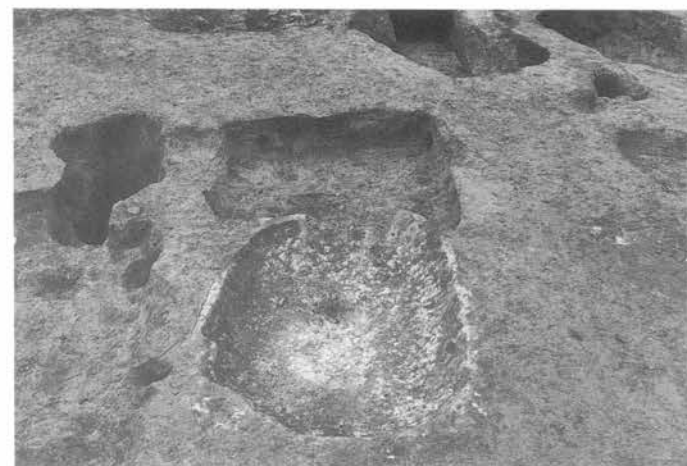
052、053



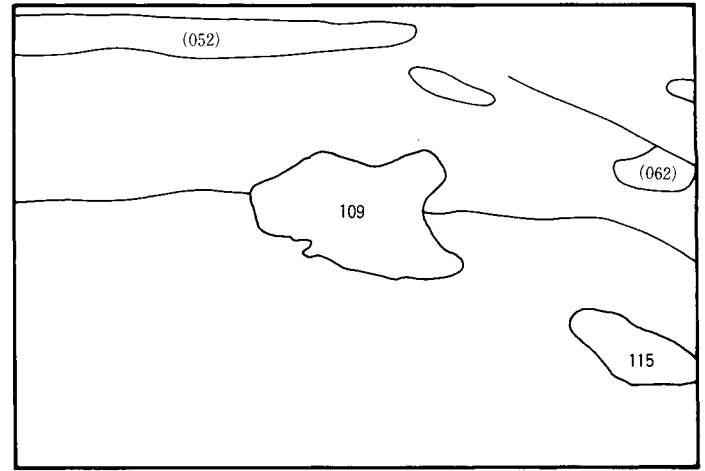
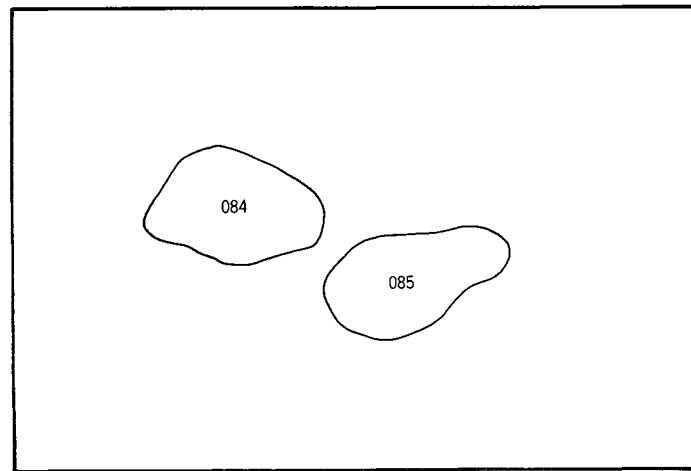
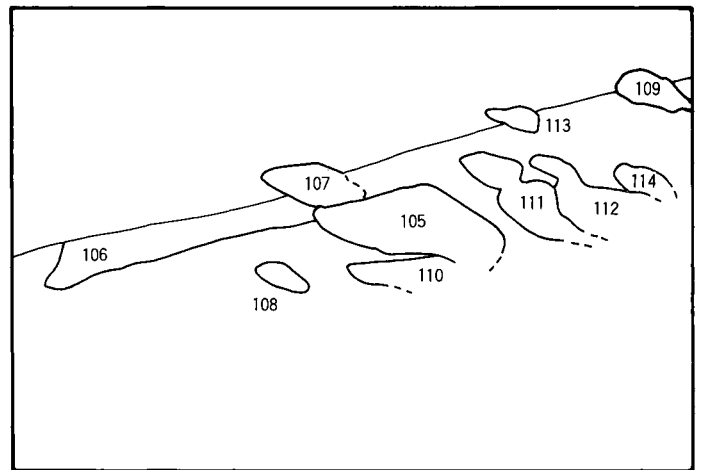
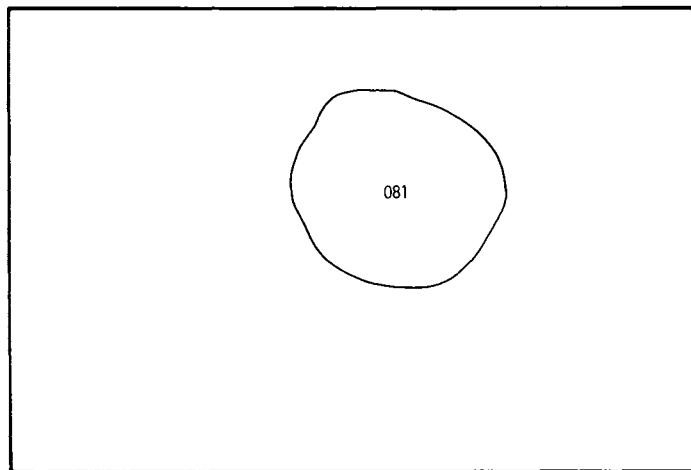
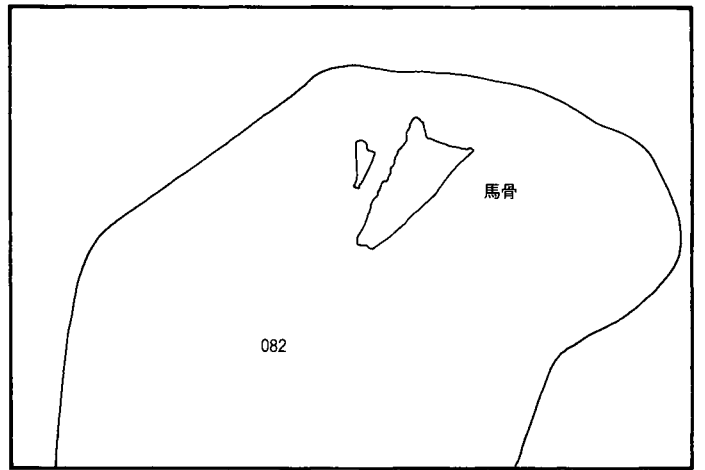
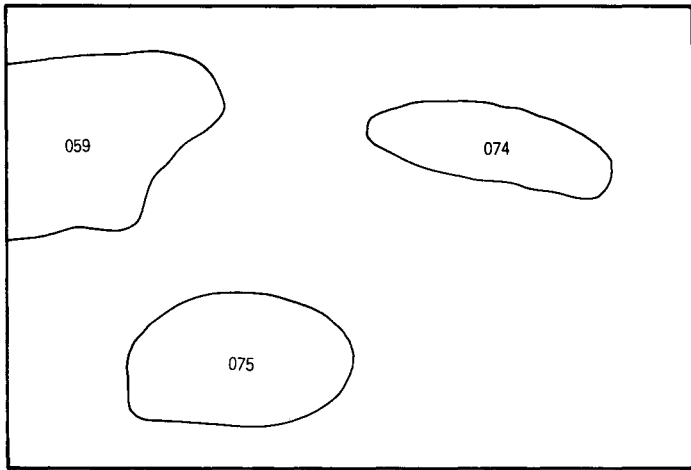
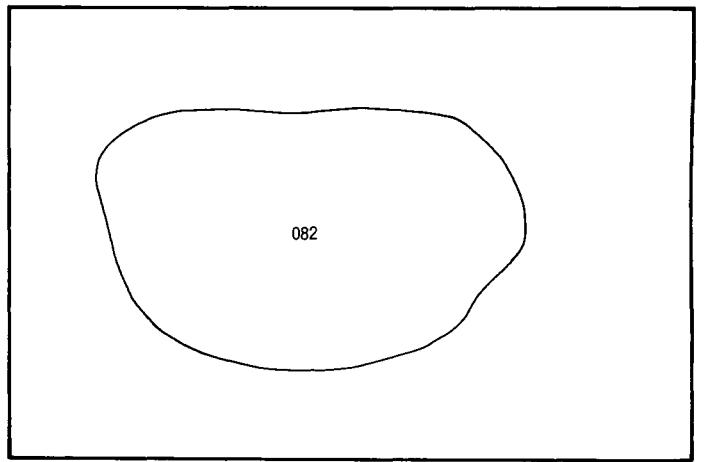
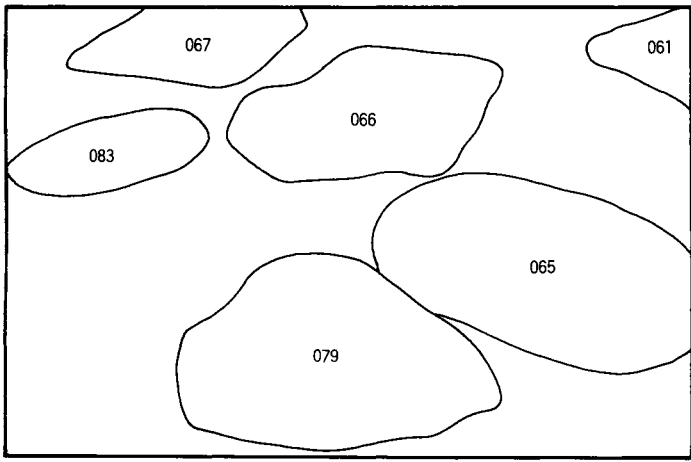
054、055、076~078



056



060~062





065~067、079、083



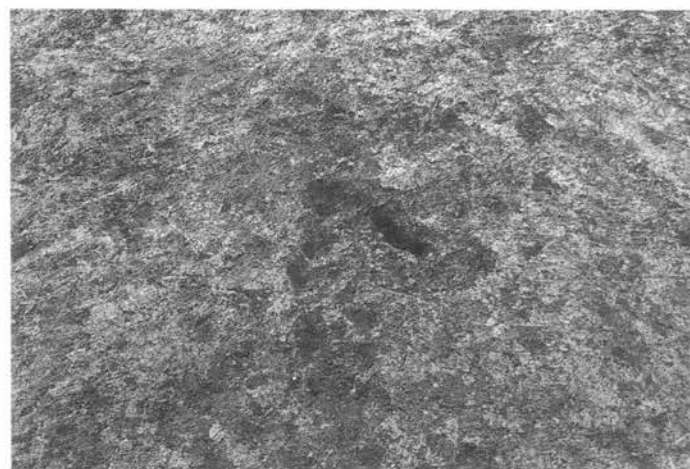
082



059、074、075



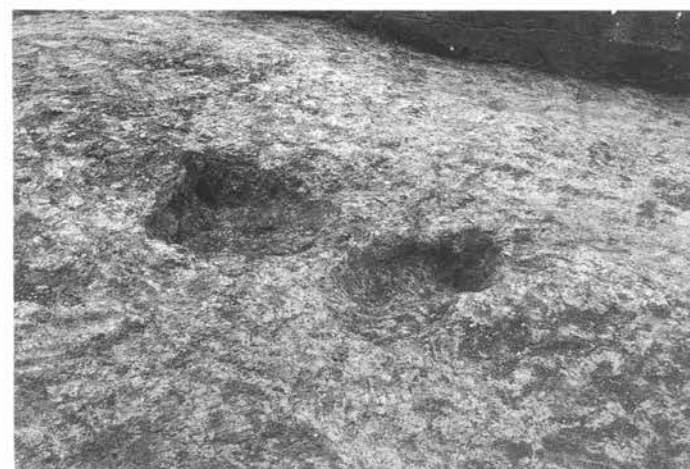
082馬骨出土狀況



081



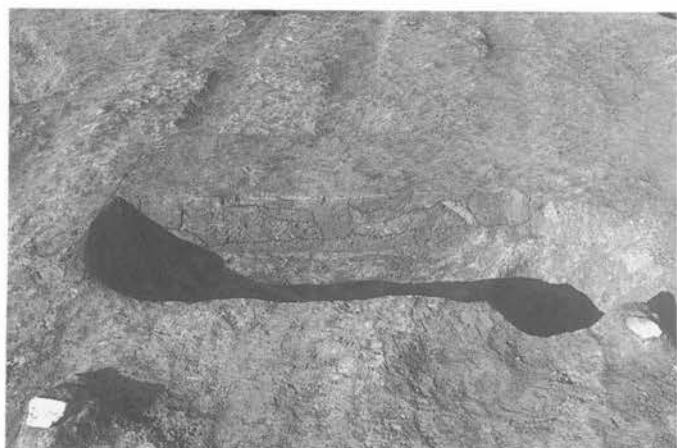
105~114



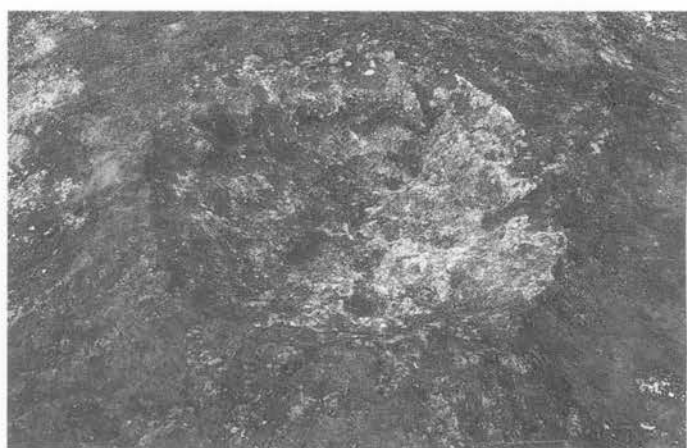
084、085



109、115



018セクション



021



018



021掘り方



019、020



023



022



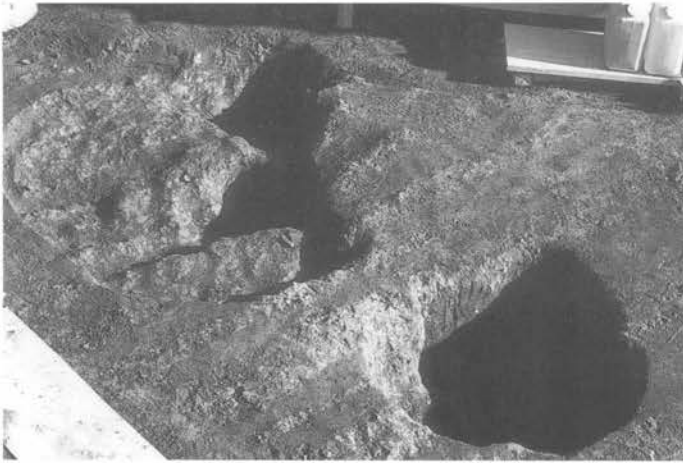
024



026



033、034、035



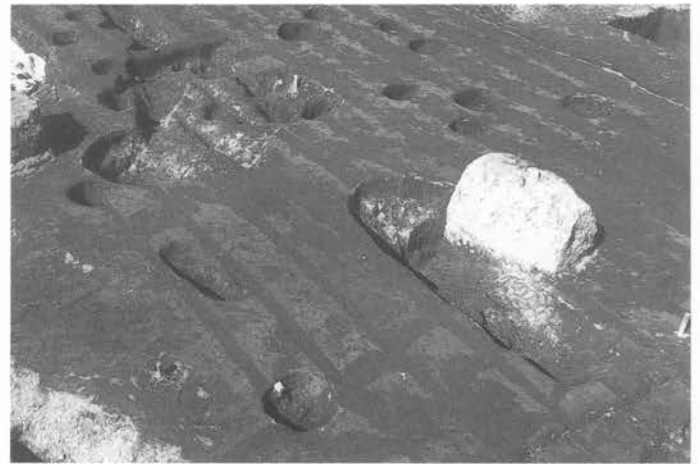
027、028



034



029、030、031



036、037、038



032



039



043、044



011北側



046



011西側



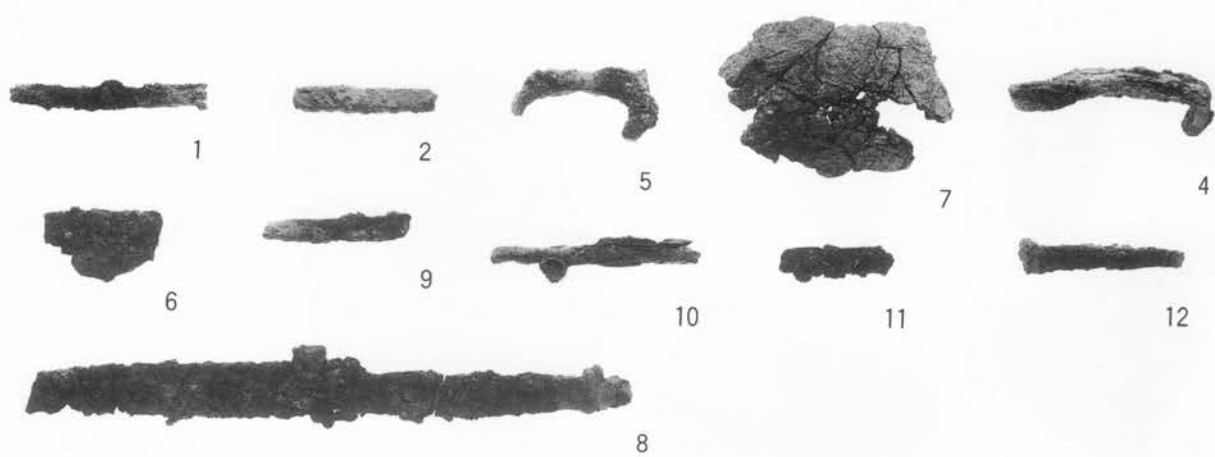
055~058



040東側



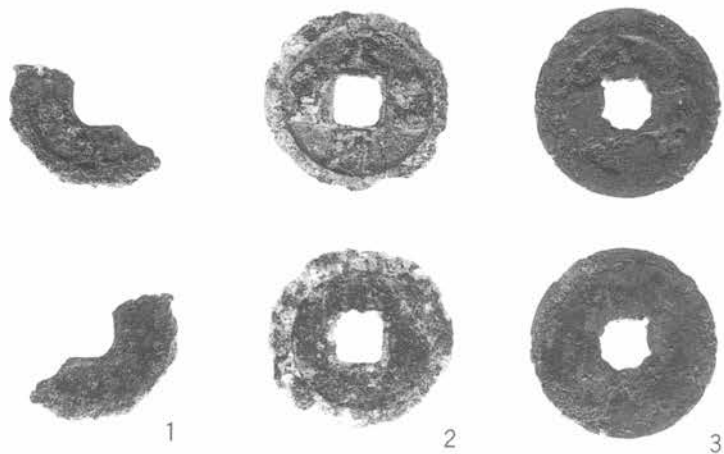
040西側、052



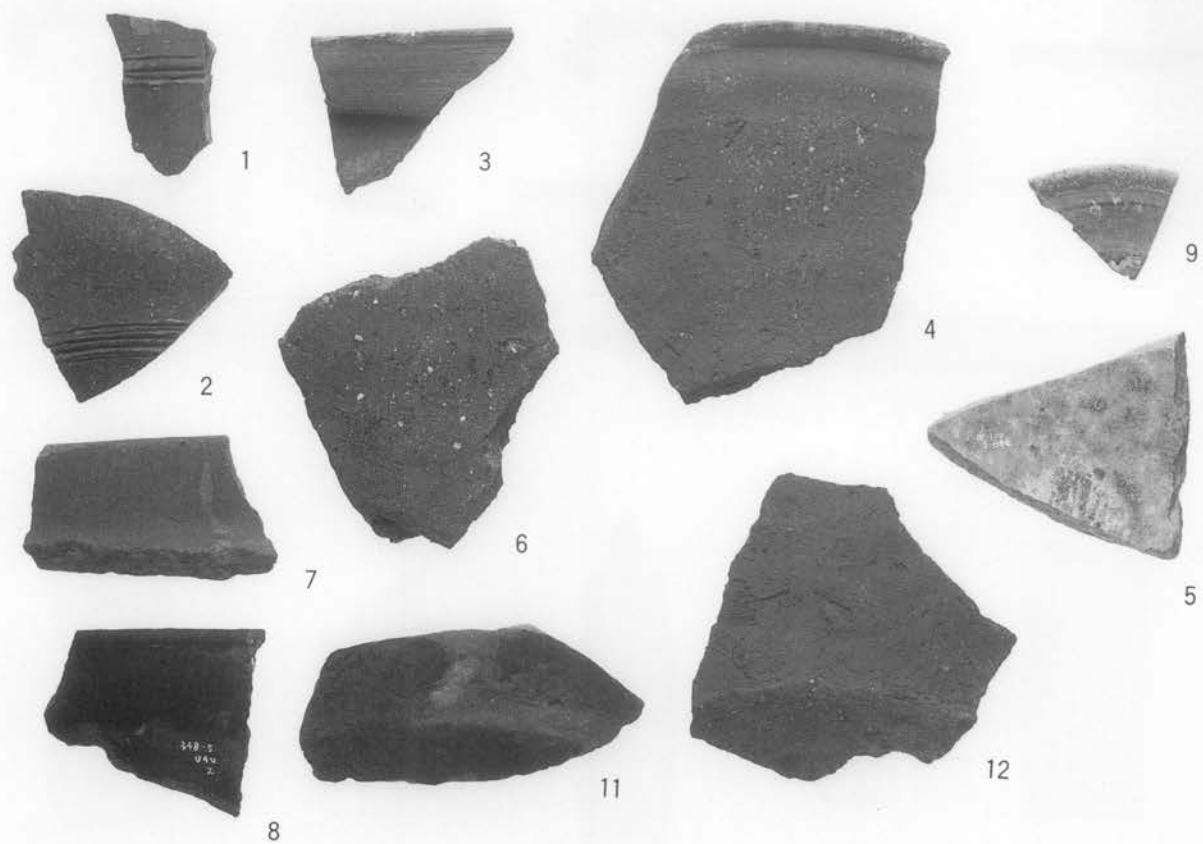
中世遺構出土鉄製品



中世遺構出土石製品



出土錢貨



中世陶器、土器



椎木遺跡近景



椎木遺跡調査終了

報告書抄録

| ふりがな | しゅようちほうどうたこささとせんまいぞうぶんかざいちようさほうこくしよ | | | | | | | |
|--------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------|-------------|
| 書名 | 主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 千漣町道木内遺跡・椎木遺跡 | | | | | | | |
| 巻次 | 3 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 千葉県文化財センター調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 303 | | | | | | | |
| 編著者名 | 安井 健一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人千葉県文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒284 千葉県四街道市鹿渡809番地2 | | | | | TEL 043(422)8811 | | |
| 発行年月日 | 西暦1997年3月31日 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 道木内 | 千葉県香取郡千漣町 | 12348 | 005 | 35度 46分 25秒 | 140度 38分 00秒 | 19901001～ 19910327 | 3,400 | 道路建設に伴う事前調査 |
| 椎木 | 千葉県香取郡千漣町 | 12348 | 004 | 35度 46分 25秒 | 140度 37分 50秒 | 19901019～ 19901023 | 400 | 同上 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 道木内 | 包蔵地 | 旧石器 | 石器集中地点 9ブロック | ナイフ形石器、尖頭器、削器、二次加工のある剝片、微細剝離痕のある剝片、剝片、碎片、石核、敲石、台石、接合資料、礫 | | IV層～V層のブロックで礫群が出土 | | |
| | 縄文 | | 焼土土坑 4基 陥穴 6基 | 縄文土器（早・前・後期）、石鏃、打製石斧、敲石 | | | | |
| | 弥生 | | 竪穴住居跡 1軒 | 弥生土器（後期）、太型始刃石斧 | | | | |
| | 集落跡 | 古墳 | 竪穴住居跡 8軒 | 土師器・須恵器（6～7世紀） 土玉、紡錘車、鉄器、砥石 | | 6世紀が主体。住居跡の配置には規則性がみられる。 | | |
| | | 奈良・平安 | 竪穴住居跡 11軒 掘立柱建物跡 2棟 土坑 1基 | 土師器・須恵器（8～9世紀） 紡錘車、墨書土器、鉄器 | | 8世紀が主体、掘立柱建物を伴う。「E」文字墨書土器集中出土の小型住居跡あり。 | | |
| | 中世 | 台地整形区画 1基 掘立柱建物跡 1 地下式墳 1 粘土貼土坑 12 炭化物出土土坑15 方形土坑 30 など 溝状遺構 4条 粘土貼土坑 2基 段状成形 2基 土坑 90基以上 | 内耳鍋、焙烙、土釜、摺鉢、常滑、古瀬戸、瀬戸美濃、宋銭、鉄器、砥石、土師質土器 | | 台地整形区画とそれに伴う溝状遺構、土坑群、段状成形などが一体となった状況を調査。 | | | |
| 椎木 | 包蔵地 | 奈良・平安 | なし | 土師器 | | | | |

千葉県文化財センター調査報告第303集

主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書 3

干潟町道木内遺跡・椎木遺跡

平成9年3月31日発行

| | | | |
|---|---|------|--------------|
| 編 | 集 | 財団法人 | 千葉県文化財センター |
| 発 | 行 | 千葉県 | 土木部 |
| | | | 千葉県中央区市場町1-1 |
| | | 財団法人 | 千葉県文化財センター |
| | | | 四街道市鹿渡809-2 |
| 印 | 刷 | 株式会社 | エリート印刷 |
| | | | 千葉県中央区市場町6-8 |
